将又露境ニ送ルヘキ在朝鮮避難民ノ生命安全ノ保障取付方ニ関シテハ我方ヨリモ露国側ニ対シ交渉スル要アリト御電訓ヲ請フ右ハ支那側交渉ノ結果ヲ見タル上更ニ電稟スル所アルヘシ

朝鮮総督ニ電報シ関東長官、長春、哈爾賓ニ暗送セリ

三五九　十二月十二日　澤田福岡県知事ヨリ水野内務、内田外務及指定庁府県長官宛

病気保養ノ為セメヨノフ将軍渡来ニ関スル件

高秘第二八八三九号

大正十一年十二月十二日　（十二月十九日接受）

福岡県知事　澤田　牛麿（印）

内務大臣　水野　錬太郎殿

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

指定庁府県長官殿

グリゴリー、セメヨノフ　当四十年

右者本日午前八時四十分青島ヨリ汽船春日丸ニテ瀬尾栄太郎同伴門司入港シタルヲ以テ調査スルニ本人ハ本年八月迄天津仏租界及英租界等ニ居住其後青島浜町ニ転住シ居タルモ今回長崎県下ノ温泉地ニ於テ約二ケ月間病気保養ヲ為スベク渡来一応長崎「ジャパン、ホテル」ニ赴ク由ニテ予テ警保局長ヨリ入国許可取扱フ様電報アリタルヲ以テ入国許可シタルニ前記瀬尾及東京ヨリ出迎ノ為来門セル黒木少佐ト共ニ同日午前十時五十分門司駅発列車ニテ長崎ニ向ヒタルガ同人保養後ノ行動ニ就テハ未定ナリト称シ居タリ而シテ目下青島大村町福博病院ニ入院加療中ノ妻「エレナ」ハ退院ノ上同地「日昇ホテル」ニ引揚ゲ本月二十三日青島出帆ノ春日丸ニテ渡来門司上陸長崎ニ赴ク趣ナリ

右及申（通）報候也

事項一六　日本国及極東共和国両政府間非公式交渉関係一件

一　大連会議関係
二　長春会議関係

一　大連会議関係

三六〇　一月三日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ内田外務大臣宛（電報）

日本側提出ノ文書ニ対スル極東共和国側ノ回答口上書受領ノ件

別　電一　同右電報合第七四号

ペトロフ提出ノ口上書（一）

ニ　同右電報合第七五号

ペトロフ提出ノ口上書（二）

合第七三号　（一月四日接受）

合第七二号(註)拙電ニ関シ

三日「ペトロフ」本官ヲ来訪シ別電合第七四号及合第七五号ノ通リ口上書ヲ手交シタリ協約前文中ノ制度ナル文字ハ露語ノ「ストロイ」ニシテ組織トモ訳シ得ヘシ

要塞撤廃問題ニ関シ「ペトロフ」ハ十二月三十一日言及シタル宣言案（前電ノ外反乱団体秩序破壊者ノ防遏並ニ海賊取締等ニ必要ナル軍事的措置ヲ講スルノ権利ヲ保留セリ）ヲ提示スル積リナリシモ事軍事ニ関スルニ付両国軍事委員会ニ協議ヲ為スコトトシタク此際提出ヲ差控ヘタリト云ヘリ

尼港事件解決案ニ関シ特ニ日本企業家ニ特権ヲ与フルハ北樺太ニ於テノミニシテ大陸ニ於テハ一般規定ニ依ルモノニシテ後者ニ就テハ基本協約ニ条文ヲ設クル以上尼港事件解決案中ニ記載スルノ必要無キニ付キ削除セリトノコトナリ

註　日本外交文書大正十年第一冊下巻九八一文書ノ附記

（別　電一）

一月三日松島政務部長発内田外務大臣宛電報合第七四号

ペトロフ提出ノ口上書（一）

合第七四号　別電　（一月四日接受）

口上書

一、日本帝国政府ノ提議ニ係ル「非共産主義ヲ維持スルニ鑑ミ」ナル字句ハ片務的ナルト且「非共産主義」ナル用語自体ガ不明瞭ナル為将来字句ノ解釈上誤解ヲ生スヘキ虞アルトニ依リ之ニ同意スル能ハズ極東共和国代表者ハ条約前文ノ全部トシテ左ノ案ヲ提議ス即チ「日本国政府及極東共和国政府ハ現在ノ制度ヲ維持スルヲ基礎トシテ相互間ノ親善関係ヲ樹立シ且両国間ノ政治及経済的関係ヲ発達セシメンコトヲ欲シ之カ為正式条約ノ締結セラルル迄左記条項ヲ約定セリ」

二、漁業委員会組織ニ関シテハ極東共和国政府ハ日本帝国政府ノ提案ニ同意ス但「ソビエト」露西亜代表者ヲ加ヘタル漁業委員会ハ両代表者間ニ申合サレタルガ如ク一般協約締結前ニ組織セラルヘキモノトス

三、黒龍江航行権ノ許与ニ関シテハ極東共和国代表者ハ従来ノ意見ヲ固執ス

松花江航行権ニ関シテハ極東共和国代表者ハ本件ガ第三国ノ利益ニ関スルヲ以テ利害関係国全部カ会合スルコトニ依リ初メテ解決シ得ヘキモノナルコトヲ主張ス

四、日本側対案ノ附属書第一（要塞撤廃ノ件）ニ記載シタル問題ニ関シテハ極東共和国政府ハ自ラ適当ノ宣言ヲナスヘキコトニ決定セリ

（別　電二）

一月三日松島政務部長発内田外務大臣宛電報合第七五号

ペトロフ提出ノ口上書（二）

合第七五号　（一月四日接受）

一九二一年十二月三十一日附日本国代表者口上書第六項ニ関シ極東共和国代表者ハ左ノ通回答スルノ光栄ヲ有ス

極東共和国ハ極東共和国成立前ニ発生シタル尼港事件ニ対シ責ニ任セスト雖日本国政府ガ薩哈嗹州ヨリノ日本軍撤退ト結ビ付ケ居ル尼港事件問題ヲ解決スルヲ以テ自己ノ絶対的任務ト為シ且ツ日本国民ノ重大ナル利益ヲ考慮シ薩哈嗹島北半部ニ於ケル産業的「コンセッション」ヲ日本企業家ニ許与スルノ意アリ

三六一　一月四日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

反過激派勢力ニ対スル日本側ノ援助問題ヲ繞ルペトロフトノ応酬ニ付報告ノ件

合第七六号　（一月五日接受）

客月十六日本官ハ「ペトロフ」ニ対シ日本ハ露国内ノ政争ニ対シテハ厳正中立ノ態度ヲ持シ日本軍ハ日露協定ヲ厳守シ居ルニ拘ラズ最近ノ国民議会ニ於テ「ヤンソン」氏ハ日本ハ「メ」政権ニ援助ヲ与ヘツツアリト誣ヒ日本ヲ敵国ト見做スガ如キ言辞ヲ弄シタル趣ナルガ外相ノ言トシテ諒解ニ苦シム処ニシテ日本代表ハ右ノ事実タル大連会議ノ根本精神ニ反スルモノト認メ抗議スルト同時ニ説明ヲ求ムルモノナリト申入レタルニ二十日「ペ」ハ屢々誤報ヲ伝フル新聞紙ノ記事ニ基キテ共和国政府ノ意見ヲ解釈セラレザランコトヲ希望ス日本ニ対スル斉多政府ノ意見ヲ表示スルモノハ大連会議ニ於ケル其ノ代表者ナリ国民議会ニ於ケル討議ニ関スル公報ハ取寄セ中ナリ

白軍ノ中立地帯通過並武器入手ハ共和国ノ一般社会ヲシテ各種ノ推測ヲ為サシムルニ至リタルモノト信ス本件ニ対スル日本側ノ態度ニ関スル日本代表ノ説明ハ直ニ斉多ニ通報シタルモ日本軍憲ニ於テ共和国ニ反抗スル武装団体ノ中立地帯内移動ヲ絶対的ニ禁止セラルルナラバ前記推測ノ余地ナカラシム可シト思考スト回答シ来レリ次テ貴電第七〇号御訓令ニ依リ十二月三十一日国民議会ノ国民並各国政府及国民ニ対スル檄文ニ対シ抗議シタル処「ペトロフ」ハ斯ノ如キ檄文ヲ決議スルニ至リタルハ某国側ヨリ供給セラレタル報告ニ依ルモノニシテ自分ハ元ヨリ斯カル報告ニ信ヲ措クモノニ非ザルモ斉多ニ於テハ勢之ヲ信スルニ至ルヘキニ付其辺ノ事情御推察アリタシト述ヘ日本陸軍大臣ト軍司令官トノ間ニ往復セラレタル電報ノ訳文ト称スル書類中白軍援助及其ノ方法ニ関スルモノ一二ヲ拾ヒ読シテ聴カセタル後大連会議中ニ陸軍大臣ヨリ斯カル訓令ヲ出ス筈ナキコト勿論ニ付第三者カ為ニスル処アリテ作製シタルモノト信スト附言セリ

三六二　一月七日　内田外務大臣ヨリ　松島政務部長（大連出張中）宛（電報）

華府会議極東共和国代表ガ日仏密約説ノ虚報ヲ流布シ居ルニ付ペトロフニ対シ厳重警告ヲ行フ様訓電ノ件

第七三号

在華盛頓斉多政府代表者ハ別電第七一号ノ通リ西比利ニ関スル日仏密約及関係公文ト称スルモノヲ発表シ一月二日同地方ノ各新聞ニ掲載セラレ日仏両全権ニ於テ各之ヲ打消シタル趣帝国全権ヨリ電報アリタル処本件ニ付テハ曩ニ（大臣往電第四九号）（註）貴官ヨリ「ペトロフ」ニ申入レ先方ノ反省ヲ促シタルニ拘ラス今猶華盛頓ニ於テ此種虚説ヲ流布スルカ如キ不信ノ手段ヲ執ルハ畢竟同政府カ信ヲ天下ニ失フ所以ナル而已ナラス同政府ニシテ在華盛頓代表者ニ訓令シ爾今此種ノ宣伝ヲ禁止スルニアラサレハ同政府ノ誠意ヲ疑ハサルヲ得サル次第ニシテ貴地交渉ノ進行ニモ多大ノ障碍ヲ招致スルコトトナルヘキ旨ヲ以テ厳重ニ「ペトロフ」ニ警告セラレタシ

註　日本外交文書大正十年第一冊下巻九四二文書参照

三六三　一月九日　内田外務大臣ヨリ　松島政務部長（大連出張中）宛（電報）

ペトロフノ読聴カセタル文書ニ付回電方ノ件

第七四号

貴電合第七六号末尾ペトロフノ読聴カセタル文書内容電報ハ一般ニ非常ノ困難ヲ感シ居タルモ本会議遷延ノ為起ルヘシト余ノ予言セシ諸種ノ結果（浦潮政権ノ活躍及白軍ノ発展等）ハ着々実現シ反対党モ之ニハ閉口シ遂ニ余ノ意見ヲ採用スルノ得策ナルヲ知ルニ至リタレバ今日トナリテハ余モ安心シテ本会議ヲ進行セシメ得ルニ至レリ斯カル有様ナレバ御申出ノ如キ大連会議破壊運動ガ外部ヨリ行ハルルハ敢テ不思議ニ非スト語レリ

三六五　一月九日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

浦潮要塞問題ニ関スルチタ政府宣言案ニ付報告ノ件

合第七八号　（一月九日接受）

浦潮要塞問題ニ関スル斉多政府宣言案ニ関シ予メ日本側ノ考量ヲ煩スコトニ考ヘ直シタル趣ヲ以テ「ペトロフ」ハ左ノ通案文ヲ提出セリ

宣言案

極東共和国政府ハ国内ノ福祉ヲ増進シ及ビ親善及通商ニ関シ締結セラレタル条約ニ基キ日本国民ト経済的平和親善関係ヲ樹立スルヲ以テ自己ノ責務トシ且国民ノ資力節約ノ目的ノ為ニ自国ノ海岸及ヒ朝鮮国境ニ新要塞ヲ建設セザルコト並ニ既存ノ要塞ヲ復旧セザルコトニ決セリ

政府ハ前記ノ国民及自己ノ希望ニ鑑ミ且何等帝国主義的意図ヲ有セズト雖モ国家ノ防備的手段ヲ実施シ及ヒ維持スルコト特ニ極東共和国ニ対スル諸団体ノ極東共和国領土ヘノ侵入ヲ防止シ且海陸ノ通商沿岸貿易及漁業其他ノ産業ノ平穏ナル発達ニ資スルニ足ルヘキ程度ノ該手段ヲ海岸及黒龍ニ於テ実施シ及ヒ維持スルコトニ関シ各主権国ニ属スル基本的権利ヲ抛棄スルヲ得ズ

三六六　一月九日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

労農政府及大連会議ニ対スル日本ノ態度ニ関シチタ政府ノペトロフガ島田副領事ニ語リタル件

第四六号　（一月十日接受）

一月九日島田他用ヲ以テ「ペトロフ」往訪ノ際「ペ」ハ左ノ通リ語レリ

最近「チチェリン」ヨリ得タル情報ニ依レハ在「ワルソー」日本公使ハ政府ヨリ何等カ訓令ヲ得タルモノト見エアリタシ

三六四　一月九日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

大連会議妨碍ヲ意図セル反過激派勢力ノ工作ニ付ペトロフノ弁明報告ノ件

合第七七号　（一月九日接受）

大臣来電第七三号ニ関シ

覚書作製一月九日島田ヲシテ「ペトロフ」ニ警告セシメタルニ「ペ」ハ詳細調査ノ上確答スヘキモ在華盛頓斉多委員等ガ斯カル発表ヲ為スコトナカルベク右ハ巴里方面ヨリ華府ニ赴キタル露国人一派ト米国ノ或ル団体トガ相通シテ為セル所為ナリト思考ス右ハ尤モラシキ情報電報及協定等ヲ組織的ニ製造スル団体アル模様アルニ付本件モ其ノ一ナラン曩ニ日本側ヨリ申出アリタル日仏間文書交換問題（客年貴電第四九号）ニ付テモ当時直ニ「チチェリン」ニ打電シ置キタルニ同人ヨリ斯カル覚エナシ詳細郵報アレトノ返電アリタルニ付先頃郵報シ目下其ノ返事ヲ待チ居レリト答ヘ尚斉多政府閣員中ニモ「（脱）ナシック」「ワルプ」等ノ温和社会党ハ親米派ニシテ大連会議ニ反対シ之ガ為自分モ

「カラハン」ト四回モ会見シ労農政府トノ接触ニ付非公式ニ意見交換ヲ行ヒタルガ相互ノ間大体意見ノ一致ヲ見タルモノノ如ク「チチェリン」ハ極東共和国ト労農政府トハ対日本関係ニ於テ截然区別シ日本ト前者トノ関係ハ大連会議ニ依リテ定メ日本ト後者トノ関係ハ欧洲ノ一地ニ於テ定ムルヲ可トスルノ意見ニシテ殊ニ後者トノ交渉開始ハ華盛頓会議終了後ニアラサレハ日本之ニ応セサルヘキヲ熟知シ一時日本斉多政府労農政府ノ連合会議ヲ欧洲ノ一地ニ開催セムトノ議アリシモ莫斯科政府ハ目下ノ処日本ハ右提議ニ応スルコトナシト確信スルニ至レリ右ニ依リ明カナルカ如ク日本モ漸次対露政策ヲ確定セムトシツツアル模様ナルモ最近ニ於ケル日本外務省ノ態度言論機関ノ論調等ニ徴スルニ大連会議ニ対スル日本側ノ態度ハ著シク冷淡トナリ日本政府ハ果シテ本協定ノ成立ヲ希望セラルルヤヲ疑ハシムルノ観アリ

三六七　一月十二日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ペトロフノ読聴力セタル文書内容回報ノ件

第四九号　（一月十三日接受）

貴電第七四号ニ関シ所謂電報内容左ノ通

一、十一月二十七日附陸軍省発立花宛電報

烏蘇里鉄道ノ開放セラレタル部分ニ兵力ヲ送リ停車場ニハ従前ノ通リ舎営地ヲ設クヘシ中立地帯ハ特別ノ必要若クハ危険無キ限リ通過ヲ許サス住民トノ友好関係ヲ保持シ秩序ヲ維持スヘシ物質上及精神上ノ援助ハ非公式ニ之ヲ為スヘシ陸軍省ハ貴官ノ計画ニ同意スルニ充分ノ注意ヲ払フコトヲ望ム武器ノ供給ハ秘密ニ且必要ノ程度ニ止ムヘシ

二、十一月二十八日附立花発陸軍省宛電報

御送附ノ開放ニ関スル計画ハ順次実行スヘシ共和国ノ敵対力ハ薄弱ナルカ若クハ存在セス是我方ニ於テ稍不安ヲ感スル点ナリ何トナレハ右ハ特殊ノ策略ナルヲ以テナリ従前ノ協定ニ依リ我軍ノ移送ハ困難ナリ若シ充分ノ理由無クシテ之ヲ実行スル場合ニハ予メ領事団ニ通告スルヲ要ス然ラサレハ充分ノ保証ヲ与フルヲ要ス若シ政府軍カ中立地帯ヲ通過スル時ハ我ガ援助ハ明白トナリ大連ニ於テ説明ヲ求メラルヘシ卑見ニ依レバ我軍ノ前進ハ公然ノ方法ニ依ルヲ要ス何分ノ訓令ヲ請フ

三、（脱）ラレタリ若シ近キ将来ニ於テ沿海州ニ於ケル事態変更セストセハ政府ハ確答ヲ与フルノ止ム無キニ至ルベシ果次ノ訓令ニ従ヒ速ニ措置セラルベシ

四、十二月七日附陸軍省発軍司令部宛電報

大連ヨリノ報告及田中松島ノ提案ニ基キ次ノ通心得ラレ度シ

日本軍ハ単ニ規定セラレタル地域ニノミ赴クモノトス日本軍ハ鉄道ノ運行ヲ保護ス日本軍ハ中立ヲ厳守ス細心ノ注意ヲ以テ行動ス可シ政府軍ノ進撃ヲ援助スヘカラズ時局ニ関シ毎日電報ス可シ

三六八　一月十四日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

極東共和国ノ提議ニ対スル日本側ノ回答督促ノ件

第五一号　（一月十五日接受）

十三日「ペトロフ」ハ島田ニ対シ斉多側提議ニ対スル日本側ノ回答今以テ来ラス斯クテハ本会議徒ニ遷延スヘキニ付余ハ多分斉多政府ヨリノ命ニ依リ近ク日本側ニ対シ回答ヲ督促スルコトトナルヘシト云ヒタルニ付島田ハ一已ノ考トシテ重ナル問題ニ付斉多側ヨリ満足ナル回答モナク又数多アル小問題ニ付キテモ双方ノ意見合致シ居ラス殊ニ在華府斉多委員ノ悪宣伝等ノ行ハルル今日貴方ヨリ督促ヲ受クルハ意外千万ナリ今少シ誠意ヲ以テ当方ノ満足スヘキ提議ヲナサバ会議ハ進捗スヘシト述ヘ置キタリ

三六九　一月十七日　内田外務大臣ヨリ　松島政務部長（大連出張中）宛（電報）

極東共和国側提出ノロ上書ニ対スル日本政府ノ回答訓電ノ件

第七八号

貴電合第七四号及合第七五号斉多側口上書ニ関シ先方申出ノ理由ハ首肯ニ値スルモノナキニヨリ貴官ハ往電第六九号（註）ノ趣旨ニ基キ今一応強硬ナル主張ヲ試ミラルヘシ非共産主義維持ニ関スル事項ハ相互的規定トスルコト面白カラザルモ客年三月二十三日斉多憲法議会ノ議決ニ拘ル世界各国民ニ対スル宣言中ノ文句ヲ採用シ「私有財産制度ヲ維持スルニ鑒ミ」トスルカ又ハ前文冒頭ヲ「私有財産制度ノ基礎ノ上ニ建設セラレタル極東共和国政府ハ」ト修正スルハ差支ナシ前記ノ措置ヲ講スルモ猶先方ニ於テ応諾セザルニ於テハ

左記範囲ニ於テ折合フコト差支ナキモ其場合ニハ右ハ我方最大限度ノ譲歩ナルコトヲ言明シ併セテ我方カ斉多政府及「ペトロフ」ノ立場ニ出来得ル限リノ考慮ヲ加ヘタル次第ヲ説示セラレ以テ本協約ヲ速ニ成立セシムル様取計ハレ度シ

左　記

一、非共産主義維持ニ関スル条項ハ前文並ニ協約本文中ヨリ之ヲ削除シ差支ナシ

但シ他ノ文書ヲ以テ右主義ヲ声明セシムルヲ要ス又右譲歩ハ貴電合第七二号(四)所載先方申出ニ照応スルモノニシテ要塞撤廃ノミナラズ尼港事件解決ノ除外及其他ノ諸問題ニ付我方ノ主張ヲ容ルルヲ条件トスルモノナリ

二、黒龍江及松花江航行権ニ関スル先方拒絶ノ理由ハ傾聴スヘキモノナリ従テ我方ハ従来ノ主張ヲ放棄スルヲ得サルモ之ヲ後日ノ協議ニ委ヌルノ趣旨ヲ以テ協約中ノ規定或ハ附属文書ノ変換ニヨリ進テ之ヲ協議スルノ了解ヲ得ルニ止メ差支ナシ

三、要塞撤廃ニ就テハ特別会議録ヲ作製シ現存要塞ノ撤廃及将来新ニ朝鮮国境並帝国ニ面スル海岸ニ要塞ヲ建設セザルコトニ付誓約的声明ヲ載スルコトトシ差支ナシ但シ右声明案ハ前以テ我方ノ承認ヲ経ルヲ要シ過般「ペトロフ」提示ノ案文ハ単ニ既存要塞ヲ復旧セザルコトヲ記載シ撤廃スルコトヲ明記セザルヲ以テ不充分ナリトス

四、薩哈嗹占領ハ従来屢々説明シタル通リ尼港事件ニ付満足ノ解決ヲ見タル上之ヲ解除スヘキモノナルヲ以テ斉多側口上書ノ如ク該事件ニ付責ニ任ゼズトノコトナルニ於テハ我方ハ尼港事件解決迄薩哈嗹占領解除ニ付斉多政府ト何等ノ交渉ニ入ルヲ得ズ仍テ斉多側ニシテ尼港事件発生ノ時期ニ拘ラズ該事件ガ自国領域内ニ発生シタルモノナルコトヲ考慮シ該事件ニ対スル責任ヲ自認シ且ツ該事件ノ性質重大ナルニ相当スル解決条件ヲ提出スルニ非ザル以上我方従来ノ主張通リ本問題ハ今次交渉ヨリ除外スルヲ適当トスルモノナリ

尚過般再三注意シタル如ク我方対案ニ対スル斉多側修正案中ニハ前記主要事項以外字句其他比較的細末ノ点ニ付不当且不完全ノ点アルアリ此等ハ主要事項ニ付意見ノ合致ヲ見タル上追テ修正ヲ求ムヘキモノアルニ付此点ハ念ノ為メ重ネテ留保シ置カルヘシ

(欄外註記)

「大正十一年一月十七日閣議後陸相ト協定(内田外相印)」

註　外務大臣発電報第六九号ニ付テハ日本外交文書大正十年第一冊下巻九八一文書参看

三七〇　一月二十日　松島政務部長(大連出張中)ヨリ内田外務大臣宛(電報)

日本政府ノ回答書ヲペトロフニ手交及彼我意見交換ノ件

合第八〇号　(一月二十一日接受)

大臣来電第七八号ニ関シ

私有財産制度維持ニ関スル点、漁業委員会ニ関スル点、黒龍江及松花江航行権ニ関スル貴電前段並要塞撤廃事項以下ノ各項目ヲ口上書ニ認メ一月十九日「ペトロフ」ヲ往訪シ之ヲ手交シ帝国政府ノ主張ハ終始一貫シ居ル旨ヲ述ベタル処「ペ」ハ自分トシテハ相互主義ニ則ル限リ『私有財産制度ヲ維持スルニ鑑ミ』ナル語句ニ対シ異議ナキモ最後ノ撤廃ハ斉多政府ニ電照ノ上トスヘシト言ヒ次ニ漁業委員会ニ就テハ日本政府ハ労農政府代表者ノ委員会参加ヲ全然拒絶セラルル様ナルガ今日迄ノ談合ト異リ諒解ニ苦ムト言ヘルニ付本官ハ日本政府ノ意嚮ハ基本協約ノ成立確ナル時漁業委員会ニ労農代表者ノ参加問題ヲ考量スヘシト言フニ在リ然ルニ斉多側ハ漁業委員会ノ組織ヲ急ガレタルヲ以テ日本政府ハ協約成立ノ見据附カザル今日ニ於テ之ニ応スルコトトシタルモ今直ニ右委員会ニ労農代表者ヲ参加セシムルコトニハ承諾ヲ与ヘ難シト述ヘタルニ「ペトロフ」ハ漁業問題ニ関スル交渉ハ労農代表者ノ参加ナクシテハ何等実益ナク(勘察加ガ労農ノ領土ナルカ為ナリ)又日本政府ハ漁業問題ニ関スル限リ労農代表者ノ参加ヲ承諾セラレタルモノト心得居タルニ今回全然労農代表者ノ参加ヲ拒絶セラレタルハ其意ヲ得ズ極東共和国政府ハ労農露国トノ関係上単独ニテ漁業協約ノ改訂ヲ為シ得ザルニ付日本政府ニ於テ漁業協約改訂委員会ニ労農代表者ノ参加ヲ是非承諾セラレタシ右「ノート」ヲ以テ承諾セラルルニ於テハ(基本協約ニ記載セズトノ意)委員会ノ議事開始ハ協約成立ノ後ニテモ可ナリト言ヘルニ付本官ハ政府ニ問合セ置クヘシト答ヘ置キタリ極東共和国領土内ノ黒龍江航行権ニ関シテハ自国船舶業者ノ利益保護ニ鑑ミ日本政府ノ要求ニ応ズルヲ得ズ但シ日露合弁事業ノ利益ヲ顧慮シテ相当ノ規則ヲ制定スルノ意嚮ナル旨最近政府ヨリ電報アリタリトノコトニ付本官ハ既ニ其

ノ意嚮ナラバ之ヲ条約中ニ記載スルモ何等差支無キニ非スヤト主張シタルモ応諾ノ模様無カリシヲ以テ本官ハ条約中ニ記載スルコト無ク共右ノ趣旨ヲ別ノ文書ヲ以テ約束スルコトニ同意スヘキヤト試ニ問ヒタルニ「ペ」ハ之モ難カシカルベキモ一応政府ニ請訓スヘシト云ヘリ

松花江航行権ニ関シテハ「ペ」ハ支那政府ヨリノ圧迫ヲ縷述シテ日本側提案ニ応シ難シト云ヘルニ付本官ハ幾度カ我方ノ提案カ斉多政府ヲ困難ナル立場ニ陥ラシムルモノニ非ズシテ単ニ支那ヲ自由ノ立場ニ置クモノナル所以ヲ説示シタル後松花江及露支国境タル黒龍江ノ航行権ニ就テハ日露支三国間ニ商議スルコトヲ承諾スル旨ヲ文書ヲ以テ差出シ得ヘキヤト問ヒタルニ斉多ニ電照ノ上ナラデハ確答シ難キモ政府ハ多分之ニ応ジ得ヘシト答ヘタリ要塞撤廃ノ意味カ現在ノ要塞ヲ根抵ヨリ撤去スル意味ナラハ之ニ応諾シ得ズ但シ現要塞ノ戦闘機能ヲ廃滅セシムルノ意味ナラバ異議無シト云ヘルニ付本官ハ撤廃トハ何モ要塞ノ根抵ヨリ破壊スルノ意味ニハ非ザルヘシト信スト答ヘ置キタリ

尼港事件解決ニ関シ「ペトロフ」ハ日本政府ハ本件解決ヲ後日ニ譲ル意向ナルヤニ見受クル処自分ハ此際日本軍薩哈嗹撤兵ヲ前提トシタル本件ヲ解決スヘキ旨政府ノ訓令ニ接シ居ルニ付日本政府ノ意向ニシテ右ノ如シトセバ会議ヲ中絶スルノ已ムヲ得ザルニ至ルヘシト謂ヘルニ付本官ハ斉多政府ニシテ尼港事件ニ関シ責任ヲ負ヒ重大ナル同事件ニ相当スル解決案ヲ提出セバ日本政府ハ交渉ニ応スルノ意向ニシテ必ズシモ事件解決ヲ後日ニ譲ラントスルモノニアラズト雖モ斉多政府ニシテ曩ニ提出ノ解決案以上ノ案ヲ提出スル能ハズトセバ遺憾ナカラ交渉ヲ継続スルヲ得ズ之ガ為本会議断絶スルモ致方ナシト述ベタルニ「ペ」ハ斉多政府ハ尼港事件ノ犯罪者ニアラザルヲ以テ同事件ニ対シ責任ヲ執ル能ハズ又北樺太ニ於ケル利権ヲ他ノ外国人ヲ除外シ日本人ニノミ許与スルハ相当ノ利益ヲ提供スルモノト信ス日本政府ニ於テ是以上何等希望セラルルナラバ申出アリタル自分トシテハ見当付カズ尚ホ尼港事件ニ関シ多額ノ賠償ヲ求メラルルナラバ「カラハン」ガ日置大使ニ述ヘタル通リ日本軍ノ為ニ露国人ノ受ケタル損害ト共ニ決済スヘキモノナルヘシト謂ヘルニ付本官ハ尼港事件ニ付テハ何人カ責任ヲ負ハザルベカラズ而シテ団匪事件ニ関シ北京政府カ責任ヲ執リテ之ヲ解決シタルモ何人モ北京政府ヲ犯罪者ト認メタルニアラズ之ト同様斉多政府ニ於テ尼港事件ニ関シ責任ヲ執リ得ベキニアラズヤ西比利ニ於テ日本軍ノ為ニ露国人ノ受ケタル損害ト尼港事件トハ全然性質ヲ異ニスルヲ以テ同列ニ論ズルヲ得ズ又右損害ヲ問題トセバ日本軍ハ露国ノ為ニ鉄道守備交通保護ノ任ニ当リタルヲ以テ軍費賠償ヲ問題トセザルヲ得ザルヘシ故ニ尼港事件ハ特別ニ取扱ハザルヲ得ズ北樺太ニ於ケル利権許与ト謂フモ無償ニテ許与スルニアラザル限リ余リ大ナル利益ト見ルベカラズ（「ペ」ハ無償許与ハ出来ズト謂ヒ居レリ）又日本側ヨリ何ヲ希望スト言ヒ出スコトハ困難ナルニ付斉多側ヨリ一層良好ナル条件ヲ提議セラレタク「ソーモフ」ノ提案中ニハ何カ面白キ案アリタルヤニ記臆スト述ヘタルニ「ペ」ハ篤ト考量スヘシト答ヘタリ（尼港事件解決案トシテ帝国政府ノ希望セラルル所ハ那辺ニ存スルヤ御差支ナクバ御内示アリタシ）

三七一　一月二十八日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ内田外務大臣宛（電報）

日本側ノ申出事項其他ニ付ペトロフノ島田ニ対スル談話報告ノ件

合第八一号　（一月二十八日接受）

通信員交換ノ件ニテ往訪シタル島田ニ対シ「ペトロフ」ハ左ノ通リ語レリ

一、一月十九日ノ日本側申出ニ付テハ特使ヲ斉多ニ派シタルニ付近ク回訓ニ接スヘシ

二、黒龍江航行権ニ付テハ日本ノ譲歩ヲ希望ス尤モ実際ニ於テハ各箇ノ場合ニ日露合弁会社ニ航行権ヲ許スヘシ

三、要塞撤廃ニ関シテハ大体日本側ノ希望（要塞地帯撤廃モ包含ス）ニ応シ差支無シト思考スルモ委細ハ軍事委員会ニテ協議スルコトト致シタシ

四、漁業委員会ニ労農代表参加不同意ハ我方ノ不満トスル所ニシテ「マルフレフスキー」ハ莫斯科ニ打電シ此ノ上滞在不能ニ付引揚ケタシト申出デタルモ余ハ今暫ク成行ヲ見ル様勧告シ置キタリ、漁業委員会ノ事務ハ労農政府ト別箇ニ行フコトハ不同意ナリ

五、斉多滞在中ノ米国領事ハ「ヤンソン」ニ対シ頻リニ日本ノ悪口ヲ謂ヒ居ル由ナルモ吾人ハ米人ノ口車ニ乗ルモノニ非ズ

六、斉多政府ハ「ゼノア」会議開催ト共ニ大連会議ハ其ノ意義ヲ失スルモノト観察シタル模様ナルモ余ハ「ゼノ

ア」会議ニ於テハ露国全体ニ関スル大問題ノ討議セラルヘク大連会議ハ地方的問題ヲ議スル為依然其ノ存在ヲ必要トストノ意見ニテ其ノ旨斉多ニ具申セリ

七、「ブリュヘル」ヨリ白軍ニ対シ攻撃ヲ開始スルノ準備成レルニ付大連会議ノ進捗上必要ト認ムルニ於テハ多少ノ犠牲ヲ忍ヒテ直ニ戦闘ニ移ルヘシト電報シ来レリ

三七二　二月六日　在中国小幡公使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

大連会議ニ対スル極東共和国ノ態度変更ノ模様ニ関スル「バー」ノ内話ニ付報告ノ件

第七九号　（二月七日接受）

客年往電第七九四号ニ関シ昨五日斉多政府側ト密接ノ関係アリト認メラルル「バー」ノ内話セル処左ノ通

極東共和国ハ曩ニ通商委員ヲ華府ニ送リ主トシテ米国筋ニ運動シ華府会議ニ於テ自己ニ有利ナル如キ西比利亜問題ノ解決ヲ得ントス腐心シ殊更大連会議ヲ引キ延ハシ来リタリ然ルニ華府会議モ西比利亜問題ニ関シ何等斉多側所期ノ成果ヲ齎ラスコトナク終了セントスル形勢ナルニ鑑ミ斉多政府ハ愈々最近ニ於テ方針ニ変更ヲ加ヘ此際日本トノ間ニ条約ヲ締結シ可成速ニ通商関係ヲ再開シタキ希望ニテ其ノ結果大連会議ハ近ク進捗ヲ見ルニ至ルヘシ云々

右ハ「バー」ノ当地ニ於ケル位地ニ照ラシ或ハ斉多政府ノ内意ヲ受ケテ漏シタルニアラザルヤトモ察セラル不取敢松島ニ転電セリ

三七三　二月十一日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ペトロフ来訪シ一月十九日附我方口上書ニ対シ回答ノ件

合第八二号　（二月十一日接受）

「ペトロフ」ハ十日本官ヲ来訪シ口上書ヲ以テ左ノ通一月十九日附我方口上書ニ対シ回答セリ

一、極東共和国ハ非共産主義ノ維持若クハ私有財産制度ノ承認ニ関シ協約中ニ何等記載スルコトハ共和国ノ内政干渉ト看做シ日本政府ノ声明ニ反スルモノト為スヲ以テ日本側ノ提議ヲ拒絶ス然レドモ日本ノ利益ヲ尊重シ極東共和国領域内ニ於ケル日本人ノ私有財産権保護ニ関シ文書ヲ提出スルコトヲ承諾ス

二、漁業問題ノ審議ハ労農代表者ノ参加ヲ要ス本年度漁区貸下ガ改訂漁業協約ニ依ルコトハ両国ノ利益タルヘキヲ以テ速ニ漁業委員会事務ヲ開始スルヲ要ス

三、従来開陳ノ理由ニ依リ黒龍江及松花江航行権ニ関スル条項ヲ本協約ニ挿入スルコトヲ拒否ス

四、現存要塞ヲ復旧セザルコト及朝鮮トノ国境並日本ニ対スル沿岸ニ新ニ要塞ヲ築カザルコトニ関スル宣言ニシテ共和国ノ政策ニ適合セルモノヲ発布スルコトヲ承諾ス但該宣言ノ大体案ハ既ニ提出ノ通

五、薩哈嗹州ヨリ日本軍ノ撤兵問題及尼港問題ニ関シ共和国ノ意見ニ拠レハ露国全領域ヨリスル日本軍ノ撤兵ハ尼港事件ノ如キ外国干渉時代ニ発生シタル事件ト何等関係ヲ有セス然レドモ共和国ハ此等諸問題ノ関係当事者トナリ速ニ之ヲ解決セムコトヲ主張シ尼港事件ニ関連スル日本政府ノ具体的提案ヲ俟チ公平ノ観念並両国利益尊重ヲ主義トシテ之ガ解決ヲ努ムベシ

六、協約ノ他ノ条項ニ対スル日本側ノ修正案ヲ速ニ開示セラレタシ

右提議ニ依リ日本代表ガ華府会議ニ於テ為セル西比利問題ニ関スル声明ノ実行ヲ此上見合ハセ置ク理由ナカルヘシ依テ共和国全領域ヨリ日本軍撤退ニ関スル問題ノ具体的審議ニ速ニ著手セムコトヲ求ム

三七四　二月十一日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

一月十九日附我方口上書ニ対スルチタ側回答ニ関シペトロフ説明ノ件

合第八三号　（二月十一日接受）

往電合第八二号ニ関シ

一、『私有財産制度ヲ維持スルニ鑑ミ』トスルトキハ相互的ニシテ差支ナキニ非ズヤトノ本官ノ問ニ対シ「ペトロフ」ハ両国共目下私有財産制度ヲ維持シ居ルニ付其ノ必要ナカルヘシトカ政治的主義ヲ条約ニテ羈束セラルルヲ欲セズトカ例ニ依リ要領ヲ得ザル答弁ヲナシタルニ付本官ハ転シテ日本臣民ノ私有財産権ヲ保障スル文書ヲ提出スルトモ法令ニ依リ財産権ヲ制限セバ有名無実トナルヘシト指摘シタル処（脱）認ムル私有財産権ヲ保障スル意味ノ文書ヲ提出シ得ヘシト答ヘタリ

二、漁業問題ニ付テハ前電浦潮政権トノ交渉問題ニ関スル論議ニテ尽セルニ付別ニ論ゼズ

三、松花江航行問題ニ付テハ関係国間ニ協議スヘキ旨文書ヲ以テ約束スルコトニ異議ナシト説明ス（露支国境ヲナス黒龍江モ包含セシムルヲ要スベシ）

四、現存要塞ヲ復旧セズト言フノミニテハ足ラズ日本ノ要求ハ戦闘機能ノ廃滅（武装解除）及要塞地帯ノ撤去ニ在リト述ヘタルニ「ペトロフ」ハ共和国ハ要塞地帯制度ヲ廃シ浦潮地方軍管区ヲ置ク積ナルヲ以テ日本ノ要求ニシテ要塞ヲ根柢ヨリ破壊スヘシト云フニ非ズンバ日本ノ要求ニ応シ得ヘシ尤モ詳細ハ軍事委員ヲシテ協議セシメ度シト答ヘタリ

五、薩哈嗹州撤兵ニ関シ「ペトロフ」ハ幣原大使ノ西伯利問題ニ関スル一般的声明ノ一部ヲ引用シテ其ノ主張ヲ説明セルヲ以テ本官ハ同大使ノ声明中ニハ特ニ尼港問題ニ関スル部分アルコトヲ指摘シタル上従来屢々論述シタル通沿海州駐兵ト薩哈嗹州駐兵トノ全然性質ヲ異ニスルコト、尼港事件解決セハ日本ハ当然薩哈嗹州ヨリ撤兵スヘキコト帝国政府ハ斉多政府ニ於テ尼港事件ニ関シ責任ヲ取リ同事件ニ相当スル解決条件ヲ提示セハ之ヲ考慮スヘキモ然ラザル限リ本件解決ハ之ヲ後日ニ譲ルノ外ナク従テ薩哈嗹州ヨリ撤兵スルヲ得ズト反覆説示シタルニ「ペトロフ」ハ日本政府ノ希望セラルル解決条件ヲ知ラザルヲ以テ当惑シ居ル次第ナルガ北樺太ニ於ケル各種「コンセッション」ヲ普通ヨリモ有利ニナシタル条件ニテ単ニ日本人ニノミ（外国人ハ勿論露国人モ之ヲ除外ス）許与スルコトトシ尼港事件ヲ解決シタシ本件ノ長ク解決セザルハ両国ノ親善関係ニ障碍ヲ及ボスハ勿論ニシテ又第三国ノ参加（「ゼノア」会議等ヲ指ス）ニ依リ問題ヲ解決スルハ面白カラザルニ付此際基本協約沿海州撤兵、尼港事件薩哈嗹州撤兵ノ諸問題ヲ同時ニ解決シ度シト云ヒ居レリ尼港事件解決条件ニ関スル帝国政府ノ御意向ハ之ヲ承知セザル処将来共我方ニ有利ナル条件ニテ解決ノ見込ナキ様思考セラルルニ付北樺太ニ於ケル各種富源ヲ斉多政府ノ出資トシ全部日本人ノ資本ニ依リ開発セシムルコトトシ其ノ利益ノ何割カヲ斉多政府ニ交付スルコト及ヒ露国領内ノ黒龍江ノ航行権ヲ日本船舶若クハ日露合弁会社ニ許可スルコト如何カト思ハル

三七五　二月十七日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ内田外務大臣宛（電報）

漁業問題ニ付日本側ガメルクーロフ政権ト交渉セシ点ニ関シペトロフ抗議ノ件

第六四号　（二月十八日接受）

貴電第八七号ノ趣旨ヲ口上書ニ認メ二月十七日島田ヲシテ「ペトロフ」ニ手交セシメタルニ同人ハ日本政府ノ立場ハ是ヲ諒トスルモ「ハバロフスク」方面ノ形勢一変シ「メルクーロフ」政権ノ存続モ玆数週間ナル今日予テヨリ斉多政府以外ノ地方政権ト何等公式交渉ニ入ラズトナセシ日本政府ガ仮令本年度ノ漁業問題ニ係ルモノナリトハ謂ヘ「メ」政権ト交渉セラルルハ共和国民ノ感情ヲ刺戟スルコト甚大ニシテ遺憾千万ナリ吾人ハ率直ニ謂ハン斉多ハ日本ガ浦潮ト交渉スル事無キヲ切望ス浦潮ニ収入ヲ与ヘサランコトヲ願フ本年度分ダケ臨機ノ措置トシテ旧漁業協約ヲ適用シテ漁区貸下ヲ為スタメ斉多側ト交渉スルカ左モ無クバ日本政府ニ於テ「アントーノフ」政権時代ニ行ヒシト同様自主的出漁ヲ行ハレタシ現ニ日本漁業者ハ是ヲ切望シツツアルニ非スヤ若シ夫レ日本ニシテ浦潮ヨリ漁区ノ貸下ヲ受ケタリトセンカ斉多並莫斯科ハ各漁区ニ於テ「パルチザン」ノ出現、漁網倉庫等ノ破壊其他各種ノ事件発生シタリトテ何等其ノ責ニ任ゼサル可シ浦潮ノ勢力ハ日本側ノ視ルガ如ク沿岸各地ニ及ヒ居ラス漁期迄ニハ我勢力下ニ入ル可キハ必セリ浦潮ヨリ貸下ヲ受ケタリトテ事実上漁業ニ従事スル能ハサルニ至ル可キコトヲ慮ル、右ノ次第重ネテ日本政府ニ御伝ヘヲ請フト述ベタリ

右永井ヘ転電シ松村ヘ伝達セシム

三七六　二月十七日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ内田外務大臣宛（電報）

極東共和国軍トメルクーロフ軍トノ戦闘ニ際シ日本軍ノ中立ヲ望ム旨島田ニ対シペトロフ談話ノ件

合第八四号　（二月十八日接受）

二月十七日島田ガ「ペトロフ」往訪ノ際同人ハ次ノ如ク語レリ

「ブリュヘル」カ攻撃ヲ急カサリシハ白軍ノ退路ヲ断ツ準備ノ為ナリ今ヤ精鋭ナル白軍ノ大部分ハ嚢中ノ鼠ナリ退路ニハ到ル処「パルチザン」アリテ白軍ヲ要撃セントス若シ日本軍ニシテ武装白軍ノ中立地帯通過ヲ許スコトアランカ必スヤ同地帯ニ於テ戦闘ヲ見ン浦潮政権ハ民警スラモ日本

軍ヨリ得タル武装ノ儘戦線ニ送リ日本軍ハ之カ通過ヲ黙許シ又日軍ハ「ウスリー」鉄道守備用トシテ貸与シタル装甲列車ノ「ハバロフスク」戦闘参加ヲ黙認スル等各種便宜ヲ白軍ニ与ヘ居ル由ナルモ現場ノ事情ニ囚ハレ易キハ世ノ常ナレハ吾人ハ日本政府ノ根本政策ニ信頼シ深ク論セサル可シ近ク浦潮附近ニ「パルチザン」現ハレ浦潮政権覆滅セム同地ノ商工業団体モ「ボチカレフ」モ同情セス「メルクーロフ」政権関係者ハ今ヤ逃走セムトス、就テハ日本軍憲ニ於テ「メルクーロフ」一派カ汽船其他港内貨物ヲ搬出セサル様監視セラレムコトヲ望ム蓋シ之ヲ許セハ徒ラニ内乱ヲ助長スルノミナレバナリ尚樋口大尉ニ対スル我方ノ同情多大ナルヲ以テ在「ハバロフスク」日本特務機関ハ勿論安全ナルベシ云々

三七七　二月二十一日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ内田外務大臣宛（電報）

チタ政府外相ヤンソンヨリ内田外相宛書翰ヲペトロフヨリ受領セルニ付其要領ヲ報告ノ件

第六五号　（二月二十一日接受）

「ペトロフ」ハ二月十日附「ヤンソン」発閣下宛書翰ヲ本官ニ手交シタリ同書翰ハ劈頭ニ於テ西比利亜問題ニ関スル幣原大使ノ声明ノ最後ノ部分ヲ引照シ之ニ対シ感謝ノ意ヲ表シ日本政府ニ於テ右声明ノ趣旨ニ則リ西比利亜駐兵問題ヲ解決シ大連会議ニ該趣旨ニ準拠スルコトヲ希望スト述ヘタル後日本側提案十七箇条及一月十九日附日本代表提案ハ幣原全権ノ声明ニ係ル不干渉機会均等主義ト一致セズ又沿海州ニ於ケル反革命党ニ対スル日本政府ノ援助ハ不干渉主義ト相容レズト思考ス日本軍憲ハ従来反革命党ニ武器ヲ供給シタル外最近「メルクーロフ」軍ノ哈府攻撃ニ際シ小銃一万二千挺、大砲六門、機関銃六十門ヲ供給シタリトノ報告ニ接セリ而シテ日本軍保管ニ属シ居ル筈ノ「タイプ」武器及装甲車（オルリック）ハ現ニ哈府附近ノ反革命軍中ニ見出サレタリ尚十一月六日五十名ノ日本軍ハ「スーチャン」河岸ノ「ブロブニチ」ヲ占領シ家宅捜索ヲ為シ住民ノ一部ヲ逮捕シ一月十五日「スパスコエ」ニ於テ一僧侶ハ日本士官ニ依リ逮捕セラレ体刑ニ処セラレタリト述ヘ次テ日本政府ハ累次ノ約束ニモ拘ラス共和国領土ヨリ撤兵セザルノミナラズ却テ増兵シツツアルカ如シ軍隊ノ行動ハ扨テ置キ単ニ駐兵ノ事実ハ不干渉及領土保全主義ニ反スルモノト思考スト云ヒ共和国政府ハ前記事実ハ幣原全権ノ声明シタル主義ヲ表示スルモノナリヤ将又右声明ハ日本政府ノ政策ト矛盾スルモノナリヤニ関シ日本政府ノ言明ヲ聞カント欲スルモノナリト結ヘリ

二十日会談ノ終リニ於テ「ペトロフ」ハ右書翰ハ幣原大使ノ声明ニ対スル感謝ノ意ヲ表示シタル書翰ナリトテ本官ニ手交シタルニ付本官ハ単ニ之ヲ受領シ置キタルガ書翰中ノ武器供給ノ点ハ会談中「ペ」ノ話頭ニ上リタルヲ以テ本官ハ「オルリック」ハ現ニ浦潮ニ在ル筈ニシテ我方ノ得タル情報ニ依レハ赤軍ハ哈府方面退却ニ当リ装甲車及多数ノ武器ヲ遺棄シ是等ハ皆白軍ノ手ニ落チタリトノ事ニ付退却シタル赤軍指揮官ハ自己ノ責任ヲ遁レントシテ無根ノ報告ヲ為シタルモノト信スト述ヘ置キタリ

右政務部ヘ転電セリ

三七八　二月二十一日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ内田外務大臣宛

チタ政府外務大臣ヨリ内田外務大臣宛書翰送付ノ件

附属書　右書翰

機密第九号

大正十一年二月二十一日

於大連

浦潮派遣軍政務部長　松島　肇（印）

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

「ヤンソン」ノ書翰転送ノ件

往電第六五号ヲ以テ内容ノ大要ヲ電報シ置キタル極東共和国外務大臣「ヤンソン」発閣下宛書翰及転送候条御査閲相成度候　敬具

本信写送附先　浦潮政務部

（附属書）

一九二二年二月十日附極東共和国外務大臣ヤンソンヨリ内田外務大臣宛書翰

République d'Extrême-Orient

Ministère des Affaires Etrangères

To the Minister of Foreign Affairs of the Imperial Japanese Government

Monsieur le Ministre,

The Government of the Far Eastern Republic received the information that at the meeting of the Subcomittee on Far Eastern Affairs in Washington on the 23 January the Siberian question was under discussion. At this meeting Mr. Shidehara, the representative of the Japanese Government, in concluding his speech declared;

"The Japanese Delegation is authorized to declare that it is the fixed and definite policy of the Japanese Imperial Government to respect the integrity of the territory of Russia, to observe the principle of noninterference in her internal affairs and likewise to respect the principle of equal commercial and industrial opportunities for all nations in any part of Russian territory."

The Government of the Far Eastern Republic expressing its satisfaction on the above policy of the Japanese Government believes that the principles outlined in it should form the fundamental basis in the relations between the two Governments.

The Government of the Far Eastern Republic expects that the Imperial Japanese Government will be guided by these principles in the solution of the question of the presence of Japanese troops on the territory of the Republic, the Maritime Province, and that the same principles will prevail in the negotiations proceeding at Dairen between the representatives of both Governments.

The Government of the Far Eastern Republic is forced to state however that the terms of the agreement, expressed in the 17 articles and 3 supplementary clauses, submitted by the Japanese representatives at Dairen on the 26 September, 1921, do not at all conform with the principles of noninterference and equal advantages to all nations as expressed by Mr. Shidehara at the Washington Conference. There is likewise considerable contradiction with those principles in the verbal note delivered by the Japanese representatives at Dairen on the 19th January to the representatives of the Far Eastern Republic in which note the final terms of a possible agreement between Japan and the Far Eastern Republic are formulated.

The Government of the Far Eastern Republic is of the opinion that the systematic support to the hostile counter-revolutionary groups in the Maritime Province rendered by the Japanese Government does not emanate from the principles of noninterference in Russian Affairs. The Government of the Far Eastern Republic is in possession of informations that the Japanese Military Command in addition to the arms delivered by it to such counter-revolutionary groups on previous occasions has also furnished the so-called Merkuloff's army in its attack on Habarovsk with 12000 rifles, 6 guns, 60 machine-guns and other military supplies besides material help. At the time of the authority of the Far Eastern Republic in Vladivostok a large quantity of rifles of the Remington type and other arms in the Vladivostok military stores were taken into safe-keeping by the Japanese army of occupation, who refused to supply with these arms the administrative and military organs of the Far Eastern Republic. After the Merkuloff coup d'état these arms still remained in the keeping of the Japanese Military Command, and the diplomatic representatives of the Japanese Government at Dairen now and then declared that no organizations in the Maritime Province who are hostile towards the Far Eastern Republic, will be supplied with these arms. And now arms of the mentioned type and origin were discovered in possession of the counter-revolution-

ary forces under Habarovsk, there was also discovered the presence of the armoured train "Orlik", which was also in the safe keeping of the Japanese military forces.

The following facts provide sufficient illustration to what extent the actions and conduct of the Japanese expeditionary forces also contradict with the principles outlined in Mr. Shidehara's speech:

On the 6th November 1921 a Japanese military detachment numbering 50 men occupied the village of "BROVNICHI" on the Suchan river and after unwarranted searches in the homes of the peaceful inhabitants arrested some of them.

In the village of "SPASKOE" on the 15th January the priest of the village being unduly insulted by a Japanese military officer who was in a state of intoxication, was arrested by the latter and subjected to bodily punishment. Several more instances may be cited characterising in a similar manner the actions of the Japanese military forces in the occupied districts.

Notwithstanding its many promises the Japanese Government is taking no steps to evacuate its troops from the Maritime Province and the Russian Saghalin, but on the contrary the number of these troops appear to be increasing lately. The Government of the Far Eastern Republic considers that independent of the actions and conduct of these troops their mere presence on the territory of the Republic is a gross violation against the principles of non-interference and the preservation of the integrity of the Russian territory.

The Government of the Far Eastern Republic would therefore like the Japanese Imperial Government to openly state, whether the facts enumerated above reflect the principles publicly announced by its authorized representative at the Washington Conference or that the Statements made by Mr. Shidehara at that Conference are in contradiction with the present policy pursued by the Japanese Government in the Russian Far East.

I avail myself of the opportunity, Monsieur le Ministre, to assure you of my highest consideration and esteem.

(Signed) J. Janson

The Minister of Foreign Affairs

of the Far Eastern Republic

"10" February, 1922

Chita, Siberia.

三七九　一二月一二十一日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ内田外務大臣宛（電報）

ペトロフガ極東共和国軍ノ鉄道輸送ニ便宜供与ヲ求メタルニ対スル我方応酬振報告ノ件

合第八五号　（一二月一二十一日接受）

一二十日「ペトロフ」本官ヲ来訪シ白軍ノ運命モ数日中ニ決スベキニ付軍事協定ノ為速ニ委員会ヲ開キタク又数日ニ

シテ斉多軍ト日本軍ト接触スルコトトナルベキニ付出先両軍憲ノ間ニ地方的ノ協定ヲ為ス様取計ハレタシ又斉多政権ガ浦潮ニ其勢力ヲ及ホスコトニ対シ日本側ニ於テ妨害セサルト同時ニ沿海州一帯ニ於ケル秩序維持ノ為此際斉多軍カ鉄道ニ依リ浦潮ニ入ルコトヲ許容スル様シタシト言ベルニ付本官ハ日本軍ハ露国内ノ政争ニ関シテハ厳正中立ヲ守ルモノナルニ付斉多政権ガ浦潮ニ達スルコトニ妨害ヲ加フルモノニアラサルコト勿論ナルモ現状ニ於テハ斉多軍ノ鉄道利用ヲ許容スル能ハサルベシ鉄道沿線三十基以内ニハ民警ノ外露国ノ如何ナル武装団体ノ存立ヲモ許ササルノ主義ハ秩序維持ノ必要上日本軍ノ確守スルトコロニシテ白軍ノ哈府ニ向ケ進軍スルニ際シテモ此ノ主義ヲ枉グルコトナカリキ然ルニ今斉多軍ノ鉄道利用ヲ許容スル時ハ一党一派ヲ援助セストノ厳正中立ノ態度ヲ棄ツルコトトナルベシ加之若シ斉多軍ノ鉄道利用ヲ許容スル時ハ白軍モ当然之ヲ利用スルノ権利ヲ主張スベク鉄道沿線ノ秩序ノ混乱ヲ到底之ヲ免ルベカラス従テ鉄道沿線ノ秩序維持ニ任スル日本軍ハ斉多軍ノ通過ヲ許容スルト同時ニ白軍ト戦闘スルノ已ムヲ得

サルニ至ルヘシ之日本軍ノ到底応諾スル能ハサルトコロナリ

尚斉多側トシテモ之迄所謂中立地帯内ニテ白軍ノ移動スルコトナキ様懇願シ置キナガラ今更自己ノ軍隊ノ鉄道利用ヲ希望スルハ頗ル勝手ノ申分ナリト思考ス故ニ現状ニ於テ斉多軍カ鉄道ヲ利用シテ浦潮ニ向ハントスルハ法外ノ要求ナリ基本協約成立ノ見込立チ軍事協定ノ審議ニ移リ居ルト同時ニ斉多軍ニシテ白軍ノ主力ヲ撃破シタリトセハ或ハ何等弁法ヲ見出シ得ヘキモ軍事協定審議ノ運ヒニ至ラサル今日ニ於テハ仮令斉多軍ニシテ日本軍駐屯区域ニ達スルトモ所謂中立地帯内ノ通過ヲ許容スルヲ得サルヘシト述ヘタルニ「ペトロフ」ハ斉多政府ヲ以テ正当政府ニ反抗スル地方叛徒ヲ平定セントスル斉多政府ノ努力ニ対シ同情スルヲ至当トスルコト等彼一流ノ政治論ヲナシタル後近日中斉多軍ト日本軍ト接触スルニ至リタル場合ニハ地方ノ秩序維持ノ必要ヲ考量シ民警トシテ斉多軍ノ一部ヲ鉄道ニ依リ輸送スルコトニ同意セラルルカ又ハ他ノ弁法ヲ案出セラレタシト云ヘリ、卑見ニ依レバ一方基本協約成立ノ見込立チ他方斉多軍ノ成功確実ナリトセハ本件ハ今ヨリ考慮シ置クヘキ事項ト思考ス

次ニ「ペ」ハ「メ」政権ノ没落近キニ付テハ彼等ガ浦潮ニ在ル物資船舶ヲ搬出セサル様御尽力アリタシト乞ヘルニ付本官ハ「メ」政権ヲ事実上ノ権力者ト認メ大連会議ノ効力ハ浦潮ニ及ブヘキモノニ非ズト主張スル外国代表者モ有ルニ付日本側ハ斉多側ニ同情シツツアルモ何等積極的措置ニ出ヅル能ハザル次第ナルガ出来得ル限リ斉多側ノ利益ヲ保護スル様取計方在浦潮日本官憲ニ移牒シ置クベシト答ヘ置キタリ

三八〇　三月二十七日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ内田外務大臣宛（電報）

極東共和国軍ノ進撃ノ結果生ズベキ事態其他ニ関シペトロフトノ意見交換ニ付報告ノ件

合第八六号　（二月二十八日接受）

二十六日「ペトロフ」本官ヲ来訪斉多軍ノ先鋒ハ今ヤ「イマン」ニ接近シツツアリ而シテ「イマン」ニハ日本軍ノ大部隊アリトノ事ナルガ赤軍ニシテ白軍ヲ追撃シ「イマン」烏蘇里間六十「基」ノ中立地帯ニ入ラバ日本軍ハ如何ナル態度ヲ取ルヘキヤト問ヘルニ付本官ハ日本軍ノ大部隊ガ

「イマン」ニ在ル事ニ関シテハ何等知ル処ナシ但日本軍ハ必要ニ応シ如何ナル地点ニモ出動シ得ヘシト述ヘタル上今回ノ赤白両軍闘争ニ於テ若シ日本軍ガ右中立地帯内ニ於ケル白軍ノ移動ヲ黙認シタリトセバ赤軍ガ白軍ヲ追撃シテ烏蘇里ニ至ルトモ日本軍ハ固ヨリ白軍ヲ援助セサルト同時ニ赤軍ノ追撃ヲモ妨害セサルベシ（「アントノフ」時代ニ右中立地帯ニ「アントノフ」ノ軍隊ガ侵入シタル事実ハ之ヲ指摘シ置キタリ）ト答ヘ赤軍ガ烏蘇里ニ達シタル場合ニ白軍トノ衝突ノ結果累ヲ日本軍ニ及ホス事無キ様今ニ於テ速カニ軍事上ノ協定ヲ為シタク尚日本軍憲ニ於テ白軍ノ一部ノ鉄道輸送ヲ許容セラレタシト言ヘルニ対シ本官ハ武装民警ノ鉄道輸送ヲ黙許シタリト言フガ如キ報道ハ全然無根ナルニ付基本協約成立ノ見込確実トナリタル上軍事協定ノ審議ニ移ラサル限リ斉多軍ノ鉄道輸送ヲ承諾スル能ハズ又日本軍ハ烏蘇里以南鉄道輸送ヲ承諾スル能ハズ又日本軍ハ烏蘇里以南鉄道沿線特別地帯内ニ露国武装団体ノ存在ヲ許ササルヲ以テ仮令赤軍ニシテ烏蘇里ニ達スルトモ衝突スヘキ白軍ノ存在セズ随テ日本軍トノ間ニ間違ヲ生スル事無シ基本協定成立ノ見込立ツニ非ザレバ軍事協定ノ審議ニ移ル能ハサルヲ以テ若シ近ク赤軍ニシテ烏蘇里ニ達スルモノトセハ出先ノ両軍憲ヲシテ地方的ノ協定ヲ成サシムルノ外無カルベシト答ヘ置キタリ

次ニ「ペ」ハ哈爾賓ヨリノ報道ニ依レバ日本軍ハ浦潮要塞ラ破壊シツツアリトノコトナルガ右ハ事実ナリヤト問ヘルニ付本官ハ右ハ浦潮附近ニ於ケル日本軍ノ演習ヲ誤報シタルモノト信スルモ問合セ置ク可シト答ヘ置キタリ「ペトロフ」ハ更ニ会議ノ進捗ニ言及シ基本協約モ重ナル点ニ於テハ両国ノ意見大体一致シ（松花江問題ニ関シテハ松花江ガ支那領土内ノ河川ナルニ鑑ミ斉多政府ハ支那政府ニ於テ松花江航行権問題ニ付関係国間ニ商議ヲ開ク可キ旨提議スルニ於テハ右商議開始ニ異存ナシトノ趣旨ノ文書ヲ提出スルヲ得ト云ヒ居レリ）此上ハ条文ノ整理ノミナルト同時ニ沿海州ニ於ケル戦況前述ノ通リナルニ付テハ此際軍事委員会漁業委員会ヲ開キ速ニ大連会議ヲ終結シ度ク且自分モ成ル可ク速ニ斉多ニ帰ル必要アリト云ヘルニ付本官ハ基本協約ニ関シ大体ニ於テ両国ノ意見一致セリト言ハルルモ貴方最後ノ提案ニ関シ帝国政府ノ意見開示アキ今日両国ノ意見一

致セルヤ否ヤ之ヲ知ル可カラス加之斉多側ニ於テ尼港事件解決モ基本協約ト同時タル可シト主張シ且松花江問題ニ関シ更ニ前ト異ル提議ヲ為スニ於テハ基本協約ノ成立ノ見込ハ容易ニ立タサル可シ果シテ然リトセハ今直ニ軍事協定ニ移ルコトハ我方ノ困難トスル処ナリ吾人ノ努力スヘキハ基本協約ノ成立ニ在リ而シテ日本政府ノ回答モ近キニアル可シト信スルニ付其ノ上ニテ軍事協定審議ニ移ル可キヤ否ヤヲ決ス可シト云ヘルニ「ペトロフ」ハ基本協約尼港事件ノ審議ト同時ニ軍事委員会漁業委員会ヲ開クトキハ漁業協約締結ハ別問題トシ基本協約ノ締結、尼港事件解決、軍事協約締結ヲ速カナラシメ得ヘキニ付日本政府ニ於テ斉多側ノ希望ニ応スル様致シタシト懇請セリ

「ヤンソン」ノ外務大臣宛書翰ノ内ニ記載セル事実ニ関シ反駁ヲ加ヘタル後在哈府樋口大尉ノ消息確メ方依頼シタルニ「ペトロフ」ハ之ヲ快諾シタリ

三八一　三月四日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ内田外務大臣宛（電報）

松花江航行権問題ニ関スル打開案ニ付意見具申ノ件

合第八七号　至急　（三月五日接受）

松花江航行権問題ニ関シテハ我方最初ノ提案通リニ非ザレバ後日ニ於ケル支那トノ交渉面倒ナルヘキニ付全然形式ヲ換ヘ左ノ通声明セシムルコト可然ト思考ス

極東共和国政府ハ支那領域内ニ於テ門戸開放及機会均等主義ニ反スル何等経済上ノ特殊利権ヲ主張セサルヘキコトヲ声明ス

右ノ案ニハ斉多側ニ於テ反対スルノ理由無カルヘク又若シ先方ニ於テ共同声明若ハ相互的約束ト為サムコトヲ主張スル場合ニハ之ニ応シ差支無カルヘシ而テ支那ハ華府会議ニ於テ機会均等主義ヲ保留無シニ承認シタル以上帝国政府ハ右声明ヲ支那政府ニ突付ケテ直ニ松花江並ニ露支国境ヲナス黒龍江ノ航行権ヲ要求シ得ヘシト信ス

三八二　三月八日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ内田外務大臣宛（電報）

極東共和国軍及日本軍間ノ衝突防止ノ為暫定取極ヲ結ビ度旨ペトロフ申出デタル件

合第八八号　（三月九日接受）

本月五日本官ハ「ペトロフ」ニ対シ沿海州ニ於ケル赤色

「パルチザン」ノ交通妨害、日本歩哨襲撃等ヲ指摘シ右ハ斉多軍憲ノ指令ニ基カストスルモ彼等ハ斉多政府ノ擁護者ト自称スルヲ以テ斉多側ニ於テ速ニ適当ノ措置ヲ採ルニ非ラサレバ日本軍ハ斉多軍ノ一部ヲ以テ日本軍ヲ敵視スルモノト解スルニ至ルベク大連会議将来ノ交渉ニ支障ヲ来スベシトテ注意ヲ喚起シ置キタルトコロ八日「ペトロフ」来訪斉多政府ハ目下其ノ権力ノ及ハサル地方ノ秩序ヲ回復スルコト不能ナリ斉多軍ニシテ其ノ全領土ヲ占領シ「メ」政権ヲ倒シタル場合ニ於テノミ秩序ヲ回復シ祖国擁護ノ為反革命党ニ対抗シテ起チタル国民ヲシテ平和的事業ニ従事セシメ得ヘシ日本軍ト所謂「パルチザン」トノ間ニ発生スヘキ事件ヲ予防スル措置ヲ講ゼンコトヲ欲シ直ニ軍事委員会ヲ開キ同委員会ヲシテ日本軍撤兵ニ関スル事項ハ扨テ置キ斉多軍前進ニ伴フ日斉両軍ノ相互関係ニ関スル問題並日本軍撤退ニ至ル迄ノ間ニ起ルヘキ各種軍事問題ヲ具体的ニ処理セシムルコトト致シ度シ尚出先文武官憲ニ対シ日本軍ニ敵対スルコト無キ様訓示方斉多政府ヘ禀請シ置キタリト云ヘルニ付本官ハ軍事委員会開催ニ対スル日本政府ノ態度ハ従来ト毫モ異ナルコト無キニ付吾人ハ基本協約ノ成立ニ全力ヲ尽スノ外ナカルベク日本政府ノ回訓モ近ク来ルヘシト云ヒ「ブリュヘル」ハ「ハ」府攻撃当時白軍後方ニ赤色「パルチザン」ヲ蜂起セシムルノ策ヲ講シタリトノコトナルガ赤色「パルチザン」ト斉多軍憲トノ間ニハ連絡アルニ非ラズヤト指摘シタルニ「ペ」ハ軍事委員会ヲ開クコト困難トセバ斉多軍モ既ニ「イマン」ニ達シ近ク日本軍ト接触スヘキニ付日斉両軍憲ノ間ニ一時的取極ヲ為シ不快ナル事件ノ発生ヲ防止シ且斉多軍ノ前進ヲ容易ナラシメ度シト云ヘルニ付本官ハ白軍ノ主力今尚存在シテ赤軍ニ抵抗シツツアル今日日斉両軍憲間ニ斯ル取極ヲ為スコトハ厳正中立ヲ守ル日本軍司令官ニトリ困難トスル所ナルベシ然ノミナラス日本軍ガ従来ノ態度ヲ維持シ白軍ノ鉄道沿線通過ヲ拒絶スルニ於テハ赤軍ノ為ニハ却テ有利ニ非ラズヤト述ヘタルニ「ペトロフ」ハ兎モ角我ガ希望ヲ日本軍司令官ニ伝達シ以テ考量ヲ煩ハサンコトヲ乞ヒタルニ付本官ハ之ヲ承諾セリ

三八三　三月八日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ内田外務大臣宛（電報）在浦潮派遣軍政務部

三月二日極東共和国外相ヤンソン発内田外相宛電報ノ要旨報告ノ件

合第八九号

三月八日「ペトロフ」ハ三月二日「ヤンソン」発内田外相宛電報ヲ本官ニ手交セリ大要左ノ通

極東共和国政府ハ共和国ニ敵対スル武装団体ニ対スル日本軍ノ援助ニ関シ幾度カ抗議シタルモ日本政府ハ之ニ回答スルコトナク単ニ日本軍ハ厳正中立ヲ守リ武装団体ニ援助ヲ与フルコトナシト声明シ尚日本軍憲及代表ハ日本軍及沿海州政庁間一九二〇年四月ノ協定ヲ採用シ協約記載ノ地帯内ニ武装団体ノ存在ヲ許サスト為セリ

共和国政府ハ右協定ヲ以テ共和国政府ヲ羈束スルモノト思考セズ又日本軍憲モ武装団体ヲシテ同協定特別地帯内ヲ自由ニ通過セシメ且之ニ援助ヲ与ヘタルニ徴シ右協定ヲ拘束力アルモノト思考セザルガ如シ

既ニ指摘シタル場合ノ外日本軍ノ反斉多政府団体援助ノ実例下ノ如シ

「カッペリ」軍「オムスク」連隊中尉「ラジンスキー」ノ証言ニ依レバ十一月十八日午後九時「カッペリ」軍ノ一部隊ハ「ニコリスク」ヲ発シ「アヌチノ」ニ向ヒ「アヌチノ」ヨリ「ヤコブレフカ」、「ヤブロノフカ」ヲ経テ「サマルカ」ニ至リ夫レヨリ「シマコフカ」ニ帰リ鉄道ニ沿ウテ北進セリ此ノ間小銃機関銃ヲ携行ス日本軍ハ同部隊ガ斉多政府ニ敵対シテ進出スルコトヲ知リ居タリ日本軍ハ好意ヲ表セリ、日本軍ハ又沿線ニ於テ「カッペリ」軍ノ武装ヲ解除シ武器ハ客車ニテ「ウスリー」ニ送リ武装ヲ解除セラレタルモノハ列車ニテ同地ニ向ヘリ装甲車「カッペリ」及「ドミトリドンスコイ」外一装甲車ハ日本軍承知ノ上ニテ「ハバロフスク」戦線ニ送ラレ軍需品ハ汽車ニテ「ニコリスク」ヨリ送付セラレタリトノコトナルガ他ノ多数将校モ同様之ヲ証言ス

西比利第一連隊少尉「リエッツ」ノ言ニ依レハ十一月「ルスキー」島ニ於テ軍隊編成ニ際シ小銃四五十挺ノ供給ヲ受ケ同月「エフゲネフカ」ニ進出同地ニテ「ウィザネフスキー」将軍ハ日本軍憲ヨリ機関銃二挺及手擲弾五六十個ヲ受ケ中立地帯内通過ハ日本軍ノ阻止スル所トナラザリシ趣ナリ

「セメノフ」連隊騎兵少尉「バラシェフ」ノ言ニ依レハ四月同連隊ハ機関銃小銃並多数弾薬ノ供給ヲ受ケ日本軍ヨリ阻止セラルルコトナク鉄道ニテ「エフゲネフカ」ニ到達セリトノコトナリ

第一「プラストウンスキー」連隊ノ多数将校（大尉以下四名ノ姓名ヲ挙グ）ノ言ニ依レバ二月一日連隊ハ武器ナシニテ「ハバロフスク」方面ニ向ヒ「イマン」ニテ小銃五百挺（箱詰ニテ是迄使用セラレズ）弾丸六万発、手擲弾五百個ヲ受領セリ是等武器ハ連隊到着前「イマン」駅ノ列車中ニ在リタリ尚日本軍ハ「エフゲネフカ」「イマン」間ヲ滞リナク通過セシメタリト云フ

右ニ依リ日本軍ハ南部沿海州（鉄道沿線ヲ含ム）ニ於テ中立ヲ維持セザルノミナラズ叛徒ニ凡ユル援助ヲ与フルコト明ナリ極東共和国政府ハ重ネテ玆ニ同政府ノ承認セザル一九二〇年四月ノ協定ハ日本軍モ亦承認セザル所ニシテ日本代表カ同協定ヲ援用スルノ理由ナシト為スモノナリ極東共和国政府ハ前記協定ハ将来同政府ヲ羈束スルモノニ非ザル旨及極東共和国軍隊ハ叛徒ヲ追撃シテ共和国ノ領土内如何ナル地方ニモ至ルヘキ旨ヲ声明ス

極東共和国政府ハ今ヤ日斉両国間ニ各般ノ問題ニ付協定ヲ遂ケ且経済的友好関係ヲ樹立シ得ヘキヲ思ヒ日本軍憲ニ於テ斉多軍ノ烏鉄ニ依ル輸送所謂中立地帯ノ通過鉄道沿線三十キロ地帯及其ノ他ノ沿海州内ノ通過ヲ妨碍セラルルコトナク秩序ヲ破壊スル叛徒ヲ討滅セムトスル斉多軍ニ援助ヲ与ヘラルルコトヲ期待ス（右ニ対シ本官ハ日本軍憲カ白軍ニ対シ援助ヲ与ヘタルコトナシト思考スルモ若シ鉄道ニ依リ武器ヲ輸送シタル事実アリトセハ右ハ秩序維持ノ為民警及鉄道民警ニ供給シタル武器ヲ白軍ニ於テ密ニ輸送シタルモノト思考スルモ詳細取調方軍憲ニ移牒シ追テ何分ノ儀回答スベシト云ヒ置キタリ）

三八四　三月十六日　在米国幣原大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

紐育タイムス掲載ノチタ政府代表者談要領報告ノ件

第一三一号　（三月十七日接受）

三月十六日紐育タイムスハ斉多政府代表者「スクーエルスキー」ノ談ヲ掲ゲ居レル処其ノ要領左ノ如シ

「ジョッフル」元帥ノ日本巡遊ハ表面遊覧ナリト云フモ其ノ実西比利亜開発ニ関スル日仏協定ノ細目ヲ協議スル目的

ナリ日本ハ「メルクローフ」政府失脚ノ後ハ更ニ「メルクローフ」ヨリ石炭採掘権ヲ得是ニ対スル賠償トシテ「メ」政府失脚ノ暁ニハ「メ」ヲ日本ニ護送スル事及莫斯科臨時政府ノ日本ニ於ケル預金ヲ引渡ス可キ事ヲ約シタリ又日本ハ「メ」政府時代ニ日本人ガ得タル利権ノ承認ヲ斉多政府ニ対シテ要求シ居レルガ右ハ斉多政府ガ到底同意シ難キ処ナルヲ以テ此ノ点ニ於テ大連会議モ長引キ居レル次第ナリ尚斉多政府軍ハ浦汐近ク進出シタルガ同地ノ人口ノ九割五分ハ斉多側ニ同情ヲ有スルヲ以テ撤兵セバ其ノ瞬間ニ於テ同地方ノ政権ヲ収ムルコトヲ得可シ云々

三八五　三月十九日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

極東共和国代表ノ排日演説ニ関スル対策ニ付稟申及請訓ノ件

第一三四号　（三月二十日接受）

貴電第一一七号ニ関シ右ハ往電第一三一号ノ件ト共ニ一括取消ス事可然ト認メラルルニ付テハ何分ノ儀御回示煩ハシタシ尚華府会議以来当地方ニ行ハルル我対露関係ニ関スル面白カラザル宣伝ハ所謂斉多政府代表者「スクウイルスキ

ー」ノ仕業ニシテ現ニ同人ハ本月初旬紐育ニ於テ反日的演説ヲナシ又十日「ブルックリン」ニ於テモ同様宣伝演説ヲ為シタルガ其際ノ如キハ鮮人 E. K. Whanigi ナル者モ参加シテ反日的演説ヲ為シタル趣ナリ

近来斉多側ノ宣伝ニハ鮮人モ参加シツツアリト認メラルルモ一面ニ於テ斉多側ガ無稽ノ宣伝ヲナス毎ニ当方ニ於テ其ノ都度消極的取消ヲ発表スルモ其ノ効果尠カルヘキ而已ナラズ我ヨリ何等具体的真相ヲ明ニセザル事ハ却ッテ世人ノ疑惑ヲ深クスルノ嫌アルニ付此ノ際寧ロ大連会議ノ経過ヲ公表シ我方公明ノ態度ヲ当国ニ見セシメ積極的ニ排日宣伝ニ対抗スルヲ機宜ヲ得タルモノト存セラル御詮議ノ上此ノ点ニ関シテモ合セテ何分ノ御回訓ヲ請フ

三八六　三月二十日　内田外務大臣ヨリ　松島政務部長（大連出張中）宛（電報）

チタ側ノ二月十日附口上書ニ対スル日本側ノ取扱方ニ付訓電ノ件

第九二号

一、貴電合第八二号斉多側口上書ニ関シ

㈠　私有財産制ノ承認ニ関スル我方要求ハ文書ニテ之ヲ声

明セシムルニ止マルモノナルニ依リ要スル処客年三月極東共和国カ世界各国民ニ対シ宣言シタル処ヲ繰返スニ過ギズシテ何等内政干渉ト目スヘキニ非ザルモ若シ先方ニ於テ承諾セザルトキハ日本人ノ私有財産権ヲ保障スル意味ノ文書ヲ提出セシムルニ止メ差閊ナシ

㈡　漁業問題ニ関シ労農代表者ヲ参加セシメ委員会ヲ組織スルニ同意シ差閊ナシ但シ議事ノ開始ハ基本協約成立後トスルヲ要ス

㈢　黒龍江及松花江航行権ニ関スル条項ハ協約ニ挿入セザルコトニ同意スルモ合弁経営ヲ認ムル旨別ノ文書ヲ以テ約束セシムルコトニ話ヲ纏メラレタク若シ先方ニ於テ到底之ヲモ承諾セザル場合ニハ少クトモ後日更メテ協議スルコトトスル趣旨ヲ附属文書ノ交換ニ依リ取極メ置クヲ要ス

㈣　要塞撤廃ニ就テハ貴電合第八三号㈣「ペトロフ」ノ所述並ニ了解ニヨリ特別会議録ヲ作成シ現存要塞ヲ戦闘的機能ヲ廃滅セシムル程度ニ破壊スルコト並将来新ニ朝鮮国境及帝国ニ面スル海岸ニ要塞ヲ建設セザルコトニ就キ誓約的声明ヲ載セシムルコト但シ右声明案ハ前以テ我方ノ承認ヲ経ルヲ要スルコト既電ノ通リナリ

㈤　尼港事件ハ極メテ重大事項ニ属シ其解決方法ハ内外ノ関係ヨリ種々講究ヲ要スルモノアリ先方ニ於テモ実行的解決方法ニ就キ考慮ヲ要スル所アルヘク従テ短日子ノ間ニ具体的解決ニ到達スルコト不可能ト認メラルルニヨリ左記二ノ趣旨ニヨリ基本協約ノ成立シタル場合引続キ本件ニ関スル交渉ニ入ルコトトスルニハ同意スルモ差当リ基本協約ヨリ之ヲ切リ離スノ外ナシ

二、浦潮派遣軍中第十一師団ハ既ニ予定ノ駐在期限ヲ経過シ来月交代ヲ為スノ必要ニ迫ラレ居ル処若シ夫レ迄ニ基本協約成立スルニ於テハ右帰還部隊ノ補充ヲ為スコトナク従テ派遣軍守備区域ノ大部分ヲ縮小シ尼市若クハ其附近以南ノ区域ノミニ之ヲ駐ムルコトトシ差支ナシト思考シ居ル処右守備区域縮小ノ結果ハ白軍ニ対スル関係等ニ於テ斉多側ニ非常ニ有利ナル立場ヲ与フルモノニシテ従テ右考案ハ基本協約ヲ直ニ成立セシメムトスル「ペトロフ」並斉多政府側ノ誠意ヲ前提トスル我方ノ好意ニ基クコト尚又前顕一ニ於テモ先方ノ立場ヲ顧慮シ出来得ル限リ譲渡シタル事実ヲ篤ト考慮シ速ニ基本協約ヲ成立セシ

ムルコト先方ニトリテモ最モ得策ナルヘキコトヲ説示シ尚又守備区域縮小ノ考案ハ基本協約ノ迅速成立ヲ前提トスルモノナルニヨリ若シ基本協約ニシテ本月中位ニ成立セザル場合ニハ我方ニ於テハ直ニ交代ヲ実行スルノ止ムヲ得ザル事情ヲモ説明シ篤ト我方誠意ノ在ル所ヲ披瀝シ基本協約並尼港事件以外ノ事項ニ関スル附属文書ヲ迅速成立セシムル様努メラレタシ

三、協約ノ他ノ条項ニ対スル我方修正案ハ近日中電報スヘキ処先方ニ対シテハ前記各事項ニ付意見ノ合致ヲ見タル上速ニ開示スヘキ旨答ヘ置カレタシ

四、前顕二、所載ノ趣旨先方ニ徹底シ基本協約並尼港事件以外ノ事項ニ関スル附属文書ニ就キ意見ノ合致ヲ見タル上ハ直ニ調印ヲ了スルコトニ取運ヒタキモ其余裕ナキ時ハ貴地ニ於テ仮調印ヲ為シ此ト共ニ一方守備区域ヲ前記新区域ニ引下ケ他方軍事協定及尼港事件解決ニ関スル交渉ヲ開始シ浦潮方面派遣軍ハ右軍事協定ノ成立ヲ俟チ全部撤兵スル順序トナルニ付右含置カレタシ

三八七　三月二十日　内田外務大臣ヨリ　松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

基本協約ニ関シ合意成立シタル場合ノ調印問題ニ付訓電ノ件

第九三号

往電第九二号末項ニ関シ陸軍側ニ於テハ仮調印ニ対シ不安ノ念ヲ抱キ居ル次第モアルニ付基本協約等ニ付合意成立ヲ見ル場合ニハ直ニ調印迄取運フコトニ交渉相成度ク右到底不可能ナル場合ニハ仮調印ヲ為スノ外ナキガ其場合殆ド本調印ト同一ノ効力ヲ有スルコトニ致シタキニ付後日斉多政府ハ勿論国民議会ニ於テ仮調印済ノ事項ニ対シ不同意ヲ唱フルコトナキ様予メ「ペトロフ」トノ間ニ充分了解ヲツケ置カルル様致シタシ

三八八　三月二十二日　内田外務大臣ヨリ　松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

チタ政府代表者ノ反日演説ニ対シ抗議申入方訓電ノ件

第九六号

往電第九四(註)号ニ関シ其後在米大使来電ニ依レハ「スクイルスキー」ハ本月上旬紐育ニ於テ反日演説ヲ為シタル趣ナルガ目下貴地ニ於テ商議中而モ我方再三ノ抗議ニ拘ラズ斉多政府代表者ガ尚此種宣伝ヲ継続スルハ今後交渉ノ進行ヲ阻害スル虞アルハ勿論仮令協定成立ノ場合ニ於テモ到底彼我ノ円満ナル関係ヲ期シ難キニ依リ此際之ヲ根絶セシムル必要アルニ付貴官ハ「ペトロフ」ニ対シ厳重抗議ヲ申込ミ斉多政府ハ実際右談話中ノ事実ヲ信シ居ルヤ又信シ居ラズトセバ何故斯カル発表ヲ為サシムルヤヲ詰問シ若シ右宣伝ハ斉多政府ノ意ニアラズトセバ速ニ本人ノ行動ニ対シ徹底的措置ヲ執ル様申入レラレタシ

註　内田外務大臣発松島政務部長宛電報第九四号ハ前出幣原大使発内田外務大臣宛電報第一三一号ノ「ジョッフル元帥」以下ヲ転電シタルモノナリ

三八九　三月二十三日　在浦潮永井政務部長代理ヨリ　内田外務大臣宛(電報)

チタ軍前進ノ制限地域設置ニ関スル軍ノ意見ニ付報告ノ件

第四八号　(三月二十三日接受)

三月二十日貴大臣発松島部長宛電報ニ関シ三月二十二日当地軍参謀長ヨリ松島部長ニ対シ軍ノ駐屯地縮小ニ関スル詳細ノ電報ハ更ニ通報スヘキモ斉多軍ヲシテ直接我軍ニ接触セシムルコトハ各種事件ヲ生ズル原因トナルヲ以テ配備ノ如何ニ拘ラス軍駐屯地ノ前方ニ斉多軍進入制限地域ヲ設クヘキニ付交渉ノ際顧慮セラレ度旨電報シ尚ホ軍ハ陸軍側ト打合セノ為同日当地出発ノ鳳山丸ニテ参謀部第二課(対外関係)課長(不明)大佐ヲ急遽上京セシメタリ　右貴電当方ヘモ電報ヲ請フ

三九〇　三月二十三日　松島政務部長(大連出張中)ヨリ　内田外務大臣宛(電報)

会議促進ノ上帰任方チタ政府ノ電命ニ接セル旨ペトロフ談話ニ付報告及稟請ノ件

合第九〇号　(三月二十三日接受)

三月二十二日第二十一回会議ニ先立チ「ペトロフ」ハ四月二十七日ニハ国民議会ノ総選挙行ハルヘク其他内務大臣トシテノ行政事務モ多々有ルニ付速カニ当地会議ヲ済セ帰任スヘキ旨斉多政府ヨリ電命ニ接セリトテ急速会議ヲ進メ度キ由ヲ述ヘ尚当日会議後「ペ」ハ哈爾賓ヨリノ情報ニ依レハ日本政府ハ「メ」政権ト交渉ノ結果日本漁業者ヲシテ借区料三百万円ヲ納付セシムルコトト成リタル趣ノ処斯クノ如キハ白軍ニ軍資金ヲ与ヘ内乱ヲ助長スルノ結果ヲ来ス可シ

ト云ヘルニ付本官ハ従来ノ漁業規則ニ依レバ本年漁区借料ノ半額ト同時ニ前年度（今回ハ前々年度）ノ後半期分借料ヲ納付スルコトニナリ居ルヤニ記憶スル処金額ハ不明ナリト答ヘ置キタルガ右事実ニ関シ何分ノ儀御通知ヲ請フ尚卑見ニ依レハ前々年度後半期分ハ其ノ当時存在セザリシ「メ」政権ニ交付スルコトヲ拒絶シ得ル様思考セラル

三九一　三月二十三日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

日本政府回答ノ第一第二及第三点ニ関スルペトロフトノ討議ニ付報告ノ件

合第九一号　（三月二十四日接受）

貴電第九二号ニ関シ

二十二日会議開催、貴電一ノ㈠ニ就テハ「ペトロフ」ハ極東共和国憲法ノ認ムル私有財産権ヲ保障スル意味ノ文書ヲ提出スル事ニ異議無シト言ヘリ

同ジク㈡ニ就テハ本年度ノ漁業ヲ目前ニ控ヘ居ルニ就キ直ニ漁業委員会ノ議事ヲ開始シタシトノ先方ノ意見ナリシモ基本協約成立スルヤ否ヤ不明ナル今日労農代表者ヲ参加セシムル漁業委員会組織ニ同意スルハ斉多政府累次ノ希望ニ

応シタルモノナリ基本協約調印後直ニ漁業委員会ノ議事ヲ開始スヘキ旨基本協約中ニ規定スル事ニハ異議ナキモ亦直チニ議事ヲ開始スル事ニハ応シ難シ蓋シ基本協約成立セザルニ於テハ漁業協約ノ審議ハ無意味ナルヲ以テナリ故ニ吾人ハ此ノ際基本協約ノ成立ニ全力ヲ尽スヲ可トスヘシ基本協約ニシテ近ク纏ラバ漁業委員会モ議事ヲ開始シ得ヘキニ付本件ハ此上論議スル事無ク次ノ問題ニ移ル事トスヘシト述ベ㈢黒龍江及松花江航行権問題ニ移レリ

黒龍江航行ヲ日露合弁事業ニ許与スル事ニハ従来ノ斉多政府訓令ニ鑑ミ応シ難シト言ヘルニ付本官ハ後日改メテ本件ヲ協議スルコトヲ約束スル趣旨ノ文書ヲ提出スル様斉多政府ニ具申セラレ度シト請求シタル処「ペ」ハ斉多政府ハ之ニ応ゼザルベシト思考スルモ一応電照スヘシト答ヘタリ

松花江航行権問題ニ就テハ支那政府ガ露国以外ノ外国船舶ニ右航行権ヲ与フルトモ斉多政府ニ於テハ異議無シトノ趣旨ノ文書提出方ニ関シ斉多政府ノ立場ヲ困難ナラシムルモノニ非ザル理由ヲ詳説シテ要求シタルモ「ペトロフ」ハ本件ニ関シ第三国政府ト交渉スルヲ許サズト支那政府ヨリ威嚇セラレ居ル共和国政府ノ窮境ヲ察セラレ度シトテ応諾ノ模様無カリシニ付本官ハ機会均等門戸開放主義ハ支那政府モ承認シ居ル所ナリ而シテ斉多政府モ此ノ主義ニ異存無カルヘキニ付此際斉多側ガ支那ニ於テ有スル特権即チ松花江航行ニ関スル特権ヲ放棄スル旨声明セラレ度シ露国側カ特権ヲ放棄セバ松花江ハ自然列国ニ向ッテ開放セラルヘシ支那ハ之ニ対シテ反対スル理由ヲ有セザルヲ以テ斉多政府ハ困難ナル立場ニ陥ル事無シト日本モ華府会議ニ於テ支那ニ於ケル特権ヲ放棄スル旨声明シタリト述ベタルニ「ペトロフ」ハ機会均等門戸開放主義ニハ素ヨリ斉多政府ノ異議無キ所ニシテ労農政府モ既ニ一昨年支那ニ於ケル特権放棄ヲ声明セリ

然リト雖モ華府会議ニ参加セサリシ斉多政府及莫斯哥政府ハ支那政府トノ交渉ニ於テ同会議ノ採用セル主義ニ拘束セラルベキニアラズ全然自由ナリ加之松花江ハ支那領土内ニアル特殊ノ河川ニシテ之ニ関シ露支両国間ニ交渉スルニ際シ如何ナル方針ニ依ルヘキカヲ第三国ニ約束スルヲ得ズ但シ成ルヘク機会均等主義ニ依ルヘキハ勿論ナリト云ヘルニ付本官ハ支那政府ノ威嚇ヲ恐ルルコト先ニ述ヘタルガ如シトセバ結局松花江航行権ニ関シテハ露国ガ特権ヲ享有スルコトニ終ルベク機会均等主義ハ実現セラレザルヘシ又機会均等主義ニ依ルト依ラザルトハ斉多政府ノ勝手ナルヤノ御意見ナル処若シ斉多若ハ莫斯哥政府ニシテ支那ニ於テ優越権ヲ獲得セントセハ列国ハ之ニ反対スヘク殊ニ満洲ニ於ケル優越権ニ対シテハ日本ハ断乎トシテ之ニ反対スヘシ松花江航行権ノ如キ露国ガ有スル特権ナルニ付此ノ際之ガ抛棄ヲ要求スルモノナリ而シテ機会均等主義ニ基キ特権ヲ抛棄スト云ハバ支那モ之ニ反対スルノ理由ナキニアラズヤト述ベ斉多政府ノ同意ヲ求メタルニ一応政府ニ電照スヘキモ支那政府トノ関係ニ鑑ミ実際上斉多政府ノ同意シ難キ所ナルヘシト云ヘリ依ッテ本官ハ黒龍江及之ニ流入スル河川ノ航行権ニ就テハ後日関係国（日露支）間ニ協議スヘキ旨ノ文書ヲ提出セラルルモ可ナリ或ハ日本政府ニ於テ満足スルヤ否ヤハ知ラザレ共先ニ話題ニ上リタル通リ支那政府ニ於テ発議スル場合ニハ松花江航行権ニ関シ会議ヲ開クモ差支ナシトノ文書ヲ提出スルコトハ如何ト述ヘタルニ「ペトロフ」ハ日本側ヨリノ照会ニ対シ最後ニ述ヘラレタル如キ意味ノ回答（会議ニハ莫斯哥代表者ノ参加ヲ要ス）ヲ発スルコトモ目下ノ露支交渉ノ現状ニテハ六ケ敷カルヘキモ兎ニ

角一括シテ詳細斉多ニ具申スヘシト云ヘリ尚本官ハ本件ニ関シ斉多側カ何等ノ保障ヲ与ヘザルニ於テハ基本協約ノ成立モ或ハ覚束ナカルベキニ付斉多政府ノ考量ヲ求ムル旨附言シ置キタリ

会議ハ四時間半ニ亘リタルヲ以テ一先ツ中止、二十三日続行ノ筈

松花江問題ハ今日ニ於テハ機会均等主義ヲ楯ニ支那政府ニ逼リ露国側ニ於テ承諾スルニ於テハ松花江ヲ開放スル旨公然約束セシメ之ヲ以テ露国側ニ向フ方得策ナリト思考ス

三九二　三月二十三日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

尼港事件交渉ヲ後廻シトシ基本協約ヲ至急調印スベシトスル日本政府ノ方針ニ対スルペトロフノ反対意見報告ノ件

合第九二号　（三月二十四日接受）

二十三日ノ会議ニ於テ浦潮要塞問題ニ関シ我方ノ主張ヲ繰返シ（貴電御来示ノ事項ノ外要塞地帯ノ廃止ヲ附加ス）特別会議録ニ掲記スヘキ声明案ノ提出ヲ要求シタル処「ペトロフ」ハ双方ノ意向ハ一致シ居ルニ付声明案ハ軍事委員ニ

審議セシメタク尚秩序維持ノ必要上浦潮地方ヲ一軍管区トシ相当ノ武力ヲ存置スヘシト云ヘルニ付本官ハ詳細ノ点ニ関シテハ追テ軍事委員ヲシテ審議セシムベキモ只今陳述シタル趣旨ノ声明案ハ此際至急提出セラレタク秩序維持ニ必要ナル武力ヲ保持スルコトニハ勿論帝国政府ニ於テ異議無カルヘシト信スト述ヘタルニ「ペ」ハ右声明案ヲ近ク提出スルコトニ同意セリ

尼港事件交渉後廻シ基本協約至急調印問題ニ関シ我方ノ趣旨ノ在ル処ヲ説示シタルニ「ペ」ハ相変ラズ両国間ニ存スル各般ノ懸案ヲ解決スルニ非ザレバ両国ノ友好関係ハ到底樹立セラレザルニ付斉多政府ハ基本協約沿海州撤兵尼港事件及薩哈嗹撤兵ニ関シ同時ニ協議ヲ纏メズシテ基本協約ニノミ調印スルコトニハ応ジ難シ全部ニ調印スルカ然ラザレバ全部調印セズ尼港事件ノ如キ解決左迄困難ニ非ズト思考スト云ヘルニ付本官ハ右主張ハ従来ノ主張ナリ日本政府ハ事態ノ変化シタルニ鑑ミ新シキ提議ヲ為シタルモノナリ懸案全部ヲ解決セザレバ一部ノ解決モ欲セズトノ主張ハ甚ダ諒解ニ苦ムル処ナリ一部ヲ解決スルコトニ依リテ両国ノ関係ハソレ丈改善セラルヘシ友好国間ニ於テモ争議ハ存在スルノ

有様ナリ今ヤ日本ハ混乱後ニ於テ新ニ生シタル共和国ト親善関係ヲ確立セムトスルモノニシテ直ニ全部ノ懸案ヲ解決スルノ困難ナルハ明カナリ尼港事件ノ如キ解決難カラザルヘシト云ハルルモ日本政府ニ取リテハ同問題ハ頗ル重大ニシテ国民ノ意嚮等慎重考慮スヘキモノナリ従テ容易ニ決定スルヲ得ズ之帝国政府ガ今回ノ提案ヲ為シタル所以ナリ就テハ政府ニ稟申シテ其ノ同意ヲ求メラレタシト要求シタル処「ペトロフ」ハ政府ニ稟申スヘキモ斉多政府ハ恐ラク同意セザルベシ自分ノ意見トシテハ此際基本協定及尼港事件審議ト同時ニ漁業委員会、軍事委員会ヲ開催セバ遠カラズ全部ノ問題ヲ解決シ得ヘシト信ス殊ニ実際問題トシテハ尼港事件ニ関シ主義上ノ解決着カバ其ノ余ノコトハ多少遅滞スルモ差支ナシ又白軍ハ既ニ殆ド全滅シ斉多軍ハ日本軍ト接触スヘキニ付両軍間ニ面白カラザル事件ノ発生ヲ防ク為両軍事官憲間ニ地方的取極ヲ為スノ要アリト信ズト言ヘリ右ニ対シ本官ハ基本協定成立ノ見込ナキニ細目ニ亘リテ協議スルハ無益ナリ尼港事件ノ解決ヲ姑ク後廻トセズトセバ何時基本協定ノ調印ヲ見ルヤ不明ナリ故ニ今ヨリ各種委員会ヲ開クコトニハ承諾スルヲ得ズ又軍事協定成立セザル以上日本軍ハ千九百二十年四月ノ軍事協定ニ依リ行動スルノ他ナシト述ベタル処「ペ」ハ㈠従来ノ斉多側提議ニ関シ日本政府ハ如何ナル程度迄満足セラルルヤ㈡沿海州ニ於テ此際地方的軍事取極ヲ為スコトニ同意シ得ザルヤ承知シタシト問ヒタルニ付昨日及本日ノ会議ニ述ヘタル処ニテ日本政府ノ意向ハ明ナリ従来論議セザリシ事項ハ左程重要ナラザルニ付協議ハ纏マルヘシト思考ス地方的軍事協定ニ関シテハ基本協約ニシテ調印セラルルニ於テハ両国ノ友好関係確立スルヲ以テ日本軍ハ斉多軍ト協議スルコトニ異議ナカルベキモ基本協定成立セザルニ於テハ政争ニ対シテ絶対中立ヲ維持スルノ態度ヲ棄テ斉多軍ニ好都合ナル取極ヲ為スヲ困難トスベシト答ヘタルニ「ペトロフ」ハ然ラバ基本協約ハ河川航行権問題ノ外大体両国ノ意見合致シタルモノニ付日本軍ハ斉多ニ好意ヲ表シ既ニ時局ニ合セザル旧軍事協定ニ代フルニ新ニ協定ヲ為スモ差支ナキニアラズヤ日本政府ニ於テ我希望ニ応スル様懇請スト言ヘルニ付本官ハ大体ノ意見合致シタリトモ尼港事件ノ解決等ヲ条件トスルニ於テハ基本協約ハ何時確定スルヤ予測シ難シ日本ハ極東共和

国ニ対シ好意ヲ有スルモ斯カル不確実ナル基礎ニ於テ新ニ協定ヲ為スヲ得ズト思考ス此点ヨリ考フルモ基本協約ヲ速ニ調印スル事得策ニ非ズヤ又初ニ述ヘタル通リ基本協約ノ調印ニ依リ日本軍駐屯区域ノ縮小ニ依リ斉多軍ハ便宜ヲ受クルニ非ズヤ之斉多政府ノ再考ヲ求ムル所以ナリ尤御希望ノ点ハ政府ニ稟申スヘシト答ヘタリ此時「ペ」ハ日本軍一部ノ撤退モ軍事協定ニ依ル事ニ諒解シ居レリト言ヘルニ付日本軍ノ駐屯区域ヲ縮小スルハ日本ノ自由ナル旨ヲ指摘シ但シ事実上ノ問題トシテ軍事協定無シニ全部撤兵セントスルニハ非ズト附言シタルニ「ペトロフ」ハ今ヤ基本協約ニ就テハ略意見一致シタルヲ以テ此際軍事委員会ヲ開催シ基本協約ト共ニ軍事協定ヲ審議セバ数日ニシテ両者ヲ纏メ得ヘシト信スルニ付軍事委員会開催ニ承諾ヲ与ヘラレ度シト請求セルニ付本官ハ基本協約ニ於テモ尚重要ナル点ニ就キ意見一致シ居ラズ且尼港事件モ基本協約ト同時ニ解決スヘキ旨主張セラレ居ル以上日本政府ニ於テ直ニ軍事委員会ノ開催ヲ承諾スヘシトハ思ハレズ尼港事件後廻シニ承諾ヲ与ヘラルルナラバ或ハ御希望ニ応シ得ヘシトハ思考スルモ何レニセヨ予測等ハ致シ難シト答ヘ置キタリ

右ニテ議論モ尽キタルニ付之ニテ会議ヲ中止セリ

会議中「ペトロフ」ノ語気ニ依リ得タル感想ニ依レハ或ハ先方ヨリ多少譲歩シ来ルヤモ知レザレド確タル見据ヒ附カズ殊ニ本月中ニ基本協約ノ調印ハ不可能ト思考ス

三九三　三月二十五日　内田外務大臣ヨリ松島政務部長（大連出張中）宛（電報）

黒竜江航行権問題ニ関シ文書ヲ以テ約束スル様申入方訓電ノ件

第九九号

貴電合第九一号ニ関シ黒龍江航行権問題ニ就テハ過般「ペトロフ」ニ於テ日露合弁事業ノ利益ヲ顧慮シ相当ノ規則ヲ制定スル意アルヲ語リタル次第アリ旁々我方ニテハ合弁ニ関スル文書上ノ約束ヲ得タキ希望ナルモ右困難ナルニ於テハ尠クトモ後日改メテ協議スルコトニ文書ヲ以テ約束スル様重ネテ先方ニ申入レラレタシ将又松花江航行権問題ニ就キ華盛頓会議ノ結果ハ列国ガ従来支那ニ於テ有シタル特権ヲ必ズシモ抛棄セシムルコトトハ相成ラズ従テ露国ニ対シ同会議ノ決議乃至機会均等主義ヲ引用シ一般的ニ本件航行権ノ抛棄ヲ迫ル理由ヲ欠クノミナラス此ノ如キハ却テ面白カラザル結果ヲ生ズル虞モアルニ付右御承知アリタク又貴見ノ通リ先ヅ支那側トノ交渉ヲ取纏メムトスルモ目下ノ形勢迅速解決ヲ見ルベキ見込立タザルニ付実行困難ナルガ支那側ニ於テ我要求ニ同意スル場合ニハ斉多側ニ於テモ之ヲ承諾スルニ異存ナキ旨ヲ約束スルハ先方ニ於テ之ヲ拒絶スル理由ナキニ付右ノ次第ヲ先方ニ説示シ止ムナクハ本件ヲ後日ノ協議ニ譲ル旨ヲ約束スル様重ネテ「ペトロフ」ニ申入レタシ

三九四　三月二十六日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ内田外務大臣宛（電報）

軍事委員会開催問題其ノ他ニ関シペトロフト意見交換ニ付報告ノ件

合第九三号　（三月二十六日接受）

二十五日「マルフレフスキー」ハ「ペトロフ」ニ伴ハレテ挨拶ノ為本官ヲ来訪シ漁業問題ニ関シ従来「ペ」ノ言ヒタルガ如キ事ヲ陳述セルニ付本官ハ浦潮政権ノ存スル限リ日本政府トシテハ同政権ト交渉スルノ外無キ旨ヲ答ヘ置キタリ「ペトロフ」ハ至急軍事委員会開催ノ件及斉多軍ノ特別区域通過ノ件ニ関シ日本ノ同意ヲ求ムル様更ニ訓令ニ接シタルニ付更ニ日本政府ノ同意ヲ求ムト言ヘルニ付本官ハ河川問題及尼港事件後廻シニ関シ日本ノ要求ニ応セラルル時ハ斉多ノ希望ハ満足セラルヘキニ付先ツ我要求ニ応スル様斉多ニ請訓セラレタシト答ヘタルニ「ペ」ハ尼港事件ノ解決ハ左程困難ニハ非ズト思考スト従来ノ言説ヲ繰返シタルガ基本協約調印後引続キ同問題ヲ審議スルナラバ此際調印ヲ為スモ可ナリトノ意見ニ傾キツツアルヤニ看取セラレタリ

三九五　三月二十六日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ内田外務大臣宛（電報）

基本協約調印ニ関シペトロフトノ交渉ニ付報告ノ件

合第九四号　（三月二十七日接受）

貴電第九九号河川航行権ニ関シ二十六日重テ「ペトロフ」ニ申入レタルニ政府ニ電報スヘキモ承諾スヘキヤ否ヤ不明ナリト云ヒ続テ軍事委員会開催及斉多軍ノ特別地帯通過浦潮進入ニ日本政府ノ同意セラレンコトヲ望ムト繰返シタルニ付本官ハ河川問題ニ関シ斉多側ニ於テ我ガ提議ヲ容レ且ツ尼港事件ヲ後廻シトスルコトヲ承諾シ基本協約ニ調印ス

ルナラハ軍事委員会ヲ開クコトニ異議無カルヘキニ付至急斉多側ノ意向ヲ確メラレ度シト請求シ置キタリ

調印ノ効力ニ関シ斉多側ノ見解ヲ確メタル処国民議会開会中ナラバ其ノ協賛ヲ経ルニ非ザレバ調印シ難キモ議会休会中ナル時ハ調印ノ上後日議会ノ追認ヲ求メザル可ラザルモ追認ハ確実ナリト云ヘリ（此ノ解釈ハ斉多憲法ノ正当ナル解釈ニ非ズト思考ス斉多ノ内部関係ニ於テハ条約ハ必ズ議会ノ協賛ヲ経ルヲ要スルヲ以テ協賛ヲ効力発生ノ条件トセズシテ調印スル時ハ相手国ニ対シテハ義務ヲ負ヒ乍ラ議会ノ協賛ヲ得ラレザルノ危険ニ陥ルモ協賛ヲ得ルノ見込確ナル時ハ協賛ヲ条件トセズシテ調印シ得ルモノト解セラル）

次ニ「ペトロフ」ハ我提議ニ応シテ基本協約ニ調印スルコトヲ承諾スルモノト仮定スルモ軍事協定ニ何等言及セズシテ調印スルヲ得ズ故ニ両者同時ニ調印スルカ尠ク共「プロトコール」ヲ以テ基本協約ノ効力ハ軍事協定ノ調印ノ時ヨリ発生スト定メ尚締結国ノ一方カ両協約ニ違犯スル時ハ協約ハ無効トスト附記スルコトトセハ如何尤モ右ハ斉多政府ガ日本ノ提議ニ応スル場合ヲ仮定シテノ話ニシテ若シ日本ガ此ノ際斉多軍ノ浦潮進出ニ承諾ヲ与ヘ同時ニ尼港事件解決ニ関シ日本ハ領土的野心ヲ有セズシテ経済上ノ利益ヲ以テ満足スヘク且ツ基本協約締結後引続キ商議スヘキ旨正式ニ約束セラルルニ於テハ斉多政府ヲ緩和シ得ル望無キニシモ非ザルニ付此点政府ニ伝ヘラレ度シト云ヘリ

右ニ対シ本官ハ斉多軍ノ浦潮進出ヲ直ニ許容スルノ困難ナル理由及基本協約ノ調印ヲ急クコトニ依リ此ノ問題ハ自然ニ解決セラルヘキ所以ヲ説明シ置キタリ

尚往電合第九二号前段要塞撤去ノ問題ニ関シ「ペトロフ」ハ我方申出ノ如ク声明案ヲ提出スルコトニ異議無キ旨政府ヨリ回訓アリタリト云ヘリ

三九六　三月二十七日　内田外務大臣ヨリ松島政務部長（大連出張中）宛（電報）

基本協約及軍事協定ノ調印ガ四月十五日迄ニ行ハレザル場合ニハ交渉ヲ打切ル旨ノ警告ヲ発スル様訓令ノ件

別電　同日内田外務大臣発松島政務部長宛電報第一〇二号

我方軍事協定案

第一〇一号

貴電第九二号ニ依レハ斉多側ハ我方軍事協定案ニ対シ幾分危惧ノ念ヲ有シ居ルヤニ見受ケラルルニ付右草案ヲ先方ニ提示スルヲ得策ト認ムルニヨリ貴官ハ別電第一〇二号ヲ先方ニ示シ我方ニテハ軍事協定ニ於テモ何等過重ノ要求ヲ為サムトスル意思ナク而カモ押収武器並ニ鉄道作業材料等ニツキ充分斉多側ノ利益ヲ考慮シアルノミナラズ守備区域縮小ニ就テモ過般説示セル如ク全ク我方ノ好意的考慮ニ出デタル次第ナルニヨリ斉多側ニテハ我方上述ノ態度ヲ顧念シ此際速ニ基本協約ヲ成立セシムルコト尤モ得策ナルヘキ所以ヲ説明セラレ猶我方ニテハ「ペトロフ」等斉多側ノ立場ヲ顧慮シ既ニ出来得ル限リニ於テ譲歩シタル次第ナルヲ以テ此点ハ先方ニ於テ篤ト考量スルヲ要スル旨並已ニ我方ニ於テ此ノ如ク斉多側ニ好意ヲ表シ速ニ極東ノ事態ヲ解決セントスル誠意ヲ示スニ不拘此上斉多側ニ於テ我方ヲ狐疑シ又ハ小策ヲ弄シテ解決ヲ遅延セシムルニ於テハ到底談判ノ成果ヲ得ルコト困難ト思考スルニ付四月十五日迄ニ基本協約及軍事協定ニ調印スルニアラサレバ最早談判ヲ打切ルノ止ムヲ得サルニ至ルヘキ旨警告セラレタシ

（別　電）

三月二十七日内田外務大臣発松島政務部長宛電報第一〇二号

我方ヨリ提示ノ軍事協定案

第一〇二号　別電

日本帝国政府及極東共和国政府間ノ軍事事項ニ関スル協定

日本帝国政府ト極東共和国政府トノ間ニ軍事事項ニ関スル協定ヲ遂クルコト次ノ如シ

第一条　日本軍カ極東共和国領域内ノ鉄道ニ施シタル一切ノ作業設備及架設セル電線ハ現状ノ儘無償ニテ極東共和国政府ニ交付セラルヘシ

極東共和国政府ハ前記諸作業ノ為露国側ヨリ提供セル材料又ハ其代金ヲ請求スルコト無シ

第二条　押収物件ハ現在ノ儘極東共和国政府ニ引渡スモノトス

但シ該物件中其不正使用カ内外人ニ対シ危害ヲ及ホシ又ハ我治安ヲ紊スカ如キ虞アリト認ムルモノハ日本軍ニ於テ適宜処理スルコトアルヘシ

第三条　極東共和国政府ハ日本軍事委員ノ浦潮斉多及武市其他ノ重要都市ニ駐在スルコトヲ承認シ其領域内ニ於テ常ニ之ヲ保護シ生命、身体、財産ノ不可侵及通信旅行ノ

自由ヲ保証スルモノトス

三九七　三月三十一日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

交渉打切ニ関スル日本側ノ方針ヲ説明シペトロフト意見交換ニ付報告ノ件

合第九五号　（四月一日接受）

貴電第一〇一号御訓令ノ趣三十日ノ会議ニ於テ詳細説明シ此ノ上トモ斉多側ニ於テ最近ノ我提案ニ応ゼズシテ基本協約締結ト同時ニ尼港事件等ヲモ解決スヘキ旨主張シ其結果四月中旬ニ至ルモ基本協約軍事協定ノ調印ヲ見ル能ハズトセバ大連会商ヲ中止スルノ已ムヲ得ザルニ至ルベシト述ヘ貴電第一〇二号軍事協定案ヲ示シタルモ「ペトロフ」ハ我軍事協定案ニ付テハ追テ考量ノ上何分ノ意見ヲ述ブヘシ大連会議促進ニ関シテハ斉多政府モ自分ニ対シ㈠尼港事件ニ関シテハ日本政府ガ右条約調印ト同時ニ会議録若ハ其他ノ文書ニ依リ日本ハ主義上斯々ノ条件ニ依リ尼港事件ヲ解決スル為引続キ大連会議ニ於テ審議スベキ旨及本年航海期終了迄ニ薩哈嗹州ヨリ撤兵スヘキ旨ヲ約スルコト㈡斉多政権ヲシテ速ニ沿海州全部ニ及バシムル為斉多軍カ浦潮ニ進入スルコトヲ直ニ容認スルコトノ条件ヲ付シテ一週間内ニ基本協約及軍事協定ニ調印スル様努力スベシト訓令シ来レリ尚斉多政府ハ河川航行権問題ニ付テハ如何ナル約束ヲモ為スヘカラズト主張スルコト従来ノ通ナリト謂ヘリ

右ニ対シ本官ハ先ツ軍事協定ニ関スル提案ニ関シ説明スヘシト前提シ貴電第一〇三号ノ趣旨ヲ開示シ撤兵ノ実施ニ関シテハ軍事委員ヲシテ協議調印セシムヘシト述ヘタルニ第二条第二項ノ意味不明ナリトテ説明ヲ求メタルニ付本官ハ実際ノ場合ヲ仮想シテ之ニ説明ヲ与ヘ尚第一項ハ原則ニシテ第二項ハ例外ナルニ付第二項ハ狭義ニ解スヘキモノナルコトヲ説示シ意味ヲ明ニスル為文句ヲ修正スルニ異議ナシト答ヘ（例ヘハ日本軍カ第二項ノ措置ヲ執ルハ撤兵完了前ナルコト勿論ニシテ将来トモ永ク斯カル権利ヲ留保スルノ意ニ非ザルコトヲ明ニスル為字句ヲ附加スルカ如シ）又第三条ニ関シ「ペ」ハ本条ハ片務条項ナル処斯ル条項ヲ要求セラルル理由如何ト問ヒタルニ付本官ハ従来陸軍特務機関ハ各地ニ駐在ヲ認メラレタルノミナラズ曩ニ「ブリュヘル」ハ極東共和国内ニハ朝鮮人軍隊ノ存在セズト言明セルニ拘ラズ最近斉多軍ニハ鮮人部隊ノ存在スルコト確証セラレタリ彼等不逞鮮人ノ斯カル行動ヲ監視スル為ニハ軍事委員ハ主要都市ニ駐在スルノ要アリト説明シタルニ「ペ」ハ本条ヲ承認スル時ハ斉多側ノミ特殊ノ義務ヲ負フコトトナリ国際慣例ニ反スルヲ以テ応諾スルヲ得ズ基本協定ニ依ル外交代表者ノ属員トシテ相互ニ中央ニ軍人ヲ派遣シ得ルヲ以テ足レリトスベシ尚鮮人ノ取締リ等ニ就テハ基本協約第一条ノ存スルアリ旁々本条ニ反対スト言ヒ次イデ軍事協定ト撤兵ニ関スル協定トヲ別ニスル事ニハ斉多政府ニ於テ異議無カルヘキモ軍事協定ニハ附加スヘキ条項有ルニ付追ッテ案ヲ具シテ提出スベシト言ヘリ

次ニ本官ハ斉多側提出ノ条件ニ立戻リ尼港事件ニ関スル斉多側条件ハ前回会見ノ際言及セラレタルニ付政府ニ電報シ置キタルモ今尚回答ニ接セズ但尼港事件解決ノ有無ニ拘ラズ本年度航海期終了前ニ撤兵スル事（「ペ」ハ本件ニ重キヲ置キ居タリ）ヲ約束スル事ハ到底不可能ナリ日本ハ尼港事件解決セバ自然薩哈嗹ヨリ撤兵スルモノニシテ又速ニ尼港事件ノ解決ヲ欲スルモノナルモ万一ノ場合ヲ顧慮シ撤兵ノ期限ヲ確定スルヲ得ズ斉多軍ノ浦潮進出ヲ許可スルハ日本軍ノ従来ノ立場ニ顧ミ到底不可能ナル而已ナラズ斯カル要求ニ応ゼンカ白軍ハ日本軍ヲ敵トスルニ至ルベシ斯カル要求ニ関シテ交渉ヲ重ネ時日ヲ費ス事無ク基本協約軍事協定等ニ速ニ調印スルニ於テハ日本軍ハ撤兵ヲ開始スルヲ以テ従テ斉多軍モ速ニ浦潮入リノ目的ヲ達シ得ベク又協約等ニ調印ノ上ナラバ斉多軍ノ移動ニ関シ話合モ為シ得ベシ河川航行権ニ関シ基本協約調印後協議スヘキ旨約束スヘシトセル我要求ノ非常ニ緩和セラレタルモノニシテ之ヲモ拒絶スルニ於テハ本交渉ノ円満解決ニ支障ヲ生スヘキニ付是非之ニ応スル様斉多ニ電照セラレタシト述ヘタルニ「ペ」ハ斉多軍ノ浦潮進出方ヲ承諾セラルル事ハ軍事協定調印ト同時ノ意味ナリト訂正シタル上斉多側ノ条件ヲ至急日本政府ニ電報セラレタシト言ヘリ本官ハ協約調印セラレ日本軍撤退ヲ開始シタル際斉多軍隊ノ輸送ハ現時ノ鉄道輸送状態ヲ以テシテハ困難ナリト述ベタルニ「ペ」ハ斉多側ノ見ル所ヲ以テスレハ困難ナラズト思考スト楽観説ヲ唱ヘ居タリ

三九八　四月一日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ　内田外務大臣、在浦潮政務部宛（電報）

軍事協定案ニ対スルチタ側ノ対案提示ニ付報告ノ件

別　電一　四月一日松島政務部長発内田外務大臣宛電報
合第九九号
チタ側提出ノ修正軍事協定案

二　同右電報合第一〇〇号
チタ軍ノ浦潮進出ニ関シ日本側ヨリ声明セラレタキ文書案

三　同右電報合第一〇一号
私有財産権ニ関シチタ側ヨリ声明スベキ文書案

合第九八号　（四月二日接受）

斉多側ノ請求ニ依リ四月一日会議ヲ開キタル処「ペトロフ」ハ先ツ軍事協定ニ関スル修正案（別電第一）ヲ提出セリ本官ハ我方提案第二条第二項ノ必要ニ関シ前回会議ニ於ケル通主張シタルニ「ペ」ハ同項ノ意味不明瞭ニシテ却テ紛議ノ種トナルヘシトテ削除ヲ主張シタル後斉多軍ノ浦潮進出ヲ許可セラルルナラバ日本側ノ顧慮セラルル如キ場合ハ発生セサルヘシト謂ヘルニ付本官ハ日本側ニ於テ既ニ斉多軍ノ浦潮進出ヲ許可シタルカ如キ口吻ヲ以テ論セラルルモ本件ハ未タ決定セザルノミナラズ日本ハ到底之ニ応ズル能ハザルベシ何トナレハ日本軍ハ一九二〇年四月ノ軍事協定ヲ厳守シ白軍ノ武装解除ヲ断行シタルニ拘ラス斉多軍ノ自由進出ヲ許ストキハ日本軍ハ自ラ右軍事協定ヲ破ルコトトナルノミナラズ白軍ヲ敵トセザルベカラザルヲ以テナリ故ニ斉多軍ヲシテ浦潮ニ入ラシムル為ニハ撤兵ニ関スル協定ヲ為シ日本軍ノ撤兵ニ伴ヒ漸次斉多軍ヲ前進セシムルノ外無シ而シテ其ノ際一九二〇年ノ軍事協定ニ違反セザル範囲内ニ於テ斉多軍ノ便宜ヲ与ヘ得ベシト述ベタルニ「ペトロフ」ハ右軍事協定ハ国際的拘束力ヲ有セザルガ故ニ斉多軍ハ其ノ領土内通過ノ自由ヲ有スル筈ニ付日本軍ニ於テ之ヲ妨ゲザルコトヲ求ムルナリ兎ニ角斉多政府ハ協定調印ノ絶対条件トシテ斉多軍ノ自由進出ヲ求ムルモノナリト謂ヘルニ付本官ハ斉多政府ハ日本政府ニ対シテ不能ノコトヲ為サムコトヲ求ムルモノナリ果シテ然ラバ交渉ノ余地無シト認ム一方ニ於テ同軍事協定ノ効力タル白軍ノ武装解除武器其ノ他ノ物件ノ押収継続ヲ請求シ他方ニ於テ同軍事協定ニ違反スル請求ヲ敢テスルハ驚クヘキコトナリ若シ右軍事協定ノ効力無シト云フ斉多政府ノ説ヲ是認スルトキハ日本軍ハ白軍ノ武装ヲ之ヲ黙視シ抑留武器モ解放スヘキナリ沿海州地方ノ混乱ハ到底之ヲ避クベカラズ斉多政府ハ之ヲ望マルルヤ否ヤ確答アリタシト問ヒ詰メタルニ「ペトロフ」ハ斉多政府ハ軍事協定ノ効力問題ニ深入リセズ沿海州ニ於ケル現状ヲ基礎トシテ協定セムトスルモノナリト逃ゲムトシタルニ付本官ハ沿海州ニ於ケル現状ハ軍事協定存在ノ結果ニ非ズヤ軍事協定ノ存在ヲ否認スルヲ得ズト追窮シタルニ「ペ」ハ此ノ上ノ論争ヲ避ケ実務的ニ協議シ度シトテ斉多軍ノ浦潮進出ニ関シ日本側ヨリ提出スヘキ文書案（別電第二）ヲ提示シ兎モ角日本政府ニ御伝ヘアリタシト謂ヘルニ付本官ハ其儘受取リ置キタリ

先之軍事協定追加条項中ノ関税支払ノ件ニ関シ軍需品ハ全部無税ノ筈ナリト注意シタルニ軍需品ハ無税ナルモ浦潮ヨリノ報告ニ依レバ日本軍ガ関税ヲ支払フベキ旨約束シタルモノニシテ未払ノモノ有ル趣ナリト答ヘタルニ付本官ハ日本軍ハ軍需品ノ外輸入セザルニ付右ハ多分関税支払ニ関シ争議トナリ居ル物件ノコトナルヘシト思考スト述ベタル処「ペ」ハ支払ヲ承諾セラレタルモ今尚未払トナリ居ルモノナリト繰返セリ

次ニ「ペトロフ」ハ私有財産ニ関シ先方ヨリ提出スヘキ文書案（別電第三）ヲ提示シ我考量ヲ求メ尚陳述スベキ事項アルモ本日ハ之ニテ会議ヲ中止シ明後日更ニ開会シタシト謂ヘルニ付本官ハ之ニ同意シタリ

尚本日ノ会議中「ペトロフ」ハ後五日間内ニ於テ総テノ協約ヲ纏ムヘキ旨訓令セラレ居ルト同時ニ自分モ至急斉多ニ帰ル必要アルヲ以テ速ニ会議ヲ終ル様シタシト謂ヘルニ付本官ハ審議スヘキ事項多数有ルニモ拘ハラズ斯ル短キ期限ヲ付シ之ガ為会議不成立ニ終ル時ハ其ノ責ハ斉多側ニ有ルヘキ旨ヲ声明シ置キタリ

斉多軍ノ南下ニ関シ本官ハ三月三十一日「ペトロフ」ニ警告ヲ与ヘ置キタルモ本日ノ会議後更ニ警告ヲ与ヘ日本軍ハ飽迄本日問題トナリタル軍事協定ヲ厳守スルモノナリト念ヲ押シ置キタリ

（別　電一）

四月一日松島政務部長発内田外務大臣宛電報合第九九号
チタ側提出ノ修正軍事協定案

合第九九号　別電第一　（四月二日接受）

極東共和国政府及日本帝国政府ハ軍事事項ニ関シ特別協定ヲ遂クルコト左ノ通

第一条　日本側提出案ノ通

第二条　日本軍隊艦隊並官公衙ノ支配ニ属スル官有財産及設備全部並日本官憲ノ支配ニ属シ且日本官憲所在地ニ存在セル其他ノ各種ノ露国財産及金銭ハ極東共和国ノ軍隊カ領域ヲ占領スルニ従ヒ逐次同国官憲ニ還附セラルルモノトス

極東共和国ニ敵対スル団体ニ依リ日本領土ニ輸出セラレ日本官憲ノ管理ニ係ル官有財産有価物及金銭亦同様極東共和国官憲ニ引渡サルヘキモノトス

第三条　日本政府ハ極東共和国軍隊並其ノ軍憲ニ対シ総テノ堡塁築造物艦船及是等ノ場所ニ存在スル財産並戦闘用品武器及爆発物ヲ日本軍隊ノ保管ニ移リタル状態ノ儘之ヲ引渡スヘシ

第四条　日本政府ハ官公衙及諸官省ヨリ代金未払ノ儘受取リタル諸材料ノ代金並軍隊及貨物輸送機関車ノ代金支払ニ関スル決算ヲ極東共和国官憲トノ間ニ之ヲ行フヘシ支払延期ニ係ル関税ニ関シ亦同シ

第五条　本協定実施ヲ便ナラシムル為当事国双方ヨリ同数ノ代表者ヲ出シテ特別連合委員会ヲ組織ス同委員会ハ本協定実施ニ関スル技術上ノ計画ヲ案出シ其ノ迅速ナル実現ヲ期スル為有ラユル手段ヲ講スヘシ該委員会ニ於テ起ルヘキ争議ハ其ノ都度双方ノ特別協定ニ依リテ之ヲ決スルモノトス

（別　電二）

四月一日松島政務部長発内田外務大臣宛電報合第一〇〇号

チタ軍ノ浦潮進出ニ関シ日本側ヨリ声明セラレタキ文書案

合第一〇〇号　別電第二　（四月二日接受）

本日極東共和国及日本帝国各政府ノ間ニ締結シタル軍事協定ニ記名スルニ当リ日本帝国政府ノ名ヲ以テ左ノ声明ヲ為スノ光栄ヲ有ス日本帝国政府ハ本日其ノ軍司令部ニ対シ浦潮市ヲ含ム沿海地方全地域占領ノ為極東共和国軍隊ノ前進スルニ付妨碍ヲ加フルコトナク之ニ援助ヲ与ヘ並該地方ニ於テ合法的民政機関ノ復旧ニ付妨碍ヲ加フルコトナキ様命令ヲ発セリ日本軍隊ハ本日締結シタル協定ニ依ル其ノ撤退迄ハ極東共和国軍隊ニ対シ日本帝国ノ親善国ノ軍隊ニ対スル態度ヲ以テスヘシ

（別　電三）

四月一日松島政務部長発内田外務大臣宛電報合第一〇一号

私有財産権ニ関シチタ側ヨリ声明スベキ文書案

合第一〇一号　別電第三　（四月二日接受）

本日極東共和国及日本帝国各政府ノ間ニ締結シタル親善及通商ニ関スル協約ニ記名スルニ当リ極東共和国ノ名ヲ以テ左ノ声明ヲ為スノ光栄ヲ有ス

極東共和国政府ハ共和国ノ憲法ニ準拠シ日本国臣民ニ対シ共和国領土ニ於テ財産ノ所有及所有権ノ不可侵ヲ保障ス其ノ権利ノ範囲ハ該権利ニ付最恵国臣民ノ為共和国法律ノ定ムル処ニ依ル右ト同シキ範囲ニ於テ日本国臣民ハ自己ノ財産権ノ恢復及防護ノ為共和国ノ裁判所ニ訴ヘ出ツルノ自由ヲ保障セラルル可シ

三九九　四月一日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ内田外務大臣宛（電報）

尼港事件ニ関スル議定書案ヲチタ側ヨリ提出ニ付報告ノ件

合第一〇二号　（四月二日接受）

四月一日ノ会議ニ於テ尼港事件ニ関シ「ペトロフ」ハ左記ノ通リ議定書案ヲ提出シタルニ付前回ノ会議ニ於テ述ヘタルト同様撤兵期限ヲ定ムルノ不当ナルヲ述ヘタルニ右ハ一応ノ案ナルニ付修正案ヲ提出セラレタシト言ヒタルガ「ペトロフ」ノ説明ニ依レバ斉多政府ハ右期限ニ依リ速ニ尼港事件ヲ解決スルノ保障ヲ得ントスルモノナリ

記

極東共和国及日本帝国政府ハ本日記名シタル親善及通商ニ関スル協約軍事協定及沿海州ヨリ日本軍撤退ニ関スル協定トハ独立ニ両国相互ニ関スル若干ノ事項ヲ決定スルヲ以テ両締約国ノ為利益ト認メ夫々自国ノ代表者ヲシテ左ノ通リ議定セシメタリ

一、日本帝国政府ハ尼港事件ニ関スル問題ヲ解決セントシ同政府カ該事件ニ関連シ受ケント欲スル賠償ニ関シ極東共和国政府ニ通告スヘシ該賠償ハ極東共和国ノ領土権若クハ其他主権ニ触ルル事無ク且共和国ノ憲法ヲ侵害スル事無カルベシ

二、極東共和国政府ハ日本ノ経済的要望ニ添ハントシ本議定書第一条ニ掲ケタル賠償ニ関スル公正ノ原則ニ基キ日本国政府ト協定ヲ遂グベシ

三、日本帝国政府ハ撤兵ニ関スル特別ノ軍事協定ニ定ムル所ニ依リ一九二二年航海期終了迄ニ薩哈嗹島露領半部及薩哈嗹州ヨリ自国軍隊ヲ撤退スヘシ

右証拠トシテ各代表者ハ本議定書ニ記名調印スルモノナリ

四〇〇　四月四日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

浦潮要塞撤廃ニ関スル声明案ヲペトロフヨリ提示竝私有財産権及河川航行権等ニ関スル会談ニ付報告ノ件

別　電　同日松島政務部長発内田外務大臣宛電報合第一〇五号
浦潮要塞撤廃ニ関スル声明案

合第一〇四号　（四月四日接受）

三日ノ会議ニ於テ「ペトロフ」ハ浦潮要塞撤廃ニ関スル声明案（別電）ヲ提示シ詳細ハ軍事委員ヲシテ審議セシメタシトノ事ナリシニ付本官ハ軍事委員会ニ委ヌル事ハ勿論ナル可キモ現状ニ就キ是ヲ審議スルヲ要スルニ付後日浦潮ニ於テ協議セシムル事可然ト述ヘタルニ「ペ」ハ是ニ同意シ只其ノ旨会議録ニ書留ムル事トシタシト云ヘリ

次ニ本官ヨリ私有財産ニ関スル先方ノ提案ニ言及シ最恵国民待遇ノミニテハ足ラス共和国民ト同等ノ待遇ヲ与フルヲ要スト述ベタルニ結局「自国民」ノ一句ヲ挿入スル事ニ異議ナシト云ヘリ

基本協定ニ関シテハ我方要求中解決セラレザルモノハ河川航行権ノミナル処右ニ対スル斉多側意嚮如何ト問ヒタルニ不相変ノ理由ニテ拒絶シタルニ付本官ハ今斉多側ニシテ此ノ要求ニ応セラルルニ於テハ日本側ハ或ハ斉多側ノ要求ニ対シ多少ノ譲歩ヲナシ得ルヤモ知レザルニ付速ニ我要求ニ応ズル様シタシト述ヘタル処「ペ」ハ日本側ノ譲歩ノ何物ナルカヲ知ラバ斉多側モ考量スヘキニ付先ツ日本側ノ譲歩ヲ示サレタシト云ヘリ

右ニテ基本協約ニ関スル話ヲ打切リ本官ハ「スパスカヤ」方面ニ於ケル現況及日本軍憲ヨリ斉多軍憲ニ対シ為シタル通告ニ関シ説明ヲ与ヘ若シ斉多軍ニシテ特別区域ヲ撤退スルニ非サレバ衝突ハ免レサルヘク其ノ責任ハ斉多側ニアリト声明シタルニ「ペトロフ」ハ斉多軍ハ決シテ日本軍ニ対シ敵意ヲ有スルモノニ非スト弁解シ（此ノ際斉多政府ヨリノ報告トシテ覚書ヲ手交シタルガ右ハ「スウイヤギー」以北ニ於テ日斉両軍ガ毫モ衝突ナカリシノミナラズ却テ相互了解シ居タル事実及日本軍ガ白軍ノ退却ヲ援護シタル事実ヲ述ヘタルモノナリ）一切ノ問題ヲ解決スル為メ速ニ軍事委員会ヲ開キ軍事協定及撤兵協定ヲ協議シタシ尚出来得ヘクンハ日本軍ノ撤兵ニ要スル期間ヲ承知シタシト云ヘルニ付本官ハ一切ノ問題ヲ速ニ解決スル事ハ元ヨリ日本ノ希望スル所タリ唯「スパスカヤ」方面ノ事情今日ノ如クナルニ於テハ日本軍司令官カ今直ニ軍事委員会ノ開催ヲ承諾スヘキヤ否ヤ疑ハシキニ付軍事委員会開催ヲ速ナラシムル為ニハ先ツ我方要求通斉多軍ヲ撤退セシムルヲ要ス尤モ御希望ノ点ハ其筋ニ伝フルト同時ニ本官モ之カ為尽力スヘシ撤兵ノ期間ニ対シテハ本官ハ之ヲ知ラス但シ「スパスカヤ」方面ノ現状船舶ノ数鉄道ノ故障浦潮哈爾賓ノ交通モ阻止セサル事等ハ之ヲ考慮ニ容ルル必要アルヘシ（短時期ニ撤兵ハ難カシカルヘシトノ意味ヲ先方ニ知ラシムル為ニ之ヲ列挙セリ）ト答ヘタル処「ペ」ハ斯ノ如クンハ撤兵ニ要スル時期ハ差当リ不明ナリ自分側ニテハ軍隊幾何ニ付テハ最大限幾何ノ日数ト見積リ居レリ夫ハ兎モ角斉多側ニ於テ重キヲ置ク点ハ基本協約軍事協定及撤兵協定ノ締結ト同時ニ斉多軍ノ浦潮進出ニ関シ日本ニ於テ之カ許可ヲ与フル旨約束セラルル事ナリトテ例ノ問題ヲ持出シタルニ付本官ハ本問題ニ付テハ前回会議ニ於テ充分述ヘタルニ付今日之ヲ繰返サス只玆ニ貴官ノ注意ヲ喚起シ置クヘキ事アリ即チ斉多軍ガ一日ニシテ浦潮ニ来リ秩序ヲ維持シ得ヘシトセハ結構ナルモ之到底不可能ナリ日本軍駐屯区域内ニ於テ斉多軍隊ノ一列車ガ進行ヲ開始スルト同時ニ白軍ハ直ニ鉄道破壊ヲ企ツベク従テ日本軍ハ白軍ト戦闘ヲ為スノ止ムヲ得ザルニ至ルヘシ之日本軍ノ到底容認スル能ハサル処ナリ故ニ撤兵協定ニ依リ日本軍ノ駐屯区域ヲ縮小スルニ伴ヒ漸次斉多軍ノ進出スル事トスルヲ得策トスト述ヘ置キタリ

会議後ノ座談ニ於テ「ペトロフ」ハ斉多軍ノ浦潮進出ニ関スル文書ヲ撤兵協定ト共ニ提出セラルルニ於テハ出先ノ斉多軍隊ヲ鎮静セシムルヲ得ヘシトテ暗ニ必スシモ直ニ浦潮進出ヲ主張スルモノニ非スト仄カセルモ本官ハ日本ハ約束シタル以上必ス之ヲ実行スヘク従テ実行シ得サル事ヲ約束スルモノニ非スト述ヘ置キタルカ基本協定ノ審議未了ノ事項ニ付協議ノ傍此際軍事委員会ヲ開催シ軍事協定及撤兵ニ関スル協定ヲ審議セハ斉多軍浦潮進出ノ件ハ解決困難ナラズト思考ス

（別　電）

四月四日松島政務部長発内田外務大臣宛電報合第一〇五号
浦潮要塞撤廃ニ関スルチタ政府声明案

合第一〇五号　別電　（四月四日接受）

極東共和国政府ハ自国内ノ福祉ヲ増進シ並締結セラレタル親善及通商ニ関スル協約ニ基キ日本国民ト平和ニシテ親善ナル経済関係ヲ確立センコトヲ顧念シ且国民資力ヲ節約セント欲シ日本帝国ニ面スル自国ノ沿岸及ヒ朝鮮トノ国境ニ新ニ要塞ヲ築造セズ且浦潮地方ニ於ケル要塞ニ付テハ現存築造物及建物ハ其儘是ヲ存置セルモ其戦闘機関ハ是ヲ戦闘不能ノ状態ニ帰セシメ並戦闘行為ノ為充当セラルル要塞司令部ノ特別機関ヲ廃止スルコトニ決定セリ

極東共和国政府ハ何等帝国主義的野心ヲ包蔵セサルヘキモ自己ノ基本的主権ニ基キ領土ノ保全並海上及陸上ノ貿易沿岸貿易漁業其他ノ平安ナル発達ヲ確保スルニ足ルヘキ程度ニ於テノミ国防特ニ沿岸及国境防備ノ手段ヲ整ヘ且維持スヘシ

四〇一　四月四日　閣議決定

大連会議ニ於テチタ側ガ我方主張ヲ承諾スル見込ナキ場合ニ対スル措置振ニ関スル件

大連ニ於ケル我代表者ト斉多政府代表者トノ交渉ハ開始以来既ニ七ケ月ヲ経過セルニ拘ラス未ダ解決ニ至ラス右ハ彼我意見ノ異ルニ基クハ勿論ナルカ又華府会議ヲ始メ露西亜ニ対スル欧米諸国ノ態度其他各般ノ事情ニ基キ斉多側ニ於テ種々駈引ヲ為スニ依ルモノト思考セラルル処本交渉ハ可成速ニ之ヲ解決スル必要アリ特ニ最近浦潮派遣軍第十一師団ト第八師団ノ交代期ニ迫リ居ルヲ以テ諸般ノ事情ニ顧ミ此際一気呵成ニ基本協定ノミニテモ調印ヲ済マセタル上右交代ヲ実行スルコトナク直ニ第十一師団ヲ帰還セシメ守備区域ヲ縮小シ一面本交渉ノ促進ヲ計ルト共ニ他面我方ニテハ撤兵ノ誠意アルコトヲ示サントシ松島政務部長ニ電訓ヲ発シテ右方針ニ依リ談判セシメ本月中旬迄ニ調印ノ運ニ至ラザルニ於テハ談判ヲ打切ルノ止ムナキニ至ルヘキ旨警告セシメタリ目下ノ処基本協定ニ付テハ我方ニ於テ出来得ル限リ寛大ノ態度ヲ示シタル結果双方意見一致ニ傾キタルモ尚先方ハ尼港事件解決及斉多軍ノ浦潮進出ヲ要求シ黒龍松花両江航行権ニ付テハ我要求ヲ拒絶シ其他二三ノ点ニ付未ダ意見一致セス今後斉多側ニシテ我方提示ノ期間内ニ我主張ヲ承諾セバ可ナルモ万一到底之ヲ承諾スル見込ナキ場合

ニ於テハ左記案ニ依リ措置スルコト可然

一、予定ノ如ク第十一師団ト第八師団トノ交代ヲ実行スルコト

或ハ談判纏ラサルニ拘ラス此際第八師団ヲ派遣スルコトナクシテ第十一師団ヲ帰還セシメ守備区域ヲ尼市方面迄縮小スルモ一策ナリト雖斯ノ如クスルトキハ斉多側ハ日本ノ要求ヲ拒絶スルタメ却テ自己ニ有利ノ形勢ヲ生スル結果トナルヲ以テ益々我ニ対シ軽侮ノ念ヲ起シ今後ノ交渉ニ於テ我ニ不利ナル形勢ヲ馴致スヘキノミナラス政情安定ヲ期シテ撤兵センコトスル帝国政府ノ方針ニ反スル結果ヲ齎スヘキニ付寧ロ此際交代ヲ断行シテ暫ク形勢ヲ観望スルヲ可トス

二、大連ニ於ケル談判ヲ打切リ我代表者ニ引揚ヲ命スルコト

既ニ我方ニ於テハ斉多側トノ談判ニ於テ漸次寛大ノ方針ヲ取リ最近ニ於テハ寧ロ斉多側ニ有利ナル形勢ヲ齎ス如キ程度ニ於テ話ヲ進メ来リタルニ依リ若シ斉多側ニシテ誠意談判ヲ纏ムル意思アラハ右程度ニ於テ折合フコト得策ナルニ拘ラス頑強ニ我要求ヲ応諾セサルニ於テハ彼等ハ「ゼノア」会議等ニ重ヲ置キ故意ニ談判ヲ遷延セシムルモノト思考セラルルニ付此際断然交渉ヲ打切ルコト可然

三、形勢ノ推移ヲ待チ好機ヲ見テ可成速カニ撤兵ヲ決行スルコト

前記ノ如キ方針ヲ取リ我方ニ於テハ暫ク現状ヲ維持シテ形勢ノ推移ヲ待ツコトトスルモ将来永ク駐兵ヲ継続スルハ面白カラサルヲ以テ該地方政情ノ安定ニ努メ好機ニ於テ可成速カニ撤兵ヲ決行スルコト

要スルニ露国人ノ性癖トシテ談判ニ駈引多キヲ以テ這回ノ交渉ニ於テモ此点ヲ考慮スル必要アリ曩ニ英露ノ通商条約交渉ニ際シテモ数回談判ノ中止ヲ見タリ此際我方ニ於テ前記ノ如ク毅然タル態度ヲ示スハ将来ノ為メ得策ト思考ス

（欄外註記）

「大正十一年四月五日外交調査会決定」

註　右閣議決定ハ四月五日内田外務大臣発松島政務部長宛電報第一一一号ヲ以テ電達セラレタリ

四〇二　四月五日　在浦潮永井政務部長代理ヨリ内田外務大臣宛（電報）

浦潮ニ於ケル某新聞ノ記者トヤンソントノ会見記事報告ノ件

第五八号　（四月六日接受）

四月二日発行当地「ゴーロスロージヌイ」紙ハ大連会議ニ関スル「ヤンソン」トノ会見談ト題シ左ノ記事ヲ掲載シタリ

大連会議ニ関スル「ヤンソン」トノ会談

問　赤軍ノ南沿海州進撃ハ大連条約調印ノ結果ナリト新聞紙ハ伝フルガ真ナリヤ

答　大連会議ハ未ダ調印サレズ又我軍ノ進撃ハ大連会議ト何等関係ナシ日本ハ本問題ヲ議スルヲ欲セザリキ

問　目下大連会議ハ継続シ居ルヤ又何故ニ斯ク遷延サルルヤ

答　日本新聞ハ条約調印サレタリトカ或ハ斉多ノ回答ナキ為メ調印延期サレタリト報ズルモ悉ク虚構ナリ我政府ハ会議ノ速ニ終了セン事ヲ望ミ回答ヲ保留セシ事無シ日本ハ諸種ノ口実ヲ以テ会議ヲ遷延セシメタレバ其責ハ日本ニ在リ尚昨年十二月ニ於テモ諸問題ハ解決セラレ協商ヲ遂ゲ得タリシモ白軍ノ蹶起アリテ日本委員ハ会議ヲ遷延シ始メタリ会議ハ再開セラレツツアリ

問　大連会議ハ目下如何ナル問題ヲ議シツツアリヤ

答　日本軍撤退ニ関スル両国間ノ条約ニ付キ若シ日本ニ従属シ其指揮ニ依ッテ行動スルガ如キ政権樹立サルルナランニハ日本ハ会商ヲ拒絶スルナラン日本ハ極東露領ニ於テ絶対的権利及優越権ヲ獲得セントシツツアルヲ以テ両国ノ協商ハ困難ナリ吾等ハ終始外国人ニ対シ門戸開放機会均等主義ヲ持ツモノニシテ日本ニ対シ何等ノ特権ヲ与ヘズ条約締結ノ遅延又此ニ在リ

問　日本ハ如何ナル方面ニ於テ得ントスルヤ

答　日本ハ極東共和国内日本在留民ガ商工業方面ニ於テ特権ヲ与ヘラレ極東ノ諸政府ト締結セシ日本人ノ契約ヲ承認スル事及黒龍江松花江航行権ヲ得ント欲シ且我領内ニ日本軍ノ駐屯権ヲ公式ニ承認スル事及沿海州防備撤廃ヲ要求ス漁業ニ関シテハ両国民ハ同等ノ権利ヲ与ヘラルル事及尼港事件ノ賠償トシテ日本ニ特権ヲ与フル事等我等ノ認容シ得ザル要求ヲ提出ス而テ日本ハ我ガ内部施政ヲ管理セント欲シタリ日本ノ要求事項中ノアルモノハ拒絶セラレ或ルモノハ受理セラレタルモ現在ハ我等ノ承認セザル要求ヲ提唱ス若シ日本ニシテ之ヲ強硬ニ主張スルニ於テハ日本トノ協約ハ成立シ得ザルベシ

問　撤兵問題ハ如何ナル状態ニアルヤ又日本ハ之ニ同意スルヤ

答　日本ハ撤兵ト条約締結トヲ交換条件ト為サントス我等ハ撤兵ノ即行ヲ促シ撤兵ノ順序ヲ制定スル軍事委員会ノ設立ヲ要求ス条約調印ハ日本軍ノ全部撤退セラレタル際ニ承諾スベシ我等ノ第一条件ハ撤兵ニシテ之ヲ解決セズンバ今後ノ交渉ハ意義ナキモノナリ我等ハ自己ノ力ヲ以テ日本軍ヲ我領土ヨリ駆逐スルヲ得ズサレバ日本軍ハ我ガ辺境ヲ侵シ攪乱シ秩序ヲ紊乱セントス之レ極東露人ニトリテ大ナル損害ニシテ日本ハ之ニ依リ何物ヲモ得ル能ハズ日本軍ノ駐屯スル間極東及露国ハ日本ノ商工業ニ対シ門戸ヲ閉ヅベク今ヤ露国下級民ハ日本ヲ嫌悪シ駐屯ノ継続サルル間日本ハ近眼的政策ヲ抛棄シ銃剣ニ依リテ両国商工業ノ共同ヲ有利ニ導キタルモノナルコトヲ了解スルニ至ルベシト観測ス

四〇三　四月五日　内田外務大臣ヨリ　松島政務部長（大連出張中）宛（電報）

一六　日本国及極東共和国両政府間非公式交渉関係一件　四〇三

チタ側ノ態度ニ疑アルニ付我方ノ応対振ニ関スル心得訓示ノ件

第一一二号

先般来貴官ヘ訓令ノ趣旨ハ大連会議余リニ長引キ諸般ノ関係上我方ノ蒙ル不利尠カラザルニヨリ之ヲ促進セシメムトスルハ勿論ナルモ過般守備区域縮小押収武器引渡等先方ニ有利ナル条件ヲ提示セルニ係ラズ基本協約ノ成立ニ努メムトスル模様ナキハ或ハ斉多政府カ成立当時ト事情ヲ異ニシ共産主義的色彩甚濃厚トナリタル結果独立ノ政府トシテ交渉ヲ纏ムル意思ナク労農政府ノ手先トシテ単ニ我方ノ意向ヲ探知セムトスルモノナルヤノ疑ナキヲ得ザルニヨリ若シ果シテ然ルニ於テハ会議ノ継続ハ時日ノ遷延ニ外ナラザル義ナルニ付此際我方ニ於テハ毅然タル態度ヲ持シ談判ノ中止モ止ムヲ得ザル決心ヲ示サムトスル義ナルニ付貴官ハ右ノ趣旨ヲ体シ応対セラレタク貴電第七九号所載哈府黒河駐在特務機関ニ就テハ司令部ニ於テ危険ノ存在ヲ認ムル以上引揚ニ関スル保護ヲ先方ニ要求スルヲ可トスルモ「ペトロフ」ノ引揚ケムトスル場合ニ我方ヨリ之ヲ引止メムトスルカ如キハ甚面白カラザルノミナラズ先方ヨリ進テ後任者ヲ

置カムトスル場合ハ格別我方ヨリ之ヲ持懸クルカ如キハ避ケラレタシ

四〇四　四月五日　内田外務大臣ヨリ　松島政務部長（大連出張中）宛（電報）

我方ノ交渉打切申入ハ最終的決定ナル旨ベトロフニ言明方訓令ノ件

第一一三号

貴電合第九五号所載「ベトロフ」申出ニ関シ尼港事件解決ニ就キ我方ニ於テハ先方ノ主権若ハ領土権ヲ侵害セムトスル意思ナク又事件解決ノ上ハ占領ヲ解除スヘキヤ勿論ナルモ正式交渉ニ入ル前我方ヨリ予メ条件ヲ提出シ先方ノ内諾ヲ求ムルニ類スルガ如キ措置ニ出ヅルハ該事件ノ性質上我方ノ承諾シ得ベキニ非ズ又我方ヨリハ基本協約調印後直ニ交渉ヲ開始スヘキコトヲ承諾シ誠意ヲ示シタルニ拘ラス咄嗟ノ間ニ本件解決ヲ迫ルハ不可能ヲ我ニ強要スルモノニシテ先方ノ真意ヲ疑ハザルヲ得ズ到底承諾シ難シ尚浦潮進出ノ希望ハ日本軍駐屯中ニ猶斉多軍ノ進入ヲ認ムヘシトノ義ナルニ於テハ之レ強イテ好マシカラザル事態ヲ惹起セムトスルモノナルノミナラズ我方カ守備区域縮小、押収武器引渡等ニ付先方ニ加ヘタル好意ヲ無視スルモノニシテ是亦到底我方ノ承諾シ得ベキニ非ズ又黒龍江及松花江航行権ニ就テハ之ヲ後日ノ協議ニ委セムトスルモノナルヲ以テ斉多側ニ於テ承諾シ得ザルノ理由ナク之ヲシモ拒絶セムトスル先方態度ハ言ヲ左右ニ託シ交渉ノ遷延ヲ図ラムトスルモノナリトノ疑ヲ生ゼザルヲ得ザル義ナルニ付貴官ハ「ベトロフ」ニ対シ右ノ次第ヲ指摘シ我方ガ誠意以テ会議ノ成立ヲ図ラムトスルニ拘ラズ斉多側ニ於テハ自己ガ交渉開始ヲ申出デタル事情ヲモ無視シ且基本協約及其附属文書ニ関スル事項ノ大部分ニ就キ意見ノ合致ヲ見タルニ拘ラズ徒ニ不可能事ヲ我ニ求メムトスルハ協議成立ニ対スル誠意ヲ欠キ単ニ労農政府ノ為ニ我方ノ意嚮ヲ探知セム所為ナリトノ疑念ヲ生セシムルニ至ルベキ旨ヲ申入レ往電第九二号訓令ニヨル申入ハ及ブ限リニ於テ譲歩シタル我方最後ノ決定ニシテ右以上何等退譲ノ余地ナキコトヲ重ネテ先方ニ言明シ以テ右ニ対スル諾否ヲ要求シ若シ先方ニシテ応諾セザルニ於テハ帝国政府ハ不得已談判ヲ打切リ予定ノ通リ第十一師団ヲ交代セシムルコトニ決定シ居ル旨申入レラレタシ

軍事協定ニ関スル分ハ追テ電報ス

四〇五　四月七日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

四月六日ノ会議ニ於テ日本側ノ最終的決定ヲ申入レタルニ対スルベトロフノ回答ニ付報告ノ件

合第一〇七号　至急　（四月七日接受）

六日ノ会議ニ関シ重要ノ点ノミ左ノ通リ不取敢電報ス

貴電第一一三号ノ趣旨ヲ伝ヘタル処「ベトロフ」ハ

㈠　尼港事件解決ニ付日本ニ於テ共和国ノ主権若クハ領土権ヲ侵害スルノ意思ナキコト及成ル可ク速ニ「サガレン」州ヨリ撤兵スヘキ旨（撤兵期限ヲ明示スルコトハ之ヲ主張セズ又尼港事件解決後タルコトハ勿論ナリト説明シ居タリ）ヲ文書ヲ以テ約束セラルル事ダケハ何処迄モ主張セザルヲ得ズ

㈡　日本軍撤退前ニ斉多軍ノ浦潮進出ヲ要求スルハ日本軍ヨリ引渡ヲ受クヘキ軍需品等ノ保管ヲ確実ニスル為ナルヲ以テ日本政府ニ於テ日本軍撤退前軍需品等ノ受領委員ノ保護及軍需品等ノ保管ヲ確実ナラシムル程度ノ軍隊ノ進出ヲ許可セラルルヲ以テ満足スヘシ右許可ノ旨基本協約締結ト同時ニ特別ニ約束セラルルトモ撤兵ニ関スル協約ヲ以テ定メラルルトモ可ナリ

㈢　河川航行権問題ニ付テハ日本政府ニ於テ右㈠㈡ノ各号ニ応ゼラルルナラバ後日協議スベキ旨約束スル文書ヲ差出スヘシ尚斉多政府ハ今明日中ニ総テノ問題ヲ解決スベシトノ訓令ヲ与ヘ居ルニ付日本政府ニ於テ右斉多側ノ譲歩ヲ以テ満足セラレ軍事協定ニ関スル斉多対案ニ対スル日本政府ノ意向及撤兵ニ関スル協定案ヲ明日ニモ提出セラレタシト言ヘルニ付本官ハ軍事協定ニ付テハ日本政府ノ訓電ヲ待チツツアリ

撤兵協定ハ基本協約纏リタル上提出スルコトトナリ居ル処尼港問題ニ付斉多側ヨリ前掲ノ通リ条件ヲ提出セラレ居ル以上政府ノ許可ナクシテ今直チニ提示スルヲ得ズ尤モ撤兵協定ハ単ニ技術的ノ事項ニシテ権利義務ヲ規定スルモノニ非ザルニ付心配セラルルノ要ナシト述ヘタルニ「ベトロフ」ハ斉多側ニ於テ重キヲ置クハ撤兵ノ期間ナリ短期間ニ撤兵セラルルナラバ満足スヘシト云ヘリ

卑見ニ依レバ此際斉多側ノ要求ニ満足ヲ与ヘ且ツ速ニ撤兵協定ノ大要ヲ先方ニ示スト同時ニ軍事委員会ヲ開ク方得策

ト信ス
会議ノ詳細ハ別ニ電報ス

四〇六　四月七日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

四月六日ノ会議ノ模様ニ付更ニ報告ノ件

合第一〇八号　（四月七日接受）

六日ノ会議ニ於テ本官ハ先ヅ基本協定中従来議論セラレザリシ条項ニ対スル我修正案ヲ提出シタルニ「ペトロフ」ハ第五条等ノ最恵国待遇ニ関シ労農露国民ノ場合ヲ除外スルコトヲ主張シタルニ付本官ハ「当事国一方ト経済同盟ヲ締結シタル国家ヲ除キタル」トセハ如何ト述ヘタルニ「ペ」ハ別ニ異議無ク又国旗及国章ノ相互尊重ニ付テハ「プロトコール」又ハ文書ノ交換ニテ差支無シト言ヘリ尤モ基本協定ノ文書ニ付テハ研究ノ上七日「ペ」ヨリ案ヲ出ス筈ナリ
次テ「ペ」ハ本国政府ノ訓令モアリ本日ノ会議中ニ総テノ問題ヲ解決シタシト言ヘルニ付本官ハ貴電第一一三号御訓令ノ趣旨ヲ述ヘタルニ「ペ」ハ斉多政府ハ決シテ故意ニ会議ヲ遅延セントスルモノニ非ザルコトヲ極力弁解シ大連会議ノ成立ハ日露関係ノ歴史ヲ飾ル一大事実ナルコトヲ切述シ会議モ将ニ成立セントスルニ当リ日本ガ第十一師団ノ交代ヲ為サントスルハ其意ヲ得ズ尚「スパスカヤ」方面ニ於ケル両国軍ノ衝突ハ自分ハ是ヲ地方的事件ト解セントスルモノナルモ斉多軍ニ於テハ毫モ日本軍ニ対シテ敵意ヲ有セザルニ是ニ対シ砲撃ヲ加ヘ多数ノ死傷（死亡三〇、参謀長モ其中ニ在リ）ヲ出シ普通人民ノ被害モ多大ナルハ頗ル遺憾ナリ（是ヨリ以下ハ往電合第一〇七号ノ通）ト言ヘルニ付本官ハ第十一師団ノ交代ハ基本協約ガ近ク成立セザル場合ニ止ムヲ得ズ是ヲ行フモノニシテ基本協約ハ斉多側ニシテ不可能ノ条件ヲ提出セザルニ於テハ直チニ成立スヘク、サスレバ日本ハ第十一師団ヲ引揚ゲ得ヘシ
是斉多側ニ取リ利益タルベシ「スパスカヤ」方面ノ出来事ハ我方ノ警告ニモ拘ラス斉多軍ガ軍事協定ヲ無視シテ進出シタルガ為ニシテ斯カル事件ヲ避ケントセバ斉多軍ガ後方ニ撤退スルノ外無シト答ヘ置キタリ
樺太ニ於ケル漁区競売等ノ事実ヲ挙ケ「サガレン」州ニ於ケル行政ハ日本軍政署ノ手中ニ在リトテ不平ヲ述ベタルニ付本官ハ尼港事件解決ノ保障トシテ占領中ナル以上致方ナシ但尼港事件解決セバ日本軍ハ撤兵スヘク行政モ自ラ露国官憲ノ手ニ移ルヘシト答ヘタリ
日本軍ノ撤退前ニ斉多軍ノ浦潮進出ヲ許サズバ如何ニシテ引渡サルベキ軍需品等ヲ安全ニ保管シ鉄道ヲ保障シ得ヘキヤト「ペ」ハ問ヘルニ付先ニ斉多側ハ概括的ニ斉多軍ノ進出許可ヲ要求セルヲ以テ日本ハ是ヲ拒絶セザルヲ得ザルナリ日本軍ノ撤退前軍需品ノ受領委員及其護衛隊ノ浦潮ニ来ルコトハ日本側ニ於テ是ヲ拒絶スルモノニ非ズ是等ノ事ハ撤兵ニ関スル協定中ニ定メ得ヘシト答ヘタルニ「ペトロフ」ハ受領委員、其護衛隊、軍需品等ノ保管ニ必要ナル程度ノ軍隊、鉄道ノ保護ニ必要ナル軍隊ノ進出ヲ許可セラルルナラバ満足スヘシト言ヘリ
日本国民ハ所有権保障ノ件ニ関シテハ先方ハ土地所有権ニ付例外ヲ設クルノ外貴電第一一四号我提案ニ異議ナシ

四〇七　四月八日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

私有財産制ノ保障ニ関スルペトロフノ新ナル主張ニ付請訓ノ件

合第一〇九号　（四月八日接受）

六日ノ会議ニ於テ「ペトロフ」ハ財産ノ所有及所有権ノ不可侵ニ付我方提案ニ同意スベシト述ベタルニ拘ラズ七日ノ会議ニ於テ共和国ノ法律ニ依リ自国民及最恵国々民ニ認ムル範囲内ニ於テ日本国民ニ財産ノ所有及所有権ノ不可侵ヲ認ムヘシト云ヘルニ付本官ハ日本政府ガ非共産制ニ関スル保障ヲ要求シタル行懸リヲ説明シ少クトモ現行共和国憲法ノ認ムル私有財産権ヲ日本人ニ関スル限リ将来ニ於テ保障スルヲ要スト主張シタルガ「ペ」ハ共和国ハ事実上私有財産制ヲ認ムルモノナルモ外国ニ対シ之ヲ約束スルヲ得ズ蓋シ斯カル約束ヲ為スハ主義上自国主権ニ対スル制限ヲ予メ承諾スルモノナルヲ以テナリ尚斉多側提案ノ保障ヲ与フルニ於テハ万一私有財産制ヲ廃止スルコトアリトモ斉多側ハ之ガ為ニ日本人ノ受クル損害ハ当然之ヲ賠償スルノ義務ヲ負フコトトナルヘシト云ヘリ
卑見ニ依レバ斉多政府カ将来万一共産制ヲ採ルコトニ決定スル暁ニハ仮令今日如何ナル約束ヲナサシムルトモ実力ニ依リ之ヲ抑圧スルノ外ナシト思考スルニ付本件ニ関スル先方ノ案ヲ以テ満足スル方然ルヘシト思考ス
何分ノ儀至急御回電アリタシ

四〇八　四月八日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

七日ノ会議ニ於テチタ側ヨリ対案提示ノ件

別　電　同日松島政務部長発内田外務大臣宛電報合第一一一号

チタ側提示ノ対案ヘノ追加条項

合第一一〇号　（四月八日接受）

大臣来電第一〇五号我方ノ提案ハ四月六日ノ会議ニ於テ「ペトロフ」ニ交付シタル処四月七日彼ヨリ対案ヲ送付シ来リ同日ノ会議ニ於テ討議ノ結果左ノ通申出デタリ

一、前文中「両国ノ経済関係」ヲ「両国ノ経済上及其ノ他ノ関係」ト改ム

二、宣伝禁止冒頭ニ「他ノ一方ノ主権ヲ尊重シ」ヲ加ヘ又「企図ヲ為スコトナク」ノ次ニ「他ノ一方ノ自治制ニ干渉セズ」ノ一句ヲ挿入スルコトヲ主張シ、末段治安ヲ紊サントスル各種ノ「個人」団体、機関トシタシト主張セリ

三、入国旅行及居住、我方ヨリ旅券ヲ所持スルコトヲ要ストシ査証ニ付テハ何等記載セサリシ処是非共「旅券ヲ所持シ対手国当該代表者ヨリ査証ヲ受クルヲ要ス」トシタシト主張ス

四、居留民ノ安全及財産ノ不可侵ニ付「当事国一方ノ法律ニ従ヒ」完全ナル保護ト改ム

五、信教及良心ノ自由、我方案ニ同意

六、商業製造業産業ニ付テハ先方委員ハ自国民待遇最恵国民待遇ノ意味ヲ了解セズ一先ヅ後廻シトス

七、通商交通其ノ他ノ件、第六条第七条一括規定ヲ希望シ第六条冒頭ノ「自由」ナル文句ハ余リニ意義広クシテ無税輸入ヲモ認ムルコトトナルノ虞アリ且ツ通商交通及航海ニ関スル事項並ニ関税率及税関取扱ニ関スル事項ニ付後日協定ヲ遂グル迄ノ間ハ日本政府旧露国間締結ノ条約等ニ依ルヘキニ依リ第六条第一項ヲ削除シタシト主張セリ其ノ結果先方ノ案左ノ通

「両当事国政府ハ通商交通及航海ニ関スル事項並ニ関税率及税関取扱ニ対スル事項ニ付本協約調印後速ニ最恵国待遇主義ニ基ク協定ヲ締結スヘシ但シ当事国ト経済同盟関係ニ在ル第三国ノ権利ニ関シテハ右主義ヨリ除外スヘシ」

八、代表者及領事官ノ件、我方今回ノ提案中最後ノ項ハ当然ノ事項ナルト且ツ体裁上面白カラザルニ付削除シタシト申出テタリ但シ絶対ノ主張ニ非ズ

九、国旗国章ノ件、会議録ニ記入ニテ満足ス

十、協約効力発生時期、我案ニ同意

十一、附属協定並ニ文書、我案ニ同意

十二、追加条項ノ件、我案ニ同意

十三、協定ノ正文、我案ニ同意但シ斉多側委員中日本語ヲ解スル者ナキニ付日本語ノ分ニ対シ斉多政府ガ承認ヲ与フル迄ノ間臨時露語ノ分ヲ正文トナス旨会議録ニ記入シ度キ旨申出デタルカ本官ハ其ノ必要ナカルヘキ旨ヲ説示シタリ但シ先方ハ最後ノ承諾ヲ為サズ

尚本月七日斉多側提出ノ修正案中前記諸条項以外ノモノハ別電合第一一一号ノ通ナリ之ニ付テハ未ダ討議セズ

（別　電）

四月八日松島政務部長発内田外務大臣宛電報合第一一一号

チタ側提示ノ対案ヘノ追加条項

合第一一一号　別電　（四月九日接受）

第七条　極東共和国政府ハ浦潮ニ於ケル現行港務其他ノ規則ヲ改正シ且ツ右ノ内外国人ノ貿易及航海ヲ妨グヘキモノヲ廃止スル事ニ同意ス

第八条　両当事国政府ハ本協約調印後速ニ郵便電信聯絡開始ニ関スル協定ヲ遂グベシ

第九条　両当事国政府ハ本協約調印後直ニ日露漁業協約ノ改訂又ハ一時之ニ代ルヘキ暫行協定締結ノ為商議ヲ開始スヘシ

右商議ニ際シ魚族保護ノ規定ニ触レサル限リ両国漁業者ノ為等シク不便ナル条項ヲ廃止スル事ヲ承諾ス

第十条　極東共和国政府ハ共和国ノ法律ニ準拠シ日本実業家ニ対シ法律ニ従フヲ条件トシテ両当事国ノ為有利ナルヘキ原則ニ基キ礦山山林及其他ノ租借権ヲ許与スヘシ

極東共和国政府ハ航海発達ヲ目的トシ日本臣民ニ対シ沿岸航行汽船会社参加権ヲ許与スヘシ

第十一条　両当事国政府ハ本協約締結後日本帝国政府ト承認セラレタル旧露西亜諸政府トノ間ニ締結セラレタル条約、協約及其他ノ約定ニシテ極東共和国領域ニ関スルモノノ改訂ニ着手スベシ、右改訂ニ際シ両当事国ノ条約上ノ既得権並利益ハ両当事国ノ法律ニ違反セザル限リ保存セラルヘシ

両当事国ハ両当事国臣民又ハ人民ガ大連会議事務開始前ニ於テ得タル権利ニシテ其ノ内容若クハ其ノ取得方法カ権利発生地ノ法律ニ違反セザルニ於テハ其儘之ヲ承認ス

ベシ

四〇九　四月八日　内田外務大臣ヨリ
松島政務部長（大連出張中）宛（電報）

尼港事件及押収武器引渡問題ニ関スル日本側ノ解決案ニ付訓令ノ件

第一二一号

貴電第一〇七号ニ関シ斉多側ニ於テ此際直ニ基本協約及附属文書並ニ軍事協定ニ就キ一括シテ我提案ノ通リ調印スルニ於テハ先方希望ニ応シ㈠「尼港事件解決ニ付日本帝国政府ハ極東共和国ノ主権又ハ領土権ヲ侵害スルノ意思ナク又同事件解決後速ニ薩哈嗹州ヨリ撤兵スヘキコトヲ声明ス」ル旨文書ヲ与ヘ差支ナク又㈡押収物件受領ニ必要ナル程度ノ斉多側軍隊ハ基本協約等ノ調印後速ニ締結セラルヘキ撤兵協定ノ成立シタル後日本軍浦潮撤退時期ニ於テ之ヲ浦潮ニ入ルルコトヲ承認スヘク要スレバ貴官ハ右撤去ニ関スル協定案梗概ヲ先方ニ提示シ我好意ノ存スル所特ニ在浦潮押収品ノ引渡ニ付我方カ斉多側ニ最大便宜ヲ与フル方法ヲ選ヒタル所以ヲ詳細説明セラレ速ニ交渉ヲ取纏ムル様取計ハレ依然十五日迄ニ纏マラザレバ当方ニ於テ断乎タル決心ア

ルコトヲ示サレタシ尤モ撤兵協定ニ関スル軍事委員会ハ斉多側ニ於テ基本協約及其附属文書並ニ軍事協定ヲ全部調印シタル後ニ於テ速ニ開催スル義ニシテ其ノ纏マリタル後ニアラザレバ事実撤兵動作ヲ開始シ得ザルハ当然ノ義ナルニ付右含置カレタシ

四一〇　四月九日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

日本軍ノ撤兵時期ヲ明示スベシトノチタ側ノ強硬主張ニ付請訓ノ件

合第一一四号（至急）　（四月九日接受）

貴電第一二一号ニ関シ

九日ノ会議ニ於テ我提議ニ応スル様百方論議シタルニ「ペトロフ」ハ基本協約軍事協定及撤兵協定ヲ同時ニ調印スヘシトノ最初ノ主張ヲ譲歩シタルモ基本協約及軍事協定ニ調印ト同時ニ撤兵終了ノ期限ヲ明示セラルルニアラザレバ斉多側ハ基本協約ニ調印スルヲ得スト頑強ニ主張シ且斉多側専門家ノ意見ニ依レバ軍事委員会ニ関スル協議ノ為要スル日数及撤兵ニ要スル日数ハ合計四十五日ニテ十分ナルニ付基本協約調印後直ニ軍事委員会ヲ開クモノトセハ基本協約

調印ノ日ヨリ四十五日以内ニ撤兵ヲ終了セラルル旨約束セラルルヲ要スト繰返シ撤兵ノ日取等ハ基本協約調印後直ニ開カルヘキ軍事委員会ニテ之ヲ定ムルヲ要スヘク又日本側ハ斉多側ニ対シ好意ヲ以テ協議スヘキニ付協定ハ容易ニ成立スヘキノミナラス予メ期限ヲ定ムルコトハ困難ナリトスル本官ノ主張ニハ遂ニ応ズルノ色ナク右斉多側ノ最後的ノ要求ニ日本政府ニ於テ承諾ヲ与ヘラレズバ交渉ヲ打切ルノ外ナシト謂ヒ居レリ

右ニ対スル回答振至急電報アリタシ

四一一　四月九日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

チタ軍ト日本軍トノ衝突事件ニ関スルヤンソンノ抗議電報ヲ転電ノ件

合第一一五号　（四月九日接受）

八日会議ニ於テ「ペトロフ」ハ五日附「ヤンソン」発電ヲ外務省ニ転電セラレタキ旨大要左ノ如キ露文ノ文書ヲ本官ニ手交セリ本官ハ受領ニ際シ其ノ内容ニシテ今回ノ事件ニ於ケル日本軍ノ態度ヲ批難スルモノナラバ其儘受領スルヲ得スト言ヒタルニ外務大臣ニ宛テタルモノ故兎ニ角転電ア

リタシト請ヒタリ

共和国政府ハ沿岸州ニ於テ日本側ノ白軍ニ対スル援助ニ対シ累次抗議ヲ呈シ置キタルガ白軍ハ右援助ニ拘ラス一敗地ニ塗レ南方ニ退却セリ日本軍ハ其駐屯地域ニ武装白軍侵入スルヤ直ニ其武装ヲ解除スル旨屢々声明シ居ルニ拘ラス該声明ヲ実行シタルコトナク却テ敗退セル白軍カ駐屯地域ニ入ルトキハ武力ヲ以テ之ニ援助ヲ与ヘ武装ノ儘自由ニ其通過ヲ許スノミナラス該地域内ニ於テ新陣地ニ就カシメタリ

（此処ニ之カ事例多数ヲ列挙ス）

斯ノ如キ事例アルニ拘ラス斉多政府ハ日本軍トノ衝突ヲ避ケントスル決意ヲ毫モ変更スルコトナク又斉多軍ハ政府ノ命令ヲ体シ日本ニ対シテ曽テ敵意ヲ示シタルコトナシ然ルニ日本軍ノ態度ハ全ク之ニ反シ居ルカ為メ終ニ不幸ニモ四月二日ノ戦闘事件ヲ惹起セリ即チ同日「スイヤギー」ニ駐屯セル斉多軍ハ其南進ニ付日本軍ト協議センガ為「スパスカヤ」ニ特使ヲ派シ又「ブセフカ」ニ於ケル斉多軍前衛隊モ日本軍ニ対シ敵意ヲ有セサルコトヲ通告センガ為軍使ヲ派遣シタルニ日本軍ハ斉多軍ノ前進ヲ許サスシテ即時武器ノ引渡ヲ要求シタル後銃火ヲ開キタリ此際斉多軍ハ再ヒ軍

使ヲ遣シ戦意ナキ旨ヲ通告セントシタルモ日本軍ハ是ニ顧慮スル所無ク益々銃火ヲ発射セリ依テ斉多軍ハ砲火ヲ浴ヒ乍ラ然モ何等敵対行為ニ出ツルコト無ク退却シタルカ為ニ数十名ノ負傷者ヲ出セリ如斯斉多軍ハ明白ニ敵意ヲ有セス平和的ニ南進セントシ是カ為特使ヲ派遣シ未タ其帰還セズ従テ斉多軍ニ於テ最後ノ回答ヲ受領セサルニ先立チ日本軍ハ斉多軍ニ襲撃ヲ加ヘタリ然モ斉多軍ハ全然敵対行為ヲ取ラス一回モ発射シタルコトサヘ無シ依テ斉多政府ハ日本軍ガ再三他意無キ旨ヲ表示シタル斉多軍ニ対シ襲撃ヲ加ヘタル事実ニ付厳重ナル抗議ヲ申入ルルト同時ニ日本軍ガ其駐屯地域内ニ於テ白軍ノ通過ヲ許シ且同軍ニ援助ヲ与ヘ乍ラ斉多軍ガ平和的ニ同地域ヲ進マントスルニ対シ敵対行為ヲ行ヒタルハ其何故ナルカヲ知ラント欲ス尚斉多政府ハ日本国政府カ右ニ対シ直チニ回答ヲ与ヘラレ又日本軍司令部ニ於テ将来両国間ニ敵意ヲ醸成シ両国間ノ親善関係ノ確立ニ障碍ヲ来スヘキ以上ノ如キ衝突無カラシムル様必要ナル手段ヲ取ラレンコトヲ希望ス

四一二　四月九日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

私有財産ノ保障ニ関スル極東共和国ノ文書案ヲペトロフヨリ提示ノ件

合第一一六号　（四月十日接受）

往電合第一〇九号ニ関シ

九日会議ニ於テ「ペトロフ」ハ私有財産ニ関スル左記外交文書案ヲ本官ニ交付セリ

記

極東共和国政府ト日本帝国政府トノ間ニ本日締結セラレタル通商及一般協約ノ調印ニ際シ本官ハ極東共和国政府ノ名ヲ以テ左ノ声明ヲ為スノ光栄ヲ有ス

極東共和国ハ其ノ領土内ニ於ケル日本国民ニ対シ財産ノ所有及同国臣民カ本日締結セラレタル協約ニ準拠シ所得シタル所有権ノ不可侵ヲ保障ス

四一三　四月十日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

四月八、九両日ニ於ケル通商協約案第五条以下逐条審議ノ模様報告ノ件

合第一一七号　（四月十日接受）

四月八日ノ会議ニ於テ「ペトロフ」ヨリ第五条（商業製造業其他ニ関スル件）ニ関シ商業製造業ニ就テハ実際上内国人民ト同一ノ待遇ヲ与フル事トナル可キモ協約ノ文面ニテ単ニ第三国民ニ比シ不利益ナル待遇ヲ受ケザルモノトストシタシト主張シ次デ四月九日午後ノ会議ニ於テ本官ノ主張ニ依リ「職業及生業ニ従事スル事ヲ得」迄ハ我方案ヲ採用シタルモ以下ニ付テハ依然内国臣民ナル文字ヲ存置スルヲ欲セズ更ニ「ペ」ヨリ案ヲ提出スル事トナレリ

次デ第六条（通商交通ノ自由其他）ニ関シ「ペトロフ」ハ「自由」ナル文字ニ代フルニ「権利」ヲ以テシ且「各当事国ノ法律ニ依リ」ノ文句ヲ加入シ我方提案第一項ヲ存置シ第二項トシテ我ガ案第六条第二項ト第七条トヲ一括シ左ノ如クセントス「両当事国政府ハ最恵国待遇主義ニ基キ通商交通及航海ニ関スル事項竝関税率及税関規則ニ対スル事項ニ付本協約調印後速ニ協定ヲ遂グ可シ」

右ノ外前記第五条第六条各末尾ニ当事国ノ一方ト経済同盟関係ニ有ル第三国除外ノ規定ヲ置ク事トシ斉多側ヨリ修正案提出ノ筈（貴電第一二四号前段ノ次第「ペトロフ」ニ伝ヘタルニ本国政府ニ問合セタル上確答ス可シト言ヘリ）

貴電第一一八号ニ付テハ四月九日午後ノ会議ニ於テ討議シタルガ其結果左ノ通

第八条我ガ案ニ同意但「港湾其他ニ関スル事項中著シク」ヲ「港湾規則及其他ノ事項ニシテ」トナス

第九条我ガ案ニ同意

第十条「漁業経営者ニ有利トナルヘキ条項ヲ加フル目的ヲ以テ」ヲ「両国漁業経営者ニ有利トナルヘキ条項及魚族保護ヲ一層有効ナラシムヘキ条項ヲ加フルコトニ同意シ」トシ同条第四項「沿岸貿易ヲ許容スルニ同意ス」ヲ「沿岸貿易許容ニ関スル問題ヲ協議スルニ同意ス」（其ノ理由ハ第一項ニハ将来ノ事項ヲ記載シ居レリ依テ本項モ未来ノ形式ヲ取ルヲ至当トスト云フニアリ）ト改メ度シト申出デ同条第二項第三項ハ当方ヨリ提出セザリシニ先方モ何等云フ所ナシ

第十一条第一項ニ付「ペトロフ」ハ大ニ反対ヲ唱ヘ「従来外国人ニ加ヘタル制限」ナルモノハ帝政時代ノ法令ニ依ル制限ヲ指スモノナルヘキモ共和国ニ於テハ全然斯カル制限ナシ故ニ之ガ撤廃ヲ約定スルノ必要ナシ斉多案第十条（往電合第一一一号参照）ニテ十分ナリ農業ハ租借権中ニ含マレ居レリトテ我案ニ応ズル模様ナシ本条ニ関シテハ本官ニ於テ従来屢々協議シタル所ニシテ今更議論ヲ繰返スモ

無益ト思考シ今回ハ深ク討議セザリキ結局斉多側第十条ニ応スルノ外ナキカト思考セラル「ペトロフ」ハ本条ハ特ニ日本ニ対シテノミ特別ニ本条ノ如キモノヲ設クルノ意向斉多政府ニナシト語リ尚ホ同条第二項黒竜江松花江ノ件ハ別紙覚書ニ依ルコトトシタク近ク其ノ案ヲ提出スヘシト主張シテ動カス

第十二条第一項「其ノ他ノ協定ノ存続」ヲ「其ノ他ノ協定ノ改訂」ト改メ第二項「実質ニ於テ」ヲ「実質又ハ取得ノ方法ニ於テ」トナシタク又別箇ノ覚書ヲ以テ「一九二一年八月二十六日ヨリ極東共和国政府ノ権力ガ完全ニ沿海州ニ樹立セラルル迄ノ間ニ於テ在沿海州所謂「メルクーロフ」政権時代ニ発生シタル権利ハ無効トス」ト協定シタキ旨申出デタリ右ハ「ペトロフ」ニ於テ斉多案第十一条ノ通「大連会議開始前云々」ノ字句ノ存置ヲ主張シタルニ対シ本官ガ右字句ヲ存置スルトキハ大連会議開催後正当ニ取得シタル権利ヲ承認セザルヤノ疑ヲ生ズルヲ以テ不可ナリト説示シタル結果ナリ

四一四　四月十一日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

要塞撤廃及海軍力制限問題ニ関スル会議ノ討議状況ニ付報告ノ件

合第一二〇号　（四月十一日接受）

十日ノ会議ニ於テ大臣来電第一二三号第四項要塞撤廃ノ件ニ関シ築城ノ要部竝兵備（兵備トハ前電ノ戦闘機関即チ「ボエビヤ、スレードストワ」ノコトト解ス）ヲ戦闘不能ノ状態ニ置クト言フ文句ノ意味ニ関シ斉多側ハ要塞ノ戦闘機関ヲ戦闘不能ノ状態ニ置キ其上築城ノ要部ヲ戦闘不能ノ状態ニ置クトセバ要塞ヲ爆破スルノ外無カルベシトテ是ニ反対シ築造物ノ一小部分ナルモ然モ戦闘機関トシテ重要ナルモノアリ是ヲ破壊スルヲ要スルノ意ナリト説明セルニ斯ルコトハ軍事委員ニ任セ然ルヘシト言ヒ居レリ

次ニ要塞司令部及其附属機関ノ廃止ニ関シ先方ハ斉多側ノ案ニ在ル要塞司令部ノ特別機関（スペチアーリヌイ、アパラート、ウプラヴレーニヤ、クレーポスチー）ト言ヘハ今部ヲ包含シ附属機関ヲ云々スル必要無シト説明セリ

要塞地帯ノ開放ニ関シテハ司令部廃止ノ結果当然ト思考スルモ疑義アリトセバ是ヲ明記スルニ異議無シ但開放ト言フ意味ヲ一動詞ニテ言現ハスコト困難ナリ「ミイルノエ、ポロゼニエ」ニ置クト言フ外無シ「ミイルノエ」ハ「グラジダンスコエ」ノ意味ニ使用シタルモノナリト言ヘリ

次ニ海軍力ノ制限ニ付テハ「ペトロフ」ハ従来一度モ本件ニ言及セラレズシテ今日トナリテ斯カル条件ヲ提出セラルルハ過酷ナリ到底要求ニ応スル能ハズ極東共和国ハ海軍拡張ノ力モナケレハ又拡張セントスルノ意思モナシ日本ニ於テ斯カル制限ヲ要求スルノ必要毫モナキニ非スヤト云ヘルニ付本官ハ拡張ノ必要ナシトセバ記載セラルルモ可ナラスヤト云ヘルニ斉多政府ノ面目モアリ右記載ニハ応シ難シト答ヘタリ

第二項削除ニ関シ「ペトロフ」ハ第一項ニ反セサル範囲内ノ防備ナルコト勿論ナルヲ以テ矛盾スルコトナシ第二項ハ日本側ニ於テハ不必要ト思考セラルルモ斉多側ニ取リテハ重要ナル意義ヲ有ス即第一項ハ日本ニ対シ保護ヲ与フル為ニシテ第二項ハ自国民ノ感情ヲ顧慮シタルモノナリ若シ第二項ナシトセハ国民ハ必スヤ政府ハ日本ニ圧迫セラレテ全然軍備ヲ捨テタルモノト為スナラン故ニ第二項ニ依リ国内秩序維持ニ必要ナル程度ノ防備ヲ為スノ権利ヲ保有スルコトヲ示スヲ要スト云ヒ第二項削除ニ反対シタルニ付本官ハ日本政府ハ斯カル理由アリト思考セズシテ第二項削除ヲ可トスル旨主張シタルモノナル可キニ付右理由ハ政府モ電報スベシ政府モ多分之ヲ可トシ重ネテ削除ヲ主張セサル可シト述ヘ置キタリ

本件ニ付テハ此ノ上争フトモ無益ト信ズ

四一五　四月十一日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

河川航行権問題ニ関シ極東共和国ヨリ提出スベキ文書案ニ付報告ノ件

合第一二一号　（四月十一日接受）

一、河川航行権問題ニ付先方ノ提出スヘキ文書案左ノ通リ

極東共和国政府ハ本会議ニ於テ問題トナリタル黒竜江及松花江ニ関スル件ハ之ヲ其ノ議事ヨリ除外センコトヲ提議スル但シ極東共和国政府ハ将来本件ニ関シ日本政府ト意見ノ交換ヲ為スベシ

二、第五条及第六条（従前ノ第六条及第七条）ニ関シ経済同盟国ニ関スル除外例ヲ設クヘキ所其ノ案左ノ通リナリ

右ハ労農露国ヲ意味スル旨「プロトコール」ニ貽スコトス本条ハ経済同盟ニ関スル条約ニ依リ共和国ト結合シ

タル国ノ人民ニ許与セラルルカ若クハ許与セラルルコトアルヘキ権利ニ関シ之ヲ適用セズ

三、大連会議開催後「メ」政権ヨリ得タル権利ヲ認メサルノ意味ヲ表ハス条項左ノ通リ右ハ別ノ文書トスルヨリモ既得権ニ関スル条項ノ次ニ置ク方可然ト思考ス何トナレバ大連会議前ニ「メ」政権ヨリ得タル権利ハ有効ナルコトヲ明カニシ得ルヲ以テナリ極東共和国ノ事実上ノ権力範囲内ニ在ラザリシ極東共和国領域ノ諸地方ニ於テ一九二一年八月二十六日以降極東共和国政府ノ権力ガ右諸地方内ニ完全ニ樹立セラルルニ至ル迄ノ間ニ両当事国臣民又ハ人民ノ取得ニ係ル権利ハ両当事国ニ於テ之ヲ無効ナリト認ム

四一六　四月十一日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ内田外務大臣宛（電報）
撤兵期限ノ明示ニ関スルペトロフ再度ノ強硬主張ニ付報告ノ件

合第一二二号　（四月十一日接受）

十日「ペトロフ」ハ日本ノ要求ニハ全部満足ヲ与ヘタルニ付日本側ヨリ撤兵期間ニ関スル保証ヲ与ヘ且押収物件受領ノ為必要ナル軍隊ノ浦潮進出ヲ何等カノ書附ニテ約束セラルルニ於テハ条約ニ調印シ得ヘシト云ヘルニ付本官ハ我要求全部満足セラレタリト云フヲ得ズ其ハ兎モ角撤兵ノ期限ノ如キ強テ予定スル必要ナキニ非ズヤ又斉多軍浦潮進出ニ付テハ本官ガ政府ノ名ニ於テ言明シタルヲ以テ足レリトセズヤト述ヘタルニ「ペトロフ」ハ撤兵期限ヲ定メラレズバ協約ニ調印スルヲ得ズ又浦潮進出ノ件ニ付テモ書附ヲ得タシト云ヒ居レリ

四一七　四月十一日　内田外務大臣ヨリ松島政務部長（大連出張中）宛（電報）
チタ側提出ノ対案ニ対スル日本政府ノ見解ヲ訓令ノ件

第一二七号

貴電合第一一〇号ニ関シ

㈠ハ先方申出ノ通リ「両国ノ経済及其他ノ関係」ト改メ差支ナシ

㈡ニ付他国ノ主権及自治制ニ干渉セザルハ当然ノ義ナルニヨリ之ヲ協約中ニ規定スル必要ナシ尚該条末段ニ「個人」ヲ加フヘシトノ先方提案ヲ認ムルニ於テハ当該個人ノ存在ヲ防遏スヘキコトトナリ不当ノ厳罰ヲ加フルコトトナルヘキニ依リ之ニ同意スルヲ得ス

㈢査証ニ付協約中ニ規定スルコト差支ナシ

㈣ハ先方提案通リ「当事国一方ノ法律ニ従ヒ」ナル文字ヲ挿入シ差支ナシ

㈤所載通商交通等ノ自由ナル字句カ先方ノ危惧スルカ如キ意味ヲ有セサルハ我対案第七条中関税率ノ協定ヲモ予想シ居ルニ顧ミ明カニシテ先方主張ハ何等首肯スヘキ理由ナキノミナラス最恵国待遇ノ規定カ万一ノ不利ニ備フル補充的規定ニ過キサル関係上最恵国待遇主義ニ基ク協定ト記載スルコト面白カラス旁々我方提案ノ通リニ取極メラレタシ但右待遇ヨリ労農露国ヲ除外シ差支ナキハ既電ノ通リ

㈥所載、我方対案第十三条末項ニ就キ領事官ニ対スル「アグレマン」制ナキニヨリ右末項ノ如キ規定ヲ必要トスルノミナラズ英露通商協約第五条ニモ右ト同シキ規定アリ旁々削除ニ同意スルヲ得ズ

㈦協約ノ正文ニ就キ露語ノミヲ或期間ナリトモ正文トナスコトニハ同意シ難シ

尚貴電合第一一一号別電ニ就テハ同電ト行違ヒトナリタル往電第一一八号ニヨリ委細御承知アリタキ処先方提案ハ大体我方ニ有利ナラザルノミナラズ提案第十条ノ如キハ恰モ我方カ独占的ニ利権ヲ得ルヤノ観アリテ外国側ノ疑惑ヲ大ナラシムル虞アルニヨリ先方提案ハ之ヲ斥ケ我方成案ニヨリ取極ヲ了セラレタク又先方提案第十一条第二項ノ如ク既得権ニ関スル規定ニ「取得方法」ナル文字ヲ存スルニ於テハ我方既得権ハ全部之ヲ承認セシムル余地ナキコトトモナルニヨリ右ノ字句ハ是非共之ヲ削除セシムル様取計ハレタシ尤モ右既得権ノ範囲ニ付大連会商開始前即大正十年八月二十六日以前ニ得タル権利ニ関スル旨ヲ挿入スルコト差支ナシ

尚又貴電合第一一六号所載斉多側声明案末段ハ貴電合第一〇八号末段所載土地所有権除外ニ関スル先方希望ニ基クモノナルヘシト思ハルルモ右末項ノ規定ハ却テ協約全部ノ効力ヲ減殺スルノ嫌アルヲ以テ之ヲ削除シ往電第一一四号及第一二四号ノ趣旨ニヨリ「極東共和国政府ハ本協約第四条ノ実施ニ関シ其領域内ニ於テ日本帝国臣民ニ対シ財産ノ所有及其不可侵ニ付多数文明国ノ慣行ニ遵ヒ完全ニ之ヲ保障

シ且之ヲ侵害スルコトナキヲ約ス」ル旨声明セシメ尚先方ノ希望アレハ右声明ノ但書トシテ「土地ノ所有権又ハ借地権ヲ許与スル条件ハ本協約第十一条第一項及第二項（往電第一二四号参照）ノ規定ニ従フモノトス」ト規定スル様取計ハレタシ

四一八　四月十一日　内田外務大臣ヨリ
松島政務部長（大連出張中）宛（電報）

通商協約及附属文書ニ関スル我方成案ハ先方ノ立場ヲ顧慮シタルモノナル旨等ヲ説示ノ上我方成案貫徹方訓令ノ件

第一二八号

貴電合第一一七号ニ関シ第八条及第十条第一項ニ関スル先方提案ノ如キ軽微ナル変更ニ就テハ之ニ同意シ差支ナキモ先方主張ハ大体ニ於テ正当ノ理由ナク往電第一二七号訓令ヲ飜ヘスベキ何等ノ原因ナキノミナラズ此種先方ノ主張ヲ一々取上グルニ於テハ徒ニ時日ヲ遷延シ我方所定ノ期日ニ至ルモ協約ノ成立ヲ見ザルベキハ予想ニ難カラザル義ナルニ付貴官ハ「ペトロフ」ニ対シ協約及其附属文書ニ関スル我方成案ハ先方ノ立場ヲ顧慮スルト共ニ大体ニ於テ彼我従来ノ話合ヒヲ取纏メタルモノナルコト並ニ此際細末ノ論議ヲ重ネ時日ヲ遷延スルハ結局先方ノ不利益トナルヘキ所以ヲ説示シ我方成案ヲ貫徹スル様努メラレタシ尚成案第十一条ハ特ニ我方ノ重キヲ措クモノニシテ先方提案ニ応スルカ如キハ絶対ニ同意シ難キ次第ナルニヨリ右御承知アリタシ

四一九　四月十一日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

訓令ノ趣旨貫徹シ難キニ付辞意表明ノ件

第八七号

貴電第一二七号及第一二八号ニ関シ御訓令ノ次第ハ本官ノ微力ヲ以テシテハ到底之ヲ貫徹シ難キニ付謹ミテ骸骨ヲ乞フ

四二〇　四月十一日　内田外務大臣ヨリ
松島政務部長（大連出張中）宛（電報）

撤兵期日ノ明示ハ不可能ナル旨並所定期日内ニ協約及協定ノ成立ヲ見ザルニ於テハ断乎交渉打切ルベキ旨訓令ノ件

第一三〇号

貴電合第一一四号ニ関シ所定期間ニ基本協約及其附属文書並軍事協定ノ成立ヲ見ルニ於テハ過般先方ニ申入レタル通リ交代兵ノ派遣ヲ見合ハスヘク協定全部ノ成立後直ニ全部軍隊ノ撤退ヲ了スヘキハ勿論ノ議ナルモ撤兵終了期日ニ就テハ輸送ノ都合アルノミナラス其他不測ノ妨害故障等起ル場合モ顧慮スル要アリ旁々該期日ヲ此際明確ニ約束スルコト不可能ナリトノ陸軍側意見ナルガ基本協定及軍事協定調印後撤兵協定成立スルニ於テハ前記ノ如ク直ニ撤兵ニ着手シ極メテ短期間ニ之ヲ実行スルコトハ勿論ナルニ付（貴官限リノ含迄我方ニテハ撤兵協定調印後概ネ二ケ月間ニ終了ノ見込）此点ハ充分我方ノ誠意ニ信頼セシムル様説示セラレタク尚先方最近各種ノ要求ヲ逐次ニ持出シ之ヲ強要セントスルカ如キ態度アルハ穏当ナラズ軍部ニ於テハ本月十五日迄ニ基本協約及軍事協定ノ成立ヲ見ザルニ於テハ一日モ猶予ナク断乎トシテ交渉ヲ打切ルヘシトノ議論其勢ヲ加ヘ来リタル次第ニ付貴官ハ篤ト右ノ次第ヲ体シ先方ヲシテ我方誠意ヲ了知セシムルト同時ニ時日ノ切迫セルヲ覚知セシメ最早細末ノ議論ヲ避ケ所定ノ期日内ニ基本協約及其附属書並軍事協定ノ成立ヲ見サル以上予報ノ通リ交渉ヲ打切ルヘキ旨ヲ重ネテ説示シ我方提案全部ニ対スル先方ノ諾否ヲ要求セラルヘシ

四二一　四月十二日　内田外務大臣ヨリ
松島政務部長（大連出張中）宛（電報）

交渉打切ノ時期切迫ニ付ペトロフニ対シ最後ノ督促ヲ加ヘ我方ノ主張ヲ承諾セシムル様努力方訓令ノ件

第一三一号

貴電第八七号ニ関シ貴官ノ立場ハ充分ニ諒トスル次第ナルモ会商既ニ七箇月ニ渉リ且「ペトロフ」近来ノ主張ハ一二理由ナキニ非ズト雖一面我方ニ満足ヲ与ヘタルカ如キコトヲ云ヒ乍ラ他面徒ニ些末ノ文句ニ拘泥シ或ハ無理ナル要求ヲ提出シ果シテ会議ヲ取纏メムトスル誠意アリヤ否ヤヲ疑ハザルヲ得ザル次第ニシテ是レ或ハ斉多政府ガ成立当時ト事情ヲ異ニシ労農政府ノ勢力益々加ハリタルト近時「ゼノア」会議ノ開催セラレタルトニヨリ単ニ我方ノ意嚮ヲ探知シ労農政府ニ伝達スル為メ商議ヲ続ケ居ルモノカトモ疑ハレザルニ非ズ若シ右推測ニシテ事実ナリトセハ会議ノ継続ハ所詮徒労ニ帰シ而モ我方ノ蒙ル不利尠カラザルヲ以テ過般来既ニ我方ハ及ブ限リニ於テ譲歩シタル事実ヲモ顧念シ

此際一気呵成ニ纏ムルコトトシ若シ先方ニ於テ之ヲ承諾セサル場合ニハ一先ヅ会議ヲ打切ルヘキ旨往電第一一一号ノ通リ廟議ヲ決シタル次第ニシテ軍部ニ於テハ既ニ第八師団ヘ交代準備ノ内命ヲ下シタル次第モアリ時日極テ切迫シ居ルニ付止ムヲ得ズ促進的措置ヲ講スルノ外ナク右当方ノ主張ニシテ貫徹セザルモ致方ナキ義ニ付貴官ハ篤ト右ノ事情ヲ体セラルルト共ニ本大臣訓令ノ旨ヲ執行シ「ペトロフ」ニ対シ最後ノ督促ヲ加ヘラレタク目下最モ重要ノ時機ナルニ付特ニ貴官ノ隠忍努力ヲ期待ス

四二二　四月十二日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

交渉決裂ノ危険ニ当面スルニヨリ我方ノ措置振ニ付請訓ノ件

合第一二四号（至急）　（四月十二日接受）

貴電第一三〇号ニ関シ

我提案第十一条私有財産保障ニ関スル先方ノ声明案及要塞撤廃ニ関スル先方声明案（要塞地帯ヲ開放スル旨附ケ加ヘタルモノ）ニ於テ先方ノ提案ニ同意シタル上貴電ノ御趣旨ニ依リ交渉スルカ若クハ右三件ニ関シ譲歩セザル代リニ撤兵スヘキ旨書面ヲ以テ保障スルニ於テハ先方ノ承諾ヲ得ルヤモ計ラレザルモ何等ノ譲歩ヲモナサズ撤兵ノ期限ヲモ示サザルニ於テハ交渉破裂ノ危険アリ本官ハ右三個ノ場合中孰レノ場合ニ依リ措置スヘキヤ至急御回訓ヲ請フ尚先方ニシテ諾否ニ関シ仮令細末ナル条件ヲ附スルトモ交渉ヲ打切ルヘキヤ併セテ御回示アリタシ

四二三　四月十二日　井出海軍次官ヨリ
埴原外務次官
尾野陸軍次官　宛

軍事協定内容ニ関スル海軍側ノ条件通報ノ件

官房機密第五二四号　（四月十三日接受）

大正十一年四月十二日

海軍次官　井出　謙治（印）

外務次官　埴原　正直殿

陸軍次官　尾野　実信殿

大連会議ニ関シ海軍側軍事協定事項ノ件

大連会議ノ進捗ニ関連シ軍事協定ノ締結ヲ要スヘキ場合海軍側ノ条件ハ左記ノ通ニ有之候間御承知相成度

右依命通牒ス

記

一、方針

露国ニ対シ努メテ寛容ノ態度ヲ採リ漫ニ露国ノ主権ヲ侵害シ露人ノ自尊心ヲ傷ケ怨恨ヲ将来ニ貽スカ如キ条件ヲ課セザルコト

二、要旨

(イ)極東共和国政府ハ極東方面ニ現有スル以上ニ其海軍力ヲ拡張セザルコト

(ロ)浦潮所在日米無線電信所ハ日米均シク之ヲ撤廃スルノ方針ヲ採ラシムルコト

三、細項

(甲)浦潮方面ニ関スルコト

(一)浦潮ニ於テ帝国軍艦ニ押収保管中ノ兵器ハ之ヲ還付スルコト

(二)海上兵力ハ現状維持トシ補充以外新艦ヲ増加セザルコト

(三)浦潮所在日米無線電信所ハ日米均シク之ヲ撤廃スルコト

(乙)黒龍江方面ニ関スルコト

(一)押収艦船ハ之ヲ還附スルコト

(二)黒龍江流域ニ於ケル水上兵力ハ現状維持トシ補充以外新艦ヲ増加セザルコト

(三)帝国軍艦ノ黒龍江流域航行権ヲ承認スルコト

追テ大連会議軍事協定ニ於テ尼港事件ノ解決ヲ除去スル場合(乙)黒龍江方面ニ関スルコトニ触レザルハ当然ノ儀ニ有之候

四二四　四月十四日　内田外務大臣ヨリ
松島政務部長（大連出張中）宛（電報）

撤兵期限明示方ニ関スル先方ノ希望ニ対シ最後ノ譲歩トシテノ措置方ニ付回訓ノ件

第一三三号　至急

貴電合第一二四号ニ関シ軍部トモ篤ト協議シタルガ元来当方ニ於テハ斉多側ノ立場ニモ同情シ且ツ誠意ヲ以テ交渉ヲ解決セントスル意思ヲ有セルニヨリ主要ノ点ニ就キテモ一再ナラズ当方ノ主張ヲ棄テテ交渉ヲ纏メントシ最近ニハ撤兵協定ノ内容ヲスラ先方ニ提示シ殊ニ押収武器引渡ニ付キテハ内部ニ反対意見アリタルニ係ラズ之ヲ斉多側ニ引渡スコトニ決シ尚万一右党側ニテ妨碍ヲ加フル場合ニハ之ヲ排除シテマデ実行セントスルノ方針ヲ定メ且ツ撤兵ハ各種協

定全部ノ調印後直ニ実行ニ着手シ短期間ニ終了セシムルコトヲ明言シタルニ拘ラズ更ニ期日ノ通告ヲ迫ルガ如キハ甚シク我方ノ誠意ヲ疑フモノニシテ一方又再三申進メタル通リ談判ヲ纏メントスル誠意ナキモノトモ疑ハルルニヨリ先方ニシテ此ノ態度ヲ持続スル以上此際交渉ヲ打切ルノ外ナシト思考スルモ我方ニ於テ特ニ撤兵実行ノ誠意ヲ明ニスル為最後ノ譲歩トシテ先方ノ希望ニ応シ左ノ方法ニヨリ処置セラルルモ差支ナキコトニ決定セリ即チ我方ガ撤兵ノ期限ヲ示シタル後先方ニシテ更ニ第二、第三ノ要求ヲ為シ談判ヲ遅延セシムルニ於テハ右ノ譲歩モ徒労ニ帰スル義ナルニヨリ右ノ遷延ヲ避クル為貴官ハ前記ノ趣旨ヲ篤ト先方ヘ説明セラレ若シ先方ニ於テ他ノ諸点ニ関シ談合済マザル点ハ我方提案ニヨリ直チニ調印ヲナスコト確実ナルニ於テハ貴官ハ先方ニ対シ撤兵協定ガ撤兵ヲ速カニ終了シ得ル様協定セラレ且ツ斉多側ニ於テ同協定ヲ誠実ニ履行シ撤兵行動円満ニ進捗シ尚天候其他不測ノ障碍発生セザル限リ撤兵協定調印後三ケ月以内ニ全部軍隊ノ撤退ヲ了スヘキ旨通告セラレ差支ナシ

四二五　四月十五日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ内田外務大臣宛（電報）

我提案全部ヲペトロフニ示シ諾否ノ回答ヲ求メタルニ対シ多数ノ異議アリタルニ付会議ノ打切ヲ声明スベキヤ請訓ノ件

附記　大連会議ニ於ケル日本ノ最終提案

合第一二七号（至急）　（四月十六日接受）

貴電第一三三号御訓令ノ趣旨ニ従ヒ四月十五日我提案全部ヲ示シ先方ノ諾否ニ関スル回答ヲ求メタル処先方ハ審議ノ後㈠基本協約第五条商業製造業ニ付自国民ト同様ノ待遇ヲ与フルヲ得ズ㈡第十条（我提案第十一条）ハ斉多案ナラズバ承諾スルヲ得ズ㈢軍事協定第二条第二項ハ承諾スルヲ得ズ㈣軍事委員ノ各地駐在ハ寸時タリトモ承諾シ得ズ㈤私有財産権保障ニ関スル文書ノ末段ハ基本協定第十条ト関連シ承諾スルヲ得ズ（貴電第一二四号ニ依リ第十条ニ第二項ヲ加ヘ本件文書ノ末段ニ第十条ヲ引用シタルニ依ル）㈥要塞撤去ニ関スル声明（先方案第二項ハ其儘トシタルモノ）ニ付テハ海軍力ノ制限ノ部分ハ承諾スルヲ得ズ㈦河川航行権ニ付テハ斉多側最後ノ提案ナラズバ承諾スルヲ得ズ㈧撤兵ニ関スル日本ノ声明中満洲ヲ云々スルハ不可ナリ（本官ハ特殊利益ヲ有スル為ナリト一言説明シ置ケリ）㈨撤兵ニ関スル期限ヲ撤兵協定成立ノ時即チ不定ノ期日ヨリ起算スルハ不可ナリ（本官ハ撤兵協定審議ノ為ニ要スル日数ヲ無視スルハ不道理ナリト述ヘタルニ「ペトロフ」ハ不相変確定的期限ヲ要スト繰返セリ）㈩日本側提出ノ書類ノ外押収物件受授員及護衛隊ノ浦潮進出期ニ関スル文書及基本協定ト軍事協定トヲ相関連セシムル為ノ文書ヲ要ス（浦潮進出ノ件ハ撤兵協定中ニ規定アリト注意ヲ与ヘ置ケリ）ト云ヘルニ付本官ハ我方ノ要求スル処ハ我提案全部ニ対スル諾否ナル処斯ク多数ノ点ニ於テ異存アル以上ハ日本政府ハ恐ラク会議ヲ打切ルニ至ル可シト信ズ但シ本官ハ今直ニ打切リヲ声明スル事ナク只今御申出ノ次第ヲ政府ニ電報シ会議ヲ打切ル可キヤ否ヤニ関シ請訓ス可シト答ヘタル処「ペトロフ」ハ今一日間日本政府ノ御回訓ヲ俟チ何等御回訓ニ接セズトモ明日斉多ニ向ケ帰ル可シト言ヒタル後今後何レカノ場所ニ於テ今日迄ノ協定材料ヲ基礎トシテ改メテ会議ヲ開クコトニハ斉多側ニ於テ異存ナシト附言セリ

就テハ会議打切ヲ更メテ声明ス可キヤ其レトモ打切リノ声明ヲ為サズ自然消滅トナス可キヤ御回訓アリタシ

（附記）

大正十一年四月欧米局第一課調書

大連会議ニ於ケル日本ノ最終提案

一　通商協約案

二　軍事協定案

三　帝国臣民ノ私有財産保護ニ関スル外交文書案

四　尼港事件ニ関スル外交文書案

(イ)　斉多側ノ提出スヘキモノ

(ロ)　尼港事件交渉開始ニ関シ我方ノ提出スヘキモノ

(ハ)　尼港事件解決方法ニ関シ我方ノ提出スヘキモノ

五　通商協約第五条及第六条ニ関スル特別会議録案

六　要塞撤廃ニ関スル宣言案

七　河川航行権問題ニ関スル外交文書案

一　通商其ノ他ニ関スル日本帝国政府及極東共和国政府間ノ協約案

日本帝国政府及極東共和国政府ハ両国国民間ノ平和的通商関係ヲ樹立シ且両国ノ経済及其ノ他ノ関係ヲ発達セシメンコトヲ欲シ又之カ為ニハ将来両国間ニ経済上及政治上ノ関係ヲ規定スヘキ正式条約ノ締結セラルルニ至ル迄両国政府

間ニ予備協約ヲ締結スルノ必要アルヲ認メ玆ニ左記条項ヲ約定セリ

第一条　両当事国ノ一方ハ他ノ一方ニ対シ敵対行為若ハ企図ヲ為スコトナク又各自領域外ニ於テ他ノ一方ノ領域内ニ確立セル国家ノ秩序ニ対シ脅威トナルカ如キ宣伝ヲ直接若ハ間接ニ行フコトナカルヘク且各自領域内ニ於テ対手国ノ治安ヲ紊サムトスル各種団体及機関ノ存在及行動ヲ防遏スルノ措置ヲ執ルヘシ

第二条　両当事国ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ他ノ一方ノ国法ニ従ヒ其ノ領域内ニ到リ施行シ又ハ居住スルコトヲ得

両当事国一方ノ領域ニ赴ク他ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ正規ノ官憲ニ依リ発給セラレタル旅券ヲ所持シ対手国当該代表者ヨリ査証ヲ受クルヲ要ス

第三条　両当事国一方ノ領域内ニ居留スル他ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ其ノ生命身体ノ安全及財産ノ不可侵ニ付当事国一方ノ法律ニ従ヒ完全ナル保護ヲ享クヘク内国臣民若ハ人民又ハ第三国ノ臣民若ハ人民ニ比シ不利益ナル待遇ヲ受ケサルモノトス

第四条　両当事国一方ノ臣民又ハ人民ハ他ノ一方ノ領域ニ於テ其ノ国法ニ従ヒ信教及良心ノ自由ヲ有ス

第五条　両当事国一方ノ臣民又ハ人民ハ他ノ一方ノ領域内ニ於テ支障ナク商業、製造業、職業及生業ニ従事スルコトヲ得但シ如何ナル場合ニ於テモ商業及製造業ニ就テハ内国臣民若ハ人民又ハ第三国ノ臣民若ハ人民ニ比シ産業、職業及生業ニ就テハ第三国臣民又ハ人民ニ比シ不利益ナル待遇ヲ受ケサルモノトス

本条ハ経済同盟ニ関スル条約ニ依リ当事国ト結合シタル国ノ臣民又ハ人民ニ許与セラレタルカ又ハ許与セラルルコトアルヘキ権利ニ関シ之ヲ適用セズ

第六条　両当事国政府ハ相互ニ通商交通ノ自由及船舶航行ノ自由ヲ認メ且相互ニ他方ノ臣民又ハ人民及船舶ニ関シ第三国ノ臣民又ハ人民及船舶ニ比シ不利益ナル待遇ヲ与ヘサルモノトス

前項ノ規定ハ経済同盟ニ関スル条約ニ依リ当事国ト結合シタル国ノ臣民又ハ人民ニ許与セラレタルカ又ハ許与セラルルコトアルヘキ権利ニ関シ之ヲ適用セス

両当事国政府ハ前二項ノ趣旨ニ基キ通商交通及航海竝関税率及税関取扱ニ関スル事項ニ付本協約調印後速ニ協定ヲ遂クヘシ

第七条　極東共和国政府ハ浦潮斯徳ニ於テ実施中ノ港湾規則及其ノ他ノ事項ニシテ貿易及航海ヲ阻害スルモノハ之ヲ改善スルコトニ同意ス

第八条　両当事国政府ハ両当事国間ニ郵便電信関係ノ開始ニ関スル事項ニ付本協約調印後速ニ協定ヲ遂クヘシ

第九条　両当事国政府ハ日露漁業協約ノ規定ニシテ両国漁業経営者ノ不便トシタル点ハ水産物保護ノ目的ニ反セサル限リ之ヲ削除シ且両国漁業経営者ニ有利トナルヘキ条項及魚族保護ヲ一層有効ナラシムヘキ条項ヲ加フルコトニ同意シ本協約調印後直ニ日露漁業協約ノ改訂又ハ一時之ニ代ルヘキ暫行協定ノ商議ヲ開始スヘキコトヲ約ス

極東共和国ハ日本船舶ニ対シ前項ニ依ル漁業経営ニ必要ナル程度ニ於テ沿岸貿易ヲ許与スルコトニ同意ス

第十条　極東共和国政府ハ門戸開放主義ヲ認メ日本帝国臣民ニ対シ其ノ領域内ニ於テ鉱業、林業、農業其ノ他各種ノ生業産業及商業ニ関シ従来外国人ニ加ヘタル制限ヲ撤廃シ将来ニ於テモ之ヲ加フルコトナカルヘク又三十六箇年ヲ越エサル期間ニ於テ借地権ヲ許与スヘク且日本帝国臣民カ極東共和国ニ於ケル沿岸貿易ヲ営ム会社ニ参加スルコトニ同意ス

将来極東共和国政府カ外国人ニ対シ土地所有権又ハ前項規定ノ期間以上ノ借地権竝前項規定以上ニ外国人ニ有利ナル沿岸貿易ヲ認ムル場合ニハ日本帝国臣民モ之ニ均霑スヘシ

第十一条　日本帝国政府ト旧露国政府トノ間ニ締結セラレタル条約協約其他ノ協定ノ存続ニ就テハ追テ両当事国政府ニ於テ協議スルモノトス

両当事国政府ハ両国国民ノ既得権カ其ノ実質ニ於テ諸権利ノ発生シタル国ノ法律ニ抵触セサル限リ相互ニ其ノ儘之ヲ承認スヘシ但シ大正十年（一千九百二十一年）八月二十六日以降極東共和国政府カ其ノ全領域ニ樹立セラルルニ至ル間ニ於テ日本臣民ノ収得シタル権利ハ共和国ノ法律ニ依リ自国人民ニ関シ定メラレタルト等シク無効ト認メラルヘシ

第十二条　両当事国政府ハ相互ニ外交官ト等シキ特権ヲ享有スル代表者及其ノ属員竝ニ領事官ト等シキ職務ヲ執行シ且特権ヲ享有スル官吏ヲ派遣スルコトヲ得

前項派遣員ノ数及駐在地ニ関シテハ両当事国政府間ニ於テ之ヲ協定スヘキモノトス

両当事国政府ハ孰レモ自国ニ取リ好マシカラサル人物ニ対シ本条第一項ノ派遣員及其ノ属員トシテ入国スルコトヲ拒絶シ又ハ公共ノ利益若ハ安寧ノ為必要ト認ムルトキハ其ノ召還ヲ請求スルコトヲ得

第十三条　本協約ハ調印ト共ニ即時効力ヲ発生シ前文ニ予見スル正式条約締結ニ至ル迄引続キ効力ヲ有ス

第十四条　本協約ニ基キ締結セラルヘキ諸協定及本協約附属文書ハ本協約ノ追加約款トシテ本協約ト等シキ効力ヲ有スヘキモノトス

第十五条　本協約規定事項ニ付更ニ追加又ハ拡張ヲ要スルモノアルトキハ両当事国政府ハ協定ノ上本協約ノ追加約款ヲ締結スルコトヲ得ルモノトス

第十六条　本協約ハ日本語及露西亜語ヲ以テ作成シ共ニ正文トス

二　日本帝国政府及極東共和国政府間ノ軍事事項ニ関スル協定案

日本帝国政府ト極東共和国政府トノ間ニ軍事事項ニ関スル協定ヲ遂クルコト次ノ如シ

第一条　日本軍カ極東共和国領域内ノ鉄道ニ施シタル一切ノ作業設備及架設セル電線ハ現状ノ儘無償ニテ極東共和国政府ニ交附セラルヘシ

極東共和国政府ハ前記諸作業ノ為露国側ヨリ提供セル材料又ハ其ノ代金ヲ請求スルコトナシ

第二条　日本軍憲ノ押収物件及日本軍憲ノ臨時使用中ノ物件ニシテ露国官有財産タルモノハ現在ノ儘極東共和国政府ニ引渡スモノトス

但シ該物件中其ノ不正使用カ日本臣民露国人民及外国人ニ対シ危害ヲ及ホシ又ハ日本ノ治安ヲ紊スカ如キ虞アリト認ムルモノハ日本軍ニ於テ適宜処理スルコトアルヘシ

第三条　軍事委員ノ交換ニ関シテハ追テ両当事国間ニ協議スヘシ但シ極東共和国政府ハ日本軍事委員ノ斉多、浦潮斯徳、「ハバロフスク」、「ブラゴエスチェンスク」ニ臨時駐在スルコトヲ承認シ其ノ領域内ニ於テ生命身体及財産ノ不可侵並通信旅行ノ自由ヲ保障スルモノトス

第四条　日本軍憲ノ押収ニ係ル物件ノ引渡ヲ実行スル為両国軍事委員ヨリ成ル委員会ヲ組織スヘシ

第五条　本協定ハ調印ト共ニ其ノ効力ヲ生ス

三　帝国臣民ノ私有財産保護ニ関スル外交文書案

本日極東共和国政府及日本帝国政府間ニ締結セラレタル通商其ノ他ニ関スル協約ヲ調印スルニ当リ本官ハ極東共和国政府ノ名ニ於テ左記声明ヲ為スノ光栄ヲ有ス

極東共和国政府ハ本協約第三条ノ実施ニ関シ其ノ領域内ニ於テ日本帝国臣民ニ対シ財産ノ所有及所有権ノ不可侵ニ付多数文明国ノ慣行ニ従ヒ完全ニ之ヲ保護シ且之ヲ侵害スルコトナキコトヲ約ス

但シ土地ノ所有権又ハ借地権ヲ許与スル条件ハ本協約第十条第一項及第二項ノ規定ニ従フモノトス

四　尼港事件ニ関スル外交文書案

(イ)　斉多側ノ提出スベキモノ

本日極東共和国政府及日本帝国政府間ニ締結セラレタル通商其ノ他ニ関スル協約ニ調印スルニ当リ本官ハ極東共和国政府ノ名ニ於テ左記声明ヲ為スノ光栄ヲ有ス

極東共和国政府ハ尼港事件ニ付全責任ヲ以テ之ヲ解決スヘシ

署　名

(ロ)　尼港事件交渉開始ニ関シ我方ノ提出スベキモノ

本日日本帝国政府及極東共和国政府間ニ締結セラレタル通商其ノ他ニ関スル協約ニ調印スルニ当リ本官ハ日本帝国政府ノ名ニ於テ左記声明ヲ為スノ光栄ヲ有ス

日本帝国政府ハ通商其ノ他ニ関スル協約及附属文書ノ調印後直ニ尼港事件交渉ニ入ルコトニ同意ス

署　名

(ハ)　尼港事件解決方法ニ関シ我方ノ提出スベキモノ

本日日本帝国政府及極東共和国政府間ニ締結セラレタル通商其ノ他ニ関スル協約ニ調印スルニ当リ本官ハ日本帝国政府ノ名ニ於テ左記声明ヲ為スノ光栄ヲ有ス

尼港事件解決ニ付日本帝国政府ハ極東共和国ノ主権又ハ領土権ヲ侵害スルノ意思ナク又同事件解決後速ニ薩哈嗹州ヨリ撤兵スヘキコトヲ声明ス

署　名

五　通商協約第五条及第六条ニ関スル特別会議録案

本日日本帝国政府及極東共和国政府間ニ締結セラレタル通商其ノ他ニ関スル協約ニ調印スルニ当リ両当事国ハ相互ニ其ノ委員ヲ経テ左ノ通定メタリ

通商其ノ他ニ関スル協約第五条及第六条ニ規定セラレタル「当事国ノ一方ト経済同盟条約ヲ締結シタル国」トハ極東共和国ト経済同盟条約ヲ締結シタル労農露国ノミヲ指スモノトス

署名
署名

六　要塞撤廃ニ関スル宣言案

極東共和国政府ハ自国内ノ福祉ヲ増進シ竝締結セラレタル通商其ノ他ニ関スル協約ニ基キ日本国民ト平和ニシテ親善ナル経済関係ヲ確立セムコトヲ願念シ且国民ノ資力ヲ節約セムコトヲ欲シ日本帝国ニ面スル自国ノ沿岸及朝鮮トノ国境ニ新ニ要塞ヲ築造セス且浦潮地方ニ於ケル要塞ニ付テハ現存築造物及建物ハ其ノ儘之ヲ存置スルモ築城ノ要部及兵器ハ之ヲ戦闘不能ノ状態ニ帰セシメ竝戦闘行為ニ要スル要塞司令部特別機関ハ之ヲ廃シ要塞地帯ヲ開放スルコトニ決セリ又極東共和国政府ハ極東方面ニ現有スル以上ニ其ノ海軍力ヲ拡張スルコトナキコトニ決セリ

極東共和国ハ何等侵略的野心ヲ抱蔵セサルヘキモ自己ノ基本的主権ニ基キ領土ノ保全竝海上及陸上ノ貿易沿岸貿易漁業其ノ他ノ産業ノ平安ナル発達ヲ確保スルニ足ルヘキ程度ニ於テノミ国防特ニ沿岸及国境防備手段ヲ調ヘ且維持スヘシ

一九二二年四月　日　於大連　（記名）

七　河川航行権問題ニ関スル外交文書案

本日極東共和国政府及日本帝国政府間ニ締結セラレタル通商其ノ他ニ関スル協約ニ調印スルニ当リ本官ハ極東共和国政府ノ名ニ於テ左記声明ヲ為スノ光栄ヲ有ス

極東共和国政府ハ日本船舶ノ黒龍江ニ於ケル航行権取得ニ付後日両当事国政府間ニ協議ヲ為スコトニ同意シ且日本船舶ノ松花江航行権取得ニ付後日関係諸国政府間ニ於テ協議ヲ為スコトニ異議ナシ

四二六　四月十六日　内田外務大臣ヨリ松島政務部長（大連出張中）宛（電報）

我委員ハ会議ヲ打切リ直ニ引揚グル旨先方ニ通告方回訓ノ件

附記　四月十七日松島政務部長ノ為シタル公表

大連交渉不調ノ件

第一三五号　至急

貴電合第一二七号ニ関シ先方カ我寛大公正ナル提案ヲ拒絶シ我方ノ譲歩ト誠意トヲ無視シ急速斉多ニ帰還スヘキ旨言明セル以上最早会議ヲ継続スル余地ナキヲ以テ我委員ハ会議ヲ打切リ直ニ引揚クル旨先方ニ通告スルト共ニ右ノ趣旨並ニ交渉不調ノ責任ハ先方ニアルコトヲ公表シタル上帰朝セラルヘシ

尚将来更メテ会議ヲ開クヤ否ヤニ付テハ先方ニ対シ何等「コムミット」セザル様セラレタシ

（附記）

四月十七日松島政務部長ノ為シタル公表

大連交渉不調ノ件

極東共和国政府代表ガ日本政府ノ譲歩ト誠意トヲ無視シ我公正ナル提案ヲ拒絶シ急遽斉多ニ帰還スベキ旨言明シタル以上最早会議ヲ継続スル余地ナキコト勿論ナルヲ以テ日本委員ハ直ニ大連ヲ引上グヘキ旨四月十六日午後九時二十分斉多委員ニ通告セリ

大連会商ハ斯クノ如クニシテ不調ニ終リタルモノニシテ其責任ノ斉多側ニ在ルコト言ヲ俟タズ

四二七　四月十七日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ内田外務大臣宛（電報）

ペトロフヨリ譲歩的提案ヲ為スヤモ知レズトノ感想ヲ得タル件

合第一二八号　（四月十七日接受）

貴電第一三五号ニ関シ

十六日午後島田ガ在哈府樋口大尉一行ノ件ニ付斉多側ヲ訪問シタル処「ペトロフ」ハ日本政府ハ大連会議ノ成立ヲ希望セザルカ為前日ノ如キ最後ノ提案ヲ為セルモノト思考スト述ベタルニ付島田ハ日本政府ニシテ本会議ノ成立ヲ欲セザルモノトセバ撤兵期限ニ関スル譲歩ヲ為ス筈ナキニアラズヤト答ヘタル処「ペ」ハ然ラバ今一応本官ト会談シタシト申出デタルニ付本官ハ午後八時「ペ」ノ来訪ヲ承諾シ之ト会談シタルガ第五条商業及製造業ニ付テ事実上日本人ハ露国人ト同様ノ権利ヲ享有シ得ベキモ条約ニ依リ自国民待遇ヲ与フルヲ得ズ第十条ニ付テハ書キ方ヲ何ントカ変更シ得ベキモ諸外国ニ対シ利権ヲ解放スルヲ得ズ唯日本人ニ対シテノミ利権ヲ与フルコトシタシ（本件ニ付テハ本官ハ日本ノミ利権ヲ請求スルニアラザル旨竝斉多案ニ依ルモ将来外国政府ハ斉多政府ニ対シ日本人ニ与ヘタルト同様ノ権利ヲ与フヘシト請求スヘク斉多政府ハ之ヲ拒ムヲ得ザルヘ

キ旨説明シタルガ「ペ」ハ本件及第五条ノ意味ヲ解シ得ザルヤニ認メタリ）軍事協定第二条第二項ハ今少シク明確ニ書キ現ハサバ必ズシモ承諾シ難キニアラズ海軍力制限ハ貴電第一三四号ノ書キ方ニ依ルモ之ヲ承諾スルヲ得ズ撤兵期限ニ関シテハ秘密協約ニ依ルモ可ナルニ付本協定締結ノ日ヨリ五十日以内トセラレタシ（之ニ対シ本官ハ我方ハ秘密協約ヲ望マズ撤兵協定ニ要スル日数ハ僅少ナリト信スルモ此日数ヲ考量ニ入レザルガ如キ約束ハ日本人トシテ之ヲ為スヲ得ズト答ヘ置キタリ）ト云ヘルニ付本官ハ此ノ如クンバ前日ノ話ト毫モ異ナルコトナク遺憾ナガラ本日政府ヨリ受取リタル電報ノ通リ声明セザルヲ得ズト述ベ貴電第一三五号ノ趣ヲ先方ニ伝ヘタリ

右ニ対シ「ペトロフ」ハ日本政府ハ撤兵ノ意思ナキモノト認メ総テノ事情ヲ「ゼノア」会議ニ報告シ列国ノ批判ニ待ツヘシト云ヘルニ付本官ハ之ニ対シ日本ハ斉多政府ハ大連会議ニ於テ日斉関係ヲ定ムルノ意思ナキガ為大連会議ヲ断絶シタリト「ゼノア」会議ニ於テ声明シ得ヘシト答ヘ置キタリ

右会議ニ於テ本官ノ得タル感想ニ依レバ「ペトロフ」帰還後或ハ斉多政府ヨリ在支公使館又ハ在哈爾賓総領事館ヲ経テ譲歩的提案ヲ為スヤモ知レズ

四二八　四月十九日　在瑞典国畑公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

大連会議ニ関シヤンソン外相ノ為セル日本非難ノ談話報告ノ件

第一一九号　（四月二十日接受）

佐々木ヨリ左ノ通

在当地露国公使館ハ四月四日附情報ニテ又々日本ノ対極東共和国政策ノ攻撃ヲ為シテ曰ク日本ハ公々然其掠奪政策ヲ続行セリ即極東共和国外務大臣「ヤンソン」氏ハ大連会議ニ関スル会見談ニ於テ左ノ通語レリ

日本人ハ努メテ談判ヲ遅延セシメシガ輓近白軍トノ関係上更ニ談判ヲ再開セリ日本人ハ極東露領ニ於テ特殊ノ利権ヲ得ントシテ極東共和国ノ領土内ニ於テ日本臣民ノ為ニ商工業上ノ特権黒龍江及松花江ノ航行権日本軍隊ノ駐屯沿海州ニ於ケル要塞ノ破壊及日本ト其建設ニ係ル白軍政府トノ条約ノ承認ヲ要求シ且極東共和国内政監督ノ目的ヲ達セントセリ談判続行中日本ノ代表者ハ或種ノ要求ハ棄権シタリシガ現在ニ於テハ日本ハ吾人ガ到底承諾シ能ハザル条件ヲ提出セリ極東共和国代表ハ勿論露領ヨリ日本軍ノ撤退ヲ要求セルガ多分日本ハ近キ将来ニ撤兵スル事無カルベシ何トナレバ吾人ハ余リニ弱クシテ実力ヲ以テ撃攘スル事能ハザレバナリ但日本ハ駐兵セルガ為何等ノ利益ヲモ得ル事能ハザルベシ既ニ目下下層ノ国民ハ日本人ヲ嫌厭シ居レリ若シ軍事干渉継続センカ露国人ハ挙ゲテ各個ニ反抗シ日本ノ全部ニ対シテ「ボイコット」ヲ行フニ至ルベシ（不明）掠奪スル事ヲ得ベシト雖モ両国ノ有利ナル共存生活ハ之ヲ求ムベカラズ

「ゼノア」ヘ転電セリ

四二九　四月二十日　松島政務部長（大連出張中）ヨリ
内田外務大臣
在浦潮政務部）各宛（電報）

松島政務部長一行大連出発帰朝ノ件

合第一二九号　（四月二十日接受）

本官島田副領事米川属ハ二十日大連出発帰朝ノ途ニ就ク同日島田領事ハ浦潮ヘ立右書記生ハ牛荘ヘ向ケ出発ス軍事委員ハ二十一日出発ノ筈

政務部追電

「松村ヘモ伝ヘラレタシ」

四三〇　五月九日　在浦潮永井政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛

ペトロフニ依ル大連会議ノ経過報告ニ関スル件

軍政送第二二号　（五月十五日接受）

大正十一年五月九日

浦潮派遣軍政務部長代理
副領事　永井　清（印）

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

「ペトロフ」ノ大連会議経過報告ニ関スル件

四月二十五日知多ニ開催セラレタル職業同盟幹部会ニ於テ「ペトロフ」ハ大連会議ニ関シ報告スル処アリタリトテ同月二十八日知多発刊極東共和国政府機関紙「ダリネウオストーチヌイ、テレグラフ」新聞ニ別紙訳文ノ通リノ記事有之候ニ付此段及報告候　敬具

（別紙）

（訳文）

大連会議ニ対スル日、知双方ノ態度ハ当初ヨリ全然異ナリ居リ我方ノ目的ハ日本側ニ対シ全部撤兵ノ要求ヲ貫徹スルニアリタルカ日本側ハ極東共和国及労農露国トノ間ニ通商及経済上ノ協約ヲ締結スルヲ以テ会商ノ主眼ト為セリ斯ノ如ク会議ニ対スル双方ノ出発点同シカラサルヲ以テ会議ノ劈頭ニ於テ先ツ会議ノ目的ヲ闡明論議スルコトトナレリ日本側代表カ単ニ極東共和国ノミナラス労農露国トノ間ニモ通商及経済上ノ協約ヲ締結セントシテ大連ニ来レル以上我方トシテハ当然同会議ニ労農露国代表ヲ招致スヘキコトヲ主張スルノ必要アリタリ斯クテ我方ハ日本軍撤退問題ヲ最初ノ討議ニ附センコトヲ主張シ日本側ハ通商協定問題ヲ最初ニ審議センコトヲ要求シテ相譲ラス我代表ハ既ニ大連会議開会以前ヨリ両国ノ妥協点ハ日本ノ全部撤兵ト或ル種ノ協定締結ニアルコトヲ屢々言明セリ日本側ハ一回モ撤兵ニ対ン反対ノ意ヲ表明セスシテ唯基本協約ノ締結後ニ於テ沿海州撤兵問題ヲ解決シ又尼港事件問題ノ解決後ニ於テ薩哈嗹北部ヨリノ撤兵問題ヲ協定スヘキコトヲ極力主張セリ日本軍ノ全部撤退ヲ要求スルト共ニ我方ハ其後ノ会議ニ於テ尼港事件問題ヲ薩哈嗹撤兵問題ト切離シ且ツ尼港事件ニ対スル責任ヲ負ハスシテ討議セリ其ノ結果遂ニ日本軍ノ薩哈嗹北部ヨリ撤退セサルニ依リ極東共和国ハ尼港事件ニ対シ責任ヲ負ハストノ決論ニ到達スルコトトナレリ

日本カ薩哈嗹ヲ六十ケ年ノ期限ヲ以テ租借セントスル希望ヲ有スルコトハ同問題ニ関スル其後ノ討議ニ依リテ判明セリ我代表ハ此要求ニ同意ヲ与ヘス且ツ極東共和国ニ於ケル如何ナル特殊利権ヲモ日本ニ提供スルヲ拒絶スル旨ヲ言明セリ此時恰モ我方ヨリ二十九ケ条ヨリナル協定案ヲ提出シタルニ対シ日本側ハ十七ケ条ヨリナル対案ヲ提出セルカ我方ハ全部之ヲ受諾セス唯其後久シキニ亘リ討論セル結果日本ノ対案ニ依リ双方ヨリ漸ク折合ヲ見タル次第ナリ即チ第一条ノ宣伝問題ニ関シテハ妥協成立シ第二条ニ関シテハ日本側ハ白軍ヲ支援セサル代リニ我方ハ朝鮮独立運動者ヲ支援セサルコトニ依リ折合ヒタリ其他第三条乃至第七条等ニ関シテハ多大ノ支障ナク妥協成立セリ第八条（浦潮ヲ自由港トナシ同港ノ要塞ヲ撤去スヘシトノ要求）ニ関シテハ数回ニ亘ル討論ノ後我政府ヨリ浦潮要塞ヲ使用セサル旨ノ宣言書ヲ発スルコトニ依リ妥協セリ第九条及第十条ハ故障ナク受諾セリ第十一条ハ我工業ノ略取、沿海州ノ戦略的占

領、土地所有権等ノ要求ニシテ我極東共和国ヲ経済的ニ全然奴隷化セントスルノ条件ナルガ久シキニ亘ル討論ノ末我国ノ鉱山及沿岸貿易ノ利権ヲ提供スルコトニ決着セリ第十二条ヨリ第十七条迄ノ全条項ハ何等討論ヲ経スシテ容認セリ

斯クノ如クシテ対案ニ対シ妥協成立スルト共ニ愈々撤兵及通商協定ニ関スル予備商議ニ移ルコトトナリタルカ華府会議開始当時ヨリ日本側代表ハ急ニ焦躁的態度ヲ示スニ至レリ即チ彼等ハ華府会議ニ臨ム以前ニ於テ西比利亜問題ノ解決ヲ了セントノ希望ヲ抱キ居タリ之ニ反シ我方ハ華府会議カ沿海州問題ヲ解決スルナラント期待シ居タルモ米国ハ華府会議ニ於テ沿海州問題ニ関シ日本ニ行動ノ自由ヲ与ヘタリ

華府会議開会当時我方委員ハ時機ヲ待ツノ態度ヲ持スヘキ訓令ニ接シタルヲ以テ我方ヨリ会議ヲ遷延セシムル方針ヲ採リタリ当時我等ノ執リタル態度ニ対シ日本側ハ頗ル躍起トナルニ至レリ華府会議終了シ米国ハ我等ヲ裏切リ日本ハ其政策ヲ変スルニ及ヒ我等ト日本代表トハ其態度ヲ互ニ転換スルノ形トナレリ基本協約及撤兵ニ関スル協定案漸ク成ルニ及ヒ我等ハ日本政策ヲ察知シ居タルヲ以テ先ツ第一ニ撤兵協定ニ調印センコトヲ主張セリ然ルニ日本側ハ最初ニ基本協定ニ調印センコトヲ協力主張シテ止マス遂ニ四月十五日ニ至リ双方ヨリ最後通牒ヲ提出シタリ現下ノ状態ニアリテハ若シ「ゼノア」会議ニテ露国問題ノ満足ナル解決ヲ見サルニ於テハ我共和国ハ極メテ困難ナル立場ニ陥ルナラン即チ我等ハ日本軍ノ長期的占領ノ厄ヲ忍ハサルヘカラス斯カル日本ノ政策ニ対シ我等ノ採ルヘキ唯一ノ手段ハ他無シ挙国一致以テ対干渉ノ争闘線ヲ組織シ之ニヨリテ日本ノ圧迫ニ対抗スルコト即チ是ナリ

二　長春会議関係

四三一　四月二十七日　在ハルビン山内総領事ヨリ内田外務大臣宛（電報）

チタ政府外相ヨリ内田外務大臣宛公文ヲ同大臣ニ伝達方在ハルビンチタ政府代表者ヨリ依頼越ノ件

第六六号　（四月二十八日接受）

斉多政府外相「ヤンソン」ヨリ大臣宛ノ公文伝達アリタキ趣ニテ在当地斉多政府代表「オゾールニン」ヨリ四月二十六日本官手許迄送附越セリ其ノ大要ハ大連会議中止ノ責ヲ日本ニ嫁シ撤兵問題ニ関シ其ノ撤兵期限ヲ明示セザルハ日本累次ノ声明アルニモ拘ラズ不安ノ念ヲ去リ難ク更ニ会議中止後ニ於ケル派遣軍ノ行動ヨリ推スルモ日本ハ沿海州ニ於テ或ル種ノ目的ヲ包蔵スルヤノ疑念ナキ能ハス極東露領ニ於ケル日露経済的協調ハ日本軍ノ撤兵ヲ待チテ之ヲ期待シ得ベク我政府ハ全力ヲ尽シ之カ目的達成ニ努ムベキモ両政府間今後ノ親善ニ向ツテハ日本ヨリモ同様ノ誠意ヲ披瀝セラルル場合始メテ之ヲ望ミ得ベシト結ビアリ

右公文ハ郵送ス尚「オゾールニン」代表ニ対シテハ本官ヨリ何等回答ヲ為サザル筈ナリ因ニ右公文ハ二十六日当地発刊左党側新聞ニ全文掲載シアリ

浦潮及在支公使ヘ転電セリ

（長春中継四月二十七日後二、四五）

四三二　四月二十七日　在ハルビン山内総領事ヨリ　内田外務大臣宛

チタ政府外相ヨリノ公文伝達ノ件

極東共和国外務大臣「ヤー、デー、ヤンソン」ノ命ニヨリ左記日本帝国外務大臣宛文書至急御伝達相成度御依頼申進候

記

四月十六日日本帝国政府代表ハ大連ニ於ケル極東共和国代表者ニ対シ実際ノ状態ヲ明カニスル為日本政府ノ命令ニヨリ極東共和国トノ商議ヲ中断スル旨声明セリ

極東共和国政府ノ商議ノ中断ガ一ニ日本帝国政府側ニ係ル原因ニヨリ発生シタル事ヲ指摘セントス即チ已ニ四月始メ迄ニ両国政府代表委員ノ間ニ通商条約並ニ其他両国ノ相互関係ノ諸問題ニ関スル協議ハ完全ニ達成シ通商条約其他経済及政治問題ニ関スル附属文書ノ各条項ノ草案モ一致ヲ見又総テノ文書ノ作成ヲモ協定セラレ両国委員ハ速カニ之等ノ調印ヲ為シ直チニ此ノ協定ノ堅キ基礎ニヨリテ商工業協同事業ヲ設定シ得ルノ状態ニ在リタルモ唯日本軍ノ沿海州撤兵問題ノミハ協定ヲ見ルニ至ラザリキ大連商議中此ノ問題ハ屢々提議セラレ日本側委員ハ一再ナラズ該問題ハ双方ノ間ニ一般的協約締結ノ可能ヲ認メ得ルヤ否ヤ直チニ決定的且ツ絶対的ニ解決セラレ撤兵

附記　四月二十六日附在ハルビンチタ政府代表者ヨリ山内総領事宛書翰和訳文

公第一六六号　（五月二日接受）

大正十一年四月二十七日

在哈爾賓

総領事　山内　四郎（印）

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

知多政府外相ヨリ閣下宛公文写送附ノ件

四月二十七日在当地知多政府代表ヨリ本官手許迄送附シ来レル標題ノ如キ公文ニ関シテハ不取敢該電第六六号ヲ以テ報告申進候処右全文玆ニ及御送付候条御査閲相成度此段申進候也　敬具

本信写送先　在支公使　浦潮総領事

註　在ハルビンチタ政府代表者ヨリ山内総領事宛書翰（露国語）ヲ省略シ同書翰ノ和訳文（仮訳）ヲ附記トシテ左ニ掲載ス

（附記）

四月二十六日附在ハルビンチタ政府代表者ヨリ山内総領事宛書翰和訳文

チタ政府外相ヤンソンヨリ内田外務大臣宛公文伝達方依頼ノ件

ハ実施セラル可キ旨声明シ居タリ

四月始メニ至リテ愈々右協約締結ノ可能ナルコト全ク明白トナリ商議ハ撤兵ニ関シ文書ヲ以テスル声明ノ作成ノ必要ニ及ヒタルヤ此ノ問題ニ関シ両国委員最後ノ会議ニ於テ日本政府ハ日本軍ノ沿海州撤兵ノ必要ニ関スル最初ノ意見ヲ変更セシコト表明セラレタリ、両国間ニ作成セラレタル一般通商条約ノ基本案文ノ存在スルニモ拘ラス日本政府ハ撤兵ノ時期ヲ確定スヘキ文書ヲ附与スルコトヲ拒絶シ之ニ代フルニ日本側代表ハ撤兵時期ニ関スル商議ハ之ヲ一般通商協約調印後撤兵期限ノ決定事務ヲ開始スヘキ特別軍事委員会ニ移スヘキコトヲ申出デタリ斯ノ如キ提議ハ撤兵ノ実現ヲ不定時期ニ停頓セシムルノ帰結ヲ為サシムルモノナリ蓋シ軍事委員会ガ如何ナル撤兵期限ヲ案出スルヤ予見シ難ク且ツ極東共和国政府側ノ関知セザル何等カノ事由ガ斯カル委員会ノ事務ノ良好ナル終決ニ対シテ何等支障ヲ与ヘ得ザル事ノ信念ヲ有セザリシヲ以テナリ撤兵ヲ数ケ月或ハ一ケ年若クハヨリ以上長キ期間遅延セシムルコトハ日本帝国政府ガ最初本問題ハ一般通商協約締結ノ可能ナルコト闡明次第ニ解決セラルヘ

シトノ声明ニ反スルモノナリ、極東共和国代表ハ日本軍ノ沿海州屯在スル以上日本ト極東共和国トノ間ニ於ケル通商其他経済的関係ハ事実上不可能ニシテ商業関係モ亦実際的意義ヲ有セサルガ故ニ斯ノ如キ撤兵延期ニ同意スルヲ得サリシナリ

斯ノ如クニシテ遺憾乍ラ日本ト極東共和国トノ会商ノ中断ハ専ラ日本帝国政府カ撤兵問題ノ解決ヲ希望セザリシガ故ニ齎サレタルニ外ナラサルモノト断定スルニ至レリ

沿海州ニ於ケル日本軍ノ状態ニ関スル情報ハ日本帝国軍隊側カ沿海州占領地帯拡張ノ為有ユル手段ヲ採リ居ルヲ示シ日本軍諸部隊ガ従前ノ配備地域ヨリ遙カニ前進シツツアルヲ指示セリ即チ烏蘇里鉄道東方約五十露里ニアル「ヤコウレフカ」及「チェルニショフカ」両村並ニ「エブゲニエフカ」「ムーチナヤ」駅ハ日本軍ニヨリテ占領セラレタリトノ情報アリ

四月二十一日日本軍諸部隊ハ烏蘇里駅ヨリ北方ノ同距離ニ在ル「ブロハスコ」駅迄近迫セリ此ノ日本軍占領地帯拡張ト日本政府カ会商ニ於テ撤兵問題ノ解決ヲ拒絶セシコトト相俟ッテ日本帝国政府ノナセル友好並ニ平和確証ニ反シ沿海州ニ関スル政府特殊ノ計画ヲ有シ居ルコトヲ想像セシムルモノナリ

極東共和国政府ハ之等日本帝国政府ノ意図ハ合法的且ツ公正的ノモノト認ムルコトヲ得ザルト同時ニ極東共和国領域内ノ日本軍隊ノ引続キ駐屯ヲ弁明スル何等理由タルヲ得サルコトヲ宣明スルノ要アリト認ム、極東共和国政府ハ極東露領ニ於ケル平和状態並日本ト極東西比利トノ経済的協同事業ハ一ニ日本軍ノ露国領土ヨリ全然撤退スルコトニヨリテノミ設定シ得可キモノト思考ス極東共和国ハ之等ノ目的達成ノ為ニ全力ヲ尽スヘシ依テ両国政府今後ノ交渉ニ日本帝国政府側ヨリ同様ノ努力ヲ表示セラルルコトニヨリテノミ成功スヘキヲ玆ニ声明ス

「チタ」市　一九二二年四月二十四日

外務大臣　ヤンソン

前記ノ次第御通知申上ケ本委員依頼ノ趣御実行ノ上何分ノ御回報相煩度此機ヲ利用シ貴下ニ対シ敬意ヲ表シ候

一九二二年四月二十六日

エ、オザルニン

（東清鉄道租借地帯ニ於ケル極東共和国特派全権委員）

山内総領事殿

四三三　五月十三日　内田外務大臣ヨリ在ハルビン山内総領事宛

チタ政府外相ヨリノ公文ニ対シ回答ノ件

附属書　五月十三日附内田外務大臣ヨリチタ政府外相宛回答覚書

欧一機密第二〇号

ヤンソンノ公文ニ対スル覚書送附ノ件

客月二十七日附公第一六六号ヲ以テ御送附相成タル斉多政府外務大臣「ヤンソン」ヨリ本大臣宛公文ニ関シ在貴地斉多側代表者ニ対シ別添露文(註)覚書ヲ交附相成ル様致度此段申進候也

註　露文覚書省略

（附属書）

五月十三日附内田外務大臣ヨリチタ政府外相宛回答覚書

大連会議不調ノ原因ニ付テハ客月二十四日附斉多政府外務大臣「ヤンソン」氏ノ内田外務大臣ニ宛テタル書翰ニ徴スルニ斉多側ニ於テ種々誤解アルモノノ如シ斉多政府ニ於テハ通商事項ニ付テハ日斉代表者間ニ全部意見合致セルモノノ如ク吹聴シ居ルモ尚不一致ノ点アリタルハ蔽フベカラザル事実ナリ而シテ斉多側ニ於テハ日本代表者ガ斉多ノ希望ニ応ジテ撤兵ノ期限ヲ示シタルニ当リ其期限ノ起算点ヲ撤兵協定成立ノ時ト為セシヲ以テ日本側ニ撤兵ノ意思ナキモノト速断シタルハ甚シク誤レルモノニシテ帝国政府ノ真意ハ一刻モ速ク斉多政府ト撤兵後ニ於ケル各種ノ保障ニ関シ協定ヲ了シ直ニ撤兵ヲ断行セント欲シタルモノニシテ唯タ撤兵協定ニ重キヲ置キタルハ撤兵ニ伴フ秩序紊乱ノ危険ヲ防止シ彼我ノ便益ヲ計ラントスルノ趣旨ニ出デタルト斉多側ニ於テ撤兵協定ニ当リ不当ノ要求ヲ提出センコトヲ予防セントシタルモノナリ右協定ハ単ニ細目ニ関スルモノナルヲ以テ已ニ斉多側ニ於テ妥協的精神ヲ有スル以上極メテ短期間ニ終了スヘキ筈ナリ帝国政府カ撤兵ヲ決定セル以上迅速ニ之ヲ実行スヘキハ已ニ後貝加爾州並黒龍州ヨリ撤兵セシトキノ実例ニ徴スルニ一点ノ疑ヲ容ルル余地ナキモノナリ然ルニ尚我方ノ誠意ヲ疑ヒテ前記ノ如ク速断セルハ斉多政府代表者カ日本政府ニ対スル観察ヲ誤リタルカ或ハ斉多側ニ於テ此際何等ノ協定ヲ帝国政府ト締結スルコトヲ故意ニ避ケタルモノト認ムルノ外ナシ帝国政府ハ当初ヨリ今日

ニ至ル迄露国民ト隣邦ノ誼ヲ厚ウシ一日モ速ク極東ノ政情安定シテ経済的交通ノ回復シ更ニ発展センコトヲ冀フノ意思ニ於テ渝ルコトナシ

四三四　五月二十日　松平欧米局長〔アントーノフ〕会談(一)

日本側及チタ側間交渉再開ニ関スル件

大正十一年五月二十日松平局長「ダリタ」通信員「アントーノフ」引見概要

「アントーノフ」

日斉関係ニ関スル「チタ」宛暗号電報郵送ノ御許可ニ対シテハ感謝スル処ナルガ其後熟考ノ結果電報信書等ニテハ充分意ヲ尽シ難キノミナラス本案ニ関シテハ「チタ」側ト充分意見ヲ闘ハシ日斉交渉再開ノ促進ニ努力シ度キ決心ニテ来週月曜又ハ火曜ニ出発「チタ」ニ赴キ度ニ就テハ此際貴見相伺置度シ

松平局長

其レハ宜敷カラン只玆ニ貴方ノ注意ヲ喚起シタキハ日斉交渉再開ニ要スヘキ先決問題トシテ「チタ」側ガ克ク日本国民及政府当局ノ真意並ニ日本国民性ヲモ諒解シ大局ニ着眼シテ従来ノ猜疑ヲ捨テテ誠意ヲ以テ事ニ当ルヲ要スベキ点ニアリ若シ依然真摯信誼ヲ欠キタル態度ヲ持続スルニ於テハ幾度会商ヲ重ヌルモ無益ナラン元来日露両国民ノ融和提携ハ双方殊ニ露国側ニ取リ其現下ノ窮状脱却上必須有利ノ事タルベキニ「チタ」側従来ノ遣リ口ハ全然之ニ反対セルハ了解ニ苦シム処ナルガ現ニ大連会議ニ際シテモ我方ガ誠意ヲ以テセルニ対シ「チタ」側ハ之ニ信頼セズ撤兵ノ如キ日本国民及当路共（殊ニ陸軍側モ）之ヲ欲シ既ニ決定且ツ準備アリシニ拘ラズ「チタ」側ガ之ヲ疑ヒ少クトモ之ヲ口実トシテ会議ヲ中絶セシメタルコト、事毎ニ旧套手段タル曲解捏造説ヲ宣伝シテ我ヲ中傷シ来レルガ如キハ不都合ナリ如此ハ共産主義ノ侵入ニ対シテハ飽迄闘ハザルベカラザルモ共産主義ノ外露国民乃至其政権ニ対シ何等敵意ヲ有セザルノミナラズ寧ロ同情ト援助ヲ以テ当ラントスル我国民ヲ駆リテ遂ニ敵愾心ヲ誘発セシメ結局主眼タルヘキ両国親交ヲ害スルニ至ルベシ要之問題ノ解決ハ一ニ「チタ」側ノ出様一ツニ懸レリ貴方ハ此諸点ヲ充分自覚シテ直面目ニ出直サザルベカラズ尤モ交渉再開ノ儀ハ貴下ノ発意ニ依ル処ニシテ

「チタ」側ガ果シテ誠意ヲ以テ申込ム場合ハ我方之ニ応ズルヲ得ベキモ此際我ヨリ提議スルモノニアラザル事ハ明ニシ置カレ度シ

「アントーノフ」

貴諭了承、自分及露国人一般ガ日本国民トノ親善関係設定ヲ希望セルハ無論ノ儀ニシテ同目的ノ為ニ開催セラレタル大連会議ガ一般問題ニ於テ略ボ妥協セラレタルニ係ラス撤兵協定ノ一点ニ於テ乍遺憾中絶ヲ見ルニ至リタルガ貴示我方ノ疑念乃至悪宣伝等ハ日本軍隊ノ領内駐屯其物ニヨリ誘致セラルルモノト信ズルニヨリ本問題ヲ再ビ議スルニ当リテハ予メ双方共妥協調和ノ精神ヲ有スルヲ要シ且ツ其精神ニ於テ予メ何等カ妥協点ヲ捉ヘ置ク必要アリト思惟ス

尚露領問題ヲ根本的ニ解決スルニハ交渉案件ノ性質ニヨリテハ勢ヒ「ソヴィエト」政府ノ参加ヲ要スヘキモノアルベキニ付キ三政府会商ノ議如何ヤ貴見伺ヒ度シ

松平局長

撤兵協定ノ如キ屢述ノ通リ既ニ我方ニ於テ撤兵ノ決心ヲ有スル以上「チタ」側カ之ヲ信頼サヘスレバ左程面倒ノ問題ニアラズ要ハ「チタ」側ガ我方ノ所言ニ信ヲ置キ小節ニ拘泥セズ大局ニ意ヲ致ス決意サヘアラバ容易ニ解決スヘシ三政府会商ニ関シテハ「チタ」側ノ態度ト申出内容ノ如何ニアリテハ更ニ考量ノ余地ナキニアラザルベシト思考ス尤モ本日ノ会談ハ全部全然予ノ私見トシテ忌憚ナク語レルモノナルヲ以テ公表セラルベキモノニアラザルコト及貴下今回ノ「チタ」行企図ノ内容モ秘シ置カルルコト可然

「アントーノフ」

貴意逐一之ヲ諒解セリ予ハ可成速カニ日露間ノ協約成立シテ両国民ノ親交関係増進センコトヲ祈ル今次ノ赴斉ハ外界ニ対シテハ単ニ「ダリタ」社関係事務ノ為ナルヲ装フベシ

再渡航ニ際シ哈爾賓総領事館ニ於テ旅券査証ヲ与ヘラルル様予メ御配慮ヲ乞フ云々

四三五　六月十二日　松平欧米局長〔アントーノフ〕会談(二)

日本トノ交渉再開ヲチタ側希望ノ件

大正十一年六月十二日「ダリタ」通信員「アントーノフ」松平局長ヲ外務省ニ来訪正午乃至午後一時ノ会談要領覚

「アントーノフ」
予ハ知多ニ滞在スルコト五日ニシテ帰来セルガ同地当局ノ意見ハ予想ニ反シ孰レモ誠心誠意日本ト交渉ヲ再開センコトヲ希望ス只交渉再開ニ先チ次ノ二点ニ関シ貴方ノ御同意ヲ得置キタキ所存ナリ
一、談判ヲ日本代表ト知多及莫斯科ノ合同代表トノ間ニ行フコト
二、撤兵完了ノ最終期日ヲ明示スルコト但シ此ノ明示ハ日本ノ希望ニヨリ秘密トナスヲ得ベシ

局長
右二点ニ関シ予ノ意見ヲ述ブルニ先チ貴下ノ御注意ヲ喚起スルコトアリ予ハ華府会議当時「スクヴィルスキー」ノ例モアリ貴下ガ出発ニ際シ呉々モ御注意シタル通リ日本政府ニ於テ談判ノ再開ヲ提議スル次第ニアラザルハ諒解シ居ラルル筈ナルガ陸軍側ヘノ情報ニヨレバ「ニキフォロフ」ハ武市ノ職業同盟ニ於テ貴下ノ帰国ハ日本ガ知多ニ対シ大連会議ノ再開ヲ懇願センガ為ナリト演説セル由ナルガ斯カル「プロパガンダ」的行為ハ甚ダ不都合ニシテ日本人ニ悪印象ヲ与ヘ相互ノ為好マシカラザル結果ヲ

齎スコト之ナリ
「アントーノフ」
貴下ノ御注意ハヨク之ヲ記憶スルモ「ニキフォロフ」ノ演説ハ初耳ナリ予ノ知多ニ到着セルハ五月三十日ニシテ「ニキフォロフ」トハ会見セザリキ予ハ政府其他ニ対シテ全ク自分一己ノ発意ニテ帰国セルモノニシテ日本政府ノ「イニシアチヴ」ニアラザルコトヲ報告シ知多新聞記事中ニモ貴下ガ申サレタルガ如キコトヲ掲載セルモノナシ、ソハ恐ラク何等カノ誤報ナラン何月何日「ニキフォロフ」ガ斯カル演説ヲナシタリトノ情報ヲ有セラルルニヤ

局長
右ハ御注意迄ニ申上クル次第ニテ之ヨリ本問ニ入リ貴下御申出ノ二点ニ関シ私見ヲ述ベ度キ考ナルガ莫斯科政府ノ代表者ヲ参加セシムルト云ハルルハ如何ナル資格ニテ参加セシムル御考ナリヤ莫斯科政府代表者トシテ協定ニモ調印ストノ意ナリヤ

「ア」　然リ協定ニモ知多代表ト相並デ調印セシムルコト致度キナリ

局長　独立国タル極東共和国ト日本ガ協定スルニ当リ莫斯科代表ヲ参加セシムルコトハ知多政府ノ独立ヲ弱ムルノ意味トモナリ又之ヲ欧露ニモ適用スルモノトセバ「ゼノア」会議「ヘーグ」会議ノ関係モアリ列国ヨリ日本ガ莫斯科ト単独ニ協議シツツアリトノ非難ヲ受クル虞ナキニアラズ漁業等ニ関シテハ莫斯科代表者ノ参加ヲ認ムルコト有リ得ベキモ一般会議ニ之ヲ参加セシムルコトハ如何カト存ズ

序ナガラ御尋ネス　知多ハ今後共独立ヲ維持スル御考ナリヤ

「ア」　知多ハ莫斯科ト密接ナル関係アルモ莫斯科ニ対シテハ依然独立ヲ保チ之ト併合スルガ如キコトナカルヘシ莫斯科代表参加ニ関スル貴見一応御尤ト存スルモ漁業問題ノ外ニモ種々労農政府ノ参加ヲ必要トスル問題アル外「ゼノア」ニ於テ非侵略ニ関スル協定成リタル次第ナレバ撤兵ニ関シ莫斯科ノ参加ヲ認メ貴我ノ間ニ交渉スルモ何等世界ノ誤解ヲ招クガ如キコトナカルベシト存ス

局長　非侵略協定ト西比利亜駐兵トハ何等ノ関係ナキコトハ「ゼノア」ニ於テ明ニ了解セラレ居ル所ナリ尤モ此点ニ就テハ更ニ論議スルノ要ナシ日本ト知多間ノ交渉ハ主トシテ通商ニ関スルモノナリ然シ話ガ協定自体ノ話ニ深入リスルコトトナルヲ以テ之ニテ打切リ確答ハ何レ上司ト打合ノ上ニ致スヘシ

次ニ撤兵最終期日ノ明示ナルガ一般協定調印ニ際シ何日迄ニ撤兵スト明示スルガ如キハ殆ド不可能ナラント思考ス知多政府ニシテ徒ラニ日本ヲ疑フコトナク誠心誠意日本ト協定スル意向ナルニ於テハ撤兵問題ノ解決ハ困難ナラズト信ズ

「ア」　予ハ決シテ貴下ノ誠意ヲ疑フモノニアラザルモ日本ガ協定調印ニ際シ撤兵期日ヲ明示スルヲ欲セザルト同シク知多モ日本カ撤兵期日ヲ明示セザレハ協定ニ調印スルヲ欲セザル次第ナリ

局長　要スルニ撤兵問題ハ知多ニ於テ日本ヲ信用スレバ満足ニ解決セラルル問題ナリ日本ハ確カニ撤兵ノ意思アレバナリ
知多ハ誠心誠意日本ト交渉ヲ再開スルコトヲ希望スルヤ

「ア」　知多ハ誠心誠意之ヲ希望スルノミナラズ政治上経済上否ヤデモ応デモ之ヲ再開セザルベカラザル羽目ニア

リ露国民ハ平和ヲ好愛スル国民ナリ一九〇四年露国ハ日本ニ敗レタルモ日露ノ関係ハ其後円満ニ発達セルニアラズヤ露国ハ何等侵略的野心ナク又今日ノ処事実上之ヲ有スルコト能ハザルモ他国ヨリ強ヒラルレバ其軍隊ヲ養ハザルベカラズ露国民ガ日本ニ対シ反感ヲ有スルトセバ其ハ日本国民ニ対スル反感ニアラズシテ干渉ニ対スル反感ナリ客観的ヨリスルモ日露両国ハ親マザルベカラズ之レ太平洋ノ平和ヲ保障スル所以ナレバナリ予ハ知多政府ヨリ将来貴政府トノ間ニ再開セラルヘキ談判ノ性質、時日及場所ニ関シ日本ト予備的談判ヲナスノ権限ヲ委任セラレタリ

局長　予ハ露国々民性ト日本ノ国民性トノ間ニ多クノ類似点アルヲ信ズ知多ニシテ誠意アラバ談判ハ一ケ月ニシテ終了スベシト思考ス知多政府ハ何人ヲ以テ談判委員トナス考ナリヤ又談判地ニ関スル貴見如何

「ア」　委員ハ未ダ確定シ居ラズ貴下迄内密ノ話ナルガ実ハ自分ニモ委員タルベキ内相談アリタルモ予ハ種々ノ事情ヨリ一応之ヲ辞退シ置ケリ又談判地ニ関シテハ前回ハ知多側カ日本ノ客分トナリ大連ニテ談判シタレハ今回ハ知多ニ日本側ヲ招待シタキ考ナリ交通モ平常ノ状態トハ云ヒ難キモ不便ナキ様取計フヘシ然シ之ハ第二第三ノ問題ナリ

局長　日本ガ談判地トシテ知多ニ同意スルハ困難ナラン次ニ知多政府ノ当局ハ以前ノ通ナリヤ

「ア」　知多政府ノ首班ハ依然「マトヴェーエフ」ニシテ「ニキフォロフ」ハ総理ナリ、先日「ペトロフ」ガ首班「マトヴェーエフ」ニ代ハレリトノ電報ハ「ペトロフ」カ大連ヨリ知多ニ帰リ以前ヨリ辞職ニ確定シ居リシ内相「マトヴェーエフ」（首班ノ兄弟）ニ代リテ内相トナレルヲ誤報セルナリ尤モ「ペトロフ」ハ「ニキフォロフ」武市ニ旅行中臨時総理タリ

局長　貴下申出ノコトハ上司ニ報告スベク其ノ内改メテ御出デヲ願ヒ回答ヲ申上グルコトトナルベシ（終）

四三六　六月十六日　在波蘭国川上公使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

チタ政府ノミヲ相手トセズ莫斯科政府ヲモ同列ニ置キ各種ノ問題ヲ解決スルヲ以テ最善策トスベキ旨稟申ノ件

第七三号　（六月十八日接受）

（極秘）露国内外ノ政況ニ鑑ミ「レーニン」ガ特殊ノ事変ナキ限リ永ク政権ヲ把持スベシ又仮ニ「レーニン」ヲ失フトモ其ノ後継者ハ依然過激主義者ナルベキコトニ関シテハ客年七月往電第四六号ヲ以テ卑見開陳ニ及置キタル通ナルガ其ノ後莫斯科政府ノ基礎ハ更ニ強固トナリ又永続的トナリ今ヤ急ニ之ニ代ルベキ別種ノ新政府ヲ樹立スルガ如キ殆ンド絶対ニ不可能ナル状態ニ進ミツツアルハ現今内外人ノ殆ンド一般ニ認ムル処ナリ

顧レバ過般ノ大連会議ガ華盛頓及「ゼノア」会議ノ為終ニ失敗ニ終リタルヤノ観ナキニ非ザルモ最初ヨリ莫斯科政府ヲ関与セシメズ単ニ極東共和国政府ノミヲ相手トシテ談判スルモ結局何等ノ効果ナカルベキハ等シク前記拙電中ニ反覆開陳セル所ナリ帝国政府ガ一面実質上共産主義ヲ執リ且莫斯科政府ノ指揮監督ヲ受ケツツアル斉多政府ト交渉シツツ他面莫斯科政府ノ希望ニ反シ其ノ代表者ヲ右会議ニ参加セシメザラントセルハ世人ノ諒解ニ苦ム処ニシテ帝国政府ガ過激派ト交渉スルコトト五十歩百歩タルノミナラズ我対露一般政策上本末ヲ顛倒セルノ誹ヲ免カレズ「ゼノア」会議ハ幸ニシテ何等確定的決定ヲ見ルニ至ラザリシモ若シ不幸ニシテ該会議ニ於テ莫斯科政府ガ列国ヨリ多少ノ資力ヲ供給セラレ又法律上ハ兎モ角事実上ノ承認ヲモ得タランニハ帝国政府ハ将来尼港及漁業ノ如キ重要問題ノ解決ニ関シ露国トノ談判上如何ニ不利益ノ地位ニ立タンカ蓋シ想像スルニ難カラザルナリ今若帝国ニシテ如何ニ許多ノ国帑ヲ消費シテモ又駐兵ニ依リ起ル其ノ他ノ不利ヲモ意トセズ吾ガ兵ヲ西比利ニ駐ムルノ必要ヲ認メ且ツ如何ナル場合ト雖当分撤兵セザルノ決心ヲ有セラルルトセバ即チ止ム、然ラズンバ此際好機ヲ逸セズ今後第一ノ機会ヲ捉ヘ宜シク莫斯科政府並斉多政府ト同一ノ場所ニ於テ同時ニ会談シ撤兵ヲ条件トシテ各種ノ問題ヲ解決スルコト邦家ノ為最善ノ策ト思考セラル

惟フニ帝国ハ極東ニ孤立シ対露関係欧米諸国トハ自ラ其趣ヲ異ニシ特殊ノ地位ニ立テルガ故ニ必ズシモ列国ト其歩調ヲ共ニセザルベカラザルノ必要ナク須ク帝国ハ自己ノ発意ニ依リ単独ニ取極ヲナスノ用意ナカルベカラズ況ンヤ露国ノ接壌国ハ殆ンド総テ正式ニ之ト交通ヲ開キ英、独、伊等ノ列強又既ニ労農政府ト通商取極ヲナシ各々其代表者ヲ露

国ト交換シ米国ニ対シテモ種々ノ形式及方法ニ依リ其銀行業家ハ勿論其代表的人物ヲ入露セシメ何レモ通商ノ準備ニ汲々タルニ於テヲヤ爾来本邦ニ於テハ動モスレバ我対露関係ハ極東露領ニ限ラルルモノノ如ク論ゼラルルモ之皮相ノ観ニ過ギズ戦前ニ於ケル露国ノ通商関係ハ必ズシモ極東ニ限ラズ寧ロ欧露ノ関係一層重大ナリシノミナラズ欧露ニ於ケル中央政府及其通商機関ト密接ナル連絡ヲ有セザレバ極東ニ於ケル案件ハ公私共ニ円滑ニ取運ビ得ザリシハ吾人ノ記憶ニ新ナルトコロナリ抑モ極東共和国ヲ以テ完全ナル独立国ト見做シ又ハ同国ノ声明スル非共産主義ニ信頼スルガ如キハ不用意ノ甚ダシキモノニシテ革命後莫斯科政府ガ各地方ニ対シ独立又ハ自治ノ名儀ヲ貸シ且之ヲ外国ニ吹聴スルモ一億三千万ノ露国民ヲ背景トスル莫斯科政府ノ帝国主義ハ帝政時代ノ夫ト異ルトコロナク内民族ヲ操縦シ外列国ヲ欺罔スルノ政策ニ外ナラズ多数共和国ト云ヒ自治領ト云フモ要スルニ全露国ノ一部分ニ過ギス事大小トナク莫斯科政府ノ意思ニ反シテ決定セラルルコトナキハ露国ノ現状ニ通ズル独波各国人ノ断言シテ憚ラザルトコロナリ今、日露間ノ懸案解決ニ臨ミ莫斯科政府ハ昨今（不明）欠乏ヲ訴ヘツツアル矢先ナレバ、尼港問題解決ノ意味ヲ以テ一定ノ金額ヲ提供シテ樺太ノ一半ヲ買取リ又ハ永代租借スルモ一法タルベク然ラザレバ少クトモ勘察加及樺太ニ優越ナル利権ヲ譲渡セシムルコト亦必ズシモ不可能ニアラザルベシ唯大連会議ニ於ケルガ如キ極東共和国ノ非共産主義声明、浦潮防備撤廃軍事委員ノ極東要地駐在等黒キヲ白シト云ハシメ又戦捷者ガ戦敗者ニ対スルガ如キ観ヲ呈スルノミナラズ先方ノ敵愾心ヲ煽ルノ外大ナル実益ナキ主張ハ寧ロ之ヲ破棄スルニ如カズト思惟セラル

以上ノ所論ヲ以テ徒ニ欧露ト通商ヲ急ギ之ニ望ヲ嘱スルモノナリト断定スベカラズ、縦シ通商ニ関スル予備協定ガ其ノ締結後直接効果ヲ見ル能ハズトスルモ之ニ依リ露国ト円満ナル関係ヲ結ビ我ガ政府ガ其ノ代表者、実業家、視察員等ヲ自由ニ入露セシメ通商開始ノ時期迄種々ノ準備ヲ為スコト最緊急ナリ露国ノ経済的復興ハ極メテ徐々ニ多クノ歳月ヲ要スベシトスルモ嘗テ破壊ヲ之レ事トセル過激派ノ露国モ今ヤ方ニ建設的経済復興ノ準備時代ニ入レルハ何人モ首肯スル処ニシテ此ノ貴重ナル時期ニ於テ独リ日本ガ恰モ露国ト敵対ノ関係ニアルモノノ如ク彼等ガ本邦人ノ入露ヲ許サザルノミナラズ内ハ盛ニ吾ニ向ッテ敵愾心ヲ鼓吹シ外益々排日熱ヲ宣伝シツツアル現状ヲ以テスレバ帝国将来ノ対露発展上吾ハ遂ニ列国ノ後塵ヲ拝スルコトナキヤヲ憂フルノミ本使ハ最近会談ノ機会ヲ得タル林、日置二大使モ大体ニ於テ本使ト反対ノ意見ヲ有セラレザルモノノ如ク帝国政府モ亦撤兵ヲ緊急ノ懸案トセラルルヤニ思考スルニ付玆ニ聊カ卑見ヲ具陳シテ御参考ニ供スル次第ナリ

在欧米各大使、瑞典和蘭公使ヘ郵送セリ

四三七　六月十九日　松平欧米局長（アントーノフ）会談（三）

日本側及チタ側間交渉再開問題ニ関連シ私的意見交換ノ件

松平局長「アントーノフ」会見要領覚

（大正十一年六月十九日午後三時乃至四時五十分、外務省ニ於テ）

松平局長　本日態々御出デヲ求メタルハ先日貴下ヨリ御申出ノ件ニ関シ当方ノ決定的回答ヲ申上グル前ニ先ツ互ニ何等「コンミット」スルコトナク貴下ト隔意ナキ私的意見ノ交換ヲ行ハントスルニアルモ貴下ニ於テ別ニ御異存ナキヤ

「アントーノフ」　異存所ニ非ズ右ハ却テ当方ノ希望スル処ナリ

局長　人心ハ大連会議ニ倦怠セリ依テ今再ヒ大連会議ノ二ノ舞ヲヤルハ甚ダ面白カラサル所ナリ故ニ今回若シ交渉再開ノコトトモナラバ開始後直ニ調印スル如ク迅速ニ取計フコトヲ要ス

「ア」　予ハ貴見ト同感ナリ

局長　以上ノ次第故先ツ予備的談判ヲ以テ膳立ヲ済シ委員ノ正式会見ニハ協定ニ調印スルノミトナスコト可ナラント思考ス而シテ談判ノ迅速ヲ計ルニハ大連ニ於テ既ニ双方ノ意見一致セルモノハ交渉ヲ繰返スコトナク意見ノ一致ヲ見ザリシ点ノミニ就キ交渉ヲナスコト最モ可ナラント思考ス

「ア」　予ニ於テモ同感ナリ

局長　大連ニ於テハ基本協定ニ関シ双方ノ意見大体一致シ僅カニ一二点ニ付一致ヲ見サリシノミナリ此ノ点貴下ニ於テ篤ト御承知ノコトト思考スルモ事実如何ニヤ

「ア」　然リ万事斉多ニテ承知シ来レリ

局長　基本協定ノ条項中双方意見ノ一致ヲ見ザリシ最モ主ナル条項ハ第十条ナリ之ニ関シテハ貴方ニ於テ我方ノ精神ヲ誤解シ居ラルル点アリト思考ス日本ハ曽テ極東共和国内ニ於ケル富源ヲ壟断センコトヲ考ヘタルコトナク先ニ「コジェヴェンニコフ」初メ貴政府員カ屢々我ニ対シ種種有利ナル条件ヲ提供シタル時ノ如キモ日本ハ常ニ門戸開放機会均等主義ニ基キ之ヲ拒絶シタルハ貴下ノ熟知セラルル所ナリ日本ノ提案第十条ハ世界慶福ノタメ旧露帝国政府カ軍事上ノ見地ヨリ世界ニ対シ極東ノ富源ヲ閉鎖シ外国ノ投資ヲ阻止セルカ如キ事態ヲ変更セシメ以テ外国カ安心シテ極東ニ投資シ貴国現下ノ窮状ヲ救済セシメントスルモノニシテ決シテ之ニヨリテ日本カ極東共和国内ニ於テ特殊ノ地位ヲ獲ントスルモノニ非ズ抑モ本条ハ最初貴方ヨリ利権等ヲ提供シ来リタル行掛リ上日本側ニ於テ貴方ノ希望ニ副フ様ニシタルモノナリ貴方ノ対案ハ如何ニモ日本カ独リ或ル特種ノ利権ヲ独占セントスルヤノ印象ヲ与ヘ面白カラザルノミナラズ同条ハ主義ヲ定ムルニモアラズ去リトテ具体的ニ如何ナル「コンセッション」ヲ与フルト云フニモアラズ条約ノ条文トシテ中途半端ノモノナリ且ツ共和国ノ法律ニ準拠シトアルモ法律ハ明日ニモ変更シ得ルモノナルニ付斯カル条文ハ効果尠シ

「ア」　貴意ノ存スル処ハ充分諒解セリ只当方最初ノ考ニヨレバ「門戸開放主義ヲ認メ」ナル貴案ハ意義広キニ過ギ又当方ニ於テ利権ヲ提供セントスルハ概括的ニ孰レノ国ニモ之ヲ与ヘントスルモノニアラズシテ我国ト協定ヲ締結スル特定国人ニノミ与フルモノニシテ此ノ意味ニ於テ特ニ「日本帝国臣民ニ対シ」ナル文字ヲ使用シタル次第ナリ又「コンセッション」ナル文字ヲ使用シタルハ「コンセッション」許与ニ関スル法律ノ条文ヲ引用シタルナリ貴意ニ副フ為ニハ或ハ同条ノ但書トシテ日本ニ許与セラルル権利ハ一般外国人ニモ適用セラルヘキコト及同条ノ準拠スル法律ハ将来之ヲ変更セザルベキコトヲ附記スレバ可ナル次第ナラズヤ極東共和国ハ帝制時代ニ於テ外国ノ投資ヲ禁ジタル沿海州百露里ノ禁止地帯ヲ撤廃セリ尤モ第十条ノ我対案ハ別ニ最終案ニアラザレバ其ノ文案ニ付キテハ互ニ歩ミ寄ルコトヲ得ベシト思考ス

局長　極東共和国ニ於ケル事業ノ如キハ日露合弁トナスコトモ得ヘク労働者ノ如キモ貴方ノ希望ニヨリテハ貴国人ヲ使用スルコトモ得ベシト思考ス

条約ノ条文ハ別ニ「コンセッション」許与ニ関スル法律ノ条文ヲ其儘使用セズトモ可ナラズヤ如何トナレバ該法律ハ「コンセッション」許与ニ関スル手続ヲ定ムルモノニシテ条約ハ主義ヲ定ムルモノナレバナリ

日本帝国臣民ニ許与スル権利ハ之ヲ一般外国人ニモ許与ストノ但書ハ面白カラズ如何トナレバ日本ハ別ニ列国ノ委任ヲ受ケ居ル次第ニアラザレバナリ

之ヲ要スルニ本条ハ貴方ニ於テ当方ノ精神ヲ諒解セラルレバ満足ニ解決シ得ルモノト思考ス

「ア」　極東共和国ニハ外国人経営ノ事業ニ使用スヘキ自国労働者ト外国労働者トノ比例ヲ規定スル法律アリ此ノ法律ハ「コンセッション」ニ関スル法律ト共ニ斉多ヨリ携帯セル筈ナレバ御参考ノ為写ヲ差上グヘシ

局長　左様御願致度シ次ニ問題トナリシハ第五条ナルカ同条中「内国臣民又ハ人民」トアルハ別ニ何等重大ナル掛引アルニアラズ当方トシテ文明諸国間ノ条約中ニ認メアル慣用字句ヲ本条約ニモ挿入セル迄ノコトナルガ之ニハ貴方トシテ反対サルル程ノ理由ナキコトト思考ス

「ア」　商業及製造業ヲ外国人ニ許可シ乍ラ之ニ対シ自国人ヨリモ不利益ナル法律ヲ設クルコトハ成程不合理ノ様ニ思ハルルニ付文案ニ就キテハ何トカ妥協点ヲ見出スコト困難ナラズト思考ス

局長　次ニ申上グルガ今回交渉ヲナスニ当リ先ツ撤兵期日ヲ明示スルコトハ到底不可能ナリ

「ア」　夫ハ御尤ナリ

局長　貴方ガ我ニ対シ疑惑ノ念ヲ懐カレタル原因ハ我方ガ大連会議ニ於テ先ツ通商ニ関スル協約案及軍事ニ関スル協定案ノミヲ示シ撤兵協定案ヲ示サズ前二協定ニ調印セバ初メテ撤兵協定ノ交渉ニ入リ且ツ其ノ調印後三ケ月内ニ撤兵スヘシト主張シタルニアリト思考ス即チ貴方ニ於テハ撤兵協定案ノ果シテ受諾シ得ヘキモノナルヤ否ヤニ付キ疑惑ヲ懐カレ調印ヲ躊躇セラレタルコトト思考ス然ルニ撤兵協定ナルモノハ単ニ撤兵ノ手続ヲ定ムルモノニシテ何等困難ナル条件ヲ含ミ得ベキ筋ノモノニアラズ依テ――之ハ勿論自分一己ノ考ナルモ――此際撤兵協定案モ同時ニ貴方ニ提示シ三協約同時ニ調印シ其ノ調印ノ日ヨリ一定期間ニ撤兵スルコトシタラバ可ナラント思考

スル次第ナリ

「ア」　ソハ当方最初ヨリノ希望ニシテ大連会議ノ決裂モ此点ニ関シ了解成立セザリシニ原因ス至極貴説ニ同感ナリ

局長　日本側ガ撤兵協定案ヲ示サザリシ理由ハ斉多側ガ何等誠意ナク只日本ニ対シ探リヲ入レントスル為交渉シツツアルヤノ印象ヲ一部ニ与ヘタルガ為ナリ此ノ問題ハ先ニモ申上ゲタル如ク可成速ニ解決スヘキモノナリト自分トシテハ七月一杯ニハ片付ケタキ希望ナリサスレバ十月ニハ撤兵シ得ヘシ貴見如何

「ア」　自分モ只今ノ御話ニヨリ交渉ハ一ケ月ヲ出デズシテ纏ルガ如キ感ヲ有ス

局長　就テハ貴方ノ希望セラルル莫斯科代表者ノ参加ハ果シテ会議ノ進捗ヲ妨ゲザルベキヤ或ハ徒ラニ議論ニノミ走リ却テ遅滞セシメザルベキヤ

「ア」　自分ハ労農政府代表ノ参加ハ却テ交渉ノ落着ヲ迅速ナラシムルヘシト思考ス

局長　然シ莫斯科ヨリ委員ヲ派スルニハ時日ヲ要スルコトト存ス又斉多東京間ノ交通如何

「ア」　斉多東京間ハ普通六昼夜余ヲ要ス斉多ニハ大連会議ニ参列セル「マルフレフスキー」今ニ滞在中ナレバ莫斯科代表者トシテハ多分同人任命セラルルナラン

局長　此ノ交渉ニシテ再ヒ渋滞スル様ノコトアランカ此際誠意ナキ斉多ト交渉スルヨリ寧ロ浦潮現在ノ政権ト交渉シ日本軍カ保管中ナル武器ヲ之ニ引渡シ撤兵ヲ断行スヘシトノ議論モ起リ得ベク現ニ一部ニハ斯カル説モ行ハレツツアリ

「ア」　斉多側ニ於テ決シテ交渉ノ永引クヲ希望セズ交渉再開ハ貴国政府ニ於テ異存ナキモノト思考シ差支ナキヤ又尼港事件及漁業問題ハ通商ニ関スル協約竝軍事及撤兵ニ関スル協定調印セラレ一段落ヲ告ゲタル後引続キ交渉スルモノト了解スヘキヤ

局長　只今ノ話ハ全部自分一己ノ意見ナリ日本政府トシテハ交渉纏ルヤ否ヤノ見境モ付カザルニ交渉再開ノ用意ヲ表明スルコトヲ欲セザルベシト思考ス予ノ考トシテハ尼港事件及漁業問題ニ関スル交渉ハ既ニ大連ニ於テ意見ノ一致ヲ見タル所ニシテ時日ヲ要スベキニ付一先ツ通商及撤兵ニ関スル協定ニ調印シ一段落ヲ告ケタル後更メテ交

渉ニ入ルコトト致スヲ可トスル次第ナリ

「ア」　本日ノ御話ハ本国政府ニ電報シ度キ処貴省ヲ経テ在哈爾賓「オゼルニン」又ハ在満洲里「ポフヴァリンスキー」ニ伝達セラルル様御願ヒ出来得ベキヤ

局長　本国政府ヘ電報ノコトハ二三日中更ニ御話申ス迄御控有度シ、ソレ迄或ハ貴下ノ暗号電報使用ニ関シ内務省ニ交渉スルコトト致スヘシ

今回ノ話ハ「ダリタ」通信員トシテ申上ゲタル次第ニアラザレハ極内密ノ御含ニ願ヒ度シ

「ア」　勿論右様承知ス　（終）

四三八　六月二十三日　閣議決定

シベリア撤兵及チタ政府ノ日本トノ交渉再開ニ関スルアントーノフ提議ニ対スル措置方針決定ノ件

西伯利撤兵ハ之ヲ中外ノ形勢ニ顧ミ遷延シ難キ状況ニアリ殊ニ万一外国ヨリ撤兵ヲ強要スルカ如キ提議ヲ見ルニ於テハ帝国政府ノ立場ハ益々困難トナルノ外ナキニヨリ此際撤兵ニ議ヲ決シ遅クモ本年十月末日迄ニ沿海州ヨリ撤兵スヘキ旨速ニ之ヲ中外ニ宣明スルコトト致シタシ

尚過般大連会議断絶後斉多ニ帰還中ナリシ「ダリタ」通信員「アントーノフ」ハ本月十二日松平局長ヲ来訪シ「斉多側ハ誠心誠意日本トノ交渉再開ヲ希望シ自分ハ右交渉ノ性質場所及時期ニ関シ日本側ト予備的交渉ヲ為スヘキ権限ヲ委任セラレタリ但シ交渉開始ニ先チ㈠労農政府代表者ノ交渉参加㈡撤兵完了ノ時期明示ニ付日本側ノ承諾ヲ得タシ」トノ旨申出タル処右撤兵予定期日内ニ斉多側トノ交渉成立スルニ於テハ極メテ好都合ナルヲ以テ右「アントーノフ」ノ提議ニ対シテハ左記方針ニ依リ措置スルコトト致シタシ

一、前記撤兵期日ハ之ヲ「アントーノフ」ニ通告シ尚斉多側ニシテ左記第二項所載ノ趣旨ニ依ル我方提案ヲ八月十五日迄ニ調印スルニ於テハ浦潮ニ於テ我軍押収中ノ武器弾薬ハ我撤兵期日ニ支障ヲ生セシメサル限リ之ヲ斉多側ニ引渡スヘシ

二、大連会議ニ於テハ基本協約ニ関スル分ハ我提案第五条及第十条ヲ除キ全部斉多側ノ承認スル所トナリ又其ノ附属文書トシテ外国人私有財産権ヲ多数文明国ノ慣例ニ依リ保障スルコト黒龍江松花江航行権問題ニ付テハ後日協

議スルコト漁業問題及尼港事件解決ヲ第二次交渉ニ移スコトニ付双方意見合致シタルニ依リ右意見相違セル分ノミニ付速ニ之ヲ纏ムルコト

三、労農政府代表者ニ付テハ極東共和国カ労農露国ト特殊緊密ノ関係アルニ依リ我方ト斉多政府トノ間ニ協定成立スル場合ニハ莫斯科政府ヲシテ之ヲ承認セシメ置クヲ得策トシ之カ為ニハ這回ノ交渉ニ之ヲ参加セシメ直ニ事態ヲ確定スルヲ便宜トスルノミナラス労農露国対列国近時ノ状勢ニ顧ミルモ之ヲ忌避スヘキ理由ニ乏シキヲ以テ右代表者ノ交渉参加ヲ許容スルコト

四、交渉ノ場所ニ付テハ斉多側ニシテ前顕第一次我方提案ヲ承認スルニ於テハ調印迄多大ノ日子ヲ要セサルニヨリ之ヲ大連ニテ行フコトトス

五、交渉ノ時期ハ斉多側カ右我方ノ提案ヲ承諾シタル場合直ニ之ヲ開始スルコト

尚右交渉ノ成否ニ拘ラス居留民中引揚ケヲ希望スルモノニシテ資力ナキ者ニ対シテハ相当ノ便宜ヲ与フルモ可成人心ノ動揺ヲ鎮圧スルニ努ムルト共ニ居留民保護ノ任ニ当ラシムル為当分浦潮ニ軍艦ヲ碇泊セシムルコト

将又薩哈嗹占領軍中樺太対岸ニ在ル軍隊ハ沿海州撤兵ト同時ニ之ヲ撤退スルコトトシ右ニ付テハ撤退後ノ居留民保護等ニ付尚考究ヲ要スルモノアルニ付右等ノ詮議出来次第別ニ右撤兵ノ儀ヲ中外ニ宣明スルコトト致シタシ

（欄外註記）

「六月二十四日外交調査会決定」

四三九　六月二十四日　松平欧米局長／アントーノフ　会談（四）

大連会議再開問題ニ関スル件

松平局長「アントーノフ」会見要領覚

（大正十一年六月二十四日午後六時十五分乃至七時半於外務省）

松平局長　本日帝国政府ハ重大問題ヲ決定セリ即チ帝国政府ハ来ル十月末日迄沿海州ヨリ全部撤兵スルコトニ決定シタルナリ之ニテ貴方ハ何等我方ノ誠意ヲ疑フ余地無カルヘク此上ハ貴方ニ於テ一日モ早ク基本協定ニ調印セラレ未ダ貴方ニ信用ヲ措カザル一部輿論ノ誤解ヲ解カザルベカラズ

「アントーノフ」　日本政府ガ疑モ無ク十月末日迄沿海州ヨリ全部撤兵スルコトニ決定セラレタルコトハ両国ノ間ニ蟠ル系争問題ノ解決ヲ容易ナラシムルモノニシテ一般露国殊ニ極東共和国ハ大ナル満足ヲ以テ之ヲ迎フベク日露ノ関係ハ之ヨリ親善ナルヲ得ベシ就テハ何時此決定ヲ発表セラルルヤ承知致度シ

局長　只今世界ニ向ッテ日本ハ本年十月末迄ニ沿海州ヨリ全部撤兵スルコトニ決定セルコト、居留民ノ保護ニ付テハ機宜ノ措置ヲ講スベキコトヲ声明シタル次第ナリ又日本政府ハ協約ノ形式ニ変化ヲ来タサザルヲ条件トシテ労農政府代表者ノ参加ニ反対セザルナリ之ニテ事実上日本ハ貴方申出ノ二点ヲ全部容レタルト同シ結果ニナリタル次第ナレバ此ノ機ニ於テ貴方ハ特ニ慎重之ニ対スル態度ヲ決定セラルルヲ要ス

我国ノ輿論中ニハ撤兵期日ヲ明示シタルニ尚未ダ大連ニ於テ交渉セラレタル協約ノ調印ナキヲ攻撃スルモノアリ今後速ニ協約ノ調印ヲ見ザレバ輿論悪化シテ予期セザル変化ヲ誘致セズトモ計ラレズ依テ此際軍事協定ハ別トシテ一日モ早ク大連ニ於テ纏リタル基本協定ニ調印スルコト必要ナリ

局長　八月十五日迄ノ期間ハ貴下ガ斉多ニ帰リ本国政府ニ於テ撤兵ト関聯シテ起ル当面ノ問題ハ武器引渡ノ件ナルガ

「ア」　武器引渡ノ如キハ日本ニ於テ撤兵ト決定セラレタル以上容易ニ妥協点ヲ見出シ得ル問題ナリト思考ス

局長　協約ガ時機ヲ逸セズ調印セラルレバ問題ナキモ万一協約容易ニ調印ヲ見ザランカ日本ハ斉多ト何等ノ関係成立セズ従テ之ト武器引渡ニ関スル事項ヲ協議スルコト得ザルベク武器ハ之ヲ斉多側ニ引渡スコト不可能ニ陥ル状態ヲ惹起スルノ虞アルノミナラズ事態ノ如何ニヨリテハ領事館及在留民ノ引揚等ヲモ考量セザルベカラザルニ至ルベシ

我方声明ノ通リ本年十月末日迄撤兵ヲ終了スルニハ遅クモ八月十五日迄ニ基本協定ノ調印ヲ了スル必要アリ右期間内ニ調印ヲ見ルトキハ武器ハ貴方ニ引渡スコトヲ得ベキモ然ラザルニ於テハ事態逆転シ如何ニ成行クヤ予言出来ズ

「ア」　予モ八月十五日迄ニハ充分ノ時アリ基本協定ニ調印シ得ベシト思考ス

一六　日本国及極東共和国両政府間非公式交渉関係一件

打合ヲナス場合ノ時間ヲモ計上シタルモノニシテ或ハ其ノ以前調印ヲ見レバ尚更結構ナリサスレバ撤兵ノ期間モ或ハ繰上グルコトヲ得ベシト存ズ

「ア」　予ガ今直ニ復命ノ為斉多ニ赴クコトモ一策ナルガ満洲里ヨリ斉多行ノ寝台車ハ毎週水曜日一回ニシテ之ニ乗リ合ハスニハ土曜日朝ノ汽車ニテ当地ヲ出発セザルベカラズ之ヨリ出発スルモ来週ノ水曜日ニハ何レニシテモ間ニ合ハザレバ一応電報ニテ御話ノ趣ヲ政府ニ報告シ置キ次ノ土曜日ニ出発帰国スルコトト致スヘシ就テハ暗号電報発受ノ許可ヲ得置キ度シ

局長　其ハ今日中当該官憲ニ交渉シ置クベシ予ハ貴下カ帰国ノ上親シク説明スルコト最良ノ方法ト思考スルモ貴下ニ於テ帰国セズ電報ヲ以テ事済ムトノ御意向ナルニ於テハソレニテ差支ナク時間節約上其ノ方却テ好都合ナルベキカ

「ア」　次ニ二三ノ点御尋ネ致シ度シ

貴方ニ於テ御申分アルハ基本協約中第五条及第十条ノミナルヤ

局長　然リ

「ア」　次ニ会合ノ場所ナルガ当方トシテハ引続イテ協議スヘキ尼港及漁業問題ノ関係モアレバ北京乃至哈爾賓ヲ望ム次第ナルガ

局長　北京ハ種々第三者ノ妨害モアリ不適当ナリ哈爾賓ハ白党ノ巣窟ニシテ貴方ノ安全ヲ保障スルコト能ハズ今回ノ会合ハ既ニ話ノ纏リタルコトヲ単ニ調印スル丈ノコトナレハ大連トシ所謂大連会議ヲシテ有終ノ美ヲナサシメ次テ尼港事件漁業問題ニ関シテハ或ハ浦潮其ノ他合意ヲ見タル地点ニ於テ交渉スルコト然ルヘシ

注意

局長ハ本日ノ会見中有ラユル機会ヲ利用シ協約ノ調印ヲ急ギ労農政府ノ如ク掛引ヲナサザルコト有利ナルコトヲ力説セリ

註　右会談ハ松平局長ヨリアントーノフノ来訪ヲ求メテ行ハレタルモノナリ

四四〇　六月二十七日　松平欧米局長／アントーノフ　会談(五)

「ア」氏チタ帰国ニ際シ基本協約第十条、莫斯科代表者調印参加、武器引渡、交渉再開地等

「ア」　第十条ハ「ペトロフ」自身最終ノ斉多案ヲ以テ満足ナルモノトナサザル位ナレバ之ヲ訂正スルコト困難ニアラザルベキモ日本側主張ノ如ク「門戸開放主義ヲ認メ」ト条文ニ記スコト当方トシテ不可能ナリ就テハ之ヲ「極東共和国ノ現行法ニ準拠シ」トナシ且ツ此ノ現行法ヲ変更セズトノ保障ヲ附記スルコトト致度シ

又労農政府代表者参加ノコトハ協約ノ内容ヲ変化セシメズトノ条件付ト解釈スベキヤ

局長　第十条ノ精神ハ此ノ前ニモ御話申上ゲタル通リ日本ニ於テ極東共和国ノ富源開発権ヲ独占セントスルモノニアラズシテ此等ノ富源ヲ閉鎖シタル露国帝制時代ノ政策ヲ変更セシメ露国及世界ノ為外国資本ノ投資ヲ可能ナラシメントスルニアリ法律準拠ノ条件ハ斉多政府ガ何時ニテモ法律ヲ変改シ得ベキヲ以テ不安定ナリ

又労農政府代表者参加ニ関シテハ日本ト極東共和国トノ関係ヲ規定スル協約ニ何等ノ断リナク労農政府ノ代表者ガ調印スルコトハ頗ル変ナルヲ以テ協約中労農露国ニ関係アル事項ニ関シテハ労農政府之ガ責ニ任ストノ条項ヲ加ヘテ之ヲ調印スルコトトスルノ外ナカルヘシ

ニ関シ質疑応答ノ件

松平局長「アントーノフ」会見要領覚

（大正十一年六月二十七日午後二時半乃至三時半於外務省）

「アントーノフ」ハ先日局長談話ノ趣ハ一応本国政府ニ電報シ置キタルモ汽車便ノ都合取調ベタル処満洲里ヨリ「チタ」ヘハ毎週水曜日ノ寝台車ノ外毎月曜日座席車ノ運行アレバ当地ノ事情委曲報告ノ為此ノ木曜日（二十九日）出発一旦帰国シタキ所存ナルコトヲ述ベ更ニ基本協約第十条及莫斯科代表者調印参加ノ形式等ニ付報告上明細ニナシ置ク必要アリトテ質問スル所アリタル後(一)二十七日発行国民新聞紙上陸軍当局ノ談トシテ武器ノ引渡ハ「チタ」側ニ引渡スカ浦潮政権ニ引渡スカ又ハ海中ニ投ズルカノ一ヲ採ラザルベカラズトアル処先日ノ会見ニテ基本協定サヘ調印サレバ武器ハ当然「チタ」ニ引渡スモノト了解シ居リタルコト(二)談判地ニ関シ日本側ノ決定的意見ヲ承知シ度キコト(三)協約調印ヲ了シ日本軍浦潮ヲ撤退シタルトキ「チタ」軍ト浦潮軍トノ間ニ武装衝突ヲナカラシムルタメ何等カノ方法ニテ「メルクーロフ」其他二三ノモノニ浦潮退去ヲ日本軍側ヨリ「サジェスト」シ呉ルルコトトモナラバ好都合ナル

旨申出デタリ依テ松平局長ハ基本協約第十条及莫斯科代表者参加ノ件ニ関シテハ略ボ二十四日会見ノ際ト同様ノ説明ヲ与ヘ

(一)ニ関シテハ八月十五日迄ニ協約ノ調印サヘ終了スレバ武器ハ「チタ」側ニ引渡スコトトナリ居ルモ「チタ」側ガ調印ヲナサザルカ又ハ調印ヲ遷延セシムル時ハ日本トシテ引渡ヲ交渉スベキ相手方ナキヲ以テ止ムナク浦潮現政権ト交渉ノ止ムナキニ至ルヤモ計ラレザルコト、故ニ掛引ヲ止メ速ニ調印セザルベカラザルコト

(二)ニ関シテハ「アントーノフ」申出ノ哈爾賓ニハ別ニ大ナル異存アル訳ニアラザルモ同地ニ於テ貴我両委員ノ会合トモナラバ同地ヲ根拠トスル白党両方ニ不利ナル陰謀及宣伝ヲナシ「チタ」側委員ノ安全等モ保障セラレザルニ付基本協約ノ調印丈ハ大連ニ於テ之ヲナシ以テ大連会議ノ首尾ヲ全カラシメ其後引続キ協議セラルヘキ尼港及漁業問題等ハ別ニ談判地ヲ協議スルコト

(三)ニ関シテハ何等公ニ申ス次第ニアラザルモ協約調印終了セバ当方ヨリ之ヲ「サジェスト」スルコト強チ不可能ニ非ザルベキ旨答弁シタル上

日本国民ハ極東共和国ト平和関係ヲ樹立シ通商関係ヲ開始シ以テ両国ノ福利ヲ増進セントスルノ外他意ナキ次第ナレバ貴国モ之ニ対スルニ誠意ヲ以テシ曩ニ声明セル通リ民主制度ヲ確立シ個人ノ所有権ヲ尊重シ目下日本政界ノ空気撤兵ニ良好ナル機会ヲ逸セズ労農政府ガ欧洲ニ於テナスカ如キ掛引ヲナスコトナク何等困難ナラザル協約ナレバ出来得ル限リ速ニ調印スルコト可然万一貴方ニ於テ故意ニ調印ヲ遷延スル様ノコトアランカ左ナキダニ「チタ」ヲ信用セザル一部政治家ノ抬頭トナリ事態如何ニ変化スルヤモ計ラレザルニ付篤ト此点御考量アリ度ク殊ニ先ニ伝ヘラレタル「ニキフォロフ」演説ノ如キ日本ガ大連会議ノ再開ヲ懇請シタリト云フガ如キ類ノ宣伝ハ甚シク一般国民ノ感情ヲ害スルヲ以テ此際特ニ慎マレ度ク又日本ニ於テ共産主義ノ宣伝ヲナスガ如キハ折角改善セラレツツアル日露関係ヲ再ヒ逼迫セシムルモノナルコトヲ述ベタリ之ニ対シ「アントーノフ」ハ極東共和国民ハ日本政府者ノ一部ニ対シテハ信用ヲ措カザリシモ日本国民ノ平和主義ナルコトハ曽テ之ヲ疑ヒタルコトナシ日本政府ノ御方針ニシテ只今局長ノ述ベタル如クンバ之レ極東共和国従来ノ希望ト全然合致スル所ニシテ両国民ハ相提携シテ進ムコトヲ得ベシト述ベ労農政府ノ不信及共産主義ノ宣伝ニ関シテハ多少弁ジ立テタルモ其ノ他ニ関シテハ局長ノ言ニ首肯セリ

「アントーノフ」ヨリ同人帰国中日本政府ニ通報スルコトアラバ何人ヲ経由スベキヤ尋ネタルヲ以テ局長ハ在満洲里田中副領事経由トナスヘキ様答ヘタリ

局長ハ右要談ノ後「アントーノフ」ト雑談ニ移リタルガ其ノ序ヲ以テ小西茂抑留事件ニ言及シ同人ハ間諜ト認ムル理由アリトテ労農露国政府ニ於テ釈放ヲ肯ゼザルモノナルガ第一日本ト労農露国トノ間ニハ何等戦争アルニアラズ従テ間諜ト云フガ如キ問題モ起リ得ザル訳ナリ第二ニ小西ハ純然タル商用ノ為露領ニアラザル庫倫ニ出張中偶々赤白露軍ノ戦闘ニ遭遇シ赤軍ノ為同地ニ於テ抑留セラレタルモノニシテ甚ダ不法ノ行為ト思考セラルルニ付直接関係ナキコト乍ラ「チタ」側ヨリ労農政府ニ交渉シ釈放スル様尽力方依頼シタルニ「アントーノフ」ハ快ヨク之ヲ承諾シタリ（終）

註　右会談ハ「アントーノフ」ヨリノ請求ニ依リ行ハレタルモノナリ

四四一　六月二十八日　在奉天赤塚総領事ヨリ内田外務大臣宛（電報）

チタ政府ノ我国トノ交渉再開ニ対スル積極的態度ニ付田中副領事報告ノ件

第二六九号　（六月二十八日接受）

在満洲里田中ヨリ

第七号

本二十七日通信員石原氏斉多ヨリ哈爾賓ニ向フ途次本官ヲ来訪内話スル処ニ依レハ斉多政府ハ大連会議決裂後常ニ我政府ト本交渉再開ヲ企図シ客月二日「アントーノフ」ヲ日本ヨリ招致シ協議スル処アリシカ過般我新内閣成立ニ依リ右再開ノ交渉ヲ試ミントシ一方「アントーノフ」ニ電訓スルト共ニ他方外務大臣「ヤンソン」ハ石原ニ対シ哈爾賓ニ至リ本件ニ関スル我政府ノ真意ヲ探ル事ヲ秘密託嘱セル次第ニシテ若シ我カ政府ニシテ応諾ノ意ヲ有スルニ於テハ公式ニ斉多政府ヨリ交渉再開ヲ申出ツル趣ナリ而シテ会議再開ノ場合斉多側ハ莫斯哥政府代表者ヲ委員トシテ参加セシムルヲ条件トシ撤兵問題ヲ主題ト致シ度キ意向ナリト尚「ペトロフ」ハ当初海牙会議ノ結果ヲ見テ然ル後本件交渉

ヲナスベシトノ意見ナリシモ同会議ノ現状ヲ見テ「ヤンソン」ニ同意スルニ至レリト

我政府カ撤兵ニ決シタリトノ報道ハ斉多ニ於テハ新聞号外ヲ以テ公表セラレ政府側ハ非常ニ喜色アリ但シ本件石原ニ対スル依託ニハ直接関係ナシト

石原ハ本件使命ニ関シ哈爾賓ヨリ電報ス可キモ予メ本官ヨリ電報セラレ度キ旨申出デタリ

四四二　六月二十八日　在ハルビン山内総領事ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

日斉交渉再開ニ関スル斉多側希望ニ付石原通信員談話ノ件

別電　同日山内総領事発内田外務大臣宛電報第一五六号

第一五五号（極秘）　（六月三十日接受）

六月二十八日石原通信員斉多ヨリ帰来我国トノ交渉再開ニ関スル「ペトロフ」及「ヤンソン」希望ヲ伝ヘタルヲ以テ同人談話ノ詳細別電トシテ報告ス

尚ホ先方ニ於テハ本件ヲ極秘ニシタキ趣ニ付其御取扱ヲ請フ

又石原ハ我方ヨリノ回答振先方ニ伝フルガ為四五日間滞在ヲ命ジ置ケルニ付右ニ関シ至急何分ノ御回訓ヲ請フ

（長春中継　六月二十九日一一、五〇発）

（別電）

六月二十八日在ハルビン山内総領事発内田外務大臣宛電報第一五六号

日斉交渉再開ニ関スルペトロフ及ヤンソンノ希望ヲ齎シタル石原通信員談話ノ件

第一五六号（極秘）　（六月三十日接受）

六月二十日頃石原ガ内務大臣「ペトローフ」ニ面会セル時談西伯利駐兵ノ問題ニ入レル際「ペ」ヨリ石原ニ向ヒ若シ同人ニシテ「アントーノフ」ト同様ナル資格ニ於テ斉多ニ来リ居ルナラバ此際頗ル重大ナル問題ニ就キ依頼シタキコトアリト述ベタルモ石原ハ単ニ一新聞通信員トシテニ過ギザルガ故ニ若シ「ペ」ニシテ左様重大要件アラバ哈市ニ於テ本官トノ間ニ交渉ヲ開カレタシト答ヘテ之ヲ拒絶セリ而テ其翌日別事ニテ外務大臣「ヤンソン」ヲ訪問セル際談偶偶我帝国新内閣ノコトニ移リタル際「ヤンソン」ハ極東共和国ニ於テモ帝国新内閣成立ヲ機トシテ新ニ大連会議ヲ再開サセ両国ノ親善ヲ回復サセタシ勿論帝国ハ世界列強ノ一ナリ極東共和国ハ未ダ其存在スラ疑ハレ居ル小国ナルガ故ニ国際ノ礼儀ニ従ヒ極東共和国ヨリ会議再開ヲ提議スルニ何等躊躇セズ然レ共若シ真ニ日本ニ於テ会議再開ノ意有リヤ否ヤヲ確ムルコトナクシテ之ガ提議ヲ為セル時ニ於テ日本ノ為之ヲ拒絶セラルル様ノコトアリテハ更ニ一層ノ苦境ニ立タザルベカラザル次第ナレバ未ダ其提議ヲ差控ヘ居レリト語レルニ付石原ハ然ラバ哈市ニ於ケル貴国代表「オゼルニン」ヲシテ本官ノ手ヲ経テ帝国政府ノ意見ヲ聴取セシメラレテハ如何ト問ヒタルニ「ヤ」ハ勿論自分ト雖其ノ事ハ承知ス然シ総領事ノ手ヲ経テ日本政府ノ意嚮ヲ聴取セムトセル際若シ拒絶ヲ受クレバ最早取返ス途ナク又事余リニ公式ニ亘リ再度ノ接近ニ便ナラズ且本件ハ世評ニ上ルヲ絶対ニ避ケタキニ付斯カル公然タル機関間ノ公然タル書簡ノ往復ハ可成是ヲ後廻シトシ度若シ此ノ件ガ極東共和国内ノ新聞紙上ニ掲載サルル様ノ事アラバ自分ハ最モ苦痛トスル処ナルガ故ニ先日東京ヨリ態々「アントーノフ」ヲ呼寄セ本件ニ関シ同官ニ訓令ヲ為シ帝国外務大臣及松平欧米局長ノ意見聴取ノ上至急電報スル様命令セルモ未ダ何等ノ電報ナシ故ニ此際石原ヲシテ真ニ両国間ノ親和ヲ望ムナラバ非公式ニ帝国政府ノ真意ヲ確メテ通知ヲ得タシトノ事ナルモ石原ハ全然官辺ト何等関係無キ事ヲ理由トシテ之ヲ拒絶シタル趣ナリ然ルニ其後数度ニ亘リ電話ニテ呼寄セタル上本件ニ関シ何トカ斡旋方「ヤンソン」ヨリ依頼ヲ受ケタル結果石原モ今ハ之ヲ拒絶スル理由ヲ見出シ難カリシ為然ラハ帰哈ノ上本官ノ意見ヲ聞キタル上本官ノ手ヲ経テ帝国政府ノ意向ヲ伺ヒ取次キヲ為ス可シト答ヘテ六月二十六日斉多発同二十八日当地ニ到着セル由ナリ尚彼我交渉再開ニ関シ「ヤンソン」ハ交渉地其他ノ細目ニ関スル事項ハ彼我間ノ交渉再開ノ主義確定後可然筋ノ間ニ決定スル事トスルモ先以テ左ノ二点ニ関スル帝国政府ノ御意向承知シ度趣ナリ

一、交渉再開ニ際シ斉多側ハ労農政府ノ代表者ヲモ参列セシメ度希望ナルガ右ニ対スル御諾否ヲ知リ度キ事

二、沿海州ニ於ケル帝国軍隊ノ撤退ヲ明白ニスル事（但薩哈嗹方面ノ分ハ将来彼我ノ間ニ於テ行ハルル商議ニ之ヲ譲リ其決定如何ニ依リ之ヲ決定スル事）

（長春中継六月二十八日後一一、〇〇）

四四三　六月二十九日　内田外務大臣ヨリ
在満洲里田中領事代理宛（電報）

チタ政府側ヨリ連絡アリシ場合ノ取次方ニ関シ訓電ノ件

第三号
在本邦「ダリタ」通信員「アントーノフ」ハ我国ト極東共和国トノ交渉再開ニ関シ本国政府ト打合ノ為二十九日出発「チタ」ニ赴キタル処同人帰国中本件ニ関シ先方ヨリ我方ニ通報ヲ要スルコトハ在貴地「チタ」代表者「ポフヴァリンスキー」ヨリ貴官ニ申出ヅル様打合セ置キタルニ付其ノ御含ニテ先方ヨリ何等申出ノ節ハ直ニ電報セラレ度シ尤モ本件ハ凡テ極秘ニ取扱ハレタシ

四四四　七月一日　内田外務大臣ヨリ
在ハルビン山内総領事宛（電報）

石原通信員ハチタニ帰還セシメ差支ナキ旨回訓ノ件

第八五号（極秘）
貴電第一五五及一五六号ニ関シ
既ニ「アントーノフ」ヨリ同様ノ申出アリ同人ハ之ニ対スル当方ノ意向ヲ齎ラシ客月二十九日出発帰国セルニ付右様御承知有度シ就テハ石原ハ其ノ儘「チタ」ニ帰還セシメ差支ナキモ同地ノ事情詳細御聴取ノ上郵送有度シ

四四五　七月七日　在浦潮永井政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

日本軍ノ沿海州撤兵ヲ歓迎セルアントーノフノ談話ニ関スル新聞報道報告ノ件

第一一三号　（七月八日接受）
七月六日当地発行露字新聞「クリエル」紙上ニ七月三日哈爾賓発電トシテ撤兵ニ関スル「アントーノフ」ノ談ニ就キ大要左ノ通リノ記事掲載セラレタリ
斉多ヨリ東京ヘノ途中哈市ニ止マレル「アントーノフ」氏ハ記者ノ質問ニ答ヘテ曰ク日本政府カ沿海州撤兵ヲ断行スルニ決定セシコトハ日本ノ政策カ極東共和国並全露トノ平和的友好関係ヲ設定セントスル方向ニ転換シタルコトヲ証スル極メテ重大ナル行為ナリ日本軍ノ撤退及日露関係復興ハ我等露国人ニ平和ナル建設事業ニ著手スルコトヲ得セシメタルモノナルヲ以テ露国人ニ取リテモ亦極メテ重大ナル意義ヲ有ス又由来我極東地方ノ経済ハ其組織上外国トノ交易ヲ要求スルコト大ナルモノアリ而シテ今回ノ日本軍撤退ハ通商再開問題解決ノ必要ヲ促スモノニシテ同問題解決ノ為ニハ多分近ク日本代表者ト極東共和国及労農露国代表者トノ会商開催サルルナラント思惟ス尚労農露国代表ノ参与ハ当然必要ノコトニシテ是ヲ避クルコト困難ナルヘシ何トナレハ将来ノ会商ニ於テ決定セラルヘキ多クノ問題ハ直接又ハ間接ニ労農露国ノ利害ニ触ルルコトアルヘキヲ説キタリ若シ会議再開問題ニ関シ右関係国間ニ合意成立セハ同会議ハ玆数週間ヲ出デズシテ開始セラルルコトナルヘシ

四四六　七月八日　在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

日本トノ交渉再開方ヲ正式ニ提議セルチタ政府外相ノ覚書大要報告ノ件

別電　同日山内総領事発内田外務大臣宛電報第一七五号

六月三十日附チタ政府外相ヤンソンヨリ内田外務大臣宛覚書ノ大要

第一七四号（極秘）　（七月九日接受）
七月七日「オザルニン」(註)来訪大要別電ノ通リ閣下宛六月三十日附斉多政府外務大臣覚書ヲ本官ニ手交シタル後日斉再交渉ノ件ハ「アントーノフ」ヲ通シテ進行シ居リ同人ハ来ル七月十日斉多ヨリ当地ニ帰来ノ上本邦ニ再渡航スル筈ニシテ本件覚書ハ「アントーノフ」ヨリ詳細報告ヲ受クル以前ニ斉多政府ヨリ発送セラレタル為撤兵ノ件ノ如キハ其後明瞭トナリタルモ兎ニ角此書面ニ依リ斉多側ヨリ正式ニ再交渉ヲ申出デタル次第ニ付之ニ対シテハ帝国政府ヨリ正式ノ回答ヲ得タク尚右回答トハ閣下ヨリ「ヤンソン」宛書面ヲ同人ニ対シ交付ヲ受ケタキ意味ナル由申出デタル故来示ノ次第ハ早速閣下宛電報スヘク尚右ニ関シ何分ノ御回訓ヲ仰キタク右ノ旨返答シ置ケリ但「アントーノフ」頻ニ斉多、東京間ヲ往復シテ再交渉ノ下地準備ヲ為シ居ル際斉多政府ガ右ト離レテ文書ニ依ル正式ノ交渉ヲ「オザルニン」ヲ通シテ当地ニ於テ為スハ如何ノ次第ナルヤ又閣下ヨリノ御回答ハ東京ニ於テ「アントーノフ」ニ交付セラルル様ノ成行ニナリハセズヤト本官ヨリ反問セルニ対シ「オザルニン」ハ正式ノ回答ハ当地ニ於テ受領スル様訓令ニ接シ居リ尚若シ交渉再開ト決定セバ「アントーノフ」モ全権委員ノ数ニ列スルヤ測リ難キモ目下ハ私的資格ニ於テ折衝スル次第ニ付

斉多政府トシテハ自分ヲ通シテ右ノ如ク申出デシメタル筋合ナリト答ヘタリ

（長春領事館経由七月八日前一一、二〇）

註「エ、カ、オザルニン」氏ハ中国東三省特別地帯駐在極東共和国代表者ナリ

（別電）

七月八日在ハルビン山内総領事発内田外務大臣宛電報第一七五号

六月三十日附チタ政府外相ヤンソンヨリ内田外務大臣宛覚書ノ大要

第一七五号　極秘　（七月九日接受）

極東共和国政府ガ日本及極東共和国間ニ平和的親交ノ関係ヲ設定センコトヲ念トシタルハ屢次声明セル所ナリ、然ルニ之カ希望ヲ実現スルヲ得サリキ、数箇月ニ亘レル大連会議ハ両国間経済上ノ提携ニ関スル主義上ノ問題ニ付全部一致ヲ見タルモ中絶セラレタリ、而シテ之カ原因ハ極東共和国政府ノ責任ニ非ズ今日日本政府ガ親交関係ヲ結バン為両国間ニ交渉ヲ復活セシムルノ時機ニ適セリトナシツツアルヲ以テ極東共和国政府ハ玆ニ帝国政府ト交渉ヲ開始スヘキ意向ナルコトヲ率直ニ声明スヘシ

大連会議開始以来露西亜及極東共和国政府ノ代表ハ日本政府ノ代表等ト共ニ「ゼノア」会議ニ参列シ諸列国ト協同シ国際間ノ関係ヲ円滑ニスヘク種々ナル決議ヲ採用シタリ殊ニ平和ト相互信頼ヲ目的トシタル「ゼノア」最終会議ニ於テ採決セル不可侵協定ハ重要ナル意義ヲ有スルモノニシテ極東共和国労農露西亜及日本ヲモ加ヘタル諸邦間ニ批准記名セラレタリ而シテ本決定ハ各国間ニ平和ト順調ナル通商其他ノ関係ヲ実際的ニ保障シ得ル条件ノ大譲歩ト見做サルヘキモノナリ

「ゼノア」会議ノ協同精神ニ鑑ミ且又一方ヨリ極東共和国及露西亜、他方ヨリハ日本ノ間ニ存在スル種々ノ関係ヲ根本的ニ解決スル必要上極東共和国政府ハ次ノ条件ヲ遵守スル場合ニ於テハ会議ヲ成効セシメ且会議ノ具体的結果ヲ齎ラシ得ヘシト思惟ス、会議ハ一方ヲ日本トシ他方ヲ極東共和国及露西亜トシテ開カサル可カラズ極東共和国政府ハ会議ニ露西亜ヲ参加セシムルニ就テハ極東共和国ト共通ノ代表タラシムヘク右ニ関スル露西亜トノ協議ハ極東共和国自ラ之ヲ行フ可シ

大連会議ハ日本代表カ沿海州ヨリ日本軍ノ撤兵ニ関スル問題ヲ解決スル才能ヲ有セザリシ為成果ヲ収メ得サリキ、此ノ経験ニ鑑ミ会議ノ復活ハ日本政府ガ短時日ノ間ニ我領土内ヨリ軍隊ヲ撤兵スヘキヲ承認シ協約調印ノ際ニ代表ヲシテ撤兵期日ヲ約セシムル権限ヲ与フルニ於テハ成効ノ望アリト思考セラル

露領極東ト日本トノ間ニ通商関係ヲ結ヒ広ク経済的発展ノ進路ヲ開ク為日本政府カ叙上ノ如キ吾人ノ見解ニ一致セラレンコトヲ希望ス帝国政府カ右ノ意見ニ賛同シ交渉ヲ開クヘキ意図ヲ表明セラルルニ於テハ極東共和国政府ハ「ソビエット」露西亜政府ト交渉ノ上直ニ会議ノ場所及時日ニ付協議セントス（右原文郵送スヘシ）

（長春経由七月八日前一一時二〇分）

四四七　七月十三日　内田外務大臣ヨリ在ハルビン山内総領事宛（電報）

チタ政府外相ヤンソンノ覚書ニ関シオザルニンニ対シ回答方訓電ノ件

第九二号　（極秘）

貴電第一七四号ニ関シ「オザルニン」ニ対シ口頭ヲ以テ左ノ趣旨ニ依リ回答セラレタシ

六月三十日附「ヤンソン」氏書翰ヲ受領セリ帝国政府ニ於テハ「チタ」政府ト通商其他ニ関スル交渉ヲ再開スルコトハ主義トシテ異存ナキモ本件詳細ニ付テハ松平氏ヨリ「アントーノフ」氏ヘ内協議済ノ次第アルニ付「ア」氏ヨリ松平氏ヘノ回報ヲ待テ何分回答スベシ

四四八　七月十五日　在ハルビン山内総領事ヨリ内田外務大臣宛（電報）

チタ政府外相ヤンソンノ覚書ニ関シオザルニンニ対シ回答シタル件

第一八七号　（七月十六日接受）

貴電第九二号ニ関シ

七月十五日「オザルニン」ヲ往訪貴電ノ趣旨ヲ伝ヘタル処先方ニ於テ七月十四日夜斉多ヨリ「アントーノフ」ハ当分斉多ニ滞在シ「ヤンソン」ヨリノ公文ニ対スル閣下ノ御返答ヲ斉多ニ於テ受領シタル後具体的交渉案ヲ携ヘテ渡日スル旨本官ニ申入ルル様電訓ニ接セル由述ヘタルニ付松平「アントーノフ」間ノ交渉ハ「ヤンソン」ノ書翰ヨリ余程進ミ居ル事情ニモ顧ミ旁閣下御電訓ノ通「アントーノフ」

ノ我方ニ対スル回答ヲ速ニスル方交渉進捗スヘキ旨申添ヘタル処「オザルニン」モ至極同感ナルニ付早速右様取計方更ニ同氏ニ伝フルト共ニ斉多ニ申送ルヘシト答ヘタリ尚ホ満洲里ヲ最モ希望スル次第ナルモ不便ノ点アル故切メテ哈爾賓ニシタキ旨先方ヨリ余談トシテ申出デタルニ付本官ハ右ノ点ニ関シ何等閣下ノ御意向ヲ承知セザル旨答ヘ置ケリ

又七月十五日当地東方通信支社ニ本省発表トシテ入電アリタル北樺太対岸撤兵ノ件ヲ非公式報道トシテ物語リタルニ「オザルニン」ハ頗ル喜悦ノ顔色ヲ為シ既ニ沿海州撤兵ノ確定サヘアルニ加ヘテ帝国政府ガ此ノ如キ決定ヲ執ラレタルハ一般人民ニ対シ非常ナル好感ヲ与ヘ其ノ結果多大ナルヘシト述ヘタリ

（長春中継七月十五日後十一時）

四四九　七月十七日　内田外務大臣ヨリ
在ハルビン山内総領事宛（電報）

交渉即時開始ノ必要ニ関スル松平ヨリアント
ーノフヘノ伝言ヲチタヘ電報方オザルニンニ
依頼セラレ度旨指令ノ件

第一〇〇号　至急

貴官ハ「オザルニン」ニ面会シ松平ヨリ「アントーノフ」ヘノ伝言トシテ左ノ通「チタ」ヘ電報方依頼有度シ

貴下「チタ」帰還協議ノ結果直チニ電報アルベキコトヲ期待シ居リタル処未ダニ適確ノ申出ナキハ如何ナル次第ナリヤ「チタ」側ニ於テ誠意協定ノ締結ヲ望マルルニ於テハ直チニ商議ヲ開始スルノ要アリ万一八月十五日迄ニ調印不可能ナルニ於テハ居留民保護問題武器処分問題等ニ関シ我方ニ於テ応急ノ措置ヲ講ズル要アリ従テ今日迄順調ニ発展セル形勢ニ不測ノ変化ヲ来シ極東問題ノ解決益々困難トナル恐ナキニアラス貴方ニ於テ速ニ委員派遣セラルルニ於テハ日本側ニ於テモ直チニ委員派遣ノ準備アリ

四五〇　七月十七日　内田外務大臣ヨリ
在ハルビン山内総領事宛（電報）

交渉再開及ソヴィエト政府代表参加ニ異議ナ
キ旨チタ政府側ニ文書ヲ以テ回答方訓電ノ件

第一〇一号　至急

貴電第一七四号ニ関シ知多側ニ於テハ公文ヲ以テ談判再開ノ希望ヲ正式ニ申来リタル結果従来ノ遣リロニ顧ミ我方ヨリ正式ノ回答ヲ得ムコトヲ主張スルヤモ知レズ之ガ為メ徒ニ時日ヲ遷延スルハ面白カラザルニ付貴官ハ「オザルニン」ノ意向ヲ探リ必要ト認メラルルニ於テハ左ノ趣旨ヲ本大臣ノ命トシテ書面ヲ以テ回答セラレ差支ナシ

六月三十日附「ヤンソン」氏ノ書面ニ関シ帝国政府ニ於テハ此際知多政府ト再ヒ交渉ヲ開始スルコトニ異議ナシ帝国政府ハ本年十月末迄ニ沿海州ヨリ全部撤兵ヲ完了スルコトニ決シ已ニ内外ニ声明セリ労農政府代表者ヲ今回ノ会議ニ参加セシムル希望ニ対シテハ協約ノ体裁上適当ナル形式見出サルルニ於テハ異存ナシ詳細ハ松平欧米局長ヨリ「アントーノフ」氏ニ協議シアルニ付同氏ヨリ報告アリシコトト信ス帝国政府ハ知多側ヨリ委員ヲ出スニ於テハ直ニ委員ヲ派遣スベク会議ノ場所ハ大連ヲ適当ト認ム

四五一　七月十九日　在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

会議再開ニ関シアントーノフヨリ松平局長宛
申出ヲ同局長宛伝達方依頼ヲ受ケタルニ付右
申出ニ対スル回答振ニ付請訓ノ件

別　電　同日山内総領事発内田外務大臣宛電報第一九七号

アントーノフヨリ松平局長宛回答

（七月二十日接受）

第一九六号（至急）

七月十九日「ガーゲルストローム」至急ノ用アリトテ来訪別電ノ通ノ松平局長宛「アントーノフ」申出ヲ叙述セル「ヤンソン」ヨリ同官宛来電ヲ昨十八日夜接受セリトテ右松平局長宛転電方依頼シタル後会議ノ場所竝時日ニ付本官ノ所見ヲ尋ネタル故場所ハ帝国政府御希望ノ通大連ニスル方本件速決ヲ得ヘク尚ホ開始期ニ就テハ愈会議再開ノ議カ両政府間ニ確定ノ時ヨリ約一週間ヲ見込マバ好カルベシト私見トシテ答ヘ置ケル処早速右ノ趣斉多ニ電報スヘシト謂ヘリ「ヤンソン」来電ハ昨十八日「ガーゲルストローム」ガ本官ト会見ノ結果発セル電報ト行違ヘル事申迄モナク又十九日「ガーゲルストローム」来訪ノ節往電第一九四号ノ本官ヨリ「オザルニン」宛七月十八日附書翰ヲ手交セル処「ガ」ハ直ニ急使ヲ仕立テ同書面ヲ斉多ニ送付スヘキ旨答ヘタリ尚「アントーノフ」ヨリ松平局長宛申出ノ件ニ付テハ同局長ヨリ御回答ノ必要アリト信スル処右回答振至急御電訓ヲ請フ

（長春中継七月二十日前〇、二〇）

（別　電）

七月十九日在ハルビン山内総領事発内田外務大臣宛電報第一九七号

アントーノフヨリ松平局長宛回答

第一九七号　別電　（七月二十日接受）

外務大臣「ヤンソン」ノ内示

左ノ通至急「アントーノフ」氏ノ回答ヲ松平局長ニ御伝ヘアリタシ

撤兵ニ関スル日本政府公式ノ決定ハ今次ノ会議ニ於テ本問題ヲ双方ニ取リ有利ノ意味ニ解決セラレ且協約作成上日本側代表ニ取リ左迄困難ナラサル形式ヲ見出シ得ラルヘシト信セラル

労農政府ノ会議参加ニ関シテハ既ニ「ヤンソン」ノ覚書ニ説明シアリ

（長春中継七月二十日前一時七分）

四五二　七月十九日　在ハルビン山内総領事ヨリ　内田外務大臣宛

アントーノフ氏ヨリ松平局長宛回答ニ関スル件

附記　七月十九日附ガゲルストロムヨリ山内総領事宛（註　仮訳文ナリ）

以書翰致啓上候陳者外務大臣「ヤ、デ、ヤンソン」ノ至急訓令ニ基キ「ヴェ、ゲ、アントーノフ」ヨリノ左記回答松平氏ヘ伝達方貴下ニ御依頼申上候

撤兵ニ関スル日本帝国政府ノ正式決定ハ本件ガ来ルベキ会議ニ於テ両方ノ為有利ナル様ニ解決セラレ且ツ本件ニ関シ日本代表ニトリ何等ノ困難ヲ構成セザル形式見出サルベシト思惟スル可能ヲ与フルモノナリ

露西亜社会主義「ソヴィエト」聯邦共和国代表ノ参加問題ニ関シテハ「ヤ、デ、ヤンソン」ノ書翰中ニ記載シアリ協約ノ協定及其ノ決定的成文起草ニ関スル問題ハ電報交換ノ方法及断片的交渉ニヨリテ予メ之ヲ明ニスルコト不可能ナルヲ以テ之ヲ会議自体ノ問題ニ移スコトヲ得ベシ

尚貴下ヨリ御伝達ノ「ヴェ、ゲ、アントーノフ」宛松平氏ノ報知ハ之ト関係ナク「チタ」ニ移牒致置候ニ付右申添候

予ハ玆ニ貴下ニ向テ敬意ヲ表シ候　敬具

書翰和訳文

右松平局長宛回答ヲ同局長ニ伝達方依頼越ノ件

機密第一二九号　（七月二十五日接受）

大正十一年七月十九日

在哈爾賓

総領事　山内　四郎（印）

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

アントーノフ氏ヨリ松平局長宛回答内容ニ関シ原文送付ノ件

本件ニ関シヤンソン外相ノ緊急訓令ナリトテオザルニン代理「ガゲルストロム」ヨリ本官宛送付シ来レル書翰写原文ノ儘玆ニ及送付候条御査閲相成度此段申進候　敬具

註　ガゲルストロムヨリノ露語書翰省略

（附記）　七月十九日附ガゲルストロムヨリ山内総領事宛書翰和訳文

アントーノフ氏ヨリ松平局長宛回答ヲ同局長ニ伝達方依頼越ノ件

在哈爾賓山内総領事宛千九百二十二年七月十九日附支那東三省特別地帯駐在極東共和国代表者代理来翰訳文

四五三　七月二十一日　内田外務大臣ヨリ　在ハルビン山内総領事宛（電報）

チタ代表者ノ大連派遣方ニ関スル松平局長ヨリアントーノフヘノ伝言ヲ先方ニ電送方ニ付指令ノ件

第一〇六号　至急

貴電第一九六号ニ関シ松平ヨリ「アントーノフ」ヘノ伝言トシテ左ノ通リ斉多ヘ電送方「ガーゲルストローム」ニ申入レラレ度シ

過日哈爾賓経由貴下宛伝言ト行違ヒニ貴方ヨリノ回答ニ接シタリ右ノ趣旨ヲ按スルニ東京ニ於テ打合セタル諸事項ニ付斉多政府ノ了解ヲ得ラレタルモノト思考スルニヨリ此際直ニ会商ヲ開始スルヲ適当ト認ム就テハ貴方代表者任命ノ上速ニ大連ヘ出発セシムル様取計ハレタク尚該代表者到着ノ日取電報相成様致シタシ当方ニテハ右貴方ノ通報接到次第直ニ代表者ヲ出発セシムル様準備シアリ

四五四　七月二十二日　在蘭国田付公使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

露国労農政府ニ対スル日本政府ノ態度ニ関シ心得置クベキ事項ニ付請訓ノ件

第四七号　極秘　（七月二十三日接受）

先般外務大臣ト会談ノ際同大臣ハ突然本官ニ対シ帝国政府ハ露国労農政府ト単独ニ条約締結ノ意思アルベキヤ否ヤト尋ネタルヲ以テ本官ノ思考スル所ニテハ然ルコトナカルヘシト答ヘタルニ大臣ハ其儘話頭ヲ他ニ転シタルガ今回在米代理大使発閣下宛電報第四六九号ノ次第モアリ当国政府ハ本件ニ相当注意ヲ払ヒ居ルモノノ如ク察セラルルト同時ニ帝国政府ハ近ク斉多側ト交渉再開ノ御見込ヲ有セラレ又其際ハ何等カノ形式ニ依リ労農側代表者ノ参列ヲ許サルベキ御意向ナルヤニモ承知シ居ルニ付テハ万一ノ為此際本官ニ於テ心得置キ然ルヘキ必要事項モ有之ラバ御回電ヲ仰グ

四五五　七月二十四日　在奉天赤塚総領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

日斉交渉再開ニ関スル最近斉多諸新聞論調左ノ通

第三二一号　（七月二十四日接受）

在満洲里田中ヨリ

第二二二号

十八日「テレグラフ」ハ

今回日本政府ハ斉多側ノ提議ニ承諾ヲ与ヘタル由ナルガ「サヴィエト」露国代表者ノ会議参加ノ件ハ承諾済ト看做スヘキモ樺太ヨリハ撤兵セザルガ如シ右ハ日本ガ尼港事件ノ交渉ニ対スル牽制手段ナルベケレド若シ日本ガ真ニ露国トノ政治上経済上ノ諸問題ヲ円満解決スルノ誠意ヲ有スルナラバ此旧套手段ヲ止ムルヲ至当トス依テ右ノ撤兵ノ実行ナキ間吾人ハ今回ノ日本ノ回答ノミヲ以テ両国通商親善ノ開始ヲ期待スルハ尚早ナリト説キ

同日ノ「プーチ」ハ

来ルヘキ会議ニ於テハ吾人ハ政治上ニハ白衛軍ノ残党ヲ片付クルヲ以テ主眼トシ経済上ニ於テハ曩ニ大連会議ニ於テ極度ノ譲歩ヲナシタルニ依テ此上経済上我独立ヲ侵シ我ヲ束縛スルガ如キ特権ヲ日本ニ与フルコトナカルヘシト主張シ

十六日ノ「プーチ」ハ

日露漁業条約ガ現露国ニ取リ厄介至極ノモノニテ之ガ為日本人ハ露国ノ永久的居候トナリタリ依テ今回ハ本条約

改正ニ当リ須ク専門家ヲ以テ委員会ヲ作リ政府代表ヲ助ケ誓テ日本人ノ同権ヲ剥奪スルノ準備ヲ為サンコトヲ説述セリ

尚此次共和国内殊ニ満洲ニ於ケル白軍ノ行動ニ対シ一層ノ注意ヲ喚起セリ

二十日ノ「テレグラフ」

日本ガ支那及露国ニ於テ経済上ノ覇権ヲ掌握スルヲ伝統政策トナストテ最近ノ長春鉄道会議ノ例ヲ引キ日本ハ浦潮ノ位置ヲ弱ムルコトニ成功シタレバ来ルベキ会議ニ於テハ好ク此例ヲ忘ルベカラザランコトヲ力説セリ

四五六　七月二十七日　内田外務大臣ヨリ
在ハルビン山内総領事宛（電報）

日斉会議ノ開始期日ニ関シ至急確答方チタ代表者ニ申入ルベキ旨訓電ノ件

第一一三号　至急

本電接到前知多側ヨリ未タ開会期日ニ関シ何等申出ナキ場合ニハ左ノ通リ帝国政府ノ訓令トシテ在貴地斉多代表者ニ伝ヘラレタシ

東部西伯利ニ於ケル日本極東共和国間ノ諸問題ハ我方撤兵以前ニ之ヲ確定シ置ク必要アリ若シ然ラザルニ於テハ**隣**事態ノ紛糾ヲ来シ面白カラザル結果ヲ見ルニ至ルベキニヨリ八月十五日迄ニ協定ヲ了スベキ必要アルコトハ過般松平氏ヨリ「アントーノフ」氏ニ申入レタル通リナリ若シ貴方ニシテ会議開始ヲ遷延シ前記期日迄ニ協定ヲ了シ難キコトヲ予想スルノ外ナキ時ハ貴方ト何等ノ関係ナキモノトシテ撤兵及撤兵後ノ諸問題ニ対スル我方ノ態度ヲ成ル可ク早目ニ決定スル必要アルニ付貴方ノ意図セラルル会議開始期日ニ関シ至急明確ナル回答ヲ得タシ

四五七　七月二十七日　内田外務大臣ヨリ
在蘭国田付公使宛（電報）

日斉交渉ヘノソヴィエト政府ノ参加問題ニ関スル我方針ニ付指示ノ件

第二九号

貴電第四七号ニ関シ極東問題ニ関スル我対露方針ハ合第二四四号往電所載ノ通リナルガ斉多側トノ交渉果シテ再開セラルルヤ否ヤハ目下猶未定ナリ而シテ右交渉再開ノ場合労農政府ヲ参加セシムルニ異議ナキコトハ前顕閣議決定ノ通リナルモ其趣旨ハ労農露国ガ極東共和国ニ対シ緊密直接ノ

利益関係ヲ有スル関係上我方ガ極東共和国トノ間ニ締結スヘキ協定関係ヲ確認セシメ置クヲ便宜トスルコト並ニ今次交渉成立スルニ於テハ引続キ交渉ニ入ルベキ漁業問題ハ勘察加ガ労農露国ノ領域ニ属スル関係上其参加ヲ必要トスルコトニ出ヅルモノナリ従テ「ヘーグ」等ニ於テ審議セラレタル諸事項ニ就テハ労農政府ト単純ニ交渉スルコトヲ避ケ可成列国ト協調ヲ保持シタキ希望ナルニ付先方ヨリ更ニ質問ニ接セラレタル場合ニハ右ノ趣旨ヲ以テ可然応答セラレタシ貴電第四七号ト共ニ本電在欧米各大使及瑞典波蘭ヘ転電アリタシ

四五八　七月二十八日　在ハルビン山内総領事ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

日斉交渉開始期日ニ関シ確答方チタ代表者ニ申入レタル旨報告ノ件

第二一〇号　至急　（七月二十九日接受）

貴電第一一三号ニ関シ

七月二十八日「ガーゲルストローム」ヲ往訪斉多ヨリ何等回答アリタルヤ尋ネタルニ昨夜又ハ今朝回答ニ接スルコト心待ニ待チ居リタルモ未タ何等回報ニ接セズト述ヘタル

来訓ニ基ク旨ヲ述ヘタル後当地斉多代表ヨリ本官宛書面ニ添ヘテ労農政府代表「カラハン」斉多政府外相「ヤンソン」ヨリ閣下宛七月二十五日附書翰（別電第二一五号(註)第一乃至第三訳文ノ通リ）ヲ手交シ（右書翰ハ電報シ来レルモノナルモ電報原文ト相違ナキ旨ノ当地斉多代表ノ証明奥書アリ）右ニ関シ大至急帝国政府ガ先ツ会議ノ場所ニ関シ有セラルル御意見承知シタキ旨ヲ述ヘ引取レリ

尚昨二十八日御訓令ニ基キ為シタル当方ヨリノ申入ニ就テハ至急回電ニ接スヘシト信スルニ付其節ハ直ニ回報スヘキ旨申添ヘタリ書翰全文郵報ス

（長春中継七月二十九日後二、四〇）

註　別電第二一五号ヲ省略セリ、該書翰ニ付テハ四六一文書附記参看

四六〇　七月二十九日　在ハルビン山内総領事ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ヨッフェノ極東向ケ出発ニ関スル情報ニ付報告ノ件

第二一一号　（七月二十九日接受）

往電第二一〇号発電後当地駐在斉多政府商務官ノ談トシテ本官知人ヨリノ来報ニ依レバ「ヨッフェ」ハ去ル二十四、五日頃莫斯科ヲ発シ斉多ニ向ヘル筈ニテ二週間位ニテ同地ニ到着スヘク（斉多哈爾賓間二日行程ナリ）「チチェリン」ト並ンデ現今露国三大外交家ノ一人ト称セラルル程ノ人物故斉多政府ハ同氏ノ到着ヲ俟ッテ諸事項ヲ確定ス可ク目下頻リニ下調査ヲ為シ居ルラシク又斉多側委員ハ未定ナルガ「ペトロフ」ハ前回ノ失敗アル故会議ニ列セザルベク「アントーノフ」説当レルガ如シトノ事ナリ

（長春中継大正十一年七月二十九日前〇、一三）

四六一　七月二十九日　在ハルビン山内総領事ヨリ　内田外務大臣宛

労農露国及極東共和国両政府代表者ヨリ日本外務大臣宛書翰原文送付ノ件

附記　右書翰和訳文

機密第一三六号

大正十一年七月二十九日

在哈爾賓

総領事　山内　四郎（印）

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

ニ付貴電ノ趣旨ヲ口述シ早速斉多ニ電報シ回答ヲ求ムル様依頼セル処同人モ回答遅延ヲ不思議ニ考ヘ居ル次第故至急右進達シ且速カニ回訓方申添フヘキ旨答ヘタリ尚「ガーゲルストローム」ニ対シ斉多方面ヨリ来レル私信ニ依レハ労農政府代表ハ確ニ「ヨッフェ」ニ決定セルラシク同人ノ閲歴才幹等ヨリ視テ支那駐在ナド命ゼラルルニ至レルハ不思議ナル位ナガラ対日交渉ノ全権ヲモ兼ネシムル下心ヨリ来タレルナラバ之ヲ了解スルコトヲ得ベク又斉多側トシテハ「ヤンソン」説モアルモ右ハ事実ニ非ザルヘク多分「アントーノフ」説確カナルベシト語レリ其外「アントーノフ」ヨリ当地知人宛来信ニ依レバ同氏ノ当地通過ハ極メテ最近ナラントノコトナリ

（長春中継大正十一年七月二十八日後一、一五）

四五九　七月二十九日　在ハルビン山内総領事ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

日斉交渉開始ニ関スル労農政府及チタ政府双方代表者ヨリ日本外務大臣宛書翰ヲ送付ノ件

第二一四号　至急　（七月三十日接受）

七月二十九日午後「ガーゲルストローム」来訪斉多ヨリノ

労農政府並極東共和国政府ヨリ帝国政府宛書翰

原文送付ノ件

本件書翰七月二十九日本官ニ於テ接到致シ其内容ニ関シテハ往電第二一四号及其ノ別電第二一五号ヲ以テ不取敢及報告置候処茲ニ右原文(註)及御送付候条御査閲相成度此段申進候

敬具

註　原文（露語）省略

（附　記）

七月二十五日附労農露国外務委員代理カラハン及極東共和国外務大臣ヤンソンヨリ内田外務大臣宛書翰和訳文（仮訳文）

日本帝国政府外務大臣閣下

日本帝国政府外務省ハ在哈爾賓日本総領事経由支那東三省特別地帯極東共和国代表者ニ交附セラレタル極東共和国外務大臣宛本年七月十九日附書翰ヲ以テ日本帝国政府ノ名ニ於テ極東共和国及露西亜社会主義「ソヴィエト」聯邦共和国政府ト交渉ヲ開始セントスル希望ヲ表明セラレ且ツ日本帝国政府ガ極東ノ露国領土ヨリ完全ニ撤兵スルニ決シタルコトヲ通報セラレタリ

露西亜及極東共和国政府ハ日本帝国政府ノ前記撤兵ニ関スル決定ニ対シ満足ヲ表シ且ツ日本帝国政府ガ七月十九日附書翰ニ基キ極東ニ於ケル露国諸州ヨリ本年十一月一日迄撤兵スルモノナルコトヲ認証ス、一方ヲ露西亜及極東共和国トシ他ノ一方ヲ日本トスル両方ヨリ互ニ友好親善関係ヲ結フ為メ交渉ヲ開始スルニ鑑ミ「ソヴィエト」露西亜及極東共和国政府ハ来ルヘキ会議ニハ露西亜、極東共和国及日本トモ平等ノ基礎ニ於テ代表セラレ、締結セラルヘキ条約モ会議ニ代表セラレタル各国政府ニヨリテ署名サルベキモノト思考ス

交渉ノ場所トシテハ「ソヴィエト」露西亜及極東共和国政府ハ「チタ」市又ハ莫斯科市ヲ以テ便利ト思考シタク両国政府ハ日本代表ニ対シ交渉ニ必要ナル総テノ便宜殊ニ大陸ニ於ケル孰レノ地点トモ直通線ニ依ル良好ナル連絡ヲ保障スヘシ然レトモ若シ日本政府ニ於テ前記ノ地点ニ対シ何等カノ反対アルニ於テハ当方ニ於テ北京又ハ東京ニ同意スルノ用意アリ尤モ東京ノ場合ハ莫斯科及知多トノ連絡条件カ両政府ヲ満足セシメ得ルモノナルコトヲ要ス露西亜及極東共和国代表者トシテハ全露中央執行委員会委員「アドルフ、アブラモヴィチ、ヨッフェ」及外務大臣「ヤコブ、ダヴィドヴィチ、ヤンソン」任命セラレタリ

（署名）

露国ヲ代表シ　外務委員代理「カラハン」

極東共和国ヲ代表シ　外務大臣「ヤンソン」

千九百二十二年七月二十五日

四六二　七月三十一日　内田外務大臣ヨリ在ハルビン山内総領事宛（電報）

日支会議開始期日ニ付先方ノ確答督促方並会議地其他ニ付申入方ニ関シ訓令ノ件

第一一五号　至急

貴電第二一四号接到往電第一一三号ヲ以テ申進メタル件ハ至急先方ヨリ回答ヲ得ル必要アルヲ以テ貴官ハ「ガーゲルストローム」ニ対シ至急回答取計方督促セラレタク又左記事項ヲ帝国政府ノ訓令トシテ申入レ至急斉多政府ノ確定的意思ヲ伝致セシムル様取計ハレタシ

(一)会議ノ場所ハ当方最初ノ主張通リ大連ヲ適当ト考フルモ先方ニシテ同地ヲ不便トスルニ於テハ哈爾賓トスルモ可ナリ斉多及東京ニ就テハ同意シ難シ

(二)当方ニ於テ大連会議ニ於テ略議了シタル基本協定及其ノ附属文書ヲ基礎トシ我方撤兵着手前速ニ之ヲ決定スル必要ヲ認ムルコトハ既ニ再三述ヘタル通リニシテ漁業問題尼港問題等大連会議ニ於テ議題トセザリシ問題ハ基本協約調印後之ヲ行フコトトスルハ既ニ「アントーノフ」氏ヲ通シテ明確ニ申入置キタル通ナリ従テ八月十五日迄ニ前記基本協定及其附属文書ヲ取纏ムルコト貴我双方ニトリ極テ必要ナリト認メラルル処此点ニ関スル斉多側意嚮折返シ回答アリタク右ニ関シ満足ナル回答ヲ得ル場合ニハ当方ヨリハ直ニ交渉委員ヲ派遣スヘシ

四六三　八月一日　井出海軍次官ヨリ埴原外務次官宛

日支会議ヘ海軍武官派遣ニ関スル件

官房機密第一一三二号ノ二　（八月一日接受）

大正十一年八月一日

海軍次官　井出　謙治（印）

外務次官　埴原　正直殿

第二次大連会議ニ海軍武官派遣ノ件

第二次大連会議ノ時期及開催地点ハ未定ナルモ早晩何等カノ形式ニ於テ会議開催セラルベシト認メラレ候処右ノ場合

委員又ハ帝国代表、顧問等適当ナル名義ニ於テ海軍武官ヲ派遣シ主トシテ海軍関係事項ノ処理ニ従事セシメ度候ニ付予メ御考慮相成度

右照会ス

追テ目下ノ処派遣武官ハ左記ノ予定ニ有之候間事務打合等ニ就キ同人ニ対シ便宜供与方可然御取計ヲ得度

記

海軍中佐　池中　健一

（終）

四六四　八月三日　在ハルビン山内総領事ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

チタ政府側ノ日斉会議再開ニ対スル意向ニ関シアントーノフノ為セル雑談ヨリ得タル感想ニ付報告ノ件

第二一九号　至急　（八月四日接受）

八月二日斉多ヨリ帰来セル「アントーノフ」ニ面会種々雑談ノ結果ヲ想像スレバ

㈠　松平局長ヨリ承ハリタル通リ日本側ニ於テ大連協定中二箇条修正ノ希望アル故斉多側ニ於テモ同様二箇条位修正ヲ希望スル事

㈡　漁業問題及尼港問題等労農政府側ニ同意ヲ得ザレバ決定シ難キモノヲ協定ヨリ除クトキハ日本側ニハ都合宜シカルベキモ残余ノ箇条ノミニテハ斉多側トシテ体裁上好マシカラザル事

㈢　上記両問題ヲ協定ニ加フルトスレバ労農側ノ参加ヲ要シ従テ既ニ出来上リタルモノヲ直チニ調印スルト云フ程ニ簡単ニ結了スル訳ニハ行カヌ事

㈣　松平局長ヨリノ御話ニ依リ八月十五日迄ニ調印ヲ了シタキ日本側ノ御希望ハ承知シ居ルモ右ハ必然的ノモノナル程ニハ考ヘ居ラズ従テ日本側ヨリ最後通牒的態度ヲ以テ御申入ヲ受クルハ了解シ兼ヌル事

㈤　会議地トシテ大連ヲ希望セラルルモ同地ニ於ケル先回ノ会議ハ八ケ月モ継続シ二ケ国間ノ会議トシテ稀ニ見ル長日月ヲ要シタルガ為同地ニ関スル印象ハ甚ダ（嫌？）ラズ又哈爾賓ハ斉多及労農政府ノ代表者ニ対スル敵多ク警察取締モ十分ナラザルガ為危険トシテ滞在ヲ欲セズ従テ斉多側ニ於テモ種々考量ノ結果曩ニ提案セル通リ申出デタル次第ナル由ナルガ「アントーノフ」ハ我方ヨリノ

（貴電第一一三号関係）申出ニ接スル以前斉多ヲ出発セルコト故其後ノ評議ノ模様ハ知ラザル事

㈥　「ヨッフェ」ハ七月二十八日「ノボ、ニコラエウスク」ヲ出発八月五、六日頃斉多ニ到着スル事

㈦　斉多ヨリハ「ヤンソン」労農政府ヨリハ「ヨッフェ」ニ代表ヲ任命セルコト故日本側ニテモ閲歴地位アル代表ノ任命ヲ所望スル事

等ニシテ同人ハ八月三日午前一時当地発朝鮮経由直行渡日シタル筈ナリ

四六五　八月七日　在ハルビン山内総領事ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

会議開催地ニ関スル日本側新提案ニ対シチタ側不満ノ旨石原ヨリ電報ノ件

第二二六号　（八月七日接受）

八月五日発斉多石原ヨリノ電報左ノ通

日露会議ヲ莫斯科、斉多又ハ東京ニ於テ開催セムトスル露西亜側ノ提議ニ対シ日本政府ハ之ヲ忌避シ八月十五日ヨリ大連又ハ哈爾賓ニ於テ開催方再ヒ提議シツツアリ斉多政府ハ日本政府ハ東京説ニ対シ喜ンデ応ズベシト期待シタルニ日本ノ此新提案ニ対シ露西亜側ハ日本カ何故ニ拒絶シタルカ其ノ理由ヲ解スルニ苦シム処ナリトシ甚タシク不満ノ念ヲ抱キ居レリ

四六六　八月九日　松平欧米局長／アントーノフ　会談（六）

大連会議打切後ノ日本側及チタ側間商議再開ノ為ノ善後措置ニ関スル件

附記　右松平局長及アントーノフ間会談ニ関連シテ為サレタル考察

松平局長「アントーノフ」会談要領

（大正十一年八月九日自午後三時至午後五時四十分）

八月八日午後七時半斉多ヨリ横浜ニ帰来セル「ダリタ」通信支社長「アントーノフ」ハ九日午後三時外務省ニ松平欧米局長ヲ来訪シ非公式会談ヲ為シタルガ其ノ要領左ノ如シ

一、「アントーノフ」ノ資格

何等委任ヲ受ケ居ラズ

「ア」　自分ハ今回日本ニ渡航スルニ際シ斉多政府ヨリ日本側ト交渉シ得ヘキ何等権限ヲ附与セラレ居ラズ全然個人ノ資格ニ於テ本日出頭セリ、元来日斉会議ノ場

所並期日ニ関シテハ自分ガ東京ニ到着スル迄ニ日斉両政府間（在哈爾賓両国代表経由）ノ電照ニ依リ確定スル予定ナリシニヨリ特ニ自分ニ対シ右ニ関シ日本当局ト交渉スルノ権限ヲ附与スルノ必要ナカリシモノナリ自分ハ個人トシテ玆ニ会談スルモ元来自分ハ直接事ニ干与シ斉多ノ意向ヲ承知シ居レルヲ以テ余ノ言ハ相当価値アルモノタルハ勿論ナリ

二、会議ニ対スル斉多側ノ意向

「ア」　自分ガ斉多ニ於テ得タル感想ヲ綜合スルニ党派ノ別ナク何レモ日本軍撤兵前日本ト親善関係ヲ樹立センガ為メ協約ヲ締結スルコトヲ歓迎シ居レリ、唯一部論者中ニ協約ノ内容其他ニ付多少論議スル者アルノミ

三、斉多側ハ会議地並期日ニ関スル日本側通牒ヲ最後通牒的ノモノト誤解シ居レリ

「ア」　自分ガ哈爾賓ヲ通過シタル際八月二日「オザルニン」代理「ガーゲリストロム」（帝政時代ノ副領事）方ニテ日本外務省ヨリ山内総領事ヲ経テ与ヘラレタル通知ヲ見ルニ日本ハ会議地トシテ絶対決定的ニ大連又ハ哈爾賓ヲ指定シ、締結期日ヲ八月十五日ト定メアリカセタルニ「ア」ハ斯クノ如クンバ敢テ最後通牒的ノモノニアラズ至極穏当ナルモノナルヲ了解セリト云ヘリ）

松平　貴下ハ前回予備交渉ニ関シ一定ノ権限ヲ附与セラレ居タルニヨリ当方意向ヲ貴下ニ伝ヘ斉多ニ伝達方依頼シタル次第ニシテ今回ノ帰来ニ対シテハ相当期待スル処アリタルニ何等委任ヲ受ケ居ラズ単ニ個人ノ資格ニテ来談セリト云ハレ、又当方ヨリノ問合セニ対シ斉多側ハ荏苒回答ヲ与ヘズ加之会議地ヲ云為シテ急速決セザルガ如キ要スルニ斉多側ハ故意ニ会議ヲ延引シ居レルモノトモ見エ其ノ誠意ヲ疑ハシムルモノナリ、帝国政府ノ意向ハ貴下前回出発前篤ト申述ベタル通ニシテ既ニ貴下ノ熟知セラルル処ナリ山内総領事経由通牒ニ期日ヲ指定シタルハ撤兵前協約ヲ成立セシメントシタルモノニシテ決シテ最後通牒ヲ為スノ意思ニ非ズ要スルニ問題ノ中心ハ期日ニ非ズシテ斉多側ニ於テ果シテ協約ヲ成立セシムルノ誠意アルヤ否ヤノ問題ナリ

「ア」　貴下ノ仰セラルル通リ日本帝国政府ノ真意ハ十分之ヲ了解ス

テ最後通牒的ノモノニシテ之ヲ一読シタル余ニハ多大ノ悪感情ヲ惹起シタルガ「ガーゲリストロム」亦同意見ニシテ恐ラク斉多政府モ同様ナリシコトト思考ス

斉多側ハ会議地問題ガ協約成立問題ヲ左右シ得ル程爾カク重大ナルモノト思考シ居ラズ寧ロ第二段ノ問題ナリト思考ス

会議地ニ関スル斉多側ノ日本ニ与ヘタル通知ハ内容書方ニ於テ遙ニ鄭重ナルガ日本側ヨリノモノハ然ラズ

斉多政府ノ考ニテハ哈爾賓ニハ反対党分子モ多ク且ツ電信局等ニハ白党分子アリテ通信ヲ妨害セラレ諸般ノ関係上不便ナリ又大連ニハ外国新聞モナク政治上ヨリ見テ価値尠キ田舎町ニ付斉多側ハ之ヲ好マズ而シテ日本側ノ通知ハ右二地以外ヲ選ブ能ハザル模様ニテ会議地問題ニ付行キ詰リタル結果会議期日問題モ自然其儘トナリ居レルモノナリ、打明ケテ申サバ目下ノ処会議地、期日ニ関スル前記日本側通知ガ最後通牒的ナル為メ話途切レ居ル次第ナラント思考ス

（松平ガ本省ヨリ山内総領事ニ与ヘタル訓電内容ヲ読聞

四、知多側回答遅延ノ理由

「ア」　今回ノ交渉ニ関シテハ莫斯科ト打合セノ為時日ヲ費シタリ、不幸ニシテ斉多莫斯科間ニ珍シク落雷アリテ電信意ノ如クナラズ、「チチェリン」「リトヴィノフ」等モ莫斯科ニ在ラズ、「マルフレフスキー」今尚斉多ニ残リ居レルモノト思ヒ居リシニ余ノ知ラザル間ニ莫斯科ニ赴キ他ノ任務ニ服スルコトトナリテ在ラズ、莫斯科ハ速ニ会議ヲ開催スルノ必要ヲ認メ曩ニ在北京代表ニ任命セラレタル「ヨッフェ」ニ対シ日本トノ交渉ニ関スル委任権ヲモ附与シタル位ニシテ右ニ依ルモ急ギ居ルコトハ明カナリ

又実ノ処斉多部内ニハ日本ノ撤兵ハ僅々六週間ニシテ完了スベケレバ仮令九月十五日開始スルトモ十月末日迄ニハ撤兵ヲ完了シ得ベク随テ九月中項迄ニ協約成立セバ可ナルニ非ズヤト思考シ左程急ギ居ラザル向モアリ、加之前述ノ如ク山内総領事経由日本側通牒ガ最後通牒的ナリシニヨリ返事ニ困リ居ルモノト思ハル

松平　日本側ノ態度ハ公明正大ニシテ啻ニ日本側ニトリテノミナラズ斉多側ニトリテモ有利ナル状況ヲ作ラン

ト努力シ居レルニ反シ斉多側ハ西欧ニ於ケル会議ニ於ケルト同様「トリック」ヲ用ヒ懸引外交ニヨラントシ居レルハ畢竟協定成立ノ意思ナキモノト看做サルルモ致方ナカルベシ

我方ニハ既ニ撤兵ニ関スル諸般ノ準備ヲ整ヘ居リ会議ノ成立セザル場合ニ応ズルノ策亦之アリ、随テ期日ニ関スル問題ハ我方ノ重要視スル所ナリ、撤兵前協約成立シテ撤兵スルト協約ナクシテ撤兵スルトノ間ニハ結果ニ於テ甚大ノ差異アルコトヲ玆ニ指摘セザルヲ得ズ

「ア」　末段御話ノ次第ハ余モ良ク了解シ至極同感ナリ、右ニ関シテハ自分モ良ク斉多当路者ニ伝ヘ置キタルガ斉多側モ之ヲ了解シ居レリ

五、会議地ヲ北京トシタシ

「ア」　自分一己ノ考ヘニテハ此際何トカシテコノ行詰リタル状態ヨリ脱出スルノ必要アリ夫レガ為ニハ会議地ヲ北京ト定メ速ニ両国委員同地ニ会合スルコトトセバ如何、左スレハ話ノ進行速カナラン、斉多ヲ出立シタル労農政府代表「ヨッフェ」モ近ク北京ニ到着セン或ハ東京ニテハ如何

松平　北京ハ本交渉ニ関係ナキ土地ニシテ会議地トシテ不同意ナリ又東京ハ諸般ノ事情上応ジ難シ

六、電報ニ依ル予備交渉ニハ不賛成

「ア」　電報ニ依リ予備交渉ヲ為シ締結ノ為メ両国委員一地ニ会合ノ件ニ付テハ既ニ自分ヨリ御通知シタル通リ斉多政府ハ不賛成ニシテ兎ニ角両国委員一地ニ会合シ然ル上談判ニヨリ万事決定シタキ意向ナリ

七、会議催進策

「ア」　山内総領事ヨリ今一応「ガーゲリストロム」ヲ呼ビ出シ前回ノ通知ニヨリ誤解シ居タル「ガーゲリストロム」ノ誤解ヲ解クコトトシ可然方法ニヨリ松平局長御説明ノ通リ日本政府ノ真意ヲ重ネテ伝ヘシメラルル様措置セラレテハ如何

松平　考ヘ置クベシ

八、来ルヘキ会議ニ新問題ノ提出有無

松平　来ルベキ会議ニ於テ新問題ヲ提出スルコトナク前回大連会議話合ヲ基礎トシ尼港事件、漁業問題等ハ基本協約成立後協議スルコトトシタキ日本側ノ建前ナル処斉多側ハ左様了解シ居ルヤ否ヤ

「ア」　夫レモ来ルベキ会議開始ノ上決定スヘキモノト思考ス多分新問題ハナカルベシ

九、基本協約成立ノ見込

松平　撤兵開始前ニ基本協約成立ノ見込アリヤ此ノ点ニ関スル貴下個人トシテノ隔意ナキ意見如何

「ア」　十分成立ノ見込アリ

十、斉多ヘノ報告、意見提出

「ア」　本日自分ハ一個人トシテ会談シタルモ日本側ノ真意ヲ詳細重ネテ斉多ニ伝ヘ且ツ㈠日本側ニテハ撤兵開始前基本協約ノ成立ヲ必要トスルコト㈡来ルベキ会議ニ於テ新問題ヲ提出セザルコトヲ必要トスルコトヲ更ニ斉多政府ニ電報スヘシ

（附記）

八月九日ノ松平局長及アントーノフ間会談ニ関連シテ為サレタル考察（大正十一年八月十日欧米局第一課起案）

八月九日「アントーノフ」トノ会見要領ハ別紙ノ通リナルガ右ニ依リ得タル印象ニ由レバ斉多側ニテハ日本トノ間ニ通商並ニ一般的事項ニ関スル協定ノ成立ヲ希望スルハ事実ナルガ如キモ右協定ヲ他ノ問題ト引離シ我方撤兵前ニ調印スルカ又ハ今次交渉ニ於テ爾余問題ヲモ提起シ基本協定ト同時調印ヲ主張スヘキヤ否ヤニ至リテハ両国委員会後ノ模様ニヨリ決定スルコトトシ予メ「アントーノフ」等ヲ通シテ約束スルコトヲ避ケ全権ヲ有スル人物ヲ会議ニ送リ会議ノ席上自由ナル行動ヲ採ラシメムトスルモノノ如シ従テ両国委員会見シタル上先方ニシテ基本協定調印ノ必要即有利ナルコトヲ確知スル場合ニハ直ニ之ニ調印スルヤモ計リ難シト思考セラル而シテ押収武器問題ニ就テ従来新聞紙上ニ散見シタル陸軍側宣伝、斉多側兵力集中ノ容易ナラザルコト及浦潮方面ニ在ル自党員ノ報告等ニヨリ仮令日本政府ニ於テ武器引渡ヲ約ストモ実際ニ之ガ引渡ヲ得ルコト困難ナルベキヲ推測シ居ルヤモ知レザルニヨリ単ニ押収武器引渡ノミヲ以テ基本協定調印ヲ督促スルモ其効果充分ナラザルガ如キモ協定関係不成立ノ場合一般的ニ日斉関係悪化シ日本政府ノ対斉多態度亦一変スベシトノ懸念ハ相当之ヲ有シ居ルガ如キヲ以テ此等諸関係ノ全部ニ就キ先方ニ利害得失ヲ説示スルニ於テハ基本協定調印ガ結局先方ニ有利ナリトノ考慮ニ導クコト不可能ナラズト思考セラル

我方ニ於テハ諸般ノ関係上撤兵前ニ基本協定ノ調印ヲ見ル

コト望マシキニ付仮令協約成立予定期日即八月十五日ヲ超ユルコトアルモ出来得ルナラバ右期日ヲ延引シ以テ基本協定ノ調印ヲ完成セシムルコト然ルヘク一方我方従来ノ方針ヲ貫徹スル為メ先方ヲシテ基本協定即時調印ガ自己ニ有利ナルコトヲ確知セシムルコト必要ナルヲ以テ之ニ関スル凡ユル手段ヲ尽スコト然ルヘシ而シテ右方法トシテハ

(イ)「アントーノフ」ヨリ斉多ニ電報セシムルコト(協議済)

(ロ)山内総領事ヲシテ更ニ在哈爾賓斉多代表者ニ対シ七月三十日附電報ノ趣旨ヲ敷衍説示スルト共ニ先方回答ヲ督促スルコト

(ハ)嶋田副領事ヲ哈爾賓ニ急行セシメ同地ニ於ケル斉多代表者ト非公式ニ連絡ヲ保タシムルコト

(ニ)在支公使ニ最近交渉ノ成行ヲ通報シ万一「ヨッフェ」ヨリ何等申出ヅル場合ニハ従来ノ方針ニヨリ適当応酬セシムルコト

尚居留民ニ対シテハ協定成立セサルモノトシテ措置スルコト然ルヘク且ツ撤兵ハ予定ノ如ク開始シ十月一杯ニ之ヲ終了スル様取計ヒ近ク彼我ノ交渉開始セラレ我方ニ有利ナル様協定調印セラルル場合ニハ押収武器ノ引渡及白党ニ対スル措置ハ撤兵開始後ニ於テモ斉多ニ有利ナル様之ヲ取運フコト

(但シ右白党ニ対スル措置ニ付之ヲ極端ニ圧迫セサルヲ要ス)

尚又会議地ニ就テハ一先ツ当方従来ノ主張ヲ以テ先方ヲ説得スル様取運フコト然ルヘキモ爾余条件ニシテ我方ノ希望ニ近キ会議成立ノ見込アル場合ニハ会議地ニ就テハ強テ我方ノ主張ヲ固執シ談判再開ヲ不能ナラシムルコトハ不利ナルベシ

四六七　八月十日　在ハルビン山内総領事ヨリ　内田外務大臣宛

カラハン及ヤンソンヨリ内田外相宛書翰送付ノ件

附記　右書翰和訳文

機密第一四六号　(八月十七日接受)

大正十一年八月十日

在哈爾賓　総領事　山内　四郎(印)

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

「オザルニン」代表ヨリノ書翰写送付ノ件

斉多政府ヨリ閣下宛書翰接到ノ次第及来翰内容ノ大要ニ関シテハ不取敢往電第二三二号及其別電ヲ以テ及報告置候次第ニ有之候処右原文(註)茲及送付候条御査閲相成度此段申進候

敬具

註　原文(露語)ヲ省略シ其和訳文ヲ附記トシテ左ニ掲載ス

(附記)

八月六日附カラハン及ヤンソンヨリ内田外務大臣宛書翰和訳文(仮訳文)

会議ノ時日及場所等ニ関スル件

支那東三省特別地帯駐在極東共和国代表者「オザルニン」ヨリ千九百二十二年八月十日附山内総領事ニ伝達方依頼アリタル内田外務大臣宛「カラハン」及「ヤンソン」来翰訳文

日本帝国政府外務大臣ヘ

在哈爾賓日本総領事ヲ経由シテ為サレタル日本政府ノ通告ニ接シ下記名ハ左ノ声明ヲナス

露西亜社会主義「ソヴィエト」聯邦共和国及極東共和国政府ハ最モ速ニ協定ヲ締結セントスル日本政府ノ希望ニ全然同意ナリ然レドモ八月十五日迄ニ之ヲ調印シ得ルヤ否ヤヲ疑ハザルヲ得ズ如何トナレバ談判地ニ関シ乍遺憾今日迄意見ノ一致ヲ見ズ為ニ同時期迄両方委員ノ会合スルコト困難ナルベケレバナリ最モ速ニ協定ヲ遂ゲン為露西亜社会主義「ソヴィエト」聯邦共和国及極東共和国政府ハ先ヅ基本協定ノ審議及調印ヲナシ詳細並更ニ具体的問題ハ之ヲ同一会議ニ於テ右基本協定調印後審議スベシトノ日本政府ノ提議ニ反対セズ露西亜社会主義「ソヴィエト」聯邦共和国及極東共和国政府ハ此ノ如キ一般基本協定ハ大連ニ於テ交渉アリタルニモ鑑ミ相互ニ善意ヲ有スルニ於テハ最モ短時間ニ成立スルモノト思考ス談判地ニ関シテハ日本政府ガ談判地トシテ莫斯科及斉多ヲ断然回避セルニ鑑ミ露西亜社会主義「ソヴィエト」共和国及極東共和国政府ハ乍遺憾日本委員ヲ迎ヘントスル歓待及歓喜ヲ捨テザルベカラザルノミナラズ同一ノ理由ニヨリ東京ヲ談判地トシテ主張スルコト不可能ト認ム但シ日本政府ハ談判地トシテ提議セラレタル北京ニ何等反対セザリシヲ以テ露国社会主義「ソヴィエト」共和国及極東共和国政府ハ談判地トシテ同市ヲ主張ス同市ハ種種ノ特典ヲ有スル外委員ニ任命セラレタル「ヨッフェ」ハ同時ニ在支露西亜社会主義「ソヴィエト」共和国特命全権代表者ニシテ既ニ北京ヘノ途上ニアルノ特典アリ露西亜社会主義「ソヴィエト」共和国及極東共和国政府ハ支那国民及支那政府カ委員ニ対シ周知ノ歓待ヲナスヲ疑ハザルモノ

ニシテ日本ヨリ承諾ノ回答ニ接シ次第本件ニ関シ支那政府ニ照会セン意向ナリ

（署名）

外務委員代理　「カラハン」
外務大臣　「ヤンソン」

四六八　八月十日　在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

日支会議再開ノ時日及場所等ニ関シカラハン及ヤンソンヨリ申越ノ件

第二三二号　（八月十一日接受）

八月十日「オザルニン」来訪斉多側ノ来訓ニ依リ別電ノ通帝国政府ニ申入方依頼シタル後「オザルニン」ハ自分ハ八月七日斉多ヲ出発セル処出発後二時間許リニテ莫斯科ヨリ斉多ニ着電アリタル結果斉多ヨリ自分ニ対シ此訓電ヲ発シタル由ナルモ非常ニ延着セルモノナル旨ヲ申添ヘ且ツ「ヨッフェ」ハ今八月十日当地発長春奉天経由北京ニ赴キ又「ヤンソン」ハ我方ヨリ会議ノ時日及場所ニ関スル回答ニ接シ次第至急斉多ヲ出発シ来ル手筈ニ成リ居レリト述ベタリ尚大連ヲ会議地トシテ好マザル理由ハ「アントーノフ」ノ本官ニ対スル談話ト同様ニテ哈爾賓ハ会議地トシテノ設備充分ナラザルガ為主トシテ莫斯科側ニ於テ之ヲ嫌ヒ居リ北京ハ莫斯科ト直接電信ノ往復モ出来頗ル好都合ナリト考ヘ居ルラシト内話シ居タリ

註　別電省略、次掲文書参看

四六九　八月十日　岸本関東庁警務局長ヨリ
埴原外務次官宛（註）

日露会議再開問題ニ関スルアントーノフノ談話報告ノ件

関機高収第一〇八二一号　（八月十五日接受）

大正十一年八月十日

岸本関東庁警務局長（印）

埴原外務次官殿

日露交渉再開ニ関スル件

ダリタ通信東京支社長アントーノフ

右者日露交渉再開ノ使命トシテ客月六日到知奔走中ナリシガ同月三十一日知多ヲ立チ哈爾賓ニ一泊シ本月四日午前七時着列車ニテ来連、大連ヤマト・ホテルニ投宿セルガ本月五日午前十時出帆「ハルビン」丸ニテ東上セリ、同人ガヤマトホテル第一〇五号ノ客室ニテ大連警務署員ニ語レル処左ノ如シ

一、日露会議再開ノ場所ニ付テハ日本側ハ哈爾賓、大連等ノ小都市ヲ選ビ居ルガ露国側ハ交通機関完備セル北京、東京、莫斯科等ノ大都市ニテ再会セムコトヲ希望シツツアリ自分ノ考テハ東京ヲ最適所ト信ズ、会議ノ目的ハ未ダ確定セズ新聞紙上ニハ自分ノ帰知後俄ニ態度強硬ナリ云々ト伝ヘラレツツアルモ斯カル事実ナシ

一、日露会議再開ニハ労農露国ノ参加ヲ必要トス之ガ為曽テゼノア会議ニチチェリン外相ニ随行セルヨッフェ氏ハ客月二十七日莫斯科ヲ出発セルヲ以テ不日着知スヘシ莫斯科ヨリ知多迄ノ行程ハ八日ナリ露国側代表委員ニハ外相ヤンソン及ヨッフェ両氏ナリ新聞紙ニハ自分モ其ノ一員ナルガ如ク報道セラレツツアルモ予ハ他ニ任務アレバ代表者トシテハ参加セス

ニコライエフスク事件

一、「ニコライエフスク」事件ノ賠償問題ニ付テハ露国ハ本件不祥事発生前日本ニ対シ警備隊ヲ送ルヘシト注意的ニ申込ミタルニ拘ラス日本ハ同意セザリシ為遂ニ惨虐ヲ

演ゼリ若シ日本ニシテ我カ要求ニ応ゼシナラバ斯カル事件発生セズ故ニ露国ニ於テ賠償ノ責任ナシ

一　日本軍ガ押収セル武器ハ露国ノ武器ヲ押収セルモノナレバ当然露国ニ還付スヘキヲ至当トス

西比利在留邦人ノ生命財産身体ノ保護ニ関シ悲観楽観両説アリ貴見如何

一、日本軍撤兵後ノ西比利ノ治安ニ付テハ在留日本人ノ保護上不安ナシ

日本軍撤兵後本会議ノ進捗ニ伴ヒ浦塩政権ハ必ズヤ日本ヲ怨ミ白軍ノ暴戻ヲ演ズヘシ日本軍撤兵後ハ当然浦塩政権ハ没落シ知多政府ノ勢力範囲トナルハ明瞭ナリ故ニ其ノ後ニ於ケル暴戻ノ所為アラバ白軍ナリ何ントナレバ赤色パルチザンハ知多政府ニ服従スベク反抗スルハ白軍等ノミナレバナリ

一、浦塩政権ヨリ邦人ノ得タル既得権ハ之ヲ認メズ日露大連会議ノ条項中ニモ一千九百二十一年六月以降浦塩政権ト締結セル凡テノ権利義務ニ関スル契約ハ無効トストアリ

一、日本ニ於ケル思想問題モ労働争議モ議会ヤ社会ノ問題

トシテ現レタル事実ニ付テハ何等問題トナラズ且ニ見エヌ隠レタル力コソ恐ルベキモノアリ而シテ日本ニ於ケル地主ト小作人トノ問題ハ最モ興味アル問題ナリ

一、日本ハ露国ニ比シ土地狭隘ナルモ土地豊饒ナリ然カモ農民ハ耕作ニ工夫ヲ凝ラシ常ニ収獲ヲ増進シツツアリ故ニ予ノ考ニテハ理想化スル可能性アリト信ズ

ソヴィエト露西亜革命後ニ於ケル理想ヤ政策ト実際トハ不一致ヲ来タシ今ヤ露国ノ頽廃ハ其ノ極度ニ達シ露国復興ハ欧洲否世界ノ問題トナリツツアリ公平ナル批判如何

現在ノ状態ニテハ御説ノ通リナルモ凡ソ何レノ国家ト雖革命後旬年ニシテ復興セル国家ナシ其ノ政策ノ可否ハ今後五十年百年ノ後ニアラザレバ批判シ能ハズ

一、曩ニ大連会議ニ参加セルペトロフハ内相ノ地位ヲ（脱？）其ノ他孰レモ在知ダリタ通信員トシテ来連中ナリシバスキンハダリタ社ヲ辞シ目下某省ニ奉職中ナリ云々ト

註　右報告ハ外務次官ノ外左記宛通報セラレタリ

在京長官　在京事務総長

拓殖局長官

警保局長　警視総監

四七〇　関東軍参謀長　関東憲兵隊長

内田外務大臣ヨリ　在中国小幡公使宛（電報）

八月十二日

ヨッフェノ任務其他ニ付内探方指令ノ件

第四四二号

労農政府代表者トシテ「ヨッフェ」貴地ニ赴ク処同人ノ任務並ニ右ニ付支那政府ト如何ナル諒解アリヤニ付御内探ノ上電報アリタシ

四七一　内田外務大臣ヨリ　在ハルビン山内総領事宛（電報）

八月十二日

基本協定調印ノ日限延期及会議地ニ関スル覚書ヲオザルニンニ交付シチタニ電送スル様申入方訓令ノ件

第一二三号　至急

在貴地「オザルニン」ヘ左ノ通リ覚書ヲ交付セラレ斉多ヘ電送方申入レラレタシ

本月六日附貴信接到日本政府ハ貴方ニ於テ先ツ基本協定ヲ審議調印セシメ然ル後引続キ詳細且具体的問題ノ審議ニ入ルコトニ異存ナキ旨ノ回答ニ対シ満足ノ意ヲ表ス尚

又上述一般的基本協約ハ大連ニ於テ貴我代表者間ニ略ホ意見ノ一致ヲ見タルモノナルヲ以テ協商国間ニ善意ヲ有スル場合短期間ニ協定ヲ遂ケ得ヘシトノ貴見ハ日本政府ノ意思ト全然合致スルモノナリ

八月十五日迄ニ右基本協定ノ調印セラルルコトハ貴我双方ニトリ極テ好都合ナルハ従来説示シタル通リニシテ右期日迄ニ協定ノ成立ヲ見難キ事情ノ到来ハ当方ノ遺憾トスル処ナルモ前述ノ通リ貴方ガ貴我代表者会合ノ上ハ速ニ協定ノ成立ヲ見ルヘシトノ了解ヲ有セラルルニ顧ミ若干期間ノ延期ニ同意シ短時日内ニ右基本協定ノ成立ヲ見ル場合ニハ撤兵ニ伴フ諸般事項ノ措置ニ付充分斉多側ノ便宜ヲ考慮スルコトトスベシ

北京ヲ会議地トスル貴方申出ニ対シ何等当方ニ於テ反対セサリシ故ヲ以テ同地ヲ主張セラルルモ右ハ当時東京ニ於テ接受シタル電報中ニ欠字トナリ居タル為メ当方回答中之ニ言及セサリシニ外ナラスシテ当方ニ於テハ同地カ本交渉ニ何等関係ナキ他国ノ権力中ニアル事実ニ顧ミ会議地トナスニ不便ナリトノ意見ヲ表示スルノ止ムヲ得サルヲ遺憾トス元来基本協定ノ締結ハ短日子ヲ以テ之ヲ了シ得ヘキハ前顕貴信モ之ヲ予見セラルル通リナルニヨリ国際的都市ニ於テ之ヲ為スノ必要ナキヲ以テ右基本協定ハ貴方ニ於テ「ハルビン」ヲ不便トセラルルニ於テハ貴我ニ便ニシテ且我方ニ於テ保護等ニ就キ充分ノ便宜ヲ供与シ得ル地即大連奉天又ハ長春ノ孰レカニ於テ之ト交渉ヲ為スコトトシタク尤モ引続キ行フヘキ交渉ハ更ニ協議ノ上他ノ地点ニ移スモ異存ナシ

尚ホ前記在満洲三地点ノ孰レニ於テモ通信連絡上必要ナル便宜ハ出来得ル限リ之ヲ供与スヘシ

前述ノ通リ基本協定ノ迅速成立カ貴我双方ニトリ極テ好マシキ義ナルニ顧ミ会議地ニ関スル予備交渉ニ多大ノ日子ヲ空費スルヲ避クルニ顧念セラレ速ニ我方提案ニ同意セラレムコトヲ希望ス

四七二　八月十四日　在ハルビン山内総領事ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

基本協定調印ノ日限延期及会議地ニ関スル訓令執行済ノ件

第二三六号　（八月十五日接受）

貴電一二三号ニ関シ

八月十四日本官「オザルニン」ヲ往訪御来示ノ趣旨ニ基キタル文書ヲ交付シタル処速ニ右ヲ「ヤンソン」ト在北京「ヨッフェ」ノ許ヘ電報スヘク右ニ関シ回答接到次第早速当方ヘ知ラセ越スベキ旨答ヘタルニ付本件ハ既ニ非常ニ手間取リ居レル次第故諸種ノ手配ヲ急速ニ運バレ商議開始ヲ急ガルル様希望スル旨本官所見トシテ申添ヘ置ケリ尚先方ヘ交付シタル文書ノ写郵送ス

四七三　八月十五日　松平欧米局長ノアントーノフ会談（七）

日斉会議再開ノ場所ニ関シ意見交換ノ件

松平欧米局長「アントーノフ」会談要領

（大正十一年八月十五日自午後三時半至午後四時半）

松平　本日御来省ヲ煩シタルハ前回会見後斉多莫斯科両政府ヨリ在哈爾賓「オザルニン」氏ヲ経テ我方ノ申入ニ対スル回答ヲ得タルニヨリ貴下ニシテ未ダ承知ナクバ之ヲ御通知セントス

トテ斉莫両政府最近ノ回答内容ヲ読ミ聞カセタル処

「ア」　斉莫両政府共誠意会商ノ成立ヲ望ミ居レルニヨリ斯カル趣旨ノ回答アルベキヲ期待シ居タリト答ヘ、此際

会議地ヲ北京トスル斉多側ノ申出ニ応ゼラレテハ如何ト云ヘルニ付

松平　会議地問題ニ関シテハ既ニ在哈爾賓「オザルニン」氏ヲ経テ斉多側ニ公然回答ヲ発セリ右ハ十二日ニ発電十四日在哈爾賓帝国総領事ノ手ヨリ「オザルニン」氏ニ伝ヘラレタリ、該回答中ニモ詳細述ベタル通リ北京ヲ会議地トスルコトハ対面上会議催進上其他種々ノ関係ニ於テ不便ナルニヨリ日本側ハ応諾シ難シ寧ロ此際大連ガ都合悪シトセハ奉天、長春乃至ハ哈爾賓ニテモ可ナリ我方ニ於テ委員一行ノ安全ヲ保障シ得ル土地ニテ開催シ至急取極ムルコト斉多側ノ為ニモ有利ナリト思考ス、トテ詳細説明シ事宜ニヨリテハ基本協定締結ノ為差当リ我方ノ希望スル土地ヲ選定シ引続キ行ハルベキ会議ニ付テハ斉多側希望ノ地ニ付更ニ協議スルコトトセバ可ナラン但シ何レノ場合ニ於テモ北京ハ不可ナリ云々ト述ベタルニ

「ア」　実ハ北京ニ関シテハ自分一己トシテモ不適当ナル会議地点ト思考スルモ哈爾賓ニテ御異議ナシトセハ北京ニテモ同様ナラズヤ或ハ進テ東京トセラレテハ如何ト云ヘリ

松平　右ニ対シ北京ト哈爾賓トノ差異ヲ説明シ又東京ノ不可ナル所以モ委曲説示セリ

要スルニ会議地ノ問題ハ関係両政府間ニ於テ決定スルヲ得策トシ第三国政府ノ意見ヲモ知ラザルベカラザル如キハ会議ノ進行ヲ容易ナラシムル所以ニ非ズト述ベタリ

「ア」　基本協定ヲ日本側ノ主張スル地点即奉天、長春等ニ締結スルコトトシ他ノ会議ハ斉多ニ於テスルコトニ日本側ハ応ゼラルルヤ右ノ趣旨ニテ斉多ニ伝フベキヤトテ具体的回答ヲ求ム

松平　右ニ対シ確答ヲ与ヘズ

本日ハ今回交渉ノ初ヨリ努力スル所アリタル貴下ニ対シ前回会見後ノ事件ノ成行ヲ御通知スルモノナリト述ブ

日本側ハ莫斯科政府代表者ノ参加ヲモ許シ撤兵ノ実行ハ着手スルコトトシ誠意ヲ以テ協定ノ成立ヲ期待シ居ルニ鑑ミ会議地ニ関スル日本側ノ申出ニ応諾セラルルコト貴国ノ為ニモ有利ナリト思考ス然ラズンバ種々意外ノ結果ヲ惹起スベキニヨリ其ノ点十分御考ヘアリタシトテ「ア」ノ注意ヲ喚起シ置キタリ

四七四　八月二十四日　井出海軍次官ヨリ埴原外務次官宛

日斉会議再開ノ場合ニ対スル海軍側条件ニ関シ外務省ノ見解回示方依頼ノ件

官房機密第一二二八号　（八月二十五日接受）

大正十一年八月二十四日

海軍次官　井出　謙治（印）

外務次官　埴原　正直殿

第二次日斉会議ノ件

第二次日斉会議開催ノ場合海軍関係事項ノ処理ニ従事セシムル為委員又ハ帝国代表顧問トシテ海軍武官派遣ノ件官房機密第一一三二号ノ二ヲ以テ照会致シ置候処海軍側ノ条件ハ左記ノ如ク之ヲ本年四月官房機密第五二四号大連会議ニ関シ海軍側軍事協定事項ノ件ニ就キ依命通牒セシモノニ比較セハ爾後ノ情勢ニ鑑ミ大ニ緩和セルモノニ有之候尚之カ詳細ハ別紙甲号及乙号ニ就キ御承知相成度要スルニ第二次日斉会議ニ於テハ海軍事項ノ関スル限リ別紙甲号及乙号ヲ基礎トシ対外交渉ヲ進メ度腹案ニ有之候間右御承知ノ上本件ニ関スル外務省ノ見解及異存ノ有無御回示ヲ得度

右依命照会ス

追テ本件ニ関スル説明ノ為要スレハ何時ニテモ池中海軍中佐又ハ関係主務官ヲ派遣可致候ニ付御申出被下度候

記

一、方針

露国ニ対シ努メテ寛容ノ態度ヲ採リ漫ニ露国ノ主権ヲ侵害シ露人ノ自尊心ヲ傷ケ怨恨ヲ将来ニ貽スガ如キ条件ヲ課セザルコト

二、要旨

㈠浦潮方面

(一)浦潮ニ於テ帝国軍艦ニ押収保管中ノ兵器ハ之ヲ廟議決定ノ方針ニ従ヒ還付スルコト

(二)「ルスキー」島日米管理無線電信所ハ日米均シク之ヲ撤廃セシムルコト

㈡薩哈嗹方面

(一)押収艦船及物件ハ之ヲ還付スルコト

(二)北樺太ニ於ケル油田炭田ニ関スル礦業権ヲ獲得スルコト

(三)下部黒龍江ニ於ケル帝国海軍艦船及帝国一般船舶

（別紙甲号）

第二次日斉会議再開ノ場合海軍関係事項ニ対スル研究問題

一、沿海州方面ニ関スルモノ

(イ)陸軍西比利撤兵後当分ノ間必要ナル地点ニ海上兵力ヲ存置スル件ニ就キ斉多側ヲシテ予メ諒解セシメ置ク必要ナキヤ

(ロ)斉多側ニシテ浦塩要塞全部ノ撤廃ヲ承認スレバ問題ナキモ一部ノ撤廃ヲ承認スル場合海軍側トシテ希望条件ナキヤ

(ハ)露(ルスキー)西亜島無線電信問題ニ関スル海軍側最後ノ腹如何

(ニ)海軍保管押収兵器引渡シニ関スル形式ハ如何ニスルヤ

(ホ)浦塩在泊露国艦船（海軍）ガ斉多側ノ掌裡ニ帰スル前脱出逃走等予防ニ関シ斉多側ノ要求アル場合我ハ之ニ応ズル意志アリヤ若シ無シトセハ其理由如何

二、尼港方面ニ関スルモノ

(イ)尼港問題解決ニ当リ海軍側ノ希望条件竝其最少限度如何

(ロ)砲艦其他押収物件引渡時ニ於ケル形式、場所、状態等ニ関スル海軍ノ方針如何

(ハ)海軍トシテ尼港損害ニ対シ特ニ申出ヅベキ必要生ジタル場合アリトセバ如何ナル要求ヲナスヤ

(ニ)尼港ニ於ケル海軍側損害ノ見積如何

(ホ)北樺太ニ投ジタル海軍（北辰会）ノ資金概算

(ヘ)北樺太炭田ニ対シ海軍トシテ将来特ニ希望ナキヤ

(ト)北辰会作業地ニ建設シアル無線電信ハ将来如何ニ措置スルヤ

(チ)韃靼海峡引揚ケ沈船ニ対シ知多側ガ強テ返還ヲ希望セル場合適当ナル交換条件アレバ之ヲ返還スルモ一策ナラン右ノ場合其交換条件如何

(リ)韃靼海峡沈船引揚ケニ要シタル費用概算如何

三、堪察加方面ニ関スルモノ

堪察加方面露領水産組合建設ノ無線ハ将来如何ニスルヤ

（別紙乙号）

研究問題決議案（註　右別紙甲号ニ於テ想定セラレタル研究問題ニ対スル解答トシテノ決議案ナリ）

一、沿海州方面ニ関スルモノ

(イ)帝国ヨリ進テ予メ諒解ヲ求ムル必要ナシ但シ先方ヨリ本件ニ関連シ何等カ申出アリタル場合又ハ会議ノ進行中偶々言之ニ及ビタル場合ニハ帝国軍艦ノ存置ハ撤兵ト無関係ニシテ露国ノ現状ニ稽ヘ居留邦人保護及利権擁護ノ目的ヲ以テ浦潮撤兵後モ引続キ帝国ハ必要ト認ムル地点ニ所要ノ海軍兵力ヲ存置スヘキコトヲ単ニ通告スルノ程度ニ止ム

(ロ)(一)浦潮要塞全部ノ撤廃ヲ自発的ニ声明セシメントスル陸軍ノ主張ニ対シテハ海軍ハ傍観ノ態度ヲ保持シ特ニ之ヲ支援シ又ハ反対スルヲ要セズ

(二)露国側ニ於テ全部撤廃ニ反対シ単ニ一部ノ要塞撤廃ノミヲ承認スル場合之ガ撤廃スヘキ要塞ノ選定ニ関シテハ陸軍ト協議スヘキモ艦船ノ浦潮出入ニ対シ脅威トナルヘキ海正面要塞ヲ先ヅ第一ニ撤廃セシムルノ方針ニ出ヅルヲ要ス

(三)露国側ニ於テ要塞撤廃ニ不同意ナル場合又ハ帝国政府ニ於テ要塞撤廃ヲ提案要求セザルコトニ決スル場合ニハ海軍トシテ要塞現状維持ヲ主唱スルト共ニ左

ノ事項ニ就キ露国側ノ承認ヲ求ム

露国側ハ帝国及第三国艦船ノ浦潮出入ニ対シ脅威トナルヘキ一切ノ施設及行為ヲ為サザルベキコト

(ハ)陸軍撤兵後領事館員及居留邦人ト内地トノ通信確保ノ為浦潮「ルスキー」島無線電信所ヲ引続キ帝国ニ於テ管理スルヲ必要トスルモ若シ米国ニシテ「ルスキー」島無線電信所ヲ撤廃セシムルニ於テハ帝国政府モ亦之ヲ撤廃スルニ吝ナラザルヲ説明シ極力共同撤廃ヲ主張スベク已ムヲ得ザレバ日米管理両無線電信所ヲ何レモ日米人ノ管理ヨリ全然露人ノ管理ニ移スコトヲ要求シ更ニ已ムヲ得ザルニ於テハ当分現状維持トス

之カ交渉ノ方法ニ関シテハ外務官憲ノ所信ニ委スヘキモ先ツ露国側ト折衝ノ上露国側ヲシテ自発的ニ共同撤廃ヲ要求セシムルヲ可トスヘク而シテ折衝ノ進捗状況ニ依リ要スレバ日米直接交渉ニ移スモ差支ナシ但シ此場合大正七年十月二十二日附米国務卿ヨリ石井大使経由帝国外務大臣宛文書通牒ヲ根拠トシ正々堂々ト撤廃ヲ主張スルヲ可トスヘシ

(ニ)派遣軍司令官ト協議ノ上帝国ノ既定ノ方針ニ従ヒ第三

艦隊司令部ニ於テ之ヲ処理ス而シテ派遣軍司令官又ハ第三艦隊司令長官ノ何レノ名義ニ於テ之ヲ処理スヘキヤハ当時ノ情況ニ依リ機宜之ヲ決定ス

(ホ)脱出遁走等ノ場合ハ予想シ得ル処ナルモ帝国政府トシテハ之カ予防申出ニ対シ内政不干渉及政治犯人取扱ニ対スル国際的慣例ニ基ク厳正中立ヲ理由トシ更ニ仮ニ先方ノ要求ヲ承認スルトスルモ尚且実際問題トシテ到底之カ実行不可能ナルヲ理由トシ斉多側ノ要求ニ応ズルノ限リニ非ズ

但シ先方ヨリ要求アルニ於テハ露国海軍艦船ニ対スル斉多側ノ要望ヲ「メ」側ニ通牒シ又ハ情況ニ応シ斉多側交渉委員ヲ浦潮附近露領沿海露国海軍艦船所在地ニ帝国艦船ヲ以テ輸送スル等ニ関シ便宜ヲ供与スルコトニハ敢テ異存ナシ

二、尼港方面ニ関スルモノ

(イ)海軍ノ希望条件ハ左記ノ二件ニシテ何レモ薩哈嗹州保証占領ノ真随ニ触ルルモノナルヲ以テ啻ニ海軍側ノ希望ナルノミナラズ帝国国民全般ノ意嚮又此処ニ存スルモノト認メラル従テ左記ノ二条件ハ尼港問題解決上海軍側ノ絶対希望条件ナルト同時ニ又実ニ最小限度ノ要求ニ属スルモノナリ

記

(一)北樺太ニ於ケル油田炭田ニ関スル鉱業権ノ獲得

(二)下部黒龍江ニ於ケル帝国海軍艦船及帝国一般船舶航行権ノ獲得

而シテ(一)ノ獲得方法ガ租借、譲与、買収等何レノ形式ニ依ルベキヤハ外務省ノ所信ニ委スヘキモノニシテ敢テ海軍ノ容喙スベキ処ニ非ズト雖既往ノ方針ニ従ヒ之ガ目的達成ニ関シ海軍ハ極力支援スルヲ要ス(二)ニ関シテハ種々議論アルベク松花江航行権問題解決前之ガ提議ハ早計ニ失スルガ如キ懸念ナキニ非ザルモ松花江航行権問題ハ日支露三国間ノ交渉ヲ必要トシ急速之ガ解決ノ見込ナキト黒龍江航行権獲得問題ハ尼港事件解決ノ好機ヲ措テ他ニ之ヲ求ムル能ハザルトノ理由ニ依リ松花江航行権問題ノ進捗如何ニ関ラズ帝国政府ヨリ提議スルヲ可トス而シテ黒龍江全般ニ亘ル航行権ヲ云々スルトキハ解決ヲ困難ナラシムル虞アルヲ以テ問題ヲ主トシテ多数邦人ノ居留セル哈府ヲ含メル下流水域所謂下部黒龍江ニ局限スルヲ可トスヘシ

尚帝国艦船及帝国一般商船ニ対スル航行権問題ハ不可分ニ近キヲ以テ両者ノ交渉ヲ聯進セシムルヲ有利トスベキハ敢テ論ナキ処ナルモ四囲ノ形勢ニ鑑ミ仮令一般商船航行権問題ノ提出ヲ差控フルカ又ハ交渉中之ヲ放棄スルガ如キ場合ニ於テモ帝国海軍艦船航行権問題ハ露国ノ現状ニ鑑ミ居留邦人保護及利権擁護ノ趣旨ニ基キ単独ノ問題トシテ飽迄之ガ獲得ヲ主張スルヲ要ス

(ロ)海軍ノ方針次ノ如シ

(一)引渡スヘキ物件

押収艦船（別表甲参照）及押収航路標識

(二)引渡官

臨時海軍防備隊司令又ハ海軍大臣ニ於テ特ニ指定スル海軍武官

(三)受領官

露国側ニ於テ特ニ指定セル正当ノ受領官タルコトヲ確認シ得ルモノ

(四)場所　亜港

(五)状態　尼港事件解決ニ関スル協定又ハ授受ニ関スル

協定成立当時ノ状態トス但シ押収艦船ニ於テハ帝国海軍ニ於テ特ニ装備セル兵器類ヲ除クモノトス

（備考）

亜港以外ノ地点ニ於テ押収艦船ノ授受ヲ希望スル露国側ノ要求ニ対シテハ帝国ハ之ニ応ズルノ限ニ非ザルモ航路標識等ニシテ日本内地ニ後送セル場合ニハ時期其他ノ情況ニ依リ亜港以外小樽函館等便宜ノ地点ニ於テ授受スルモ差支ナシ

(ハ)(イ)ト重複スルニ付省略

(ニ)大正八年以降尼港及薩哈嗹方面ニ対スル帝国海軍部隊出動ニ要スル経費ヲ除キ単ニ大正九年尼港事件ニ於ケル臨時海軍電信隊ニ対スル損害ヲ概算セハ左ノ如シ

(一)戦死者　四十四名

内訳

士官以上七、准士官一

下士官三三、兵三

(二)兵器需品費　一三一、二〇〇円

内訳

無線電信兵器（建設費共）　一〇〇、〇〇〇円

随身兵器　四、五〇〇

衣糧　二六、七〇〇

（備考）戦死者ニ対スル吊慰金等ハ海軍省単独ニ之ガ標準ヲ作成スルコトナク陸軍外務両省トノ振合ヲ参酌シ之ヲ決定スルモノトス

(ホ)海軍省側　約四、〇〇〇、〇〇〇

北辰会側　約一、六六〇、〇〇〇

計　約五、六六〇、〇〇〇

(ヘ)海軍省ノ提案ニ基キ発布手続進捗中ナル鉱業令発布ト共ニ封鎖炭田ヲ開放スル以外海軍トシテ特ニ希望ナシ尚将来ニ於ケル出炭ノ使用利用其他管制等ニ関シ目下何等希望ヲ有セス経営者ノ自然発展ニ委セントス

(ト)現有無線電信所ハ「オハ」（三吉）、「チヤイオ」（六吉）ノ二個所ニシテ器具ハ海軍ノモノヲ無償貸与セルモ之カ使用建設管理ハ挙テ北辰会ニ一任シアリ

将来ト雖油田地ノ交通不便ナルニ鑑ミ油田開発及稼業上無線電信所ノ使用継続ヲ必要トスルハ勿論ナルモ必ズシモ之ヲ北辰会ノ掌裡ニ置カザルベカラザル理由ナキノミナラズ之ガ主張ハ却テ「ルスキー」島無線電信所問題等他ニ影響スル処アルヲ以テ相当条件ノ下ニ露国側ニ譲与スルヲ可トス

(チ)引揚沈船ハ素ヨリ返還スヘキ理由ナキモ露国側ニ於テ相当理由ノ下ニ之ガ譲与ヲ申出ツル場合帝国ノ公正ナル態度ヲ表明スル為韃靼海峡方面ニアルモノニ限リ特ニ無償譲与シ差支ナシ

但シ已ニ内地ニ後送セル引揚船ニ対シテハ之カ海上輸送ノ困難ヲ理由トシ一応之ヲ拒絶スベキモ露国側懇請アルニ於テハ相当交換条件ヲ附シ之ヲ容認スルモ差支ナシ而シテ交換条件トシテハ航海ノ安全等公明ナル理由ニ立脚シ極東露領沿岸水路図誌等ノ提供ヲ要求スルヲ適当トスヘシ

(リ)間宮海峡航路標識設置撤収及補修費　一八六、九五〇

航路清掃作業費　二、二二一、五六〇

計　二、四〇八、五一〇

三、堪察加方面ニ関スルモノ

現有無線電信所ハ「ウスチ」及「ボリシエレツク」ノ二個所ニシテ何レモ露領水産組合ノ建設、管理、使用ニ係ル

本無線電信所ノ将来ニ関シテハ漁業問題ノ解決ト関連スル処アルヘキモ、二(ト)北辰会作業地無線電信所ニ対スル措置同様適当ナル条件ノ下ニ露国側ニ譲与セシムル如ク指導スルヲ可トス

四七五　八月二十四日　在ハルビン山内総領事ヨリ内田外務大臣宛（電報）

長春ヲ会議地トシテ条件付受諾ノ旨斉多側回答ニ関シ請訓ノ件

大至急

第二五七号　（八月二十五日接受）

八月二十四日「オザルニン」来訪「ヤンソン」ヨリ訓電アリ若シ露西亜側ニ於テ長春哈爾賓間直通電信往復ノ方法ヲ執リ得ル様我方ニ於テ手配シ呉ルル事可能ナラバ長春ニ於テ会議開催承諾ノ旨申来リ尚開会ハ八月三十日トシ度キ希望ニテ「ヤンソン」八月二十六日斉多発八月二十八日午前八時当地ニ着スヘク「ヨッフェ」氏モ右期日ニ間ニ合フ様北京出発ノ筈ナリトノコトニ付本官トシテ満鉄ノ使用スル線或ハ軍用線モアルコト故直通電信取扱ノ件ハ可能ト信ズ

ル旨答ヘ置キタリ右ハ当地ニ於テ満鉄代表又ハ交通部側ニ話シ見ル可キモ本省ニ於テ差支無シトノ御見込ナラバ其向ヘ御指令ヲ請フ

尚委員一行ハ総計十五名位ニテ宿舎ノ手配警戒隊ノ世話モ何分宜シク依頼シタキ旨申添ヘ居レリ

斉多側ノ正式回答書ハ本八月二十四日（不明）当地ニ来着スル（不明）持参ノ筈ニ付明八月二十五日朝本官ニ交附シ得ヘク又長春ニ於ケル手配出来兼ヌルニ於テハ不得止当地ニテ開催スルノ外無シト申居レリ如何回答シ可然ヤ「ヤンソン」ハ八月二十六日出発ノ予定ニテ夫迄ニ返事ヲ得タキ様子ニ付大至急何分ノ御回訓ヲ請フ

四七六　八月二十五日　内田外務大臣ヨリ　在ハルビン山内総領事宛（電報）

長春及ハルビン間ノ直通電信ニ関シ回訓ノ件

第一三七号　至急

貴電第二五七号ニ関シ「オザルニン」ヘ左ノ通リ伝ヘラレタシ

長春哈爾賓間直通電信ニ就テハ現存機械ヲ変更シ又ハ露西亜側ノ専用ニ供スルヲ得ザルモ先方ノ発受スル電信ハ我方ノ電線ニ依リ遅滞ナク伝達スルコトニ取計フヘシ尚我方代表者トシテ松平欧米局長、松島総領事ノ両名ヲ任命シ八月三十日東京発長春ニ直行セシムヘシ

四七七　八月二十五日　在ハルビン山内総領事ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

長春ヲ会議地トシタル場合ノ通信技術上ノ問題点ニ付報告ノ件

第二五九号　至急　（八月二十五日接受）

往電第二五七号ニ関シ（会議地ノ件）

「オザルニン」退出後満鉄当局ト会見尚ホ引続キ陸軍側トモ協議セルガ要スルニ「オザルニン」ノ希望セル如ク別機械ヲ備ヘ附ケ当地長春間ニ於テ暗号ニ依ラズシテ直接通信ヲナスハ目下ノ処其取扱頗ル困難ナルヲ発見セルヲ以テ直ニ「オザルニン」ヲ訪問シ当方ニ於テ差当リ長春哈爾賓間ノ電話ヲ使用スル外（例ノ東方通信関係ノ計画アルヲ意味ス）名案ナキ由ヲ述ヘ先方ヨリ東支鉄道会社ニ交渉ノ上希望ノ機械ヲ寛城子ニ設備セシムルトキハ斉多ト直接通信出来便宜ナルベキ旨述ヘタルニ目下「オストロモーフ」不在ニテ甚ダ交渉ニ不便ナルモ兎ニ角右ノ次第ヲ申入レ其結果如何ヲ本官ニ通知スヘキ旨答ヘタリ尚ホ明二十五日朝本官ニ送リ来ルヘキ回答書ノ内容ハ詳細ニハ承知セザルモ直接通信ヲ条件トシテ長春ニ於テ開会ノ件同意ナル旨認メアル筈只「オザルニン」トシテ可成長春ヲ希望スルモ直接通信ノコトハ莫斯科政府ガ強ク主張スル所ナルヲ以テ若シ右ノ方法付カザルニ於テハ或ハ当地ヲ以テ会議地トスルヲ保シ難シトテ已ニ全権等ノ住宅ハ物色シ置キタルモ会議地トシテ適当ナル場所ヲ得ルニ（脱）ガ止ムヲ得ザレバ東支鉄道倶楽部内ノ室ヲ臨時借入ルルコトトスルガ如キハ一案ナリト述ベタリ

四七八　八月二十五日　在中国小幡公使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ヨッフェハ日露会議ニ出席ノ為八月末長春ニ赴ク由ノ件

（八月二十六日接受）

第六〇〇号

貴電第四四二号ニ関シ

「ヨッフェ」ハ今月末長春ニ赴ク旨言明シ居ル由ノ処右ハ同地ニテ開カルベキ日露会議ニ出席ノ為ナリトノ噂アリ事実長春ニテ同会議御開催ノ御予定ナリヤ其辺ノ事情本使参考迄ニ至急御回電ヲ請フ

四七九　八月二十六日　内田外務大臣ヨリ　在ハルビン山内総領事宛（電報）

会議地トシテ長春ノ方望マシキ旨オザルニンニ申入方訓電ノ件

第一三八号

貴電第二五九号ニ関シ

哈爾賓ニテ交渉ヲ行フ場合ニハ白党側ヨリ諸種ノ妨碍アルヘキニヨリ通信上少々ノ不便アリトスルモ長春ヲ会議地トスル方斉多代表者ニ取リテモ安全ナルベキ旨ヲ「オザルニン」ヘ申入レラレ尚ホ哈爾賓長春間通信連絡ニ就テハ此上トモ貴官ニ於テ満鉄及陸軍側ト打合セ出来得ル限リノ便宜ヲ与フル様取計ハレ可成長春ヲ会議地トスル様仕向ケラレタキモ万止ムヲ得ザル場合ハ哈爾賓ニテモ差支ナキニ付右御含ノ上可然措置セラレタシ尚貴地ニテ会議開催ノ止ムナキ状態ニ至ラハ当方代表者ノ宿舎等ニ付予メ用意シ置カレタシ当方松平欧米局長一行ハ会議地ノ決定如何ニ拘ラズ既報ノ通リ本月三十日当地発ノ予定ナリ

尚在長春領事ヘ代表一行宿舎準備方電報シ置キタルニ付右

会議地決定ノ上ハ貴官ヨリ直ニ同領事ヘ電報シ若シ長春ニ決定ノ場合ハ右宿舎確定方申送ラレタシ
本電在長春領事ノ含迄転電アリタシ

四八〇　八月二十六日　在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

日斉間再開会議ニ対スル我方委員任命及其出発日取先方ニ通知済ノ件

第二七〇号　（八月二十七日接受）
貴電第一三八号ニ関シ
委員任命及出発日取八月二十六日「オザルニン」ニ電話セリ先方ヨリノ公文ハ昨二十五日夜到著本二十六日午後一時当方ヘ持参スル由ナルカ会議地ハ長春ニ決定シ電信機ヲ寛城子ニ備付ノ件モ往電第二六一号ノ通リ見込アル趣ニ付貴電前段ノ件申入ノ儀見合セ置ケリ尚ホ「ヨッフェ」ハ八月三十日北京発長春ニ向フ由ナリ

四八一　八月二十六日　在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

長春ヲ会議地トスルニ異議ナキ旨回答ノ斉多側公文受領ニ付報告ノ件

行ニ斉多トノ連絡上「ヒューズ」式直通電信機ノ使用ヲ許容セラレンコトヲ望ム
日本政府ヨリ会議開始ニ関シ決定的期日ヲ示サレンコトヲ希望ス労農代表「ヨッフェ」ハ三十日北京ヨリ長春ニ出立スヘシ「ヤンソン」二十六日斉多ヲ出立スヘシ本公文ハ一九二二年八月二十四日附「カラハン」及「ヤンソン」連名ニテ閣下宛ノモノナリ
原文郵送ス同時ニ長春領事気附トシ同文松平委員ニモ郵送セリ

（附　記）
八月二十六日附チタ政府特別代表オザルニンヨリ山内総領事宛書翰和訳文（仮訳文）
八月二十四日附カラハン及ヤンソンヨリ内田外務大臣宛書翰伝達方依頼ノ件

第八四五五号
千九百二十二年八月二十六日哈爾賓市
支那東三省特別地帯ニ於ケル極東共和国特別代表
エ、オザルニン
在哈爾賓
一六　日本国及極東共和国両政府間非公式交渉関係一件　四八一　五八七

（附　記）　八月二十六日附オザルニンヨリ山内総領事宛書翰和訳文

第二七四号　（八月二十七日接受）
往電第二七〇号ニ関シ
八月二十六日午後一時「オザルニン」来訪大要左ノ通リ内容ノ公文ヲ本官ニ手交セリ
本月十四日附書翰ヲ接到シ「ソヴィエト」政府及極東共和国政府ハ協商国間ノ会議ノ場所ニ関シ何等異ル意見無キニ対シ満足ス但シ日本政府カ会議ノ場所トシテ莫斯科、斉多、東京ヲモ拒絶シタル上北京ヲモ国際都市並他国領土内ナリトノ理由ニテ排斥セラレシニ対シ遺憾ノ意ヲ表セザルヲ得ズ去リナガラ場所ニ関スル論争ニ日ヲ費シテ会議ノ開始ヲ遷延セシムルヲ欲セザルニ依リ日本政府提議中ノ場所ヨリ長春ヲ選フコトトセリ但シ日本政府御申越ノ如ク会議ヲ後ニ他ノ場所ニ移シ得ルヲ（不明）トス
露国側ハ日本政府カ会議地ニ於テ代表ニ対シ必要ナル便宜ヲ供与スヘシト云フ好意ヲ感謝シ同時ニ代表ノ一行ハ専門家技術家ヲ合セ約二十五（二五）名ナルコトヲ御了承相成度シ露国側ハ日本ノ提議ニ応ズルニ付会議ノ際一

山内日本総領事殿
以書翰啓上致候陳者日本政府外務大臣宛ニテ露西亜社会主義聯邦「ソヴィエト」共和国外務国民委員代理及極東共和国外務大臣「ヤンソン」ノ署名ニ係ル本年八月二十四日附書翰ヲ玆ニ添附致候ニ付右書翰名宛通リ伝達方ヲ拒絶セザランコトヲ依頼ニ及ブノ光栄ヲ有シ候　敬具

（別　紙）
八月二十四日附カラハン及ヤンソンヨリ内田外務大臣宛書翰和訳文（仮訳文）
露西亜社会主義聯邦「ソヴィエト」共和国政府及極東共和国政府ハ会議地ノ問題ニ関シ協商当事国間ニ何等ノ異議ナキコトヲ満足ヲ以テ確認スルモノナリ但日本帝国政府ガ会議地トシテ莫斯科、「チタ」及東京ヲ排斥シ今亦北京ヲ排斥セルニ対シ遺憾ノ意ヲ表セザルヲ得ズ露西亜社会主義聯邦「ソヴィエト」共和国政府及極東共和国政府ハ貴翰ニ於テ北京ガ国際市ニシテ他国ノ領土内ニ在リトノ北京排斥ノ理由ニ関シ驚異ノ意ヲ表スルモノナリ北京ハ吾人ノ知ル限リ国際市ニアラズシテ支那国ノ市ナルガ若シ北京ガ単ニ他国ノ領土内ニアルカ為排斥セラルトスレバ日本帝国政府ニ

於テ北京ト同シク他国即支那ノ領土内ニアル哈爾賓、奉天又ハ長春ヲ提議セラルルコトハ不可解ナリサレド露西亜社会主義聯邦「ソヴィエト」共和国政府及極東共和国政府ハ会議地ニ関スル論争ヲ以テ会議ノ開始ヲ遷延スルコトヲ欲セザルニヨリ撰択ノ為日本政府ノ提議セラレタル市ヨリ長春ヲ撰ブコトトセリ但日本帝国政府ノ提議ノ如ク後日会議ヲ他ノ適当ノ地ニ移スベシトノ条件ヲ以テス露西亜社会主義聯邦「ソヴィエト」共和国政府及極東共和国政府ハ会議地ニ於テ必要ナル便宜ヲ代表ニ供与スベシトノ好意アル申出ニ対シ日本帝国政府ニ感謝シ代表ノ一行ハ専門家技術者トモ約二十五名ナルコトヲ御了承相成度

露西亜社会主義聯邦共和国政府及極東共和国政府ハ日本帝国政府ノ提議ニ従ヒ会議期間中「チタ」トノ聯絡ノ為「ヒューズ」式電信機ヲ以テスル直通電信線ヲ代表ニ提供セラレンコトヲ主張ス露西亜社会主義聯邦共和国政府及極東共和国政府ハ会議開始ノ決定的期日ノ指定ヲ日本帝国政府ヨリ期待シ且露西亜社会主義聯邦「ソヴィエト」共和国及極東共和国代表委員長在支那露西亜社会主義聯邦「ソヴィエト」共和国特命全権代表者人民「ヨッフェ」ハ本月三十日北京ヨリ長春ヘ出発スルコトトナルベク代表委員、極東共和国外務大臣、人民「ヤンソン」ハ本月二十六日「チタ」ヨリ出発可致候　敬具

千九百二十二年八月二十四日

カラハン

ヤンソン　（署名）

日本帝国政府外務大臣殿

右電信原文ト相違無之候也

支那東三省特別地帯ニ於ケル極東共和国特別代表

オザルニン（署名）

四八二　八月二十八日　内田外務大臣ヨリ在ハルピン山内総領事宛（電報）

長春ヲ会議地トスルニ異議ナキ旨ノカラハン及ヤンソン公文ニ対シ回答方訓令ノ件

附　記　松平欧米局長及松嶋総領事ノ権限ニ関スル八月二十九日附証明書

第一四二号

貴電第二七四号ニ関シ左ノ通リ公文ヲ以テ「オザルニン」ヘ申入レラレタシ

日本外務大臣ハ八月二十四日附「ヤンソン」氏及「カラハン」氏連名ヲ以テセル書翰ヲ接受シ先方カ我方ノ提議セル場所中長春ヲ会議地ト選定セルコトニ対シ満足ノ意ヲ表ス通信連絡ニ関スル先方希望ニ就テハ我方ノ関スル限リ出来得ル限リノ便宜ヲ供与スヘシ尚日本帝国政府代表トシテ欧米局長松平恒雄総領事松嶋肇ノ両名ヲ任命シ右一行ハ八月三十日東京発九月二日長春着ノ予定ナルニ付会議ハ九月四日ヨリ開始セラルヘキコトヲ期待ス

（附　記）

欧米局長松平恒雄及総領事松嶋肇ノ権限ニ関スル八月二十九日附証明書

右両氏ハチタ及ソ聯両政府代表者ト商議開始及取極締結ノ権限ヲ有スル旨証明ノ件

欧米局長松平恒雄及総領事松島肇ハ極東共和国政府及露西亜「ソヴィエット」聯邦共和国政府ヨリ各正当委任ヲ有スル代表者ト会合シ帝国ト極東共和国トノ間ニ於ケル通商其他ノ事項並極東露西亜ニ於ケル諸問題ニ付商議ヲ開始シ取極ヲ締結スヘキ権限ヲ有スルモノナリ

大正十一年八月二十九日

日本帝国政府外務大臣伯爵　内田　康哉（印）

（右英文）

This is to testify that Tsuneo Matsudaira, Director of the European and American Bureau of the Department of Foreign Affairs and Hajime Matsushima, Consul-General, are invested with full powers to negotiate and conclude agreements with the duly authorized representatives of the Far Eastern Republic and of the Russian Socialist Federal Soviet Republic, regarding commerce and other matters between Japan and the Far Eastern Republic and other questions pertaining to Far Eastern Russia.

Tokyo, August 29th, 1922.

(Signed)Count Yasuya Uchida

Minister for Foreign Affairs.

四八三　八月二十八日　在長春山崎領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

八月二十二日チタ政府外相ヤンソンノ為シタル演説中極東殊ニ日本ニ関スル部分ニ付田中報告ノ件

（八月二十九日接受）

第五九号
在満洲里田中ヨリ左ノ通
第三号
外務大臣ヘ転電アリタシ
第三三号

八月二十二日自治庁会議ニ於テナセル斉多外務大臣「ヤンソン」ノ演説中極東ニ関スル部分ノ要領左ノ通

独露条約ハ当方ニモ影響シ日本ハ露国ニ対スル侵略政策ヲ止メタリ日本人ハ外務大臣ニ日露独ノ接近ニ賛成ナルヤト問ヒタルコトアルガ米国モ亦之ニ興味ヲ有ス日本ハ自己ノ孤立ナルヲ知リ極東ニ於テハ仏国ヲ友邦トセントセリ若シ露国ガ旧政体ニ在ラバ之ト軍事同盟ヲ締結セントシタルナラン支那トノ関係ハ支那ノ不統一ト外国人ノ妨害アリテ近キ将来ニハ解決セザルベシ日本トノ交渉ニ対シテハ大連会

議ニ於テハ日本ガ撤兵期ヲ定ムルヲ拒絶セル為交渉断絶シタルガ日本ハ欧米ニ於ケル諸会議ノ結果譲歩スルニ至リ十月迄ニ自主的ニ撤兵スルコトヲ声明シ其間条約ヲ締結センコトセルガ若シ該条約ニ撤兵ニ関スル約束ヲ含マザル場合ニハ露国ハ之ヲ破棄スヘシ
尚日本ガ「ソヴィエト」露国ト交渉セントスルコトモ譲歩ナリ日本ハ大連会議ノ不成立ヲ後悔シ居ル模様ニテ今日トナリテハ同会議ノ条約ノ或ル条項モ自然変更セラルベク共和国ノ位置ハ有利ニナレリ白軍武装ニ関シテハ日本ノ自由トナルベケレド若シ浦潮ノ武器ヲ白軍ニ与フルコトトナルモ共和国ニ取リテハ大ナル脅威トナラズ

四八四　八月二十九日　閣議決定（註1）

長春会議代表ニ対スル日本政府ノ訓令

露西亜側ハ「ゼノア」及海牙ニ於テ審議セラレタル諸事項ニ付各国ト単独ニ協定セムコトヲ欲スルモノナルニヨリ今次交渉ニ於テハ我国トノ間ニ此等事項ニ就テモ交渉ヲ開始セルカ如キ観ヲ与ヘ宣伝ノ具ニ供セムトスル懸念アルニ付右篤ト注意ヲ加フルト共ニ我方交渉ノ大方針ガ先ツ基本協定ヲ締結シ然ル後爾余問題ノ交渉ニ入ラムトスルニアルコトヲ体セラレ左記方針ニヨリ可成速ニ基本協定ヲ成立セシムル様努メラルヘシ

基本協定調印ノ上引続キ交渉ニ入ルヘキ諸事項ニ就テハ追テ決定ノ上指示スヘシ

記

一、第一次交渉事項ノ範囲ハ大連ニ於テ既ニ協議ヲ為シタルモノニ限リ且同地ニ於テ略ホ議了セラレタルモノヲ基礎トスヘキコトハ曩ニ先方ニ提議シ略ホ其了解ヲ得タル次第ナルニヨリ此等ニ関シテハ変更スルコトナシ（大連ニ於ケル我方最終提案別添第一号（註2）ノ通リ）

二、基本協定ハ撤兵ニ伴フ諸般事項ノ処理殊ニ居留民ノ去就決定ニ付速ニ之ヲ成立セシムルコト必要ナルノミナラズ先方ニシテ之ヲ成立セシメムトスル誠意ヲ有スルニ於テハ遅クトモ九月末迄ニ調印ヲ見ルコト困難ナラズト認ムルニヨリ右期間内ニ之ヲ成立セシムルコト

三、押収軍需品引渡其他ノ軍事事項ニ就テハ別添第二号(一)及(二)附属文書案及押収軍需品引渡協定案ノ趣旨ニヨリ協定ヲ遂クルコト尚若シ先方ニ於テ基本協定ト同時ニ押収軍需品引渡協定ヲ調印スヘキコトヲ主張スルニ於テハ之ニ応シ差支ナシ

四、大連ニ於ケル最終提案中第十条ニ対スル我方修正案別添第三号ノ通リ

五、莫斯科政府ノ交渉参加ハ漁業問題ニ付同政府カ直接重大ナル関係ヲ有スル外同政府カ極東共和国政府ト緊密ナル利害関係ヲ有シ殊ニ両者間ノ経済同盟条約中斉多政府カ第三国政府ト通商其他ノ協定ヲ為ストキハ莫斯科政府ノ同意ヲ経ヘシトノ規定アルニ顧ミ其参加ヲ便トスルノ趣旨ニ出ツルモノニシテ本件交渉事項ノ大部分カ極東共和国ニ関スル点ヨリシテ我方ノ交渉相手方ハ主トシテ斉多政府代表者トス従テ又莫斯科政府代表者ノ基本協定調印参加ノ形式モ右ノ趣旨並ニ範囲ニ於テ認ムルモノトス

六、基本協定成立ノ上ハ先方ニ於テ協約上ノ拘束ニ基キ沿海州及樺太対岸等ニ於ケル我居留民ニ対シ保護ノ責ニ任スヘキハ勿論ナルニ付此点ハ特ニ先方ニ対シ充分ナル警告ヲ加フルト共ニ補助民警設置ニ就テモ一応交渉ヲ試ムヘシ

尚又帝国国籍ヲ有スル朝鮮人ノ先方軍隊ニアルヲ禁止ス

ルト共ニ不逞鮮人カ我居留民ニ対シ危害ヲ加フルコトナキ様特ニ注意ヲ加ヘシムル必要アルヲ以テ此点ニ付充分ナル措置ヲ講スル様先方ニ交渉スヘシ

七、樺太対岸ニ在ル官有物及我軍ニ於テ使用中ノ物件ノ引渡ニ付テモ一併協定ヲ要ス

八、目下米国側ニ於テ使用中ノ「ルスキー」島無線電信所ハ我方使用ノモノト同シク之ヲ露西亜側ニ返還セシムルコト帝国国策上必要ナリ

依テ今次交渉中先ツ本件無線電信所ニ関スル米露間ノ関係及露西亜側ノ意嚮ヲ探知スルコトトシ時宜ニヨリ米国カ本件電信所ヲ使用スル間我方ニ於テモ管理中ノ無線電信所ヲ使用スルコトニ付交渉ヲ為スコト可然モ可成露西亜側ヲシテ米国ニ対シ無線電信所返還ヲ交渉セシムル様事態ヲ誘致スルニ努ムベシ

註1　右閣議決定ハ同日外交調査会ニ提出セラレ同会ニ依リ其儘決定セラレタリ

2　別添第一号ハ前出ノ四月十五日松島政務部長発内田外務大臣宛電報合第一二七号ノ附記ト同文ナルニ付省略セリ

（別　紙一）

第二号㈠

軍事事項ニ関スル附属文書案

日本帝国政府及極東共和国政府間通商其ノ他ニ関スル協約締結ニ際シ両国政府ハ軍事事項ニ関シ左ノ通リ協定ス

第一条　日本軍カ沿海州内ノ鉄道ニ施シタル一切ノ作業設備及架設セル電線ハ無償ニテ極東共和国政府ニ譲渡スヘシ

極東共和国政府ハ前記諸作業ノ為露国側ヨリ提供セル材料又ハ其ノ代金ヲ請求スルコトナカルヘシ

第二条　日本軍ニ於テ押収セル軍需品ハ日本軍ノ撤退期日ニ支障ナキ限リ現在ノ儘極東共和国ニ引渡スモノトス

第二号㈡

押収軍需品授受ニ関スル協定案

日本国政府及極東共和国政府ハ両国政府間通商其ノ他ニ関スル協約ノ附属文書ニ基ク押収軍需品ノ授受ニ関シ左ノ協定ヲ為ス

一、押収軍需品授受ノ手続竝其ノ受領委員及警護部隊ノ員数到着場所期限等ニ関シ所要ノ協定ヲ為ス目的ヲ以テ特別委員会ヲ編成ス

該委員会ハニコリスクニ於テ編成セラルルモノトス

（参　考）本協定成立ノ際日本軍カ既ニ「ニコリスク」ヨリ撤退セル場合ニハ「ナデージンスカヤ」ニテ右委員会ヲ組織スルモ差支ナシ

二、浦潮及其ノ附近ニ存在スル日本軍押収軍需品ノ授受ハ箇々ノ物件ニ付行フコトナク現押収状態ノ儘各地区各倉庫ニ就テ総括的ニ実施セラルルモノトス

三、浦潮附近以外ノ地域ニ存在スル日本軍ノ押収軍需品ハ日本軍撤去ノ際当該地方自治庁又ハ鉄道庁ノ保管ニ移サルルモノトス

四、極東共和国軍隊ノ前進遅緩シ第一項所載ノ委員及警護部隊ニシテ所定ノ期限内ニ到着セス為ニ日本軍ノ撤去期日ニ支障ヲ生スルカ如キ場合ニ於テハ日本軍憲ハ押収軍需品授受ノ責ニ任セサルモノトス

第二号㈢

交渉ニ際シ注意事項（日本側限リノ了解ニ止ルモノナリ）

一、日本軍ノ未タ撤退セサル地域ニハ当該地方自治団体所属ノ民警ノ外如何ナル民警ヲモ存在シ又ハ他ヨリ進入スルヲ許サス

二、押収軍需品交付ニ要スル日数ハ二日ヲ以テ標準トス（単ニ鍵ヲ交付スル時間ノミ）又押収軍需品受領委員及警護部隊ハ我軍最終部隊ノ乗船前少クモ二日前ニ徒歩ニテ二番川ニ到着シ得ル如ク第三期ニ示ス地域ノ北端ヲ出発セシム

三、警護部隊ノ員数ハ該部隊ノ浦潮進入直前ノ一般形勢ニ依リ変化ス、要ハ最少数ニテ授受ヲ完了スルニ在リ

四、押収軍需品受領委員及其ノ警護部隊ノ安全ニ就キ日本軍ハ何等其ノ責ニ任セサルモノトス

（別　紙二）

第三号

大連ニ於ケル我方最終提案第十条ヲ左ノ通リ修正ス

極東共和国政府ハ門戸開放主義ヲ認メ千九百二十一年制定セラレタル極東共和国憲法ノ規定ニ準拠シ日本帝国臣民ニ対シ自国人民又ハ第三国人民ニ比シ不利益ナラサル条件ヲ以テ鉱業、林業、農業並此等各事業ノ附属事業ヲ経営スルノ権利ヲ許与シ又三十六箇年ヲ超エサル期間ヲ以テ借地権ヲ許与スヘク且日本帝国臣民カ極東共和国ニ於ケル沿岸貿

易ヲ営ム会社ニ参加スルコトニ同意ス

将来極東共和国政府カ自国人民又ハ第三国ノ臣民若ハ人民ニ対シ土地所有権又ハ前項規定期間以上ノ借地権ヲ許与スル場合並第三国ノ臣民若ハ人民ニ対シ前項規定以上ニ有利ナル条件ヲ以テ沿岸貿易ヲ営ムノ権利ヲ認ムル場合ニハ日本帝国臣民モ之ニ均霑スベシ

四八五　八月二十九日　閣議決定

尼港事件解決ニ関スル件

（一）　閣議決定（原案）

這回ノ対露交渉ニ於テハ我方ヨリ進ンテ尼港問題ヲ提起セサルモ斉多政府又ハ労農政府若ハ其ノ両者ヨリ全責任ヲ以テ同問題ノ解決ヲ提議スルニ於テハ基本協定調印後其ノ交渉ニ応シ右解決方法トシテ露国側ヲシテ北樺太ヲ帝国ニ売却セシムルコトニ話ヲ進メ北樺太評価額中ヨリ尼港事件ニ因ル我損害並占領費用ヲ差引キタル差額ヲ以テ右売却代価ト看做シ一定ノ年賦ヲ以テ之ヲ露国側ニ支払フコトニ協定ヲ計ルコト可然

思フニ尼港事件ノ損害賠償トシテ露国側ヲシテ賠償金ヲ支

払ハシムルカ如キハ実行不可能ナルヘク又露国領土ノ割譲若ハ租借ヲ求ムルカ如キハ現代ノ国際思想ト相容レサルノミナラス到底露国側ノ承諾セサル所ナルヘシ

唯北樺太ノ買収ニ至リテハ露国ノ主権ヲ侵害スルコトナク且其ノ財政ノ窮乏ヲ救フニ資スヘキヲ以テ名実共ニ露国側ニ取リ比較的実行容易ナルヤモ知レス一方北樺太問題ノ徹底的解決ヲ行ヒ同地ニ対スル我国民ノ感情ニモ副フヘキヲ以テ先ツ此方法ニ依リ尼港事件ノ解決ヲ計ルヲ得策トス

尤モ華府会議ニ於ケル帝国全権ノ露国領土保全ニ関スル声明ノ次第モアリ本件買収ニ対シテハ米国等ヨリ何等異議ヲ唱フルコトアルヤモ計ラレサル処元来他国領土ノ買収ハ欧米諸国殊ニ米国ニ於テ其ノ先例アル所ニシテ右帝国全権ノ声明モ専ラ露国領土権ノ侵害ヲ防止スル趣旨ニ出テタルモノニ外ナラス露国カ任意ニ其ノ領土ノ一部ヲ売却スルカ如キハ全然其ノ主権ノ自由ニ属シ之カ買収ハ其ノ領土権ヲ侵害スルモノニアラサルヲ以テ右声明ニ悖ルモノニアラサルコトヲ説明シ尚他国ヲシテ買収ノ挙ニ倣ハサラシメムカ為北樺太ハ帝国ト歴史上地理上特殊ノ関係ニアリ且日露両国カ南北樺太ヲ分有シテ不自然ナル国境ヲ接スルハ両国永遠ノ平和ノ為得策ニ非サルヲ以テ帝国ハ尼港事件ノ解決ニ関連シ右買収ヲ行フモノニシテ之ヲ以テ一般ノ例ト為スヲ得サルヲ明ニスルコト可然

万一露国側ノ反対ニ依リ若ハ列国トノ関係上本案ニ依ル解決困難ナル場合ニハ北樺太及対岸地方ニ於ケル利源ヲ買収スルコトニ話ヲ纏ムルモ差支ナク此場合ニ於テハ同地方ニ於ケル主要ナル油田炭田及森林又ハ其ノ開発権ヲ我方ニ譲与セシメ之カ対価提供ニ際シテハ尼港事件ニ因ル我損害並占領費ヲ差引ク等前案同様ノ措置ヲ執ル外先方ヲシテ産出物及事業用品ノ輸出入及船舶輸送ニ対シ充分ノ便宜ヲ与ヘシメ且華府会議ニ於テ我方ノ声明シタル機会均等主義ノ関係上同地方ニ於ケル全部ノ利権ヲ取得スルコトナク其ノ主要ナルモノニ止ムルヲ可トス尤モ右第二案ノ場合ニハ開談前委細ノ事情ヲ具シテ請訓スルヲ要ス

本件解決ニ関連シテ相手方政府ノ承認問題ヲ生スヘキ処斉多政府又ハ労農政府ノ正式承認ハ関係列国ノ協調ニ依ルヲ妥当トスルヲ以テ此際単ニ事実上ノ承認ヲ与フルニ止メ従テ本件解決ノ効力ハ法理上相手方政府正式承認ノ時ニ於テ確定スルモノトスルモ露国側及列国ニ対シテハ露国ニ於ケル事実上ノ政府トノ間ニ行ヒタル本件解決ノ効力ヲ将来ニ向テ確保スルニ努ムルコト可然

尚以上第一第二案何レモ可相成露国側ヲシテ之ヲ提議セシムル様仕向クルヲ以テ最モ得策トスヘク若シ又我方ヨリ提起セサレハ到底進議ノ見込ナキ場合ト雖尼港事件解決ノ必須条件トシテ我方ヨリ之ヲ強要シタルモノナリトノ形跡ヲ貽ササル様我委員ニ於テ周匝ノ注意ヲ施スヲ要ス従テ若シ我方ヨリ之ヲ提起スルモ先方ニ於テ之ニ相当考慮ヲ加フルノ意嚮絶無ナリト認メラルルニ於テハ之ヲ提起セサルコト可然

（二）　外交調査会ニ依リ修正セラレタル閣議決定

這回ノ対露交渉ニ於テハ我方ヨリ進ンテ尼港問題ヲ提起セサルモ斉多政府又ハ労農政府若ハ其ノ両者ヨリ全責任ヲ以テ同問題ノ解決ヲ提議スルニ於テハ基本協定調印後其ノ交渉ニ応シ右解決方法トシテ露国側ヲシテ北樺太ヲ帝国ニ売却セシムルコトニ話ヲ進メ北樺太評価額中ヨリ尼港事件ニ因ル我損害並占領費用ヲ差引キタル差額ヲ以テ右売却代価ト看做シ一定ノ年賦ヲ以テ之ヲ露国側ニ支払フコトニ協定ヲ計ルコト可然

思フニ尼港事件ノ損害賠償トシテ露国側ヲシテ賠償金ヲ支払ハシムルカ如キハ実行不可能ナルヘク又露国領土ノ割譲若ハ租借ヲ求ムルカ如キハ現代ノ国際思想ト相容レサルノミナラス到底露国側ノ承諾セサル所ナルヘシ

唯北樺太ノ買収ニ至リテハ露国ノ主権ヲ侵害スルコトナク且其ノ財政ノ窮乏ヲ救フニ資スヘキヲ以テ名実共ニ露国側ニ取リ比較的実行容易ナルヤモ知レス一方北樺太問題ノ徹底的解決ヲ行ヒ同地ニ対スル我国民ノ感情ニモ副フヘキヲ以テ先ツ此方法ニ依リ尼港事件ノ解決ヲ計ルヲ得策トス尤モ華府会議ニ於ケル帝国全権ノ露国領土保全ニ関スル声明ノ次第モアリ本件買収ニ対シテハ米国等ヨリ何等異議ヲ唱フルコトアルヤモ計ラレサル処元来他国領土ノ買収ハ欧米諸国殊ニ米国ニ於テ其ノ先例アル所ニシテ右帝国全権ノ声明モ専ラ露国領土権ノ侵害ヲ防止スル趣旨ニ出テタルモノニ外ナラス露国カ任意ニ其ノ領土ノ一部ヲ売却スルカ如キハ全然其ノ主権ノ自由ニ属シ之カ買収ハ其ノ領土権ヲ侵害スルモノニアラサルヲ以テ右声明ニ悖ルモノニアラサルコトヲ説明シ尚他国ヲシテ買収ノ挙ニ倣ハサラシメムカ為北樺太ハ帝国ト歴史上地理上特殊ノ関係ニアリ且日露両国カ南北樺太ヲ分有シテ不自然ナル国境ヲ接スルハ両国永遠ノ平和ノ為得策ニ非サルヲ以テ帝国ハ尼港事件ノ解決ニ関連シ右買収ヲ行フモノニシテ之ヲ以テ一般ノ例ト為スヲ得サルヲ明ニスルコト可然

本件解決ニ関連シテ相手方政府ノ承認問題ヲ生スヘキ処斉多政府又ハ労農政府ノ正式承認ハ関係列国ノ協調ニ依ルヲ妥当トスルヲ以テ此際単ニ事実上ノ承認ヲ与フルニ止メ従テ本件解決ノ効力ハ法理上相手方政府正式承認ノ時ニ於テ確定スルモノトスルモ露国側及列国ニ対シテハ露国ニ於ケル事実上ノ政府トノ間ニ行ヒタル本件解決ノ効力ヲ将来ニ向テ確保スルニ努ムルコト可然

尚本案ハ可相成露国側ヲシテ之ヲ提議セシムル様仕向クルヲ以テ最モ得策トスヘク若シ又我方ヨリ提起セサレハ到底進議ノ見込ナキ場合ト雖尼港事件解決ノ必須条件トシテ我方ヨリ之ヲ強要シタルモノナリトノ形跡ヲ貽ササル様我委員ニ於テ周匝ノ注意ヲ施スヲ要ス従テ若シ我方ヨリ之ヲ提起スルモ先方ニ於テ之ニ相当考慮ヲ加フルノ意嚮絶無ナリト認メラルルニ於テハ委細ノ事情ヲ具シテ請訓スルヲ要ス

註　右閣議決定ハ長春会議日本代表ニ対スル政府ノ訓令ナルコト勿論ナリ

四八六　八月二十九日　左長春山崎領事ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

チタ政府側ノ対日態度ニ関スル河上清ノ談話ニ付報告ノ件

第六二号　（八月二十九日接受）

河上清八月二十八日斉多ヨリ帰着左ノ如キ意見ヲ開陳セリ

今回斉多滞在中余ハ斉多政府ヨリ大イニ優遇セラレ余ノ大阪毎日ヘノ通信ハ紛失ヲ防ク為外務省ノ公文書ト同封シテ哈爾賓迄送リ呉レ且外務省ノ参事官ヲ余ノ通訳トナシ万事便利ヲ計リ未タ何人ニモ示サザル明年度ノ予算案、朝鮮人保護法案、各国ニ与ヘタル利権表等ヲモ与ヘ呉レタリ

「ヤンソン」及「マトカエフ」等ガ数度余ニ語リタル所ニ依レバ斉多側ハ今回ノ会議ニハ互譲的態度ヲ取リ成ルヘク円満ノ結果ヲ得ルコトヲ希望シ居リ決シテ無理ナ要求ヲ提出スル意思ナキガ如シ但シ尼港問題ニ関シテ日本ヨリ賠償金ヲ要求セバ先方ハ日本ノ武力干渉ニ依リ蒙レル損害賠償ヲ要求スヘキモ是トテ「チチェリン」ガ「ゼノア」会議ニ提出セルガ如キ極端ノモノニアラズシテ結局尼港ノ損害ト相殺スル位ノ所ナルヘク而シテ日本ニ対スル譲歩トシテハ樺太沿海州其他ニテ種々ノ利権ヲ日本人ニ与フルコトヲ提議スヘシ樺太ヲ売渡スノ意思ハ全然ナキニ非ザルモ是ハ第一対内政策上第二列国トノ関係上実行シ難キ事情アリ斉多政府ハ財政緩和ノ一策トシテ外国人ニ利権ヲ与フルノ方針ヲ取リ居レバ目下斉多ニハ英、米、独、仏ノ利権獲得運動熾ニシテ英米人ハ既ニ幾多金鉱ノ利権ヲ得、米国ノ「スタンダード」石油会社ハ「ザバイカル」州ノ石油権運動中ナリ斉多政府ハ日本ニモ喜ンデ利権ヲ与フル旨「ヤンソン」「マトカエフ」「ニキフォロフ」等ノ明言スル所ナリ斉多側カ東京ニテ会議開催ヲ主張シタルハ種々ノ事情アルモ一ハ在京中日本ノ有力ナル資本家ト接近セントノ希望ニ出ヅ右ノ次第ナレバ長春会議中東京ヨリ有力ナル実業家ノ代表者来リテ彼等ト接触スルノ機会ヲ造リ呉ルコトヲ希望シ居レリ右ノ事情ナレバ会議中松岡理事カ時々長春ニ来リテ彼等ト接近セラルルハ得策ナラント思ハル

浦潮ノ武器問題ニ付テハ日本陸軍カ今尚「メルクーロフ」「ゴンダチ」「デードリック」等ニ秋波ヲ送リ居ルヲ遺憾

トスル旨斉多側ノ明言シ居ル所ニテ右武器ノ処理宜シキヲ得ザレハ仮令通商条約成立スルモ日露間ニ充分ノ諒解ヲ見ルコト不可能ナルヘシ又斉多側ハ満洲里其他ノ特務機関ニ対シテ恐怖ノ念ヲ抱キ仮令撤兵ヲ決行シテモ特務機関カ従来ノ如キ活動ヲ継続スルニ於テハ両国ノ親交ニ多大ノ障害タルヘシト明言シ居レリ此際日本ハ両天秤主義ヲ棄テ充分斉多政府ヲ信用シテ是ト事ヲ共ニスルノ態度ニ出デザレバ仮令通商条約ヲ結ブモ利益アル利権ハ他国ノ手ニ帰スルノ虞アリ但シ以上ハ斉多方面ノ観察ニ基ク見解ニシテ「ヨッフェ」ハ多少異ナレル態度ヲ取ルヤモ知レズ

四八七　八月二十九日　在ハルビン山内総領事ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

武器引渡問題其他ニ関シチタ政府外相ヤンソントノ意見交換ニ付報告ノ件

第二八五号　（八月三十日接受）

八月二十九日前日ニ於ケル本官ノ出迎ニ対シ答礼ノ為「ヤンソン」来訪セルニ依リ恰度接到セル貴電第一四二号ニ依リ作成シ置ケル「オザルニン」宛書翰ヲ手交シタル処非常ニ満足ノ意ヲ表シ且今回両国間ニ於テ会議再開ニ関シテハ

通信連絡不便ノ為メ電照ニ手間取リ時日非常ニ遅レタルガ此間我方ニ於テハ出来得ル丈ケ迅速ニ交渉ヲ運ブ様常ニ尽力アリタル好意ヲ謝シ斯ク両国円満ニ妥協ノ精神ヲ以テ会議再開ニ至リタルハ実ニ欣快ニ堪ヘズ斯カル有様ニテハ必ズ両国ノ協商無事ニ終結セラレ玆ニ積年ノ蟠ヲ一掃シ得ルノ良結果ヲ挙ゲ得ヘク斉多側ニ於テモ此先日本国民ニ対シ充分ナル生命財産ノ保証ニ任スルノミナラズ利権許可等ニ付テモ目下其特典ヲ受ケ居ル他国民ト同等ナル待遇ヲ与フルコトヲ得ルニ至ルヘシ等述ベタル後語ヲ改メテ猶此外ニ三政治的ノ問題ニ付本官ノ意見承知シタシト述ベ

㈠最近接到セル情報ニ依レバ白軍ハ日本軍撤退ノ地域ニ進出シ来リ赤軍ト衝突ヲ醸サンコト目睫ノ間ニ迫リ居レリ赤軍ハ白色残党ヲ武力ヲ以テ容易ニ剿滅シ得ベキニ付此点ニ付テハ左シテ重要視セザルモ日本軍憲カ公然又ハ暗々裡ニ白軍支持ノタメ援助ヲ与フルナキヤ会議ハ一週間後ニ開始セラルルモ沿海州ニ於ケル赤白ノ衝突ハ何時突発スヘキヤモ計ラレザルニ付今ニ於テ貴方ノ注意ヲ喚起シ日本軍憲ニ於テ従来屢々繰返サレタル白軍援助ノコトナキ様保証ヲ得タク

㈡浦潮ニアル武器ハ当然斉多側ニ交付セラルベキモノト信ズルガ白軍ニ密カニ交付セラレザル様希望ス若シ不幸ニシテ武器ガ白軍ニ手交セラルルニ於テハ会談モ成立セル矢先トテ露国人ノ頭脳ニ映スル悪印象ハ深カルヘシ

㈢浦潮ノ各倉庫ニハ軍需品以外幾多露国民ニ属スル財産物件例ヘバ鉄道材料、露都ヨリ送リタル重要書類官有財産物夥シク蓄積シアリ自称「メルクロフ」政府ハ此財産ヲ各商人ニ捨値ヲ以テ売リ払ヒツツアリ日本商人等モ安価ニ右商品ヲ購入シツツアル由ナルガ極東共和国政府ハ曩ニ発布セル宣言文ニ依リ自称「メルクロフ」政府ニ於テ為サレタル商取引ハ一切無効トシ其責ヲ負ハザル以上日本商人カ彼等ヲ相手トシテ商取引ヲ続行スルニ於テハ露国商人等ハ将来ニ於テ日本商人ト通商関係ヲ喜バザルニ至リ種々悪影響ヲ残スニ付不法取引ヲ慎マレタシト述ヘタリ

右ニ対シ本官ハ第一、沿海州方面ノ事情ニ関シテハ詳細当方ニ於テ承知セザルモ在来ヨリ常ニ中立的態度ヲ取ルコトニ腐心セル日本軍カ何ヲ好ンデ既ニ撤退ニ決セル今日干渉ヲ試ミル必要アランヤ第二、武器問題ノ如キハ当然会議ニ於テ決セラルルコトト推測シ居リ私見ニ依レバ日本政府ガ調印ヲ八月十五日迄ニ行ヒタキヲ切望セル所以モ此問題ノ解決ヲ速ナラシメタキ所存ナリシニ外ナラズト存ゼラル第三ノ問題即チ浦潮政権ト日本商人ノ商取引等ノ如キ事実ハ如何ナル程度ニ於テ行ハレ居ルヤ当地ニ於テハ事情全ク不明ナルガ商業自由ニ属スル範囲内ノ行為ニ付テハ我方ニ於テ責任ヲ負フヘキ筋合ニアラズ又之ヲ抑制スルコト困難ナルヘシト答ヘ置ケリ終リニ「ヤンソン」ハ今次ノ会議ニ付テハ自分及「ヨッフェ」モ共ニ長時日滞在ヲ許サザル地位ニアルヲ以テ会議ノ進行ニ従テ時々或ハ研究的時間ヲ必要トスルコトハアリトモ大連ニ於ケルカ如ク長期ニ亘ラズ円満ナル終結ヲ見ルニ至ルヘシト信スル旨ヲ告ケタリ

長春気付ニテ松平局長ニ暗送セリ

四八八　八月三十日　在仏国松田臨時代理大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

長春会議ニ関スルカメネフノ談話報告ノ件

第五九五号　（九月一日接受）

本月二十九日「レバル」通信トシテ当地新聞ノ所報ニ依レハ在莫斯科「カメネフ」ハ日露会商再開ニ関シ左ノ如ク語レル由

露国側代表トシテ「ヨッフェ」ヲ任命セルハ極東問題解決ヲ促進セントスル吾人ノ希望ニ依ル日本ハ極東ニ於テ依然帝国主義的政策ヲ維持スルニ依リ若シ吾人カ烏蘇里及黒龍地方ヲ閑却セバ更ニ其ノ勢ヲ助長スルヤ疑ナシ従来日本ハ同地方ニ於テ緩衝国ヲ設ケ極東西比利ニ於ケル殖民又ハ併合政策ノ傀儡タラシメントシタルモ斉多政府ノ反抗ニ遇ヒ公然之ヲ敵視スルニ至レリ浦潮ニ於ケル「メルクロフ」政府及其ノ反動的軍隊ノ如キハ日本ノ対西比利膨張政策ノ手先ニ過ギズ

日本最近ノ提議（沿海州及浦潮撤兵ヲ含ム）ハ之ヲ承認シテ外交談判ヲ開催センコトヲ慫慂スルノミナラズ同時ニ吾人ヲシテ此機ヲ利用シテ極東ニ於テ重要港ナル浦潮ニ占拠セル「メルクロフ」一派ヲ排除シテ斉多政府ヲ援助スルノ責務ヲ感ゼシム今次ノ会商ハ吾人ニ執リ太平洋沿岸モ亜細亜諸国ト通商関係ヲ建設シ又浦潮ニ於ケル自称政府ニ依リ行ハルル露国財産ノ破滅ヲ防止スルコトヲ（脱）日本ガ吾人ニ対シ会商再開ヲ提議セルハ米国ト衝突ノ場合ヲ慮リ腹背敵ヲ受クルガ如キコトナカラシメン為ナルハ明カナリ予ハ日本トノ会商ハ吾人ニ取リ有利ナルノミナラズ必ズヤ日本政府ガ「ソヴィエト」ヲ承認スルニ至ルヘキヲ信ス

四八九　八月三十日　在中国小幡公使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

国際通信ノ古野ノ質問書ニ対スルヨッフェノ答弁書ニ付報告及稟請ノ件

第六〇六号　（八月三十一日接受）

往電第六〇一号ニ関シ

国際ノ古野ハ当館ノ指示ニ基キ「ヨッフェ」着燕後直ニ会見ヲ申込ミタルモ其ノ質問ノ要点ヲ書面ニテ差出呉レトノコトナリシヲ以テ露国内ノ形勢、日露日支交渉等ニ関シ質問書ヲ提出シ居タル処二十九日右ニ対シ答弁書ヲ送リ来レリ其ノ内御参考ニ資スベキハ㈠自分ハ斉多代表者「ヤンソン」ト同シク労農及斉多両政府ノ代表者トシテ日露会議ニ出席スルノ権限ヲ与ヘラレ居レリ㈡労農政府ハ大連協定ノ立案ニ参加セズ「マルスレウスキー」ハ単ニ同会議ノ参観者タリシニ止マル故ニ大連協定案ハ吾人ヲ束縛スルモノト認ムルヲ得ズ但シ而カク長キニ亘リテ開カレタル大連会議ガ全然無意味ナリトハ謂フヲ得ザルベシ㈢今回ノ会議ハ全然同等ノ権利ノ基礎ノ下ニ会議セラレ双方ノ利益ヲ擁護スルト共ニ必要ニ応ジ相互妥協ノ意思アルヲ要ス㈣自分ハ「ニコライエフスク」事件ノ責任ハ全然日本ノ負担スベキモノナリト思考ス蓋シ他国ノ領土ニ軍隊ヲ入ルル国家ハ其ノ起リ得ベキ結果ニ付予メ覚悟アルヲ要ス㈤自分ハ日露交渉ノ為多忙ナルヘキニ付自然露支協商ハ当初ノ希望通リ早目ニ開始シ得ザルヘシ等ノ諸点ナリ（委細郵報）尚ホ古野ハ二十八日「ヨッフェ」ニ面談シ種々忌憚ナキ意見ヲ交換シタル由ナルガ「ヨ」ハ

㈠　自分ハ日本委員カ三十日位ニ日本ヲ出発スル由ナルヲ以テ来月二日当地出発ノ予定ナルモ日本委員ノ出発ニ関スル確報ヲ得ザル限リ出発セザル積ナリト述ヘ又

㈡　自分ハ何故東京政府ガ東京ヲ会議地トスルニ反対ナリヤ了解スルヲ得ズ社会ノ現状ニ対スル不平ハ何処ニモ存ス右ハ早晩自然ニ勃発スヘキモノニシテ自分カ行ク処総テ過激派ノ宣伝者トシテ非難セラルルハ迷惑ノ次第ナリ自分ガ此ノ如キ宣伝ヲ為スヤ否ヤハ具眼ノ士ニハ明瞭ナル所ナルノミナラズ露国ガ純粋ノ過激派主義ノ非ヲ悟リテ国家社会主義（「ナショナリスチック、ポリシー」）ヲ取ルニ傾キ来レルハ御承知ノ通ナリ

㈢　今回ノ日露会議ハ日露ノ「ノーマル、コンヂション」ヲ「レストール」スル会議ナリト述ベタルニ付古野ハ自分ノミナラズ一般ノ了解スル所ニ拠レバ今回ノ会議ハ大連会議ノ引続ニシテ日本ト斉多（脱）行ハルルモノト認メ居レリ若シ今回ノ会議ニ於テ労農政府承認問題ノ如キガ提議セラレンカ会議ハ畢竟混乱ニ陥ルノ外ナカルヘシト述ヘタルニ対シ今回ノ会議ニ関スル予備交渉ハ全然斉多及労農政府ノ名ニ於テ為サレ之ニ関スル文書ニハ全部両政府ノ署名アリ是レ自分及「ヤンソン」カ両国政府ヲ代理スル所以ニシテ従テ今回ノ会議カ大連会議ノ連続ニアラザル所以ナリ云々ト述ヘタル由ナリ

之ヲ要スルニ今回ノ会議ニ付テハ当方ニ何等詳細ノ報道ナキ処新聞記者操縦ノ必要モアルニ付今回ノ会議ノ由来、相手国及交渉範囲等電報アリタク尚ホ会議開催後モ大体ノ成行当方ニ電報方然ルヘク御取計ヲ請フ

長春及哈爾賓ヘ転電セリ

四九〇　八月三十一日　在中国小幡公使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

中国外交総長ヨリ長春会議ニ関シ質問アリ一応答弁シ置キタルニ付報告ノ件

第六〇九号　（八月三十一日接受）

往電第六〇一号ニ関シ

三十日外交総長ハ本使ニ対シ愈々交渉開始ニ決シタルヤノ情報ヲ得タルガ右ハ事実ナリヤ並其期間及問題ノ内容ニ就キ尋ネタルニ付本使ハ貴電第四五七号中差支ナシト認ムル点ヲ簡単ニ答ヘタル処総長ハ実ハ本件ニ就キ斯ク御尋スル理由ニ二点アリ

㈠　支那領土内ニ於テ此種会議ノ催サルルニ付テハ其主権ヲ尊重シ予メ支那政府ニ一応ノ挨拶アリ然ルヘク現ニ過日「ヨッフェ」ハ本総長ニ対シ右ノ同意ヲ得タル次第ナリ

㈡　華盛頓会議ノ結果他国間ニ於テ支那ノ利害ニ関スル何等条約其他ノ約束ヲ為ス場合ニハ必ズ支那政府ノ承認ヲ得ヘキコトトナリ居レル処今回ノ長春会議ニハ何等カ支那ノ利害ニ関係アルコトガ議セラルル様ノコトナキヤト尋ネタルニ付本使ハ㈠ノ点ハ単ニ手続上ノ問題ニ過ギザル処斯カル場合ヲ律スル国際ノ慣例ニ就キ何等承知セザルモ前年駐日支那公使ト瑞西国代表トノ間ニ東京ニ於テ改訂通商条約ヲ締結セラレタルコト（脱）而テ当時支那政府ハ日本政府ノ同意ヲ得ラレタルヤ否ヤ全然記憶ニ存セザルヲ以テ一応ハ政府ニ問合スコトトスヘク次ニ㈡ニ対シテハ支那ノ利害ニ関係ナカルベク其会議事項ハ恐ラク暫行通商協定ニ過ギザルヘシト思考ス尚会議期間ハ何日迄ナルヤハ該会議ノ成否ト共ニ全然見当附カザル旨ヲ答ヘ尤モ右二点ニ関シテハ本使ヨリ政府ニ稟申シ何分ノ回答ニ及ブベシト附言シ置ケリ

四九一　九月二日　在本邦中国臨時代理公使ヨリ　内田外務大臣宛

長春会議ニ関シ申越ノ件

外壬字第六一号

敬啓者奉本国外交部電開日俄長春会議如有渉及中国領土主権或中国権利利益各事非先得中国同意概不承認除已面告日使准允達政府希即向日本政府切実声明等因奉此相応函達声明即請査照為荷茲本代使対於貴大臣特表敬意謹具

中華民国十一年九月二日

中華民国代理公使　江　洪杰（印）

日本外務大臣伯爵　内田　康哉閣下

（欄外註記）

「大正十一年九月二日洪代理公使来省、芳沢局長ニ手交」

四九二　九月二日　松平代表ヨリ（註）　内田外務大臣宛（電報）

尼港撤兵善後処理ニ関シ請訓竝書類送付方稟請ノ件

第二号（至急）　（九月二日接受）

一、尼港撤兵善後処置ニ関シテハ過日町田司令官上京ノ際同大将ヨリ提示ノ案アリタルモ確定ニ至ラズ其後陸軍電報ニ拠レバ島田元太郎哈府官憲ト私的取極ヲ締結セル趣ナルガ尼港方面ニ居留民ノ一部残留スル以上右取極ニ任ス訳ニモ参ルマジク官有財産ノ処分ト共ニ此際何等カ露国側ト至急協議シ撤兵後一時タリトモ無政府状態ニ陥ラザル様処置スルコト必要ト思考スルニ付至急陸軍側ト御協議ノ上御訓示ヲ請フ

二、露国側ニ於テハ我方ノ撤兵声明及着手セラレタルニ拘ラズ十月末迄ニ撤兵ノ約束ヲ文書ニテ得ンコトヲ申出ヅルカト思ハルル処已ニ我ヨリ自主的ニ声明ヲ実行シ居ル以上先方ニ約束ヲ与フルトモ何ノ痛痒ヲ感ゼザル義ニ付一応ハ不必要ナルコトヲ説クベキモ強テ先方ニテ固執スルニ於テハ希望通リ取計ヒ差支ナシト思考スルモ従来ノ行掛リモアルニ付念ノ為御指示ヲ仰ク

三、左ノ書類至急御送附ヲ請フ

㈠尼港撤兵善後処置ニ関スル町田案

㈡島田元太郎ト哈府官憲トノ私的取極ニ関スル陸軍電報写

㈢黒龍烏蘇里線鉄道襲撃破壊ノ状態ニ関スル古川技師報告（鉄道省ヘ問合セアリタシ）

㈣「ルスキー」嶋無線電信ニ関スル石井大使宛米国々務卿書翰写

註　右電報ハ松平代表ガ八月二十九日附ヲ以テチタ政府代表者ト商議ノ為満洲ニ出張ヲ命ゼラレ会議地タル長春ニ向フ途次安東通過ノ際同地ヨリ発送セラレタルモノナリ

四九三　九月二日　在長春山崎領事ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

松平代表一行長春到着ノ件

第六七号　（九月三日接受）

松平局長一行及近藤書記生二日到着セリ

公使及浦潮政務部ニ電報セリ

四九四　九月二日　在中国小幡公使ヨリ　内田外務大臣宛

ヨッフェ一行ノ人名報告ノ件

公第四三七号　（九月七日接受）

大正十一年九月二日

在支那

特命全権公使　小幡　酉吉（印）

外務大臣伯爵　内田康哉殿

「ヨッフェ」長春行ニ関スル件

「ヨッフェ」一行長春行ニ関シテハ往電第六一四号ヲ以テ申進置候処一行ノ人名ハ別紙ノ如クニ有之此ノ外夫人子供ヲ合セ十四名ト相成由ニ有之候為御参考此段及報告候也

本信写送附先　奉天　長春

（別紙）

ヨッフェ一行ノ人名

A. A. Ioffe, Head of Delegation.

N. Kuznetsoff, Secretary.

I. Levin, Private Secretary.

Professor Ivanoff, Expert.

General Gekker, Military

B. Lebedeff, Information Bureau.

Schwartsalon, Interpreter.

Zvanareff, Interpreter.

Evlampieff, Cipher Man.

A. Ioffe, Military Expert.

L. Berkowsky, Military Expert.

四九五　九月三日　陸軍次官ヨリ　在浦潮野戦交通部長宛（電報）

長春会議ニ於ケル露国側代表ヘノ通信上ノ便宜供与ニ関スル件

交参四八ニ関シテハ二日西二二六電ノ通リ便宜ヲ与ヘラレタシ又長春ニ於ケル露国側ノ通信ニ付テハ我通信権ニ差支ナキ範囲内ニ於テ長春領事及関東庁側ト協議ノ上成ルヘク便宜ヲ与ヘラレタク哈爾賓ニ於ケル通信所ノ提供等ニ関シテモ至急山内総領事及東支側ト協議ノ上何分ノ便宜ヲ与ヘラレタシ

四九六　九月四日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ヨッフェ一行長春到着ノ件

第四号　（九月四日接受）

「ヨッフェ」一行十四名本四日午前七時当地ニ到着セリ本日午後先方代表ト会見ノ上予備的協議ヲ遂ゲ明五日ヨリ会議ヲ開始スル様取計フ意嚮ナリ

四九七　九月四日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

各代表出揃ヒタルニ付会議開催ノ時日等ニ関シ協議ノ件

第五号　（九月五日接受）

本日労農露国及極東共和国代表会議地タル長春ニ出揃ヒタルニ付同日午後三時日本領事館ニ於テ面識ノ為会合シ同時ニ会議ノ場所及会議開催ノ時日会議進捗ノ方法等ニ関シ協議シ会議ノ場所ハ他ニ適当ノ場所ナキ限リ領事館トシ明日ヨリ会議ヲ開クコトニ決定セリ

出席者日本側松平松島宮川島田山崎領事　露国側「ヨッフェ」「ヤンソン」「レウイン」「ブイホーフスキー」「レドニコフ」

四九八　九月四日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛

長春会議ロシア側委員氏名報告ノ件

公信第一号　（九月九日接受）

大正十一年九月四日

在長春

欧米局長　松平　恒雄（印）

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

対日交渉露西亜側委員一行名簿送付ノ件

九月四日極東共和国並サウィエト共和国側ノ交渉委員ト両国委員一行名簿交換ノ際先方ヨリ送付ヲ受ケタル委員一行名簿別紙（註）ノ通訳文添付及進達候間御査閲相成度此段申進候

敬具

註　ロシア側委員一行名簿（ロシア文字）省略

（別　紙）

対日本交渉サウィエト共和国及極東共和国委員

サウィエト共和国及極東共和国

首席全権	ア、ア、ヨッフェ
次席全権	ヤ、デ、ヤンソン
委員付書記官	エヌ、カー、クゾネツォフ
〃	イー、カー、レーウィン
〃	エム、エス、ビホフスキー
専門員	アー、イー、イワーノフ
軍事専門員	アー、イー、ゲッケル
〃	アー、アー、シコーリン
海軍専門員	エス、エフ、ツイルトフ
情報局主任	ビー、エフ、レーベジエフ
通　訳	アー、イ、レッドニコフ
〃	エス、カー、シワルサロン
〃	ビー、ウェー、ズウォナレフ
暗号部	ゲー、アー、エウラムピエフ
〃	エフ、ペー、ザグレベリヌイ
電信手	エヌ、イー、ポニヤターエフ
	タイピスト（婦人）　エー、エス、アルシヨン
	特　使　エル、イー、ベルコフスキー
	〃　ヤー、アー、ヨッフェ

四九九　九月五日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

長春会議各代表間ニ於テ会議ノ場所会議録及会議公表ノ諸問題ニ関シ打合セタル件

第六号　（九月五日接受）

九月四日朝「ヨッフェ」一行モ長春ニ到着シタルニ付同日午後領事館ニテ彼我委員ノ会合ヲ催シ会議ニ関スル打合セヲ為シタリ

一、会議ノ場所ニ関シ露国側ハ先方カ日本側ノ絶対的勢力ノ下ニ在ルヤノ感想ヲ世間ニ与フルコトヲ避ケントスルモノノ如ク領事館ヲ議場トスルコトヲ懌バス成ルベク大和「ホテル」ヲ議場トセンコトヲ欲シタルニ由リ本官ハ日本委員一行ガ已ムヲ得ズ日本旅館ニ入リタル事情同「ホテル」内ニ一般旅客ノ出入リスル結果会議ノ為不便ヲ来スベキ所以及警戒ニ困難ヲ感ズルコトヲ述ベタル処先方ハ今一応「ホテル」内ノ模様ヲ取調ブルコトヲ条件トシ差当リ五日領事館ニ会議ヲ開クコトニ同意セリ

二、会議録ノ件ニ関シ先方ハ詳細ナル正式会議録ヲ作成スル意向ナリシモ右ハ事実上不可能ナルニ付単ニ要点ノ摘録ニ止ムルコトニ妥協セリ

三、先方ハ例ノ秘密会合廃止ノ主義ニ則リ会議ハ成ルベク公開トシ尠クトモ最初ノ会議ニ於テハ列国通信員ヲ臨席セシメ会議ノ目的ヲ世界ニ公表シ且前記会議録ハ之ヲ発表スルコト然ルベシト述ヘタルニ付本官ハ列国会議ト今回ノ会議トノ性質全然異ナル所以ヲ説示シ浦潮方面ニ於ケル形勢ニ鑑ミ会議ハ一刻モ早ク之ヲ纏ムルノ要アリ之ガ為ニハ虚心坦懐ニ相互ノ意見ヲ開陳スルノ要アルノミナラズ外部ニ発表スルコトヲ双方ノ為不得策トスル機微ノ事項モアルニ付会議ノ公開及会議録ノ発表ニハ同意スルヲ得ズ

但シ双方同意ノ上会議ニ関シ大要ヲ公表スルコトニハ異議ナシト述ベタル処先方ハ然ラハ会議公開ニ関スル露国側提議ハ日本側ノ拒絶スル所トナリタリトノ意味ヲ発表スルノ権利ヲ留保シタシト言ヘルニ付本官ハ日本国民ノ輿論ハ露国側トノ親善関係樹立ヲ希望シ居ルモノナルモ一方ニ於テ露国側ノ所謂宣伝政策ニ対シ危惧ノ念ヲ抱キ居ルモノナルニ顧ミ露国側ニ於テ右ノ如キ発表ヲ為ストキハ会議ノ当初ニ於テ両者ノ間ニ意見ノ扞格アルコトヲ天下ニ公表スルコトナルノミナラズ日本国民ハ右ヲ以テ露国側ノ宣伝政策ト看做スベク其間今回ノ会議ニ反対スル分子ノ活躍ヲ醸成シ之ガ為会議ノ成功モ結果ナキニ至ルベシト説示シタル処先方ハ労農露国建設以来露国ノ執リ来リタル態度ヲ捨ツルコトノ困難ナル立場ヲ察セラレ前記発表ヲ為スコトニ同意セラレタシト執拗ニ主張シタルニ付本官ハ斯ノ如キ公開ノ先例ナキコトヲ主張シタル後強テ右発表ヲ為サムトセハ随意ナルモ我方ニ於テ之ニ賛意ヲ表スルヲ得ズ但シ発表ノ形式ハ会議ニ支障ヲ及ホサザル様注意スルヲ要スト述ヘタルニ先方ハ右ハ勿論ナリト答ヘタリ

五〇〇　九月五日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

協定当事者トシテノソ聯代表ノ資格問題ニ付請訓ノ件

第七号　（九月五日接受）

九月四日露国代表ト第一回会見ノ際得タル感想ニ依レバ露国側ニ於テハ極東共和国及労農露国ヲ一括シテ其間ニ区別ヲ設ケズ「ヨッフェ」「ヤンソン」共ニ右両国ノ代表者ト為シ「ヨッフェ」ヲ首席代表ト称シ「ヨッフェ」ハ力メテ自己ノ尊大ヲ示サントスル風アリ会談中モ「ヨ」ノミ語リ「ヤンソン」ハ終始一言モ発セズ而シテ「ヨ」ハ事毎ニ執拗ニ自説ヲ主張シ為ニ問題ノ内容重要ナラザルニ拘ラズ五時間モ費シタル次第ナルガ結局最後ニハ我方ノ主張ニ近ヅキ来ル所ヲ見レバ（右ハ）露人ノ通有性ニ依ルト一ハ日本人ヲ了解セザル為余程警戒シ居リタルモノカト思ハル

委任状ノ提示ハ明五日行フ筈ニテ従テ其際前記露国代表資格問題ニ付テ一応請(?)求スル積リナルガ既ニ露国側公文ニハ最初ヨリ労農及斉多ヲ一方トスル意味記載シアルニ付基本協定ノ内容ニシテ極東共和国ト日本間ノ事柄ニ止マルトセバ協約当事者ノ一方ヲ労農及極東共和国トスルコトニ対シ強テ異議ヲ主張スルニモ及フ間敷カト存ゼラルル処若シ此点御異議アラバ至急御回示アリタシ

五〇一　九月五日　内田外務大臣ヨリ　在長春松平代表宛（電報）

ルノ要アリ為ニ双方ノ希望スル会議ノ進捗ヲ妨クルコトトナルベシト述ベタルニ付本官ハ帝国政府ノ希望スル所ハ第一著トシテ地理的其他ノ関係ニ於テ痛切ノ利害関係ヲ感スル極東共和国及極東露領ニ関スル問題ヲ議了シ之ニ依リ成ルベク速ニ日露親善ノ基礎ヲ形成スルコトニ存ス然ルニ此際欧露ニ関スル問題迄モ審議スルニ於テハ自然会議モ長引クコトトナルハ当然ト思考スル処浦潮方面ニ於ケル形勢ハ本会議ノ一刻モ速ニ円満ナル終局ヲ見ルコトヲ要求シ居ル事情ニ鑑ミ此際極東共和国及極東露領ニ関スル問題ニ付協議スルノ意味ニシテ欧露ニ関スル事項ハ本官等ノ有スル権限ニ於テハ議スル能ハズ将来ニ於テ必要起ラバ新ニ請訓スルノ外ナシト述ベタル処先方ハ世界的政策ヲ執リ居ル日本ガ単ニ極東ニノミ執着シ欧露トノ利害関係ヲ無視シ欧露ト協定ヲ為サザラムトスルハ諒解ニ苦ム旨及日本側ガ単ニ日本ノ利益ニ関スル事項ノミヲ会議ノ目的トセムトスルハ露国民ノ期待ニ反スト述ベタルニ付本官ハ日本ハ欧露トノ関係ヲ軽視スルモノニ非ザルモ痛切ニ利害関係ヲ有スル極東共和国ト日本トノ友好関係ヲ速ニ樹立スルハ単ニ日本ノ利益タルノミナラズ同共和国ノ利益タルコト勿論ニシテ之ガ

為同共和国ト密接ノ関係ニアル労農露国ト日本トノ関係ニモ良好ナル影響ヲ齎スベシト確信スル旨ヲ説示シタルニ先方ハ更ニ駄弁ヲ弄シテ荐リニ不満ヲ述ベタルニ付露国側ハ日本側ノ有スル委任状ニテハ会議ノ継続ヲ為シ得ズトスルモノナリヤ否ヤ確答セラレタシト迫リタルニ先方ハ稍々狼狽ノ体ニテ日本委員ノ有スル委任状ハ本会議ニ関シ露国側委員ノ有スル目的達成ノ為不十分且不満足ト為スモノナルモ会議ノ進捗ニ伴ヒ必要ニ応シ補足的委任ヲ受クル為政府ニ請訓スルコトヲ得バ会議ヲ継続シ得ヘキ旨及右ノ趣会議録ニ記載シタキ旨ヲ固執シタルニ付本官ハ委任状ガ不充分且不満足ナル事ヲ会議録ニ記載シナガラ会議ヲ継続セントスルハ其ノ意ヲ了解セザルノミナラズ此ノ如キ感情ヲ抱持シテ会議ヲ継続スルノ無益ナル所以ヲ述ベ日本側ニ於テモ露国側委任状（「ヨッフェ」モ「ヤンソン」モ共ニ労農政府ノ委任状ト斉多政府ノ委任状トヲ有シ居レリ協約ノ批准ヲ要ストアリ）ニ関シ多少異存アルニ付露国側同様会議録ニ載スヘキヤ否ヤノ問題生ズベシ就テハ会議録ノ件ハ後廻シトシ露国側委任状ニ対スル説明ヲ求ムベシト前提シ労農

協定当事者ノ一方ヲ極東共和国及労農露国トセラレ差支ナキ旨回訓ノ件

第三号

貴電第七号ニ関シ

不得已場合ニハ基本協定ノ内容ヲ大連会議ノ範囲内ニ於ケル極東共和国ト日本間ノ問題ニ限ルコトヲ条件トシテ当事者ノ一方ヲ極東共和国及労農露国トスルコトニ同意セラレ差支ナシ但右条件ハ絶対ニ主張セラルルヲ要ス

五〇二　九月六日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

長春会議代表者双方ノ帯有スル委任状及其権限ニ関スル討議ノ模様ニ付報告ノ件

第九号　（九月六日接受）

九月五日ノ会議ニ於テ先ヅ委任状ヲ交換スルコトトシ双方ノ委任状ヲ提示シタル処露国側ハ日本代表ノ有スル委任状ニ依レバ日本代表ハ極東共和国ノ領土及極東旧露領ノミニ関シ商議スル権限ヲ有スル様思考セラルルモ若シ然リトセバ露国側委員ノ有スル権限ノ範囲ニ比シ狭キニ失シ会議ノ進捗ニ連レ日本委員ハ新ニ委任ヲ受クル為メ政府ニ請訓ス

約ニ依リ密接ノ関係ニ在ルモ極東共和国ハ不羈独立ノ国ナルモ外国トノ条約締結ニ際シテハ労農ノ参加ヲ便宜トストノ意味曖昧ナル答弁ヲ得タルニ付右説明ニ依ルモ「ヨッフェ」ガ同時ニ斉多ノ代表トナリ「ヤンソン」カ又労農代表タル所以ハ之ヲ了解スルヲ得ズ殊ニ本会議ニ労農代表ノ参加ヲ許シタル以上益々異様ニ感ズト追究シタルニ先方ハ種種弁疏シタルモ結局要領ヲ得タル答弁ヲ為スヲ得ザリシニ付条約批准ノ権限ヲ有スル機関及批准ニ要スル日子等ニ関シ質問（批准ノ為ニハ労農政府ハ二週間位ヲ要スルコト及調印ハ同時ニ効力ヲ有スト条約ニ規定スル例外アルコトヲ確ム）シタル後一先ツ会議ヲ閉ヂ更ニ六日協議スルコトトセリ

本電往電第六及七号ト共ニ政務部ヘ転電セリ

五〇三　九月六日　内田外務大臣ヨリ　在長春松平代表宛（電報）

押収武器引渡問題ニ関スル参謀本部側ノ意見ニ付通報ノ件

号外

堀政務部長新任挨拶ノ為参謀総長ニ面会ノ際総長ハ赤白ノ妥協ハ到底不可能ニシテ成行ニ委スヲ可トス妥協不成立ノ結果危険アルニ於テハ居留民ハ引揚クレハ可ナルヘク又押収武器ヲ斉多側ニ引渡シ得ザルトキハ我方ハ之カ為非難ヲ受クヘキヲ以テ之ニ対シテハ可然措置ヲ講ズル必要アルヘシトノ意見ヲ述ベ又参謀次長ハ立花司令官カ右武器受取ノ為ニ要スル斉多側兵力ハ二千ニテハ不足ニシテ少クモ五千ヲ要ストノ意見ヲ有スル旨語リタル趣ナリ

貴官限リノ御含迄

五〇四　九月六日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

会議ノ目的ニ関シ双方代表者間ニ見解ノ相違アルニ付各本国政府ニ請訓ノ為暫時休会トスル旨新聞発表ノ件

第一〇号　（九月七日接受）

新聞発表事項

九月六日ノ会議ニ於テ日本側並労農露国及極東共和国側代表ハ相互ニ提示シタル委任状ニ関聯シ意見ヲ交換シタル結果日本側ハ労農露国参加ノ上日本ト極東共和国トノ間ニ大連案ヲ基礎トシテ通商協約ヲ締結スルコト及善隣的一般相互関係ヲ結フコト並極東露西亜ニ関スル諸種ノ問題ヲ解決スルコトヲ今回会議ノ目的トスルニ反シ労農露国及極東共和国側ハ大連案ヲ基礎トスルコトニ不同意ニシテ労農露国及極東共和国ヲ一方日本ヲ他ノ一方トシ相互主義ニ基キ両国民ノ間ニ善隣関係ヲ結ブノ目的ヲ以テ凡テノ問題ニ関シ円満ナル協定ヲ遂グルコトヲ必要ト認メ両国代表間ニ意見ノ相違アルコト判明シタルタメ労農露国及極東共和国代表ハ莫斯科及斉多ヨリ然ルヘキ訓令ヲ受取ル迄休会ヲ提議シ日本側ハ之ニ同意セリ会議ハ二三日後再開セラルヘシト期待セラル

五〇五　九月六日　内田外務大臣ヨリ　在長春松平代表宛（電報）

長春会議関係新聞係トシテ笠間事務官派遣ノ件

第四号（至急報）

貴地ニハ各方面ヨリ多数ノ通信員来集セル模様ナルガ国際通信ノ如キハ我代表ニ不利益且極メテ幼稚ナル通信ヲ為シツツアル処会議ノ傍ラ通信員ノ応待ハ多忙ヲ極メラルルコトト察セラルルニ付当方ヨリ新聞係トシテ笠間事務官ヲ至急派遣スルコトトセリ万一其必要ナシト認メラルルニ於テハ至急電報アリタシ尚東方通信ヨリハ水野梅暁ヲ貴地ニ派遣スル筈

五〇六　九月六日　在羅国西公使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

長春会議ニ対スルカーメネフノ見解報告ノ件

第四二号　（九月八日接受）

本月六日当地新聞 l'Excelsior ノ通信トシテ東京莫斯科交渉ニ関スル莫斯科労農党 Kamenef ノ意見ナルモノヲ掲載セリ其要領左ノ通

今回吾人カ Joffe ヲ日露交渉ノ委員長ニ任命セシハ極東問題ノ解決ヲ希望セムガ為ナリ従来日本ハ此方面ニ対シ帝国主義ヲ継続スルガ故若シ吾人ニシテ黒龍沿岸地方ヲ冷淡視セバ日本ハ東西比利ヲ領土化セントスベシ日本ハ極東共和国政府ノ抵抗ニ遇ヘバ斉多政府ニ対シ公然敵対ノ態度ニ出ヅベク浦潮ノ「メルクーロフ」軍ハ日本ノ西比利ニ対スル政策ノ伸長ト見ルベシ

最近日本政府ノ提議ニハ浦潮市及沿岸地方ノ撤兵ヲ約シ同時ニ吾人ニ強ユルニ日本ト外交関係ヲ開キ又斉多政府ヲ援

助シテ浦潮ニアル「メルクーロフ」軍ヲ解散セシメムトスルニアリ吾人ハ今後ノ交渉ニヨリ東亜沿岸地方ト通商ヲ開キ露国領土ヲ横領セル浦潮政府ヲ廃止セシメムトスルモノナリ惟フニ日本ガ吾人ニ対シ交渉ヲ開始セムトスル真意ハ米国ト危機アル場合側面沿岸地方ノ安全ヲ期セムトスルニアリ吾人ハ日本トノ交渉ハ啻ニ都合ヨク解決セムトスルノミナラズ東京政府ヲシテ労農政府ヲ公然承認セシムルノ必要アラシムルニ至ルベシ

尚右ノ宣伝ニ対シ何等措置ヲ執ル必要アラバ何分ノ義御回電アリタシ

五〇七　九月七日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

笠間事務官ヲ長春ニ急派方回電ノ件

附記　九月八日附警視総監ヨリ外務省欧米局長宛外秘乙第二七六号

日斉会議ニ派遣ノ新聞雑誌記者ニ就テ

第一一号（極秘）　（九月七日接受）

貴電第四号ニ関シ

目下当地ニ集リタル新聞記者約三十名ニテ本官等ハ会議後

ハ夜中ニ拘ラス一般ニ会見ヲ許シ出来得ル丈ケ操縦ニ努メ居レルモ中ニハ如何ハシキ者モ入込ミ居ルモノノ如ク併モ多数ノ記者ハ本官等ト同一ノ旅館ニ宿泊シ居ルコトトテ彼等ノ応接ニハ甚シク不便ヲ感ジ居レル折柄両氏ノ派遣ハ極メテ望マシク大至急出発セシメラレタシ

尚ホ往電第一三号末段ノ次第アルニ付「アントーノフ」ノ操縦ニ重キヲ措ク要アリト思考ス尚ホ国際ハ六日北京ヨリ古野到著シタルニ付今後ハ通信改マルベシト思考ス該記事ハ遼東新報ノ棟尾ナル者ガ発シタルモノノ由ニテ同人ハ筆ニ任セテ想像ノ記事ヲ通信スル癖アリ大連会議ニ於テモ我代表ニ於テ甚シク迷惑ヲ感シタルモノナル由

（附記）

大正十一年九月八日附警視総監ヨリ外務省欧米局長宛外秘乙第二七六号

日斉会議ニ派遣セラレタル新聞雑誌記者ニ就テ

目下長春ニ於テ開会中ノ日斉会議ノ模様通信ノ為都下各新聞社通信社等ヨリ特派セラレタルモノ左ノ如シ

報知新聞記者　小室　誠

東京日日　四方田義茂

時事　高村　経徳

朝日　富士　辰馬

国際通信社　古野伊之助

東方通信　折橋　慶治

日露実業新報　上田　森治

浦塩政府情報部通信員　フィヨドルアサノウィチ

右ノ内「アサノウィチ」ハ既報ノ如ク国際通信社ノ用務ノ為ト称シ本月三日長春ニ向ケ出発セルガ実ハ浦塩政府ニ会議ノ模様ヲ通信スル為ナルモノノ如ク出発前「アントーノフ」ト会見セルハ同人ノ紹介ニ依リテ斉多側委員ヨリ通信上ノ便宜ヲ得ントスルモノト認メラル

上田森治ノ経営スル日露実業新報ハ従来我西比利亜派遣軍司令部ト連絡ヲ図リ司令部ヨリ通信材料ヲ受ケ居タルガ今回撤兵ト決シ通信材料ヲ得ルノ便ヲ失フニ至レルヲ以テ過般浦塩特使一行ノ入京ヲ機トシ之ヲ招待接近シテ我軍撤退後ハ浦塩政府ヨリ西比利亜方面ノ情報ヲ得ント欲シ又浦塩側ハ之ヲ利用セント欲シ斯クシテ最近両者ノ間ニ特殊ノ関係成立スルニ至レル者ニシテ上田森治ノ長春行モ浦塩政府トノ間ニ何等カノ関係アルヘシト推スル者アリ

国際通信ノ「ケネデー」ハ従来我外務省ヨリ莫大ノ補助ヲ得テ特殊ノ関係ヲ有セシモ最近中絶シ居ルヲ以テ之ヲ復活スヘク交渉中ノ由ナルガ会社ノ特派員タル古野伊之助ハ最近我委員ヲ愚弄スルガ如キ通信ヲ為シツツアリトテ注意ヲ受ケツツアリ

其他ノ在留露国人ハ目下ノ処長春方面ニ旅行ノ模様ナシ

（以上）

五〇八　九月七日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

会議ノ目的等ニ関シ双方代表者間ニ見解ノ相違アリタルニ依リ暫時休会トセラレタル事情

詳報ノ件

第一二号　（九月七日接受）

九月六日ノ会議ニ於テ前日会議ノ引続トシテ批准ノ件ニ言及シ協約調印ノ日ヨリ効力ヲ生スルコトトスル様シタク大連会議ノ際ニハ結局右様話相付キタルニ付大連会議ヲ基礎トスル本会議ニ於テモ同様ニ取扱ヒ得ベシト思考スト述ヘタルニ「ヤンソン」ハ大連ニ於ケル極東共和国代表者ハ本件ニ関シ政府ノ意見ヲ問合来リタリト虚偽ノ説明ヲナシタ

ルガ強テ争フトモ無益ト思考シ之ヲ追及セズ委任状ニ関シテハ当方ニ於テモ先方ニ対シ不満ノ点アルニ依リ不充分不満足ナルコトヲ会議録ニ明記スルハ之ヲ避ケ此問題ニ触レズシテ会議ヲ進行スルコト得策ナル所以ヲ重テ説示シタルモ先方ハ会議録ニ何等記載セザルニ於テハ労農及極東共和国代表ハ単ニ極東共和国及極東露領ノ問題ニ関シ日本側トノ商議スルコトヲ承諾シタルコトトナルヘシトテ反対シ本官ガ日本側ガ会議録ノ有無ヲ云々シ露国側ヲ強制スルガ如キコトヲ敢テスルモノニアラザルノミナラズ露国側ハ会議ノ進捗ニ伴ヒ応諾シ難キ点ヲ指摘セラルレバ足ル旨縷々説示シタルニ対シ先方ハ今回ノ会議ノ目的ヲ極東ニ限ラレタルハ到底露国側ノ満足シ得ザル所ナリト答ヘタルニ付本官ハ今ヤ問題ハ委任状問題ヨリモ会議ノ目的如何ニ移リタルニ付日本側ノ態度ヲ率直ニ開陳スヘシト前提シ日本ハ本会議開催ニ承諾ヲ与フル前既ニ公式ニ又非公式ニ本会議ハ大連会議ノ協定案ヲ基礎トスルコト即チ極東共和国ト日本国トノ関係ヲ樹立スルニアルコト及極東共和国ト労農露国トノ特別関係ニ鑑ミ本会議ニ労農露国ノ参加ヲ承諾スルモノナルコトヲ露国側ニ通達セリ極東共和国ニ対スル日本国民ノ感情ガ漸次良好トナリ日本ハ之ト良好ナル関係ヲ樹立シ紛糾セル諸問題ヲ解決セントスルモノニシテ撤兵後ニ於ケル日本人ノ生命財産ニ関スル保障ヲ得国境ニ対スル脅威ヲ除去シ商工業等ニ関シ従来外国人ニ加ヘラレタル制限ヲ廃止セシムル目的ヲ以テ大連会議ヲ開キタルガ是等ノ諸点ハ従来極東共和国ノ自ラ声明シタル所ノミナラズ両国ノ為利益トナルコトト確信ス大連会議ヲ不成立ニ終ラシメタル大原因ハ撤兵問題ナリシガ今ヤ此問題ハ解決セラレタリ故ニ大連会議案ヲ基礎トシテ商議スルトキハ速ニ纏ムルコトヲ得ヘク其上ニテ労農又ハ斉多政府ト他ノ諸問題ヲ協議セントス此点ハ予備協議ニ於テ既ニ意見ノ一致シタル所ニシテ露国側ノ此態度ヲ諒トシ日本ノ輿論ハ露国側ニ対シ良好トナリ会議ノ成功ヲ期待シツツアリ協約ノ適用範囲ヲ極東共和国ニ限リタルハ労農露国ヲ軽視スルノ意ニハアラザルモ労農ハ極東共和国ニ比シ日本ト関係少ナキノミナラズ日本国民ハ今尚ホ労農ニ対シ多少危惧ノ念ヲ懐キツツアリ故ニ先ヅ極東共和国トノ関係ヲ定ムル意向ナルモ同共和国トノ協約成立ノ上ハ自然日本ト労農トノ関係ニ好影響ヲ齎スヘシ尚協定成立ヲ急グ所以ハ元来撤兵著手前ニ撤兵後ノコトヲ定メ置クヲ双方ノ為メ利益トシタルモノナルモ撤兵著手ノ今日ト雖成ルヘク速ニ話ヲ纏ムルノ必要アリ居留民ノ去就武器ノ授受問題等存スルニ依リ本会議ノ長引クトキハ会議ニ反対スル分子ノ飛躍トナリ為ニ会議決裂スルヤモ知レズ会議決裂スルニ至ラバ日露ノ関係ハ甚ダ面白カラザル結果ヲ来スベキヲ虞ルルモノナリト説述シ右ニ対スル先方ノ確答ヲ求メタル処露国側ハ事頗ル重大ナリトシ別室ニテ相談シタル上日本ノ意嚮ハ此際単ニ極東共和国ト日本トノ間ニ協定ヲ為サムトスルモノニシテ其目的ハ日本居留民ノ保護国境ニ関スル脅威ノ除去及工業ニ関スル制限ノ廃止ニアル処露国側ノ意嚮ハ労農及極東共和国ヲ一方トシ日本ヲ他ノ一方トシ広キ意味ノ協約ヲ締結セムトスルモノナリ故ニ政府ニ請訓スルニ非ザレバ交渉ヲ継続スル能ハズ就テハ右請訓ノ為メ暫ク休会シタシト申立テ尚前記三点ハ片務的ナリトテ暗ニ大連案ハ日本側ノミニ有利ナリトノ意ヲ洩シタルニ依リ本官ハ其然ラザル所以ヲ説明シタル後休会ニ同意シ置キタリ尚先方ハ二三日中ニ再会シ得ヘシト附言セリ最後ニ大連ニ於ケル協約案ヲ基礎トスルコトハ貴官ノ公文ニテ決定シタル所ナルニ今更之ヲ認メズト云フノ不当ナルコトヲ詰リタルニ露国側ハ予備協議ノ経緯ヲ無視シ八月六日ノ先方書翰ニハ単ニ先ツ基本協定ヲ審議スルコト云々ト書キ大連ナル文字ハ使用シ居ラズ八月十四日ノ日本側書翰ハ右ニ満足シタルヲ以テ日本ハ欧露ニ関スル協定ニモ異議ナキモノト思考セリトテ甚タシキ曲解ヲナシ居タリ

本電政務部ヘ転電シ在支公使、奉天、哈爾賓ヘ暗送セリ

五〇九　九月七日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

会議ニ於ケルヨッフェノ駆引振ニ関シ報告ノ件

第一三号　（九月八日接受）

往電第一二号ニ関シ

今日ニ至ル迄三回ノ議事要領ニテ御承知ノ通「ヨッフェ」ノ態度ハ議論ニ重キヲ置キ言葉尻ヲ捉ヘテ言質トナサントスル如ク誠意ヲ以テ胸襟ヲ開キ卒直ニ事ヲ定メントスル態度ニ出デズ当方ニ於テハ一面警戒ヲナシツツ他面成ル可ク彼ヲシテ我誠意ニ信頼シ安心シテ協議セシメント努メ居ルモ猶駈引ヲ弄シ居レリ而シテ其内心ヲ察セバ㈠協定ヲ広ク欧露ニ拡ゲ日本側ニモ相当有利ノ条件ノ下ニ労農政府ノ承

認問題マデ引付ケントスルコト(一)若シ已ムヲ得ズ協定ヲ斉
多ニ限ルトスルモ大連会議ノ案ニ拘束セラレザルコト尤該
案ニハ大体異存ナキモ要塞撤廃其他一二ノ点ニ就キテ既ニ
同意セシモノヲ覆サント企ラミ右目的ノタメニ所有駐引ヲ
ナシ居ルモノト見受ケラレ其誠意モ疑ハルルニ付先ヅ最初
ニ明確卒直ニ我方針ヲ示シ先方ノ明答ヲ得置ク事前記ノ如
キ駐引多キ交渉振ニ対シ必要ノ処置ト認メタルヲ以テ往電
第一二号ノ如キ態度ヲ執リタル次第ナリ「ヨッフェ」ハ基
本協定ノ意味ニ関シ日露間ニ誤解アリタル如ク称シ居ルモ
内心斯ノ如キ事理ヲ解セザルモノトモ思ハレズ六日談判中
本官ガ斯ノ如キ発表ヲ見バ日本ノ輿論ハ必ズヤ露国側ノ態
度ヲ意外トシ従来良好ニ傾キツツアル対露感情ハ俄ニ悪化
スル虞アルコトヲ語リタル処彼ハ自分ノ得タル感想ニ依レ
バ斯ノ如ク信ゼズ国民新聞ノ如キハ区々タル大連会議ノ観
念ヲ捨テ欧露政府ヲ承認ス可シトノ説ヲ掲ゲ居リタリト述
ヘタルニ察スルモ又他ノ言動ニ徴スルモ彼ハ極東ノ事情ヲ
全ク了解シ居ラス「ダリタ」通信等ニ依リ日本ノ輿論ガ一
般ニ右ノ如キ傾向ヲ有スルモノトノ望ミヲ抱キ極力欧露問
題ニ引附ケント為シ居ルモノノ如シ而シテ先方ハ権限ニ関
シ請訓セルモ其実直ニ談判ヲ不調ニ終ラセントスル意有ル
ヤ頗ル疑ハシ
本電政務部ヘ転電シ在支公使奉、哈ヘ郵送セリ

五一〇　九月九日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛

極東共和国及労農露国両政府代表者ヨッフェ及ヤンソンノ委任状写及同和仏訳文送付ノ件

機密公第一号　（九月十四日接受）

大正十一年九月九日

在長春　欧米局長　松平　恒雄（印）

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

極東共和国政府労農政府両代表委任状写進達ノ件

極東共和国政府、労農政府両代表ノ提出ニ係ル委任状写(註)別紙ノ通和仏訳文添付及送付候間御査閲相成度此段申進候

敬具

註　委任状写（露文）省略

（別紙）

ヨッフェニ対スル委任状ノ和訳文及仏訳文

(一)　極東共和国政府ヨリノ右委任状
(二)　労農露国政府ヨリノ右委任状

(一)極東共和国政府ヨリノヨッフェニ対スル委任状和訳文及仏訳文

極東共和国政府ハ公民「アドルフ、アブラモヴィチ、ヨッフェ」ニ対シ日本政府ノ代表者ト商議スルコトヲ委任シ前記代表者ト共ニ両政府間ニ存在スル総テノ繋争問題ニ関シ一般協定ヲ締結シ且ツ調印スルノ権限ヲ附与ス
本委任状ニ基キ調印セラレタル総テノ国際取極ハ極東共和国ノ憲法ニ依リ批准ヲ要スベシ

政府首班　エヌ、マトヴェーエフ
内閣総理　ニキフォロフ
外務大臣代理　ペ、ヤコヴェンコ・ホドケヴィチッチ

千九百二十二年八月二十三日第五五二六号斉多ニ於テ

Traduction.

PLEIN POUVOIR

Le Gouvernement de la République d'Extrême-Orient charge par le présent le citoyen Adolphe Abramovitch JOFFE d'entrer en pourparler avec les représentants du Gouvernement du Japon et l'autorise à conclure et à signer avec les dits représentants tous les accords généraux portant sur toutes les questions en litige entre les deux Gouvernements.

Tous actes internationaux signés en vertu du présent plein-pouvoir seront sujets à ratification conformément à la Constitution de la République d'Extrême-Orient.

Le Président du Gouvernement: N. Matveev.
Le Président du Conseil des Ministres:
P. Nikiforov.
Pour le Ministre des Affaires Etrangères:
B. Yakovenko-Hodkévitich.

Tchita, Le 23 Août 1922.
No. 5526

(二)労農露国政府ヨリノヨッフェニ対スル委任状和訳文及仏訳文

露西亜社会主義「ソヴィエト」聯邦共和国政府ハ其ノ在支

那共和国特命全権代表者全露「ソヴィエト」中央執行委員会委員公民「アドルフ、アブラモヴィチ、ヨッフェ」ニ対シ日本政府ノ代表者ト商議スルコトヲ委任シ前記代表者ト共ニ両政府間ニ存スル総テノ繋争問題ニ関シ一般協定ヲ締結シ且ツ調印スルノ権限ヲ附与ス

本委任状ニ基キ調印セラレタル総テノ国際取極ハ露西亜社会主義「ソヴィエト」聯邦共和国ノ憲法ニ基キ批准ヲ要スベシ

人民委員会議議長代理　「ルイコフ」

外務人民委員代理　「カラハン」

千九百二十二年七月二十六日

記録第一冊記入第七十四号

Traduction.

PLEIN POUVOIR.

Le Gouvernement de la République Socialiste Fédérative des Soviets de Russie charge par le présent son Représentant Extraordinaire Plénipotentiaire dans la République Chinoise membre du Comité Central Exécutif Panrusse des Soviets,

le citoyen A. A. Joffe d'entrer en pourparler avec les représentants du Gouvernement du Japon et l'autorise à conclure et à signer avec les dits représentants tous les accords généraux portant sur toutes les questions en litige entre les deux Gouvernements.

Tous actes internationaux signés en vertu du présent plein pouvoir seront sujets à ratification conformément à la Constitution de la République Socialiste Fédérative des Soviets de Russie.

Pour le Président du Conseil des Commissaires du Peuple: A. I. Rykoff.

Pour Le Commissaire du Peuple pour les Affaires Etrangères:

L. Karakhan.

Enregistré dans le Premier Livre des Protocoles,

Le 26 Juillet 1922, sub. No. 74.

ヤンソンニ対スル委任状ノ和訳文及仏訳文

(イ)　極東共和国政府ヨリノ右委任状

(ロ)　労農露国政府ヨリノ右委任状

(イ)極東共和国政府ヨリヤンソンニ対スル委任状和訳文及仏訳文

極東共和国政府ハ公民「ヤコヴ、ダヴィドヴィチ、ヤンソン」ニ対シ日本政府ノ代表者ト商議スルコトヲ委任シ前記代表者ト共ニ両政府間ニ存在スル総テノ繋争問題ニ関シ一般協定ヲ締結シ且ツ調印スルノ権限ヲ附与ス

本委任状ニ基キ調印セラレタル総テノ国際取極ハ極東共和国ノ憲法ニ依リ批准ヲ要スベシ

政府首班　ニス、マトヴェーエフ

内閣総理　ニキフォロフ

外務大臣代理　ベ、ヤコヴェンコ・ホドケヴィチッチ

千九百二十二年八月二十三日第五五二五号斉多ニ於テ

Traduction.

PLEIN POUVOIR.

Le Gouvernement de la République d'Extrême-Orient charge par le présent le citoyen Jacques Davidovitch YANSON d'entrer en pourparler avec les représentants du Gouvernement du Japon et l'autorise à conclure et à signer avec les dits représentants tous les accords généraux portant sur toutes les questions en litige entre les deux Gouvernements.

Tous actes internationaux signés en vertu du présent plein-pouvoir seronts sujets à ratification conformément à la Constitution de la République d'Extrême-Orient.

Le Président du Gouvernement: N. Matveev.

Le Président du Conseil des Ministres:

P. Nikiforov.

Pour le Ministre des Affaires Etrangères:

B. Yakovenko-Hodkévitich.

Tchita, Le 23 Août 1922.

No. 5525

(ロ)労農露国政府ヨリヤンソンニ対スル委任状和訳文及仏訳文

露西亜社会主義「ソヴィエト」聯邦共和国政府ハ公民「ヤーコブ、ダヴィドヴィチ、ヤンソン」ニ対シ日本政府ノ代表者ト商議スルコトヲ委任シ前記代表者ト共ニ両政府間ニ

存スル総テノ繋争問題ニ関シ一般協定ヲ締結シ且ツ調印スルノ権限ヲ附与ス

本委任状ニ基キ調印セラレタル総テノ国際取極ハ露西亜社会主義「ソヴィエト」聯邦共和国ノ憲法ニ基キ批准ヲ要スヘシ

人民委員会議議長代理　「ルイコフ」
外務人民委員代理　「カラハン」

千九百二十二年七月二十六日

記録第一冊記入第七十五号

Traduction.

PLEIN POUVOIR.

Le Gouvernement de la République Socialiste Fédérative des Soviets de Russie charge par le présent le citoyen Jacques Davidovitch YANSON, d'entrer en pourparler avec les représentants du Gouvernement du Japon et l'autorise à conclure et à signer avec les dits représentants tous les accords généraux portant sur toutes les questions en litige entre les deux Gouvernements.

Tous actes internationaux signés en vertu du présent plein pouvoir seront sujets à ratification conformément à la Constitution de la République Socialiste Fédérative des Soviets de Russie.

Pour le Président du Conseil des Commissaires du Peuple; A. I. Rykoff.

Pour Le Commissaire du Peuple pour les Affaires Etrangères: L. Karakhan.

Enregistré dans le Premier Livre des Protocoles, Le 26 Juillet 1922, sub. No. 75

五一一　九月十日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

露国側代表ハ会議及条約ノ範囲ヲ極東問題ニ限ルヲ得ザル旨日本側ニ通知シタル件

第一八号　（九月十一日接受）

新聞発表事項

労農露国及極東共和国代表ハ予テ待居リタル詳細ノ訓令各本国政府ヨリ電報ニテ受取リ左ノ如ク日本側代表ヘ通知セリ

本会議ノ範囲及条約ヲ極東露領問題ノミニ制限スルノ件ニ関シテハ依然トシテ自己ノ見解ヲ保持ス即チ談判ハ労農露国及極東共和国ヲ一方トシ日本ヲ他方トシテ其間ニ行ハレザルベカラズ而シテ交渉竝条約共ニ単ニ極東問題ノミニ限ルヲ得ズ

右ニ対シ日本代表ハ会議ヲ明日迄延引センコトヲ求メ露国側委員ニ対シ明日ノ会議ニ於テ其ノ回答ヲ与フルコトトセリ

依テ次ノ会議ハ九月十一日午後三時開会ノ筈出席者日本側同シ露国側「ヨッフェ」「ヤンソン」「レーウィン」「クゾネツォフ」「リーベゼル」「レッドニコフ」

五一二　九月十一日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

九月十日ノ会議ニ於ケル先方申出ノ趣旨ガ労農露国ニ適用ノ一般的協定締結ニ在ルヤヲ確メタル後我回答ヲ与フルコトトセル件

第一九号　（九月十一日接受）

九月十日ノ会議ニ於テ露国ハ別電第二〇号(註)ノ趣旨ノ申出ヲ為シタルニ付本官ハ根本ノ点ニ関シ説明ヲ求メ先方ノ意向ヲ労農露国及極東共和国ヲ一方トシ日本トノ間ニ労農露国ニ迄適用セラルヘキ一般的協約ノ締結ニアルコトヲ確メタル後右申出ニ対スル回答ハ明十一日之ヲ為スコトトセリ

註　別電第二〇号ヲ省略セリ右ニ付テハ九月十一日附松平代表発機密公第二号参看

五一三　九月十一日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛

長春会議運営ノ順序及議題ノ範囲竝協定締結ノ当事者ニ関スルロシア側代表ノ覚書送付ノ件

附属書　右覚書（英文）写　（九月十八日接受）

機密公第二号

大正十一年九月十一日

在長春

欧米局長　松平　恒雄（印）

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

労農露国及極東共和国両政府代表提出覚書写進達ノ件

往電第二〇号ヲ以テ概要及報告置候九月十日ノ会議ニ於テ労農露国及極東共和国両政府代表ヨリ本官ニ手交セル露国側回答覚書(註)露英両文写邦語訳文添付及進達候間御査閲相成

度此段申進候　敬具

追テ露国側ヨリ添付ニ係ル邦語(ママ)訳文モ何等御参考迄ニ及添付候

註　露国側回答覚書ノ露文写及露国側ヨリ添付ニ係ル邦語訳文ヲ省略セリ

（附属書）

九月十日ノ会議ニ於テ労農露国及極東共和国両政府代表提出ノ覚書（英文）写

After having heard the Declaration of the Imperial Japanese Government made at the last session by the chairman of the Japanese Delegation as regards the scope and programme of the Russo-Japanese negotiations, the Delegation of the Russian Socialist Federative Soviet Republic and the Far Eastern Republic deemed it necessary to report to its Governments and ask their opinion as to the substance of this programme, which is indeed essentially different from the instructions received by the Delegation from its Governments.

Having now received its' Governments' answer, the Delegation of the Russian Federative Soviet Republic and the Far Eastern Republic declare the following in the name of these Governments:

It has come as an absolute surprise to the Governments of the Russian Socialist Federative Soviet Republic and the Far Eastern Republic that the Imperial Japanese Government desires to limit the scope of questions to be discussed at the Russo-Japanese Conference by questions relating only to the Far East and that it desires to conclude only with the F. E. R.

The Governments of the Russian Socialist Federated Soviet Republic and the Far Eastern Republic viewed and still view the Russo-Japanese negotiations as such negotiations that are being conducted with a view to establishing normal and good-neighbourly mutual relations between the Russian and the Japanese peoples and their Governments—what would be the outcome of non-compulsory discussion and solution, based on a mutual recognition of the interests of the contracting parties, of all questions lying in the way of the establishment of the afore-mentioned mutual relations.

The Delegation of the Russian Socialist Federated Soviet Republic and the Far Eastern Republic cannot conceive how a programme of the Conference limited only to Far Eastern questions could be practically carried out even to leave alone the fact that such a limited scope of the Conference would result in questions being solved only such as would be of concern mainly to Japan.

Were it even from an economic point of view alone—to say nothing about questions of politics—every state today represents an economic whole with cohesion so strong that a territorial division of questions is absolutely impossible. On the other hand, the Russian Socialist Federative Soviet Republic and the Far Eastern Republic are so closely connected one with the other as regards the people's economy and, in general, from an economic point of view, that neither in this field is it possible to discuss and solve the questions at issue independently and apart from each other.

It is, for instance, impossible, while establishing the rights of Japanese citizens, let us say, in the mining or the forestry industries—to be limited territorially exclusively by the Far East, for different branches of the mining and the forest industries—even in the territory of the Far Eastern Republic—are so closely connected with corresponding branches of the Russian, and not only of the Far Eastern, industries that questions referring thereto must inevitably be taken up in a broader way and not be limited to the territory of the Far

Eastern Republic and the Russian Far East. And such a limitation is all the more impossible when the general volume of rights and privileges of citizens of the contracting parties is being established.

Thus the result of such a limitation, even if questions are being settled exclusively of an economic nature, would be practically to establish the rights of Japanese citizens in all the territory of Russia—which is, of course impossible without an agreement with the latter.

In spite of the hostile policy of the Imperial Japanese Government vis-à-vis the Russian people for the last years, the people of Russia is not actuated by any inimical feelings towards the people of Japan.

In full accordance with the will of their people, the Governments of the Russian Socialist Federative Republic and the Far Eastern Republic are willing to forget the past and reach a friendly agreement with Japan all the more so that not only does either of these Governments pursue the policy of the tsar's government, which strove to infringe upon the rights of the Japanese people in the Far East, but, on the contrary, both Governments understand perfectly well and recognise the vital interests of the Japanese people and are willing to go, in so far as it is possible, in the way of satisfying essential and just needs of the people of Japan. However, the Governments of the Russian Socialist Federative Soviet Republic and the Far Eastern Republic fail to understand such negotiations as are to solve the interests of one side alone and cannot agree to such negotiations.

Neither can they agree with the point that the evacuation of Japanese troops and the restitution to the Far Eastern Republic of property seized by them could be an adequate compensation for Russia and the Far Eastern Republic. This property belongs to the Russian people and, as much, must be returned to its lawful owner independently of the course of the negotiations. As for the evacuation of the Japanese troops, it was made a condition preliminary to the negotiations and is not connected, therefore, with the negotiations themselves.

The Japanese occupation of Russian territory meets with no sympathetic echo in any part of the world—neither in America, nor in Europe, nor even among the people of Japan itself, and this circumstance the Russian people, while hoping and relying on its own strength, cannot however pass in silence.

Fully agreeing with the necessity of solving at the present Russo-Japanese Conference all questions related to the evacuation of the Japanese troops and considering that these questions must be discussed in the first place—the Delegation of the Russian Socialist Federative Soviet Republic and the Far Eastern Republic, however, holds the view that, on the whole, these questions as pertaining to a preliminary agreement are not essentials of the present negotiations.

In full accordance with their preliminary declarations, the Governments of the Russian Socialist Federated Soviet Republic and the Far Eastern Republic still hold the view that it is desirable first to work out and sign an agreement on general questions and questions of principle and then to pass to the discussion of questions of a more concrete and detailed nature, but they do not consider, however, that such an agreement should simply be a reproduction of the so-called Dairen Draft.

The basis of this Draft must be made broader

for this reason, if not for any other, that negotiations had been conducted at Dairen only between the Far Eastern Republic and Japan, whereas the Changchun negotiations are going on between the Russian Socialist Federative Soviet Republic and the Far Eastern Republic, on the one hand, and Japan, on the other, and the treaty that will be elaborated as outcome of these negotiations must be a treaty as between Russia and the Far Eastern Republic, on the one hand, and Japan, on the other.

At the same time, however, the Governments of the Russian Socialist Federative Soviet Republic and the Far Eastern Republic still hold to-day, as they did before, that the negotiations that had lasted eight months at Dairen must contribute considerably to speeding up the present negotiations, as it is, of course, useless to repeat again the discussions of principle that had taken place at Dairen.

In conclusion, the delegation of the Russian Socialist Federative Soviet Republic and the Far Eastern Republic reasserts its willingness to reach rapidly an agreement with the Japanese Delegation on the baisis of the points stated above.

（右飜訳文）

（在長春日本代表部ニ於テ作成シタル仮訳文）

労農露国及極東共和国代表ハ前回会議ニ於テ日露談判ノ範囲並ニ其順序ニ関シ日本代表ノナサレタル日本帝国政府ノ通告ヲ聴取シ会議ノ順序ニ関シテ本国政府ヨリ受ケタル訓令ト著シク差異アリタルニ付右会議順序ニ関シ政府ニ請訓スルヲ必要ト認メタリ

労農露国及極東共和国代表ハ今回本国政府ヨリ回答ニ接シタルヲ以テ本国政府ノ名ニ於テ通告スルコト左ノ如シ

日露会議ノ審議ニ属スヘキ問題ノ範囲ヲ単ニ極東ニ限ラントスル日本帝国政府ノ希望ハ労農露国及極東共和国ニトリ全然意外トスル所ナリ単ニ極東共和国トノミ条約ヲ締結セントスル日本政府ノ希望又然リ

労農露国及極東共和国政府ハ日露談判ヲ以テ両当事国ノ利益ノ相互承認ヲ基礎トシ自由意思ヲ以テ日露両国民及其政府間ニ善隣関係樹立ヲ審議解決シ因テ以テ両国民及両政府間ニ平常ニシテ且ツ善隣ナル関係ヲ樹立スルノ目的ヲ以テ行ハルヘキモノト解シ居タリ

会議ノ範囲ヲ単ニ極東問題ニ限ルコトハ主トシテ日本ノ利害関係ヲ有スル問題ノミガ解決セラルルノ結果ヲ来スヘキハ勿論ナルノミナラス労農露国及極東共和国代表ハ斯カル談判ノ順序カ実行シ得ヘキモノト思考スル能ハズ政治上ノ問題ハ暫ク措キ単ニ経済上ノ見地ヨリスルモ両国ハ現今問題ヲ領土的ニ分割スルコト全然考ヘ得サル程密接ニ連結セラレ居ルモノナリ他面又労農露国及極東共和国ノ一般経済的関係ハ互ニ切リ離シテ審議解決スルコトモ不可能ナルトスル程密接ナリ

例ヘハ鉱業及林業ニ於テ日本人民ノ権利ヲ設定スルニ当リ単ニ極東領域ノミニ制限スルヲ得ズ蓋シ極東共和国ノ領域内ニ於ケル鉱業若クハ林業ノ各分業ハ極東ノ同一産業ト密接ナル関係アルノミナラス又労農露国ニ於ケル同一産業ト密接ナル関係ヲ有シ此等ノ問題ヲ極東共和国及極東露領ノ外ニ拡張スルコト避クベカラザレバナリ況ンヤ斯ル制限ハ一般ニ当事国人民ノ権利及特権ノ範囲ヲ定ムルニ当リ不可能ナルニアラズヤ

斯クノ如ク前記制限ハ経済的ノ問題ノミヲ解決スルニ当リテスラ事実上日本人民ノ権利ヲ全露国領土ニ設定スルコトナリ斯ノ如キハ勿論露国ノ承諾ナクンハ考ヘ得ザルモノナリ

露国民ハ最近数年間ニ日本帝国政府ノトリシ敵対的対露政策ニ拘ラズ日本国民ニ対シ何等不快ノ感情ヲ抱持シ居ラズ労農露国及極東共和国政府ハ国民ノ意思ヲ完全ニ尊重シ過去ヲ忘レ日本ト親善協定ヲ達成セントスル用意アリ両政府ハ極東ニ於テ日本国民ノ権利ヲ制限セントシタル皇帝政府ノ政策ニ不同意ナルノミナラス却テ日本国民ノ緊要ナル利益ヲ熟知シ且ツ認ムルモノニシテ能フ限リ其ノ緊要ニシテ公平ナル要求ニ応セントスルモノナリ然レトモ労農露国及極東共和国政府ハ当事国一方ノ利益ノミヲ解決セザルベカラズトスル談判ヲ了解スルコト能ハズ且ツ斯ル談判ニ応諾スルコト能ハザルナリ

労農露国及極東共和国両政府ハ日本軍ノ撤退並ニ日本軍ノ

押収物件ヲ極東共和国ニ還附スルコトヲ以テ労農露国及極東共和国ニ対スル十分ナル代償タルヘシトナスコトニモ亦同意スル能ハズ是等物件ハ露国民ノ所有物ニシテ談判ノ成行如何ニ拘ラズ合法ナル所有者ニ還附セラルヘキモノナリ日本軍ノ撤退ニ関シテハ右ハ談判ノ予備条件ナリシヲ以テ同シク談判ト何等関係ナシ

本問題ニ於テ露国民ハ自力ニ信頼スルモノナルモ日本ノ露国領土占領ハ世界何処ニ於テモ亜米利加ニ於テモ欧洲ニ於テモ将又日本国民自身ノ間ニ於テスラモ同情的反響ナキコトヲ黙過スル能ハズ

労農露国及極東共和国代表ハ今次ノ日露会議ニ於テ日本軍撤退ニ関連セル総テノ問題ヲ解決スルノ必要ヲ十分ニ認メ且ツ之等ノ問題ヲ先以テ審議スルコト必要ナリト思考スルモ之等問題ハ全然予備的協定事項ニシテ談判ノ主要部ニアラズト思考ス

労農露国及極東共和国政府ハ曩ニ声明セル通リ先ツ一般的主義上ノ問題ニ付協定ヲ作成調印シ然ル後一層具体的ニシテ部分的ナル問題ヲ協議スルコトヲ希望ストノ見解ヲ完全ニ固持スルモノナルモ右一般協定ガ所謂大連案ノ単ナル敷

写（reproduction）タラザルベカラズトハ思考シ居ラズ大連ニ於ケル談判ハ単ニ極東共和国日本間ニ行ハレタルモノナルガ長春ニ於ケル談判ハ労農露国及極東共和国ヲ一方トシ日本ヲ他ノ一方トスル当事国間ニ行ハルルモノナルニ依リテ見ルモ本案ノ基礎ハ拡張セラレザル可カラズ従ッテ右談判ノ結果作ラルベキ条約ハ露国及極東共和国ヲ一方トシ日本ヲ他ノ一方トスル当事国間ノ条約タラサル可ラス然レトモ之ト同時ニ労農露国及極東共和国政府ハ現今ニ於テモ従来ト同様八ケ月ノ間大連ニ於テ行ハレタル談判ハ非常ニ今回ノ談判ノ進捗ヲ速カナラシムベシト思考ス蓋シ既ニ大連ニ於テ行ハレタル主義上ノ言論戦ハ元ヨリ改メテ繰リ返スコト無意義ナレバナリ

終リニ労農露国及極東共和国代表ハ前述ノ条項ヲ基礎トシ日本代表ト速カニ協定ヲ遂ゲントスルノ準備アルコトヲ重ネテ玆ニ声明ス

五一四　九月十一日　在長春松平代表ヨリ内田外務大臣宛（電報）

協定締結問題ニ関シ九月十日ヨッフェ及ヤンソント非公式ニ意見ヲ交換シタルニ付其模様

第二一号（至急）　（九月十一日接受）

露国側代表殊ニ「ヨッフェ」ノ態度ニ関シテハ再三報告ノ通リニ付折ヲ見テ極メテ非公式ニ先方ノ真意ヲ探リ同時ニ当方ノ態度モ充分誤解ナキ様諒得セシメント考ヘ居リタルモ時機ヲ誤レバ却テ宣伝ノ材料ニ利用セラルル虞アルニ付今日迄控ヘ居タル処十日ノ会議ハ往電第一九号ノ通リ短時間ニ終リタルヲ以テ別室ニ於テ「ヨッフェ」「ヤンソン」及本官トノ間ニ全然非公式且ツ何等双方ヲ「コンミット」セズシテ自由ニ意見ヲ交換セント提議シタル処先方モ喜ンデ是ニ応ジタルニ付本官ハ先ツ日本ガ西比利亜ニ対シ侵略的意思アル様思惟スルコトノ全然誤解ナルコトハ着々事実ニ依リテ証明セラレ居ルコト日露親善関係樹立ノ必要及国民ノ是ニ対スル意向ヲ詳述シ極東共和国ヲ特ニ相手方トシテ大連会議案ヲ基礎トシ交渉ヲ行フコトノ必要及速ニ協定ヲ遂グルタメニハ日本ノ提議ニ依ルノ必要ヲ説キ交渉ノ当事者ハ場合ニ依リテハ極東共和国及労農露国ヲ一方トナスニハ考慮ノ余地アルモ協約ノ範囲ヲ労農露国ニ及ボスコトニハ到底同意困難ナル旨及労農露国トノ関係ハ極東共和国トノ間ニ条約成立後国民ノ労農露国ニ対スル了解進ムニ従ヒ第二段ノ問題トシテ研究スルコトノ適当ナル旨並武器ノ引渡ニ関スル帝国政府ノ方針等ヲ詳述シ日本側ノ極東共和国ニ対スル好意ヲ諒解セシムルト同時ニ万一会議ノ決裂スルニ於テハ今日迄進ミ来リタル露国ニ対スル国民ノ好感情ニ急変ヲ来シ政府ノ政策モ亦之ニ依リテ変化スル虞ナシトセザル旨胸襟ヲ開キテ語リタル処先方ハ之ヲ謝スルト同時ニ全ク打明ケ話トシテ大要左ノ如ク語リタリ

露国政府ノ方針トシテハ自国ノ内政ニ干渉セントスル政府トハ交渉セザル方針ニシテ仏国ノ如キハ其ノ例ナリ日本ニ対シテモ尚干渉ノ危虞ヲ有ス日本政府ガ極東共和国トノミ協約ヲ結ビ労農露国ヲ除外セントスルハ極東ニ緩衝国ヲ永遠ニ存置シ之ヲ通シテ労農政府ノ内政ニモ干渉セントスルモノニ非ズヤトノ懸念ヲ有スル次第ナリ露国民ハ自由ニ自国ノ政体ヲ選定スルノ権限ヲ有シ実ハ人民ノ意向ニ依リ明日ニモ極東共和国ハ労農露国ト合体シ又ハ連邦ノ組織ニ入ルヤモ知レズ故ニ此際極東共和国ト日本トノ間ノミニ適用セラルル協約ヲ締結スルコトハ将来ノ行動ヲ束縛セラルルコトトナリ露国民ノ同意シ得ザル処ナリ元来労農政府ハ各

国ノ侵略政策ニ対抗スル為辺境国ヲ樹立シタルモ漸次統一ノ機運ニ向ヒタル今日ニ於テハ其ノ必要漸次消滅シ来レリ大連会議ノ際ハ日本駐兵ノ圧迫アリタル為已ムナク極東共和国トノ間ニ協定ヲ締結セムトセシモ其後形勢変化シ同共和国ト労農露国トノ関係ハ更ニ密接ノ度ヲ増シタルニ付今日ニ於テハ露国民ハ断ジテ極東共和国カ単独ニ日本ト協定スルヲ望マズ故ニ大連ニ於テ略議定シタルモノヲ基礎トシ極東共和国トアルトコロヲ総テ両国ノ名前ニ変更シ必要アル文字ノ修正ヲ加フルコトトセバ可ナルヘク尤モ軍事々項ノ如キハ（要塞撤廃ヲ意味ス）大連案ヲ其儘採用スルコト能ハズ全然否認スル訳ニハアラザルモ修正ヲ要ス武器ノ如キハ日本軍サヘ撤退セラルレバ結局我方ニ帰スヘキニ付左シタル問題ニモアラズ又仮ニ協定ガ極東共和国ト日本トノ間ニノミ適用スルモノトセバ実際問題ニ就キ甚シク不徹底ノ状態ヲ呈出シ勘察加方面ニ於ケル権利ノ如キ又漁業問題ノ如キ如何ニシテ処置スル心算ナリヤ又最恵国約款ノ適用等ニ関シテモ実際解決シ難キ状態ヲ生ズベク又権利殊ニ鉱山ニ関スル利権ノ如キ労農露国及極東共和国合同シテ「トラスト」又ハ「シンヂケート」ヲ組織シ之ニハ個人会社等ノ「インテレスト」モアル関係上極東共和国（不明）ニテハ完結出来ザル状態ナリ而シテ極東共和国ト云ヒ労農露国ト云フモ殆ト差異ナク労農露国ニ於テモ私有権ヲ認メ利権ノ如キハ極東共和国ト同シク三十六年ノ「リース」ヲ認ム唯政治組織ハ労農露国ニ於テハ「ソヴィエット」制度ニシテ極東共和国ニ於テハ然ラストノ差アルノミ云々尚本官ハ内政干渉ニ対スル先方ノ懸念ヲ質シタル上斯ノ如ク制度ヲ異ニセルニ国ヲ一方トシテ協定ヲ遂クルコト事実上不可能ニアラズヤト言ヒタル所右ハ前述ノ通事実上両国間ニ殆ト差異ナキ次第ナレバ可能ナリト答ヘ露国側ノ希望ハ大連案ヲ基礎案トシ之ヲ労農露国ニ適用シテ本協定ヲ作ルノ意ニシテ更ニ之ニ関連シ承認問題並「ゼノア」ニ於テ提起セル問題ヲ会議セムトスル意ナキヤトノ本官ノ質問ニ対シ右ノ如キ意思ナシト答ヘタリ

本官ハ右ニテ話ヲ打切リ此儘ニテハ談判ハ乍遺憾不調ニ了ハルノ外ナシト思考スル処最後ノ訓令ヲ請フベキニ付明日直ニ回答スヘキヤ或ハ訓令ヲ俟ツヘキヤ後刻回答スヘキ旨ヲ述ヘ別レタリ

往電第一九号第二〇号及本電一括政務部ヘ転電シ在支公使

奉天哈爾賓ヘ暗送セリ

五一五　九月十一日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

大連案ヲ大体ノ基礎トシ協定ノ適用範囲ヲロシア全般トシテ妥結ヲ計ルベキヤ至急回訓方稟請ノ件

第二二号（至急）　（九月十一日接受）

往電第一九号及二一号ヲ綜合スルニ露西亜側ノ意向ハ大体大連案ヲ基礎トスルコトニハ異存ナキモ其ノ内要塞撤廃ニ関スル案ノ修正ヲ主張シ関税ニ関シテハ極東共和国及労農間ニ関税同盟成立セントスルニ鑑ミ訂正スヘキ（最恵国均霑ヲ拒ム意カ）必要アリトシ其ノ他「レダクション」ヲ修正セントスルニ在リテ適用ノ範囲ハ一般露国トスルコト承認問題其ノ他「クレジット」ノ問題ハ主張セザルモノト察セラル尤大連案ノ条項ニ多少ノ追加ヲ申出ヅルコトハ有リ得ヘシ結局争点ハ目下ノ状態ニテハ一般協定ヲ労農露国ノ範囲ニ及ボスヘキヤ否ヤニ帰著セリ従テ我方ニ於テ執ルヘキ措置ハ

一、飽迄極東共和国及日本トノ協定ヲ固執シ其ノ旨回答スルト同時ニ先方ニ於テ応ゼザルニ於テハ直ニ引揚グルコトトスルカ

二、大連案ヲ大体ノ基礎トシ（議了シタルモノヲ絶対ニ動カスベカラザルモノトセザル意味）承認問題「クレジット」問題ヲ提出セザルヲ条件トシ労農ニ適用スルカ

二者其ノ一ニ出デザル可シ

右第二ノ場合ニ付テ考フルニ漁業問題堪察加ノ利権問題等特殊ノ問題ヲ労農露国ト日本トノ間ニ一般的関係ナクシテ審議スルコトハ理論徹底セザル嫌アリ而シテ極東共和国ハ素ヨリ変体ニシテ日本撤兵後早晩自滅又ハ労農ト合体スヘキコトハ既ニ帝国政府ニ於テモ予見シ居ラレタルノミナラズ往電第二一号ノ如ク先方ノ意向モ明カニナリタル場合日本ガ強テ緩衝国ノ維持ニ努ムルハ内政不干渉ヲ声明シ居ル以上不可能タルベク然ラバ此際協約ノ内容ニシテ大体大連会議ト同様ニシテ併モ承認其他紛糾セル問題ヲ提出セザルコト確カナリトセバ或ハ寧ロ露国全般ニ適用スルコト得策ナルヤニモ思考セラル尤モ先方ガ駆引ヲ弄スルヲ以テ交渉ノ進行中如何ニ変説スルヤ保シ難キモ兎ニ角此方法モ亦考量ヲ加フヘキ価値アリト信ズ尚ホ第一ノ場合ニ依ルトスル

モ直ニ談判決裂スルヤ或ハ露国側ガ更ニ譲歩スルヤハ予断シ難シ唯先方ハ九日夜莫斯科ヨリ訓電ニ接シタリト称スルモ余リニ短期間ニ回答セルヨリ見レバ真ニ訓令ヲ得タルモノトハ信ゼラレズ其辺ヨリ見ルトキハ尚ホ譲歩ノ余地アル如ク見ユルモ当方ニ於テハ最後ノ御訓令ヲ得タル後回答スルコト安全ト思考シタル次第ナリ右ニ関シ大至急御回訓ヲ仰ク

本電政務部へ転電シ北京奉天哈爾賓へ暗送セリ

五一六　九月十一日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

会議ヲ延期スルコトトシタル件

第二三号　（九月十一日接受）

新聞発表事項

露国ノ回答ニ対シ此上トモ会議ヲ継続スヘキヤ否ニ関シ政府ニ請訓シ回訓ヲ得ル迄会議ヲ延期スルコトトセリ

五一七　九月十二日　閣議決定

我方ノ極東共和国政府トノ基本協定調印及労農政府トノ通商協定締結交渉問題ニ関スル松平代表宛訓令案ニ付請議ノ件

貴電第二二号ニ関シ

基本協定及其附属文書ハ曩ニ大連ニ於テ略ボ議了セラレタル所ヲ基礎トシ審議調印スヘキコトハ予備交渉ニ於テ明白ナル合意アリタル義ナルヲ以テ今更変更ノ余地ナキモ先方ニシテ先ツ大連ニ於テ議了シタル結果ヲ基礎トシ速ニ基本協定及其附属文書ニ調印シ爾余ノ交渉ト関係ナク直ニ其効力ヲ生セシムルコトニ同意スル場合ニハ引続キ労農政府トノ間ニ通商ニ関スル暫行協定ノ締結ニ付交渉ヲ開始スルニ同意シ差支ナシ極東露西亜ニ関スル事項ニ付基本協定ノ調印ヲ見タル後次テ労農政府トノ通商協定交渉ニ入ルコトハ会議進捗上極テ必要ニシテ我方ノ最重キヲ措ク所ナルヲ以テ貴官ハ速ニ基本協定ヲ締結セムトスル我方精神ノ在ル処ヲ重ネテ説明スルト共ニ将来労農政府ガ極東共和国ヲ併合セムトスル場合ニモ我方ニ於テ毫モ之ニ干渉スル意思ナク而シテ這回ノ基本協定ハ労農参加ノ下ニ行ハルルモノナルヲ以テ同政府ニ於テ右併合ノ場合ノ妨害トナルヘキコトヲ恐ルル理由全然ナカルヘク又帝国政府トシテモ右併合カ当然本件基本協定ノ効力ニ何等ノ影響ヲ及ホスヘキモノナリトハ思考セザルガ故ニ之ニ反対スヘキ理由ナキ次第ヲ説キ先方ノ疑惑ヲ一掃セラレ尚ホ右基本協定ニシテ締結セラルル場合ニハ我方国民ノ対露感情改善セラレ労農政府トノ通商協定ニ関スル交渉ニモ極テ好影響ヲ及ホスヘキコトヲ説示セラレ以テ我主張ヲ貫徹スルニ努メラレタシ

（欄外註記）

「大正十一年九月十二日閣議決定（内田外相印）」

註　右閣議決定ハ其儘同日内田外務大臣発松平代表宛電報第九号ヲ以テ電送セラレタリ

五一八　九月十二日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

長春会議ニ対スル中国側ノ関心ニ付報告ノ件

第二四号　（九月十二日接受）

支那側ニテ本会議ニ注意ヲ怠ラザル次第ハ既報ノ通ナルガ外交部ヨリハ鄭延禧ヲ派遣シ絶エズ露西亜側ヨリ情報ヲ得居ル模様ナリシ処更ニ九月十二日「シンプソン」来リテ又「ヨッフェ」ヲ訪問シタル様子ナリシガ十二日同氏本官ヲ来訪シ実ハ「ヨッフェ」ガ北京ニ来リ外交総長トモ両三回会見シタルガ日露交渉ニ対シテハ北京ニ於テモ意見分レ居リ改進派ハ此際交渉ヲ為スベシト主張スルモ重ニ銀行家等ヲ中心トスル保守派一派ハ之ニ反対シ未ダニ決セズ先ツ日露交渉ノ成行ヲ見テ決セムトシ自分ガ満洲ニ来ル序ヲ以テ当地ニ派遣セラレ会議進行ノ模様ヲ見テ報告スヘキ命ヲ受ケタリトテ差支ナキ限リ承知シタキ旨述ベタルニ付本官ハ之ヲ快諾シ会議ノ目的及今日迄ノ成行ヲ語リ尚協定ニハ支那ノ権利利益ヲ害スルコトナキコト往電第一五号道尹ニ語リタルト同様ノコトヲ述ベタル処深ク感謝シ北京ニ報告スヘキ旨申居リタリ尚同人ハ今週末東支鉄道ニ関スル用向ヲ以テ哈爾賓ニ赴キ夫レヨリ帰京スル由

在支公使へ転電セリ

五一九　九月十三日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

協定締結ノ当事者ニ関シ妥協点発見ノ為会議継続ノ件

第二六号　（九月十四日接受）

新聞発表事項

九月十三日ノ会議ニ於テ日本代表ハ日本政府ノ訓令ニ依リ

日本政府ノ意向ハ先ヅ第一ニ日本ト極東共和国トノ間ニ協約ヲ締結スルニ在ルコトヲ説明シ露国側ハ協約締結ノ当事者ハ労農政府及極東共和国タルコトヲ要ストノ主張ヲ繰返セリ

両者ノ主張ノ妥協点ヲ見出ス為会議ヲ継続スルニ決シ会議ハ十四日午后三時開会ノコトトセリ

五二〇　九月十三日　在ハルビン山内総領事ヨリ内田外務大臣宛

長春会議ニ関スルヤンソン氏夫人ノ執筆記事露字紙ニ掲載ニ付報告ノ件

公信第四五四号　（九月十九日接受）

大正十一年九月十三日

在哈爾賓
総領事　山内　四郎（印）

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

長春会議ニ関スル露国側宣伝記事報告ノ件

九月十三日発行ノ「ノボスチジーズニ」紙ハ「長春会議ニ於ケル露西亜及日本」ト題スル記事ヲ掲載致居候処筆者ハ該会議露国側代表「ヤンソン」氏ノ妻ニシテ専ラ「ダリタ」通信員トシテ随員中ニ加ハレル「モヒーナ」婦人ニ有之世評ニ依レバ今回ノ会議ニ「ダリタ」社ヨリ専任ノ通信員ヲ派遣セズ「モヒーナ」婦人ヲ通シテ「ヤンソン」自身「ダリタ」通信ヲ担当スルトノ事ニ付右「モヒーナ」婦人ノ通信記事ノ論旨ハ即チ「ヤンソン」自身ノ意見ト見做シ得ベク且又会議ニ対スル露国側ノ見解ヲ宣伝セントスルモノト認メラレ候其ノ要旨ニ従ヘバ日本ハ四囲ノ状況変化セルタメ大連条約ノ締結セサリシコトヲ悔イ露西亜ト重ネテ談判スルニ至レリ

然ルニ露国モ亦四辺ノ状勢推移セル今日嘗テ極東共和国カ同意シタル条件ヲ以テ進ムハ不可ナリ

労農露国カ今回ノ協議ニ同等ノ資格ヲ以テ参加セルニ就テハ予メ日本ノ承認ヲ経タル事ナリ而シテ極東共和国ハ最近六ケ月間ニ於テ「ソビエト」露西亜トハ幾多同盟的条約ヲ締結シタリ従テ民族的連合ト云フ問題ヲ措クモ同盟的義務ヲ有スル国家トシテ露西亜及極東共和国カ一丸トナツテ会議ニ列席スルハ法理上当然ナリ国際的関係ノ実例ニ徴スルモ大国ノ援助ナクシテ存立シ得ザル小国ハ国際会議ニ於テ経済上緊密ナル関係ヲ有シ且ツ同盟的関係ニアル大国ノ政策ヲ其儘踏襲セルハ古今稀ナラス故ニ会議ニ「ソビエト」露国カ参加セル以上曩ニ極東共和国及日本間ニ議定セル条約ヲ調印スヘシト云フハ謂ナシ

露国ハ「ゼノア」ニ於テ列強ノ脅迫的忠告ニ屈服セサリキ自己ノ主権及利益ヲ主張スルコトニ於テハ日本ニ対シテモ敢テ譲ルコトナシ大連会議当時ニ於テハ露国ハ未タ独逸ト条約ノ締結モナク併モ種々ノ事情ハ其後ニ於テ発生シ是等ノ状況変化ノ結果トシテ新露西亜ハ世界的ニ大国トナリ来タレリ即チ日本ハ先ツ彼ト談判ノ相手国ハ外交戦ニ於テモ実際ノ戦争ニ於テモ自己ノ利害ヲ敢然固守シ得ル強国ナルコトヲ忘ル可ラス

三ケ年ニ渉リ頑強ニ沿海州ニ駐屯セル軍ヲ撤退スルニ決セルハ等シク周囲ノ事情ニ余儀ナクセラレタルモノナリ

大戦終了後漸次恢復シ来リタル諸列強ハ次第次第ニ日本ニ圧迫ヲ加エ来ラントス大戦ノ余波ニ依リ発達セル日本工業モ量ノ点ニ於テ大々的発達ヲ見タルモ品質ニ於テ到底欧米品ノ敵タリ得サル可ク日本ノ経済的危機ハ漫性的トナリ沈滞ヲ極ム日本カ露国ト平和的経済上ノ提携ヲ欲スルハ恰モ肺病患者ニ新鮮ノ空気ヲ必要トスルニ等シ露国ノ外交家ハ夙ニ日本ノ実情ヲ知悉シ洞察シ居レリ幾ンゾ武力的恫喝等ニ恐怖スヘキ

帝国主義的列強ニ対スル露国ノ態度ハ依然トシテ一貫シ断シテ其主旨ヲ二三ニスルモノニ非ズ

日本ハ今日長春ニ於テ露国ト協約ヲ結フニ非ザレバ半ケ年ヲ経ズシテ今大連会議ヲ悔イツツアル如ク後悔スルノ日来ルベシ云々

右御参考迄及報告候也

五二一　九月十四日　在長春松平代表ヨリ内田外務大臣宛（電報）

協定締結ノ当事者ノ一方ヲ労農露国及極東共和国トシ其適用範囲ヲ極東共和国ノ領土ニ限ルトスル案ニ依リ会議継続ノコトトナレル旨報告ノ件

第二七号　（九月十四日接受）

九月十三日ノ会議ニ於テ貴電第九号ノ趣旨詳細説明シタル所「ヨッフェ」ハ会議開催ニ関スル予備交渉ニ際シ交換シタル文書ニ依レバ露国側回答ニ大連会議ヲ基礎トスル意味ナシトテ又復繰返シ労農露国及極東共和国ヲ一方トシ日本

ヲ他ノ一方トスル労農露国ニ迄適用セラルヘキ協約締結ニ日本政府ガ承諾ヲ与ヘタルモノト解セラルト詭弁ヲ弄シ日本ガ極東共和国トノミ協約ヲ締結セムトスルハ労農政府ガ極東共和国ヲ併合セムトスル場合ニモ日本ニ於テ毫モ之ニ干渉スルノ意思ナシトノ本官ノ言明ヲ裏切ルモノト思考スト述ベタルニ付本官ハ会議開催ニ関スル予備交渉ニ付論議スルモ無益ナルニ付之ヲ敢テセザルモ一言シタキハ日本カ大連会議ヲ基礎トスル基本協定ヲ提議シタルトキ若シ露国側ニテ不同意ナレバ明ニ反対ヲ表示セザルベカラズ露国人ノ心理状態ハ承知セザルモ斯ノ如キ文書ノ解釈ハ条文ヨリ見テ論議ノ余地ナシト反駁シ日本代表ガ政府ノ名ニ於テ為シタル言明ニ信用ヲ措カズトセバ本官ノ発言ハ従テ無益トナルベキニ付会議ヲ開クコトハ初ヨリ無意義ナリト詰リタル処先方ハ尚交換文書ハ露語ニテ作成セラレ居リ之ニ依レバ自分等ノ解釈ニ間違ナキモノト思考スト繰返シ露国内政不干渉ニ関スル日本政府及日本代表ノ言明ニ信ヲ措カズト言ヒタルニアラズシテ露国民ヲシテ右言明ニ信ヲ措カシムルコト困難ナリト言ヒタリト弁解シ何レニシテモ日本ト極東共和国トノ間ニノミ協約ヲ締結スルコトハ極東共和国トハ法律的ニ言ヘバ未ダ完全ナル合意成立シタルモノト言ヒ得ザルベキモ道義上拘束セラルベク尤強テ異論アラバ互ニ胸襟ヲ開キテ審議スルコトハ差支ナシト答ヘ置キタリ

本電政務部ヘ電報シ公使、奉天、哈爾賓ヘ暗送セリ

五二二　九月十四日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

日本軍撤兵善後措置及基本協定条文作成上ノ形式ニ関シ審議セル件

第二九号　（九月十五日接受）

新聞発表事項

九月十四日ノ会議ニ於テ日露委員ハ日本軍撤兵善後措置ニ関スル意見ヲ交換シタル後基本協定案全文ノ審議ニ入リ右起草ノ形式ニ関シ互ニ其所見ヲ述ベタリ会議ハ十五日午前十一時再会ス

五二三　九月十五日　在満洲里田中領事代理ヨリ　在長春山崎領事宛（電報）

長春会議ニ対スルチタ政府側ノ新聞論調ニ付報告ノ件

第四号

労農露国トノ密接ナル経済的関係ニ徴シ事実上不可能ニシテ日本政府ノ提議ニハ絶対ニ応諾スル能ハズ

唯撤兵ニ関スル問題ニ関シ日本ト極東共和国トノ間ニ直ニ効力ヲ生スヘキ協約ヲ締結スルコトハ可能ナルヘシト答ヘタルニ付本官ハ撤兵ハ既ニ決定シ既ニ著々実行シ居ルコトナレハ別ニ協定ヲ為スノ要ナシ基本協定ニ関スル日本政府ノ訓令モ最後ノモノナルニ付遺憾ナガラ会議ハ之ニテ物別レトスルノ外ナシト述ベ会議ハ将ニ決裂セムトシタルガ貴電第三号ヲ以テ御内諾ヲ得置キタル協約ノ相手方ヲ労農露国及極東共和国トシ其適用範囲ハ之ヲ極東共和国ノ領土ニ限ルノ案ハ之迄先方ニ暗示シタルモ諒解シ居ラザル様思考セラルルニ付私案トシテ之ヲ提議シタルニ先方ハ会議ノ決裂ヲ欲セザルモノト見エ極東共和国トノ密接ナル経済的関係ニ鑑ミ協約ヲ形式上適当ニ作成シ得ヘキヤ否ヤ疑問ナリト述ベ居タルモ結局本官ノ右提議ニ依リ大連案ヲ基礎トシ会議ヲ継続スルコトトナレリ尤先方ハ大連会議ノ時トハ形勢モ変更シタルニ付大連議案ヲ尊重スルハ勿論ナルモ基礎トナストノコトハ之ヲ絶対的ノモノトシテ直ニ調印ヲ迫ラルルモノニハアラザルヘシト言ヒタルニ付本官外務大臣ヘ転電アリ度シ第三六号

長春会議ニ対スル最近「チタ」政府側新聞ノ論調ハ沿海州ニ於ケル白衛軍進出ノ引証ノ下ニ会議ノ停頓ヲ結ヒ附ケテ論評シ居リ十三日ノ「プーチ」ハ長春会議ハ撤兵ヲシテ何等渋滞無ク完了セシムヘキ筈ノモノナルガ実際ニ於テ不然却ッテ吾人ハ満洲ニ「モナルキスト」ノ根拠地ノ新設ヲ予期シ将来日本及隷属者ノ圧倒ニ対シ準備セサルヘカラザルニ至レリ日本ハ今復恐喝ヲ為スモ幵ハ徒事ナリ吾人ハ会議決裂ノ為ニ何等失フ事無シ云々ト言ヒ同日ノ「テレグラフ」ハ日本ハ大連協約ノ調印ヲ要求シナガラ吾人ニ対シ白衛軍ノ指示及北満ニ於ケル陰謀ヲ止ムル事ニ関シ何等ノ保障ヲ与ヘ得ズ斯ル事情ニ於テ吾人ハ毫モ譲歩ヲ急グニ当ラズ我代表ハ日本側ヨリ相当ノ代償ヲ得ザル限リ譲歩スヘカラズ片務的ノ条約ハ吾ニ於テ応シ難シト論ジ十五日当地発行ノ「ナーシド、プーチ」ハ会議ノ此処ニ到レルハ日本ノ二股主義ノ政策ニ依ルモノニシテ若シ日本ハ露国ト接近セントノ誠意ヲ有スルナラバ白衛軍ト手ヲ切ルベシ然ラバ協議セン前ニ纏ルベシト説ケリ

五二四　九月十五日　在長春松平代表ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

基本協定ノ前文ニ関スル我方提案ニ付報告並請訓ノ件

別　電一　同日松平代表発内田外務大臣宛電報第三一号
二　同右電報第三二号

第三〇号　（九月十五日接受）

前日ノ会議ニ於テ大体協議シタル趣旨ニ依リ大連案ノ協約ノ前文（「プレアンブル」）ヲ書替ヘ（「協約ノ相手方ハ一方日本他方労農及極東共和国トシ両者ノ間ニ日本ト極東共和国トノ関係ヲ定ムル協約ヲ締結スルコト」）提示シタル処先方ハ撤兵ニ関係スル問題ハ基本協定ヨリモ急ヲ要スル問題ニ付先ヅ之ヨリ協議スルコト可然トノ意見ヲ述ベタルニ付本官ハ基本協定成立ノ見据付カズシテ撤兵ニ関スル協議ヲナスヲ得ザル所以ヲ述ベタル処「ヨッフェ」ハ露国側ニ於テ重キヲ置ク点ハ撤兵地域ノ引渡ヲ順序ヨク行ヒ無政府状態ノ発生ヲ防ギ且流血ノ惨ヲ防ガントスルニ在ル旨ヲ述ベタルニ付本官ハ右ノ点ヲ円満ニ行ヒ且浦潮ニ在ル押収武器等モ日本軍ノ撤兵ニ支障ヲ生ゼザル限リ之ヲ斉多側ニ引渡サムコトヲ期シ之カ為八月十五日迄ニ極東共和国トノ間ニ協約ヲ締結センコトヲ勧告シタル次第ナルモ露国側ニ於テ会議開催ヲ遅延セシメタル為予定ノ通リ実行ヲ見ル能ハザリシモ此際速カニ基本協定ヲ審議シ続キテ撤兵ニ関スル問題ヲ協議スルハ今尚相当ノ効果アルヘキ旨ヲ説示シタル処遅延ノ責任其他ニ関シ議論ヲ生シタルモ漸ク我方ノ提案シタル前文ノ審議ニ移リタルモ先方ハ我案ヲ基礎トシ主義ニハ同意シタルモ文句ニ著シキ変更ヲ主張シ成案ヲ得ザルニ付更ニ明十五日審議スルコトトセリ

因ニ我方ノ提案及先方ノ案ハ夫々別電第一及第二ノ通リナル処大体我提案ノ意味ナラバ差支ナキヤ尚先方ニ於テ日本ト労農トノ間ニ第二段ニ於テ行ハルヘキ交渉ノ文句挿入方強テ主張スル場合ニ之ヲ容認シ差支無キヤ至急御回示アリタシ尚条文中ノ両当事国トアルハ日本及極東共和国トナス積ナリ

本電政務部ヘ転電シ、在支公使、奉天、哈爾賓ヘ暗送セリ

（別　電一）

九月十五日在長春松平代表発内田外務大臣宛電報第三一号

協定ノ前文ニ関スル我方提案

第三一号（別電第一）

一方日本帝国政府他方経済上及政治上密接ノ関係ニアル露西亜社会主義「ソヴィエット」聯邦共和国政府及極東共和国政府ハ日本及露西亜両国民間ノ平和的通商関係ヲ樹立シ且日本ト露西亜トノ経済及其他ノ関係ヲ発達セシメンコトヲ欲シ又之ガタメニハ将来経済上及政治上ノ関係ヲ規定スヘキ正式条約ノ締結セラルルニ至ル迄前記諸政府間ニ日本及極東共和国ノ相互関係ヲ規定スル予備協約ヲ締結スルノ必要アルヲ認メ玆ニ左記条項ヲ約定セリ

政務部ヘ電報セリ

（別　電二）

九月十五日在長春松平代表発内田外務大臣宛電報第三二号

協定ノ前文ニ関スル先方提案

第三二号（別電第二）

一方密接ナル政治上及経済上ノ関係ニ在リ且幾多ノ同盟条約ヲ有スル労農露国及極東共和国政府他方日本帝国政府ハ露西亜及日本国民間ノ平和的通商関係ヲ樹立シ且露西亜ト日本トノ経済及其他ノ関係ヲ発達セシメンコトヲ欲シ為将来前記政府間ニ政治上及経済上ノ関係ヲ規定スヘキ正式条約ノ締結セラルル迄予備協約ヲ締結スルノ必要ヲ認メタリ

前記協約ハ極東共和国及日本ノ領土ニ効力ヲ及ホスモノトス

労農露国ト極東共和国トノ間ニ存スル密接ナル経済関係ノ為本協約中ニ於テ完全ニ解決セラレザリシ問題ハ本協約調印後直ニ開始セラルヘキ交渉ノ結果締結セラルベキ労農露国ト日本トノ間ノ協約ニ依リテ完全ニ解決セラルヘキモノトス

上記ノ趣旨ニ依リ一方労農露国及極東共和国他方日本帝国政府ハ次ノ規定ニ関シ同意ニ到達セリ

本電政務部ヘ電報セリ

五二五　九月十五日　内田外務大臣ヨリ
在長春松平代表宛（電報）

協定前文ノ案文ニ付回訓ノ件

第一六号　至急

貴電第三〇号ニ関シ「プレアムブル」ニ対スル修正ハ大体貴官提案ノ通リニテ差支ナシ但シ右ノ中「日本及露西亜両国民間ノ平和的通商関係」トアルハ「日本国臣民及右両共

和国人民間ノ平和的通商関係云々」トシ尚「且日本ト露西亜トノ経済云々」トアルヲ日本国ト右両共和国トノ経済云々」トセラレタシ又基本協約調印後労農政府ト行フヘキ交渉ニツキ先方ヨリ文書ヲ以テ保障ヲ求ムル場合ニハ「基本協約及附属文書ノ調印後直ニ労農政府ト通商ニ関スル予備協約締結ノ為メ交渉ヲ為スニ異存ナシ」トノ趣旨ヲ文書ニテ先方ニ通告スルコトトシ成ルヘク基本協約中ニ記載セザル様取計ハレタシ

五二六　九月十五日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

協定ノ各条項中ニ記載スベキ当事者ノ問題ニ関シ妥協成立セザル状況報告並請訓ノ件

第三四号　（九月十六日接受）

九月十五日午前会議ノ際往電第三〇号所報前文ニ付双方自己ニ都合ヨキ文句ヲ主張シ未ダ一致セザリシ処当方ニ於テハ前文ニ於テ斉多莫斯科両政府ヲ協約ノ相手トスルモ各条項ニ於テハ「両当事国云々」トセズシテ日本及極東共和国政府ノ文字ヲ用ヒ協約ノ内容ハ日斉ノ関係トスル方針ニテ右ノ趣ヲ述ベタル処先方ハ趣旨ニ於テハ同意シ居ルモ当事者ヲ前記ズ依テ此際㈠先方主張ヲ容ルルカ㈡各条中ノ当事者ヲ前記我ガ提議ノ如ク主張スルカ㈢右議案ヲ却ケ斉多ト日本トノ協約トシ労農ヲ単ニ参加セシムルコトヲ主張スルカ㈣又ハ徹底的ニ往電第二二号第二条ヲ容ルルカ最後ノ御詮議ヲ仰ギ度ク今日迄彼等ノ態度ヲ見ルニ最近余程緩和シ来リタルモ尚斉多ト莫斯科ヲ当事者ヨリ分離スルコトニ対シテハ断然タル態度ヲ持シテ反対シ各条ニ於ケル当事者ニ関スル我カ主張ニ対シテモ容易ニ承諾ノ見込ミ無キモ卑見ニ依レバ㈠ノ場合ハ到底我カ方ニ於テ承諾シ難シト思考セラルルニ付先ツ㈡ノ方針ヲ以テ飽ク迄主張スルコト可然キカト思料スルモ其ノ場合ニハ㈢ノ場合ト同シク裁判ノ決裂ヲ期シ直チニ引揚グルノ覚悟ヲ要スルニ付右引揚ケニ対シテモ予メ御承認ヲ得置キタシ

本電政務部ヘ転電シ北京、奉天、哈爾賓ヘ郵送セリ

五二七　九月十五日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

協定ノ当事者問題ニ関シ先方ノ強硬態度維持ノ理由ニ関スル件

第三五号　（九月十六日接受）

国ガ既ニ斉多ト莫斯科ナル以上各条項ニ於テモ右両政府ヲ一方トシテ記載スルカ或ハ単ニ両当事国トシテ記載スルコトヲ主張シ頑トシテ譲ラズ話ハ又復停頓セルヲ以テ本官ハ自己ノ受ケタル訓令ニ依レバ既ニ述ベタル如ク第一回ニハ大連案ヲ基礎トシ斉多ト日本トノ協定ニ止ムルコトヲ変更スル能ハザルモ露国側ノ立場モ慮カリ第二案トシテ協約成立後労農トノ交渉ニ入ルコト迄同意シタル次第ニシテ既ニ右ノ提議ニ対シ露国側不同意ナルニ於テハ談判決裂已ムヲ得ザル立場ニ至リタルモ成ルベク妥協ノ精神ヲ以テ自己ノ私案ヲ提出シタルモノナル処之スラ政府ノ承認ヲ得ルヤ否明ナラズ依テ目下ノ状況ニ対シ再ヒ請訓スヘキモ訓電ノ来ル迄空シク時ヲ費ヤスハ面白カラザルニ付暫ク前文及当事者ノ形式ニ付テノ論議ヲ延シ便宜上自己対案ヲ審議スヘシト述ヘタル処先方モ之ニ賛シ引続キ午後会見ノ筈

右先方主張ノ如ク各条ニ労農ヲ入ルル時ハ仮令前文ニ適用区域ヲ極東共和国ニ限ルモ条文ノ上ヨリ見テ甚タ曖昧トナリ大連案第一条ノ如キ結局労農ト日本トノ関係ヲモ規定スルコトトナリ面白カラズト思考スルガ元来斉多及労農ヲ当事国ノ一方トスル時ハ何レニセヨ変態ヲ生シ不徹底ヲ免レ往電第三四号ニ関シ

今日迄露西亜側ノ言動ニ依リテ観察スルニ大体大連案ヲ審議ノ基礎トスルコト及協定ノ適用区域ヲ極東共和国ニ限ルコトニハ譲歩セルニ拘ラズ斉多ト莫斯科トヲ協定ノ相手方トスルコトニ関シ強硬ナル態度ヲ維持スル理由

一、我方ノ撤兵カ確実ニ履行サルル確信ヲ得タルコト

初メテ会見シタル際ハ尚ホ日本側ニ於テ撤兵ノ履行ヲ今回ノ会議ノ成否ニ依リ変更スルニアラズヤト気遣ヒ居リタル様子アリ先方ノ希望ニ依リ休会シタルトキノ如キモ其間撤兵行動中止ノ懸念ヲ有シ浦潮方面ニモ電報ヲ往復スル等種々ノ方法ニ依リ内探シ居リタル形跡アリ

二、浦潮及「ニコリスク」附近ノ状況ヲ承知シ仮令日本軍ニ於テ斉多側ニ武器ヲ引渡スヘシト謂フモ事実上不可能ナルコトヲ承知シタルコト（説明略ス）

ニアリト察セラル彼等ハ主トシテ右ノ理由ニ依リ此際急速ニ犠牲ヲ払ヒテ協定ヲ結ブノ必要ヲ感ゼザルモノノ如ク而シテ一面今回ノ協定ニ於テ労農ヲ主トスルカ尠クモ極東共和国ト同等ノ立場ニ於テ協定ノ相手方トナルコトニハ最初ヨリ多大ノ期待ヲ有シ「ヨッフェ」ヲ派遣シタルモ全ク之

ニ重キヲ置キタルモノト見ルベク従テ此点ヲ犠牲トスルコトハ彼等ニ於テ頗ル苦痛トスルモノノ如シ尤モ交渉ノ決裂ニ伴フ不利ハ十分之ヲ承知シ居ルベク殊ニ彼等ハ「ブラフ」ヲ事トスル人物故最後ニ於テ我方ノ主張ニ譲ル見込ナシトセザルモ前記ノ理由ニ依リ一概ニ強硬ニ出ヅルハ必ズシモ成功ノ見込立タズト思考ス右御参考迄申添ユ

政務部ヘ転電シ北京奉天哈爾賓ヘ郵送セリ

五二八　九月十六日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

大連案ヲ基礎トシテ逐条審議ヲ行ヒタル模様ニ付報告ノ件

第三六号　（九月十六日接受）

既ニ電報セル通リ前文ノ作製ハ暫ク置キ十五日午後ノ会議ニ於テ大連案ヲ基礎トシ逐条審議ニ移ル

第一条ニ関シ先方ハ「各自ノ領域外ニ於テ」ノ文句削除ヲ主張シタルガ我方原案ヲ主張シ結局其ノ儘トスルコトトシ「防遏スルノ措置ヲ執ルヘシ」ヲ「防遏スヘシ」トセントスル先方ノ希望ニ対シ同意ヲ表シ「秩序」及「治安」ニ対スル露語ニ付疑義ヲ生ジ先方ハ「政府ヲ僭称スルモノ」ノ存在及行動ヲ防遏スル意味ヲ附加セント主張シタルガ斯カル例示ヲ避ケ我治安ノ字句ニ適合スル露語ヲ発見スル為更ニ協議スルコトトシ先方ハ「領域内」ノ次ニ「及勢力範囲内」ヲ加ヘ其ノ理由トシテ支那ニ於ケル日本法権ノ及フ所モ含マセタキ旨申出デタルニ付当方ニ於テハ其ノ趣意ニ承諾ヲ与ヘ其ノ文句ヲ「法権ノ及フ地域内」ト改ムルコトトセリ

第二条ニ関シ露語ノ修正ノ外異議ナシ

第三条異議ナシ

第四条同断

第五条先方ハ「当事国ノ法律ニ従ヒ」ノ文句挿入ヲ主張シ商業及製造業ニ付（脱）ハ自国民同等待遇ヲ与フルトキハ露国人ハ全然外国人ニ圧倒セラルベキニ付自国人ニハ特権ヲ与フル必要アリト謂ヒタルニ付本官ハ商業及製造業ニ関シ自国民待遇ヲ与フルハ近時列国ノ採用セル常例ニシテ露国帝政時代ニ於テモ然リシノミナラズ商業製造業ニ関シ完全ナル自由ヲ与フルハ極東共和国ノ経済的繁栄ヲ来ス所以ナルコトヲ説示シタルモ「ヤンソン」ハ自説ヲ固持シタルニ付再考ヲ促シタル上閉会セリ

本電政務部ヘ転電シ北京奉天哈爾賓ヘ郵送セリ

五二九　九月十六日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

九月十六日ノ会議休会方先方ヨリ申出ノ件

第三七号　（九月十六日接受）

九月十六日朝「ヨッフェ」ノ代理トシテ書記官来訪過日日本側ヨリ試案トシテ提議セラレタル件ニ就キ当時莫斯科ニ詳細電報シ置キタル処昨夜長文ノ回電ニ接シタリ然ルニ該電報ハ大ナル訓令ナルモノノ如キモ不明ノ個所多キニ付目下再電方請訓中ナルガ今明日中ニハ何分ノ儀判明スベキヲ以テ不取敢今日ノ会議ハ休会セラレタキ旨申出デタリ

五三〇　九月十六日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

我実業家ノ露国側出入ハ未ダ其時機ニ非ザル件

第三八号　（九月十六日接受）

貴電第一号ニ関シ会議モ兎角停頓勝ナル今日我実業家ガ露国側ニ出入スルハ未ダ時機ニ非ズト思考スルニ付暫ク来春見合方然ル可シ

五三一　九月十六日　内田外務大臣ヨリ　在長春松平代表宛（電報）

大連案第五条ノ文言ニ関シ訓電ノ件

別　電　同日内田外務大臣発松平代表宛電報第一九号

大連案第五条ニ関スル我方修正文言

第一八号

貴電第三六号ニ関シ第五条ニ就テハ目下折角御交渉中ト思考セラルル処大連案ノ儘トスルトキハ解釈上疑義ヲ生ジ我カ国内法規トノ関係モ問題トナル次第ニ付至急別電第一九号ノ趣旨ニ基キ交渉ヲ進メラルルコト致度シ

尚本条ト大連案第十一条トノ連繋ニ関シテハ追テ電報スヘシ

（別　電）

九月十六日内田外務大臣発松平代表宛電報第一九号

大連案第五条ニ関スル我方修正文言

第一九号

第五条　両当事国一方ノ臣民又ハ人民ハ他ノ一方ノ領域内ニ於テ内国臣民若ハ人民又ハ第三国ノ臣民若ハ人民ニ比シ不利益ナラザル条件ノ下ニ商業及製造業ニ従事スルコトヲ

得

両当事国一方ノ臣民又ハ人民ハ他ノ一方ノ領域内ニ於テ当事国法律ノ許ス範囲内ニ於テ産業、生業及職業ニ従事スルコトヲ得但如何ナル場合ニモ第三国ノ臣民又ハ人民ニ比シ不利益ナル待遇ヲ受ケザルモノトス

五三二　九月十六日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ロシア側ガ撤兵問題ノ先議ヲ申出デタルニ対シ我方ハ基本協定ヲ先議スベキ旨答ヘタル件

第四〇号　（九月十七日接受）

往電第三〇号十四日会議ニ於テ先方カ先ツ撤兵ニ関スル問題ヲ協議セムコトヲ申出デタルニ対シ当方ニ於テハ撤兵ニ関スルコトヲ基本協約ト共ニ話ヲ為スコトハ異議ナキモ協約成立セザルニ於テハ之ヲ実行シ難キニ付先ヅ基本協定ヲ議スヘキ旨答ヘタルコトハ既報ノ通ナル処当時先方ハ之ニ対シテ強ヒテ異議ヲ唱ヘザリシガ本件論議将ニ終了セムトスルトキ「ヨッフェ」ハ語ヲ改メ露国委員ハ流血ノ惨事ヲ防カムガ為メ先ツ撤兵ニ関スル問題ヲ議セムト申出デタルニ対シ日本委員ハ之ヲ拒絶セリト述ヘ以テ議事録ニ載セムトスル態度ニ出デタルヲ以テ本官ハ後日宣伝用ニ供スル意ト察シタルニ付直ニ之ヲ咎メ流血ノ惨事ヲ防カムトスルコトハ日本政府ニ於テ衷心ヨリ希望スル所ナリシヲ以テ充分ナル時日ノ余裕ヲ取リ八月十五日迄ニ協定ヲ結ビ以テ出来得ル限リ赤白両軍ノ衝突ヲ防ギ撤兵ニ伴ヒ何等ノ騒擾ヲ惹起セザラム為メ露国側トモ充分協議シテ努力セムトシタル処露国側ノ遷延ニ依リ会議ノ開始ガ意外ニ遅レタル次第ニシテ之ガ為我居留民モ引揚グルノ已ムナキニ至リタルハ甚ダ不本意トスル所ニシテ万一流血ノ惨事アルトモ日本側ノ責任ニアラズト言明シ先方ハ更ニ弁明シタルモ本官亦之ニ応酬シタル後之ヲ打切リタリ

右ハ「スパスコエ」方面ニ於ケル戦闘ノ発生ニ鑑ミ露国側ニ於テ本件ニ関シ何等宣伝スル虞アルニ付右追補トシテ報告ス

右政務部ヘ転電シ在支公使、奉天、哈爾賓ヘ郵送セリ

五三三　九月十六日　内田外務大臣ヨリ　在本邦中国臨時代理公使宛

長春会議ニ関スル申越ニ対シ回答ノ件

欧一普通第二六号

以書翰致啓上候陳者日露長春会議ニ関シ本月二日付外壬字第六一号貴翰ヲ以テ御照会ノ趣致閲悉候本会議ニ於テノ商議セムトスル所ハ日露両国間ノ関係ニ限ラレ貴国ノ領土主権或ハ権利利益ニ関渉云々ノ問題ハ生セサル儀ニ有之候条右ニ御了知相成度此段照覆旁本大臣ハ玆ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候　敬具

五三四　九月十七日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ロシア側ガ新聞記者団ヲ招待セシ晩餐会ノ前後ニ於テヨッフェ及ヤンソンノ川上及笠間ニ対シ為シタル内話ニ付報告ノ件

第四二号　（九月十七日接受）

十六日露国側ハ会議関係内外新聞記者ヲ晩餐ニ招待シ当方ヨリハ笠間ノミ情報関係者トシテ列席セル処右宴会ノ前後ニ「ヨッフェ」及「ヤンソン」ガ笠間及川上ニ内話セル談片ヲ綜合シ何等御参考迄ニ申進ス

一、支那政府ニ対シ通商協約取極メ方「ヨッフェ」ヨリ提議シタル処昨日北京ヨリ使者到着シ右提議ヲ正式ニ受諾セリ従テ日本トノ会議ハ可成速ニ円満終了シ直ニ北京ニ赴ク見込ナリ云々右ハ過日来「シンプソン」支那政府ノ形勢観望者トシテ当地ニ来リ会議ノ進行ニ付北京ニ報告シタル結果ナラント察セラル

二、「シンクレア」ノ石油採取権ニ付「ヤンソン」ニ突止メタル処右ハ昨年三四月ノ頃北京ニ於テ「シンクレア」ノ代表者ト「ユーリン」トノ間ニ取極ヲ了シ調印セリ（脱）「スタンダード」関係会社ニ於テモ後貝加爾ノ石油坑ニ付斉多政府ト協議進行中ナリ尚ホ「バンダーリップ」ノ利権ナルモノハ未ダ正式ニ調印セラレズ従テ何等実効アルモノニアラズ

三、「メルクーロフ」政権ニ付テハ斉多側ハ何等危惧ヲ感ジ居ラズ浦潮ニ於テハ中産階級労働者ニモ斉多ノ同情者頗ル多ク其ノ情報ハ時々刻々接到シ居レリ従テ右政権ハ日本兵撤兵ニ伴ヒ風前ノ燈火ノ如ク自滅スヘシ唯恐ルベキハ「ジトリックス」将軍ニシテ其ノ兵力壱万弐千余之トノ衝突ハ必ズヤ免ルベカラザル所ナリ斉多側ハ目下壱万五千ノ兵力ヲ「ハバロフスク」附近ニ集中シ之ニ備ヘントス是レ斉多側ガ基本協定ト同時若クハ其ノ以前ニ撤兵善後措置ヲ審議スル為日露軍事委員ヲ例ヘバ「ニコリ

スク」ニテ会合セシメ速ニ武器問題等ヲ解決センコトヲ熱望シ居ル所以ナリ然ルニ日本ノ反対ニ依リ茲再日ヲ空ウセリ若シ流血ノ惨事ヲ見ルコトアラバ日本ノ責任ナリト謂フハ此ノ理由ニ基クナリ

四、「スパスカヤ」附近ニ於ケル過般赤軍ノ敗北ハ素ヨリ当然ナリ右ハ何等正式ノ訓練アル軍隊ニアラズ且兵数モ問題ニナラズ従テ此ノ一事ガ長春会議ノ消長ニ影響ヲ及ボスベシトノ説ハ誤ナリ

五、極東共和国ハ十二月ニ国民議会ヲ開クベク「ヤンソン」モ其ノ為斉多ニ帰ラザルベカラザル次第ナレバ長春会議モ夫迄ニ是非協定案其他ヲ決定スルヲ絶対ニ必要トス従テ会議ノ進行促進ノ必要ハ斉多側ニ於テモ同感トスル所ナリ云々

政務部ヘ転電セリ

五三五　九月十七日　在満洲里田中領事代理ヨリ在長春山崎領事宛（電報）

長春会議ニ対スルチタ各方面ノ態度ニ関スル情報申報ノ件

第七号　（九月十八日接受）

外務大臣ヘ転電アリタシ第三八号

長春会議ニ関スル「チタ」各方面ノ態度ニ関シ右党側ニ属スル当館情報ニ依レハ「チタ」ハ今次会議ニ対シ独自ノ意見ナルモノヲ有セズ「モスクワ」ノ指令通リ行動シ長春会議ヲ日露会議トセントスルモノニシテ其機関新聞ノ社説「プーチ」最モ好ク之ヲ言ヒ表ス「モスクワ」ハ欧米各国ト経済協商ヲ為ス能ハザリシヲ以テ日本ト単独締約シ之ヲ以テ他国承認ノ端緒ヲ得ントスルモノニシテ陸軍部ハ頗ル強硬ノ態度ヲ為シ其指導者ハ機関紙上ニ於テ大連協約案ハ日本駐兵ノ恐喝ノ下ニ作製セラレタルモノナルガ今撤兵ハ双方同等ノ資格ヲ以テ交渉スヘキ場合ニ付之ヲ其儘受諾スルヲ得ズ日本ハ極東共和国ト経済的協約ヲ締結セントシ経済上離ル可カラサル関係ヲ有スル露国ノ承認ヲ肯ゼザルハ極東共和国ヲモ承認セザル事トナル若シ露国ヲ承認セザレバ会議ハ決裂スヘク然ル場合日本ハ再ヒ白衛軍ヲ利用スベケレド我国民革命軍ハ良ク之ヲ征服シ得ヘシト豪語シ居レリ実業界ハ猶太人独占ノ姿ナルガ彼等ハ日本人ヨリモ寧ロ米国猶太人及支那人ト取引スルヲ有利トシ本会議ハ政治的ノモノトシテ無関係ノ態度ニ在リ一般人民ハ共産党員ノ為四

年間日本ハ永久ノ敵ナリトノ観念ヲ吹込マレアルヲ以テ今協商セントスルニ当リテモ同様ノ観念ヲ持ス有資産階級ニ至リテハ会議開始ヲ以テ侮辱ヲ感ジ居レリト

五三六　九月十七日　在長春松平代表ヨリ内田外務大臣宛（電報）

会議遷延ニ関シレーウインノ島田ニ対スル内話報告ノ件

第四三号　（九月十七日接受）

九月十六日朝露国側首席書記官「レーウィン」島田ヲ来訪シ昨日申シタル莫斯科ヨリノ回訓（往電第三七号）今以テ到着セザルモ本日中ニハ必ズ着電ノ見込ニ付十八日朝迄会議延期ヲ求メタル後全然責任ナキ私的会談ニ移リ島田ヨリ斯ク会議ヲ延期セラルルハ何等カ裏面ニ事情アルニアラズヤト日本新聞記者等ハ騒ギ居レル処右ニ対スル貴見如何ト尋ネタルニ「レ」ハ実ハ出先ノ「ヨッフェ」代表トシテハ日本側ノ立場ヲ考慮シ松平試案ニ基キ此際取急ギ協定ヲ遂ケンコトニ努メ居レルモ現今ノ露国ハ経済状態著シク良好トナリ国民モ次第ニ現政府ニテ我慢スルコトトナリ来レルニ依リ之ヲ全露的見地ヨリ客観的ニ冷静ニ見レバ松平試案ハ一九一八年時代ノ露国ニハ適当セシナランモ現今ノ露国ニハ適合セズ露国トシテハ今強ヒテ取急ギ該試案ノ如キモノヲ締結スルノ必要ナク日本ハ此際全露ヲ承認シテ協定セラルルヲ至当ナリト思考ス英露協商ノ如キモ承認問題ヲ度外視セシ為実効更ニ挙ラザルニアラズヤ伊露協定亦然リ日本ハ須ラク協定範囲ヲ全露ニ及ボスベキナリ政治経済上分割不能ナル露国ヲ土地的ニ分離シテ協定センストスル日本ノ考ハ時代遅レニシテ実行上不可能乃至多大ノ障害ニ逢著スルヤ必セリ此点ニ於テ日本ノ新聞論調ハ賢明ニシテ正論ナリ尤モ露国側委員ハ日本政府ノ立場トシテハ松平試案以上ニ進ムコト困難ナルベシトハ十分諒解シ居レリ日本側ガ対内政策上実行困難ヲ感ジ居ルト同様露国側モ労働者農民ヨリ成ル多数国民ニ対シ十分有利ニ説明シ得ル協定ヲ締結セント希望シ居レリ云々ト語レリ

政務部ヘ転電セリ

五三七　九月十七日　在長春松平代表ヨリ内田外務大臣宛（電報）

ロシア側ヨリ会議休会ヲ申出デシ事情ニ関スル観測申報ノ件

第四四号　（九月十七日接受）

九月十五日ノ会議ニ於テ逐条審議カ案外円満ニ進捗セルニ拘ラズ露国側ニ於テ俄ニ休会ヲ申出デタルハ何等カ重大ノ意義アルモノト認メ先方ニ接近セル新聞記者等ヲシテ先方ノ様子ヲ探ラシメタルモ単ニ「ヨッフェ」カ疲労セル様子ノ外何等悲観的態度ヲ発見シ得ザル由ナルニ対シ本官等ノ感想ニ依レバ往電第三五号ヲ以テ申述ベタル理由ノ外先方ガ最モ懸念シ居リタル緩衝国撤廃ニ対スル帝国政府不干渉ノ意向ヲ確メ得タルコトハ更ニ先方ノ立場ニ強味ヲ加ヘタルモノノ如ク（当時本官ハ帝国ニ危害ヲ及ボシ又ハ日本臣民ノ権利及利益ヲ侵害セザル限リナル文句ヲ附加シテ干渉ノ意味ナキコトヲ説明シ置キタルガ先方ハ右ニ対シ頗ル安堵ノ体ニ見エタリ）換言スレハ今回強テ協約ヲ締結セズ先ツ極東共和国ヲ直ニ併合又ハ聯邦ニ加フルコトトセバ自然今後日本ハ露国全般ト協定ヲ結ブノ已ムヲ得ザルニ至ルベシト考ヘ得ベク又最近「スパスコエ」方面ニ於ケル赤白軍ノ衝突及白軍ノ勝利ニ関スル報道ハ彼等ノ神経ヲ劇シク刺戟セシナルベク仮令数千言ヲ費ヤシテ弁明スレバトテ彼等殊ニ莫斯科政府ニ於テハ日本軍直接間接援助ノ結果トノ外

思考セザルベク又一面支那政府ニ於テ全露ヲ相手トシテ交渉開始ニ同意シタリトノ説モアリ以上ノ理由ニ依リテ考フルモ亦往電第四三号「レーウィン」ノ内話ニ依リテ察スルモ労農政府ノ態度ハ寧ロ強硬ニ傾キツツアルモノノ如ク従テ本官試案ニ対スル莫斯科政府ノ訓令ハ徹底的ニ全露協定ヲ主張シ若シ日本側ニ於テ聴カザルニ於テハ打切リヲ辞セザル態度ヲ執ルモノニシテ寧ロ「ヨッフェ」ニ於テ之ニ緩和策ヲ説キ居ルモノニアラズヤト察セラル

本電政務部ニ電報ス

五三八　九月十八日　内田外務大臣ヨリ　在長春松平代表宛（電報）

協定ノ各条項ニ於テ労農及極東共和国ヲ当事者トシテ明記スル場合ニ関シ回訓ノ件

別　電　同日内田外務大臣発松平代表宛電報第二二号

右場合ニ対スル措置案

第二一号　至急

貴電第三四号ニ関シ

一、前文ノミナラズ協定各条項ニ労農及極東共和国ガ相手国タル趣旨ヲ表示スベシトノ先方主張ハ既ニ右両政府ヲ

協約相手方トシテ認メタル関係上絶対不同意ヲ唱フル必要ナキモ同時ニ協約ノ適用ヲ日本ト極東共和国ノ関係ニ限ル趣旨ヲ明ニスルコト必要ナルニ付我方トシテハ別電第二二号甲案ノ如ク前文中ニ其趣旨ヲ明ニスルカ又ハ乙案ノ如ク協約本文末尾ニ其意味ノ規定ヲ設クルコトトスル外ナシト思考ス右両案共要スルニ協約ハ日本ト極東共和国及労農政府トノ関係ヲ創設（Create）スルモノナルモ本文諸条ノ適用ハ日本ト極東共和国間ノ関係ニ限ルコトヲ明ニシ彼我ノ主張ヲ折衷シタルモノニシテ其何レニ依ルモ差支ナシ若シ貴電第三二号前文ニ関スル先方案ノ如ク「協約ハ極東共和国及日本ノ領土ニ効力ヲ及ボス」モノトスルトキハ協約ノ効力ノ及ブ範囲ガ右以外ニモアリト解釈シ得ル余地アルノミナラズ更ニ日本ト労農トノ関係ニ於テ片務的効果ヲ生ジ例ヘハ労農政府ガ知多政府ト各別ニ代表者ノ派遣ヲ主張シ又ハ日本人カ労農露国ニ入ルヲ許サレザルニ拘ラズ労農国民ノ日本入国ヲ許容セザルベカラズト主張シ得ル余地ナキニアラザルニヨリ到底之ニ同意スルヲ得ズ

二、右両案ノ何レニ依ルモ勘察加ニ於ケル漁業問題ハ之ヲ

包含セザルコトトナル処此際労農政府ニモ大連案ニヨリ原則的規定ヲ認メシメ置クヲ得策トスルニヨリ㈠大連案第九条ハ其儘トシ別ニ日本ト労農トノ間ニ文書ヲ以テ同一趣旨ノ取極ヲ為スカ又ハ㈡大連案ヨリ漁業問題ノミヲ引離シ別箇ノ文書ヲ以テ当事三ケ国間ニ大連案ト同一趣旨ヲ以テ此際協定スルコトニ取計フコトヲ得バ好都合ナルガ右何レモ先方ニ於テ同意セザル場合ニハ㈢大連案ヲ其儘存置シ尚他日労農トノ間ニ同趣旨ノ取極ヲ為シ得ル余地ヲ存スル様努ムル外ナシト思考ス

三、尚基本協定ハ撤兵前適当ナル時期直ニ成立ヲ必要トスルヲ以テ此際及ブ限リノ方法ヲ以テ議事ノ進捗ヲ図ルコト肝要ナルノミナラズ若シ大連案ニ付労農政府加入ノタメ其形式ニ関シ当然変更ヲ為スヘキ点及大連ニ於テ合意不成立ノ個所以外実質的内容ニツキテ迄審議スルニ於テハ先方ヨリ種々ノ要求ヲ持込マレ議事ノ紛糾ヲ見ルヘシト予想セラルルニ付本電冒頭所載先方主張ヲ容認スル前提条件トシテ予備交渉ニ於ケル了解ニ基キ大連案ヲ基礎トシテ基本協定及附属文書ヲ締結スルコト即チ労農政府ノ加入ニ依リ協約ノ形式上当然変更ヲ要スル個所以外曩

ニ大連ニ於テ合意成立シタルモノノ実質的内容ハ其儘トスルコトヲ強硬ニ主張セラレタシ但シ要塞撤廃ニ関スル附属文書ハ先方ニ於テ之ニ反対スル以上我方要求ニ固執スル必要ナキコトハ貴官御承知ノ通ナリ

（別　電）

九月十八日内田外務大臣発在長春松平代表宛電報第二二号

協定ノ各条項ニ於テ労農及極東共和国ヲ当事者トシテ明記スル場合ニ対スル措置案

第二二号　至急

甲案

（前文）

一方日本帝国政府他方経済上及政治上密接ノ関係ニアル極東共和国政府及露西亜社会主義「ソビエット」聯邦共和国政府ハ日本国臣民及右両共和国人民間ノ平和的通商関係ヲ樹立シ且日本国ト右両共和国トノ経済及其他ノ関係ヲ発達セシメムコトヲ欲シ又之カ為ニハ将来経済上及政治上ノ関係ヲ規定スヘキ正式条約ノ締結セラルルニ至ル迄予備協約ヲ締結スルノ必要アルヲ認メ玆ニ「日本国及極東共和国間ノ相互関係ニ限リ適用セラルヘキ」左記条項ヲ約定セリ

日本帝国政府及露西亜社会主義「ソビエット」聯邦共和国政府ハ両国間ノ関係ニ適用セラルヘキ暫行通商協約ヲ締結スル目的ヲ以テ本協約締結後直ニ交渉ヲ開始スヘシ

（右第二項ハ往電第一六号ノ通リ可成別ニ文書交換ヲ以テ取極ムルコト）

乙案

甲案前文中ノ「日本国及極東共和国間ノ相互関係ニ限リ適用セラルベキ」ヲ削除シ別ニ第十二条ノ次ニ左ノ趣旨ノ一ケ条ヲ設クルコト

「第　条　前諸条ノ規定ハ日本国ト極東共和国間ノ関係ニ限リ適用セラルルモノトス」

五三九　九月十八日　在長春松平代表ヨリ内田外務大臣宛（電報）

第五条以下ノ逐条審議ノ模様ニ付報告及請訓ノ件

第四七号

十八日会議ニ於テ露国側ハ本官ノ試案ニ同意シテ可ナリヤ否ニ関スル請訓ニ対シ未ダ政府ノ回訓ニ接セザルモ空シク休会スルモ種々新聞紙ノ臆測ヲ招クニ付開会（ニ同意）セリ

ト述ベ本官ハ該試案ニ対シテ帝国政府ノ承諾ヲ得タル旨ヲ述ベ逐条審議ニ移ル

第五条ニ関シ貴電第一九号新提案ヲ為シタルニ先方ハ商業及製造業ニ関シ外国人ニ自国民待遇ヲ与フルトキハ露西亜人ハ到底外国人ト競争スル能ハザルニ付露西亜人ニハ或種ノ特典免除ヲ与フルコトアルベキニ付我提案第一項ヲ削除シ第二項中ニ商業及製造業ナル文字ヲ挿入スルコト然ルヘシト主張シ我方モ商業及製造業ニ関シ自国民待遇ヲ与フルハ列国間ニ認メラレ居ル所ナルノミナラズ自国民待遇ヲ与ヘズトセハ外国人ヲシテ危惧ノ念ヲ懐カシメ結局共和国内ニ於ケル商業ノ発達ヲ阻害スベシト述ベ決定セザルニ付先方ノ再考ヲ求メタル上次ノ条文ニ移ルコトトセリ

第六条ニ於テ先方ハ通商交通並航行ノ自由ヲ認ムル時ハ外国貿易ノ自由ヲ何人ニモ許スコトトナル次第ナルカ労農露国ハ勿論極東共和国モ近ク外国貿易ハ国家ニ於テ之ヲ行フコトト為ス筈ニ付訂正シタシト述ヘタリ依テ本官ハ本条ハ通商航海ノ自由ヲ認ムトノ根本主義ヲ定ムルノミ換言スレハ鎖国主義ヲ執ラズトノ主義ヲ声明スルノミニシテ外国貿易ニ従事スルモノガ国家タルト個人若ハ会社タルトハ問フ所ニアラズト説示シタル処先方ハ通商交通ノ自由ヲ認ムトノ語句ヲ其儘採用スレバ個人ノ自由通商ヲ認ムルコトトナリ外国貿易ヲ国家ガ独占スルコト（個人及団体ニ特ニ許可ヲ与フルコトアルハ勿論ナリ）能ハザルコトトナルニ付承諾スルヲ得ズト云ヒ論議ノ末先方ハ「各当事国ノ法律ニ従ヒ」ナル文句ヲ挿入スルコトトシタシト述ベタルニ付本官ハ右ハ当然ノコトナルモ本条ニ於テハ通商航海ノ自由ヲ認ムトノ原則ヲ定ムルモノニシテ通商航海条約ノ各条文中ニ顕ハルベキ「各当事国ノ法律ニ従ヒ」ナル文句ヲ玆ニ掲記スルノ必要ナキノミナラズ本条ノ如キ場合ニ於テハ各国ノ条約中ニモ斯カル文句ナク又条文ノ体裁上面白カラズト説示シタルガ先方ハ容易ニ承諾ノ模様ナク両国間ノ通商交通ハ通商航海条約ノ締結セラルルニ至ル迄ノ間本条ニ依リ実施セラルヘキモノナルヲ以テ「各当事国ノ法律ニ依リ」ナル字句ノ挿入ヲ必要トスト主張セリ

卑見ニ依レバ此点ハ敢テ拒絶スル必要モ無シト思考スルモ如何ニヤ御回示ヲ請フ

第七条ニ関シ当方ハ本条ノ成立ニ至レル歴史ヲ説明シタル処先方ハ軍港ノ廃止ハ之ヲ承諾スルヲ得ザルモ本条ノ趣旨

ハ素ヨリ異議無キ所ナルニ付別ニ外交文書ヲ以テ本条ノ意味ヲ声明スル事ヲ得可キモ本条ヲ協約中ニ存置スル事ハ恰モ露国側ガ片務的義務ヲ負ヒタルノ観ヲ呈スルニ付承諾シ難シト言ヘルガ右ハ何等害無キ而已ナラズ寧ロ体裁上協約ニ規定ス可キ程ノモノニ非ズト思考セルニ付本官ハ同意シ置ケリ

第八条ニ関シ「両当事国政府ハ郵便電信関係事項ニ付本協約調印後速ニ交渉ヲ開始ス可シ」ト改ムル事ニ決ス

第九条ニ関シ先方ニ於テ趣意ニ異議無キモ我方ノ案ニ依レバ漁業協約改訂前ニ第二項ノ効力発生スルヤノ疑義有リトノ事ニ付右疑義ヲ避クル様条文ヲ作成スル事ニ同意セリ

第十条ニ関シテハ論議多端ニ渉リ本日ノ会議ニ於テ決定セザリシニ付別ニ電報ス

政務部ヘ転電セリ

五四〇　九月十八日　在中国小幡公使ヨリ内田外務大臣宛

ヨッフェ一行ニ関スルザルツマン報告写送付ノ件

機密第四二三号　（九月二十五日接受）

大正十一年九月十八日

在支那

特命全権公使　小幡　酉吉（印）

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

「ヨッフェ」一行ノ身元其他ニ関スル件

本件ニ関シ「ザルツマン」ヨリ別紙写ノ通報告致越候ニ付何等御参考迄ニ右写及御送付候也

（別紙）

ヨッフェ一行ニ関スル九月十三日附ザルツマン報告写

ERICH VON SALZMANN

Vertreter der Kölnischen Zeitung PEKING, Köln/Rhein und des Ullsteinschen Verlages Berlin.

September 13th, 1922.

Telegramm Adresse: Salzmann Peking

Telefon: East 3973.

Particulars

The names of nearly all the members of the Soviet Mission to China cannot be fixed, they all have changed their names several times since 1917. Nearly everyone of the members has disappeared from time to time, and they all refuse plainly to have any knowledge about the life of one of their fellow members. Suspicion among them is terrible. They all are in great fear of spies and treachery.

The two brothers Joffe, Mr. Iwanoff and Mr. Genker have not changed their names and can be traced even before 1917. Mr. Joffe Senior has studied medicine, he has not passed examine, and the Russians here doubt even his degree as a Doctor. He made his first appearance as a member of the Brest Litowsk commission.

Mr. Iwanoff is after the Russians here no scientist at all. He came to Peking after the revolution 1917, and was attached to the Peking legation as a spy of the Central Committee at Moscow. As Prince Kudascheff, Mr. Graveetz was of course opposed to Mr. Iwanoff, he left the legation after half a year service and entered the service of Mr. Nachbour, who was then agent of the Soviet Republic. Mr. Iwanoff worked with the Journal de Pékin as a Corrector. He has no deep knowledge of the Chinese language and has never been in Japan. He was a teacher of the Peking University of the French and the Russian language, before he went back to Moscow.

As I already mentioned, Mr. Genker has been officer in the general staff. The financial transactions of the Soviet Commission are done with the International Banking Co., and the Russo-Asiatic Bank. Mr. Joffe deposited about 200,000 Dollars with the Russo-Asiatic Bank, besides Jewellery, the value of which I could not yet find out. It seems, as if the former transactions were all done through the offices of the International,

but hereafter all transactions will be done by the Russo-Asiatic Bank.

Conversations with Rigin.

I had several conversations with Mr. Rigin, and have the general impression, that Mr. Joffe is not at all satisfied with the reception, which he found at Peking. Mr. Rigin complained, that the Chinese were first very friendly, but that this was all, and he fears now that they will not come to any terms with the Chinese. We spoke long and broad about the Soviet propaganda in China. Mr. Rigin did not deny that propaganda schools are kept in Moscow, Tomsk, Omsk, Irkutsk and Taschkent, and that the main object is, to stir up Corea against Japanese rule. The commission expects great things of the misery, which rules in China, they hope uprisings will come in different parts of China. Upon my question, if the Soviets have active and propre Chinese as propagandists, who have undergone a special training in the Soviet Propaganda schools, he laughed, did not deny, and told me, propaganda is going its way by itself. Our best propaganda is the stupidity of the foreign powers, who suppressed China. China will come one day to Russia quite voluntarily, and ask for help: Mr. Rigin is quite contrary to Mr. Joffe's opinion, hopeful that social Revolution will break out one day in Japan propre. He asked me many questions about the social conditions among the Japanese workmen. He is of the strange opinion that the Japanese working classes are still kept in a state of slavery.

General opinion of the foreigners in Peking.

In the last days I had the opportunity to speak many foreigners of different nationalities. Most of them believe, that the Soviet Russians lost much sympathy with the Chinese through the behaviour of Mr. Joffe and his staff. The general impression of the Russians is not a good one. All complain about the unreliability of the Russians, appointments were not kept, and promises were forgotten. I myself had the same impression. Mr. Rigin asked me on Sunday, if I would not be able to help him to a Chinese house for quarters of twenty members of the staff. My servants found at once houses. I went myself to the different places, spoke with the Chinese owners, and took up communication by telephone with Rigin again. We made an appointment for four o'clock in the afternoon, he proposed me, to come with his own. motorcar, and take me to the different houses. Nothing happened at four o'clock. I called by phone on Mr. Rigin and got the reply, that he had no time today, as he was too busy. No excuse was made. Since that time, I heard nothing of Mr. Rigin or of one of the other members.

In the American and the Dutch legation one is of the opinion, that Mr. Joffe will not come back to Peking, and that there will be no treaty or agreement with the Chinese, but one believes, that Joffe will do his utmost, to come to terms with Japan.

Mr. Levin.

The so called private secretary of the mission has a special and peculiar position. He is the confident personality of Sinowieff and is the special spy of the 5 leading commissaries at Moscow. Mr. Levin is a member of the so called extraordinary commission with privileges and special rights. He reports directly to Moscow, he is the controller of Mr. Joffe, and seems to me more important as Joffe himself. The Russians here and at Harbin believe that Mr. Levin is one of the typical dangerous personalities who are known in the worst sence out of the time of the bloody revolution in Russia proper.

Levin is not his birthname. Nobody knows his real name. All members of the commission are in great fear of him.

五四一　九月十九日　在長春松平代表ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

第十条ニ関スル討議ノ情況ニ付報告ノ件

第四八号

第十条ニ関シ十八日ノ会議ニ於テ先方ハ先ヅ本条ハ余リニ複雑ナルニ付沿岸貿易ニ関スル件ノ如キハ之ヲ別ニ規定スルコト然ルヘシトシ次ニ門戸開放主義ヲ掲記スル時ハ西比利ヲ列国ノ殖民地トナスヤノ観ヲ呈ス又極東共和国ノ憲法ヲ引証スル時ハ主権ノ活動ヲ羈束セラルルコトトナリ尚ホ自国民待遇ヲ与フルコトモ第五条ノ場合ト同様ノ理由ニ依リ反対セザルヲ得ズ露国ハ外国資本ヲ大イニ歓迎スル故之ガ保障ニ関シ法律上詳細ノ規定ヲ設ケ居レリ外人又ハ外国政府トノ契約ヲ破ル如キ場合ニハ重キ制裁ヲ附シアリ極東共和国政府ニ於テモ已ニ英米人ニ利権ヲ与ヘタリ故ニ最恵国待遇ヲ規定セバ日本国民ハ充分ニ保障セラルルコトトナルヘシト謂ヘルニ付本官ハ

(一)本条ニ関シテハ「コゼニコフ」提案以来ノ歴史ニ基キ露国側ニ於テ相当道徳的義務ヲ有スルコト

(二)沿岸貿易ノ件ヲ別ニ規定スルモ差支ナキコト

(三)門戸開放ナル文字ヲ存スル時ハ露国側カ帝政時代ノ鎖国主義的政策ヲ棄ツル所以ヲ天下ニ声明スルモノニシテ外国人ヲシテ安ンジテ西比利ニ投資セシムルノ利益アルモノト思考スルモ露国側ニ於テ反対ナラバ我方ニ於テ之ガ存置ヲ主張セザルコト

(四)憲法ヲ引証シタルハ現行憲法ノ与フル保障ヲ条約ニヨリ確保セントスルモノナルニ付右保障ニシテ条約中ニ何等カノ形ニ於テ確保セラルルニ於テハ憲法ヲ引証セズトモ可ナルコト

(五)単ニ最恵国待遇ヲ与フルモノトセバ法律ノ変更ニ因リ結局外国人ハ本条ノ目的トスル各事業ニ関シ権利ヲ享有スルヲ得ザルノ危険アリ之ヲ日本資本家ノ最憂慮シ居ル所ナルコト

(六)我方ノ希望スル所ハ現在極東共和国ノ憲法法律ガ外国人ニ認メ居ル権利ヲ条約ニ依リ保障セラルルコトニ存シ其目的ニシテ達セラルル時ハ条文ノ形式ノ如キハ問フ所ニ非ザルコトヲ縷々説示シタルモ先方ハ同説ヲ繰返シ纏ラズ更ニ審議ヲ継続スル筈

政務部ヘ転電ス

五四二　九月十九日　在長春松平代表ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

協定ノ当事者問題ニ関スル日本案ニ対スルヨッフェノ反応ニ付報告ノ件

第四九号　（九月二十日接受）

十九日午前ノ会議ニ於テ貴電第二一号前文及条文ノ体裁ニ関スル我案ヲ説明シタル処先方ハ日本ト労農トノ暫定協定締結ノ目的ヲ以テ基本協約締結後直ニ交渉ヲ開始スヘシトノ条項ト基本協約トヲ不可分ノモノトシ度シ即チ本件ニ関スル外交文書ヲ本協約ニ附属スルモノトシ度シト申出デ而シテ先方ハ基本協約ノ調印済メバ其ノ批准前即チ効力ノ未ダ発生セザル前ニ労農トノ交渉ヲ開始スルモノナリト解釈セルニ付本官ハ曩ニ基本協約ヲ速ニ調印シ爾余ノ交渉ト関係ナク直ニ効力ヲ発生セシムルコトニ露国側ガ同意スルニ於テハ日本政府ハ引続キ労農政府ト交渉ヲ開始スルニ異議ナキ旨明確ニシ置キタル旨ヲ述ヘタル処先方ハ頻ニ自説ヲ主張セルニ付基本協約カ批准セラルルヤ否ヤ不明ナル場合ニ第二段ノ交渉ニ入ル能ハザルハ勿論ノ儀ナルニ付露国側ニ於テ協約調印ト同時ニ効力ヲ生スルコトニ取計ハルルコト可然旨ヲ述ベ英露協定、露伊協定及ヒ独露条約ノ例ヲ引キタルニ先方ハ批准ナクシテ調印ト同時ニ効力ヲ生スヘキ協約調印ノ権限ナキモ日本側ノ希望モ明カトナリタルニ付之ニ関シ二度迄モ請訓シタルモ未ダ回訓ニ接セザル旨ヲ述ベ本官ハ日本政府ハ本会議ガ我撤兵前可成速ニ円満ニ終了スル事日露双方ノ為利益ナリト思考シ居ル処露国側ニ於テハ左程急グ必要ヲ認メザルヤ虚心坦懐ニ意見ヲ承知シ度シト述ベタルニ「ヨッフェ」ハ全然個人ノ意見トシテ述ブル旨ヲ前提シ露国全領土ヨリ日本兵ノ影ヲ認メザル時ニ協約ノ効力ヲ発生セシメ度シト答ヘタルニ付本官ハ沿海州ヨリ撤兵又ハ北樺太ヨリ撤兵後ニ非ザレバ協約ノ効力ヲ生ゼシメザル意味ナルカト謂ヘルニ彼ハ北樺太ノ撤兵期ヲ尋ネタルニ付尼港事件解決迄ハ撤兵シ難キ旨ヲ述ベタル処尼港事件ハ当会議ニテ議セラレザルヤト謂ヘルニ付協約締結後ニ議スル事ハ之ヲ辞セザルハ予備交渉ノ文書ニテ明カナリト答ヘタル処同問題ハ何レノ側ヨリ持出スヤ露国側ヨリハ提

出スルノ理由ナシ等要領ヲ得ザル事ヲ述ヘ転ジテ基本協定案ニ言及シ日本提案ノ如クンバ協約案第一条モ単ニ極東共和国ト日本トノ関係ヲ規定スルモノニシテ労農トノ関係ハ之ヲ除外スル事トナル処之ニ対シテハ労農露国ニ於テ承諾スルヲ得ズト謂ヘルニ付本官ハ第一条ノ適用ヲ日本ト極東共和国ニ限ルトスルモ同条ノ精神ハ勿論労農露国ニモ適用セラル可ク労農露国ニ於テ之ニ関シ危惧ノ念ヲ抱ク要ナシト説示シ次デ先方ヨリ漁業協約ノ件ニ言及シタルニ付本官ハ貴電第二一号漁業ニ関シ第一案及第二案ヲ提議シタル処先方ハ大体異議ナキ様子ナリシガ之ヲ考量スルコトトナリ午前ノ会議ヲ終ヘタリ

午後ノ会議ニ於テ露国側ハ午前ノ会議ニ於テ㈠基本協定第一条ハ労農露国ニモ適用スルノ必要アリト信シタルカ日本政府ニ於テ之ヲ承諾セラレザルコトヲ知リ㈡北樺太ノ撤兵ハ尼港事件解決後ニ非ザレバ之ヲ為サズトノ日本政府ノ意嚮ヲ初メテ知リタルニ付此ノ点ニ関シ政府ニ報告シ改メテ訓令ヲ仰グ必要アルニ付暫ク休会シタシト申出デタルニ付本官ハ㈠ニ関シテハ政府ノ意見ハ知ラザルモ全然個人ノ意見トシテハ漁業問題ノ如ク別ニ之ヲ労農政府ト日本政府トノ間ニ文書ヲ以テ取極ヲ為スコト必ズシモ不可能ナラスト信ズルニ付露国側ニテ希望ナラバ政府ニ請訓スルモ差支ナシト述ベタル処露国側ニ於テハ此ノ点ヲ重大視居ルニ付請訓ヲ願ヒ度シト述ベ㈡北樺太撤兵ニ関シテハ薩哈嗹州占領ガ尼港事件解決ノ保障タルコトハ屢々世界ニ声明シタル所ニシテ「ヨッフェ」氏ハ兎ニ角「ヤンソン」氏ノ如キハ明白ニ之ヲ承知シ居ラルル筈ニテ今更斯カルコトヲ申出デラルルハ意外千万ナリト詳細説明シタルガ先方ハ知ラズ存セズト白バクレ「ヤンソン」ノ如キハ頗ル当惑ノ体ヲ為シ休会セリ

本電政務部ヘ転電シ公使、奉天、哈爾賓ヘ暗送セリ

五四三　九月十九日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

会議ニ於ケルヨッフェノ態度ニ鑑ミ交渉打切ヲ得策トスル旨稟申並請訓ノ件

第五〇号　（九月二十日接受）

露国側ハ何事カ莫斯科政府ト電報ノ往復ヲ為シ居ルモノト見エ十六、十七日ノ両日休会シ十八日ハ開会シタルモ単ニ外部ノ体裁ヲ繕フ為ニシテ余リ会議ノ進捗ニ気乗リセザル

モノノ如クナリシガ今十九日午前午後ノ会議ニ於テハ往電第四九号ノ通殊更ニ請訓ノ口実ヲ見出サント努メタルモノト察セラル殊ニ薩哈嗹北部ノ撤兵ヲ尼港事件ノ解決ニ関聯セシメタルコトハ今日迄承知シ居ラズト謂フガ如キ無智ニ非ズンバ余リニ白々シキ口実ヲ種ニシテ会議ノ休会ヲ申立タルハ益々「ヨッフェ」ノ誠意ナキコトヲ明ニスルモノニシテ彼等ハ総テ対内宣伝ニ極メテ重ヲ置キ居ルモノト観察スルノ外ナク前記ノ言動ノ如キ亦之ニ基キタルモノカト思ハル而シテ往電第三五号及第四四号ヲ以テ申進タル露国側ニ於ケル協約締結躊躇ノ理由ノ外彼等ハ当地ニ於テ本邦新聞記者一部ノ者ト密接ナル接触ヲ保チ又我新聞紙ノ論調ニ注意シ新聞ノ輿論ガ寧ロ露国側主張ヲ擁護シ居ルモノト考ヘ居ルコトモ亦先方ヲシテ右ノ態度ニ出デシムルニ与テ力アルモノナルベク既ニ最近ノ北京日報ニ現レ居ル当地「ダリタ」通信ニモ「ヨッフェ」ノ言トシテ日本新聞記者ハ政府ノ意見ニ賛セズ寧ロ露国側ノ意見ヲ支持シ居ル旨通信シ居レリ又昨十八日露国委員一行中ノ陸軍顧問ハ突然北京ニ赴キタル事実アリ前記ノ次第ニテ露国側ハ適当ナル口実ヲ発見シテ日本側トノ談判ヲ打切リ北京ニ於テ支那側トノ交渉ニ移ラントノ計画ヲナシ目下打切リニ関スル準備ヲナシ居ルモノカトノ本官等ノ推測ハ益々深クナリ来タル状態ナリ既ニ我方ニ於テハ出来得ル丈ケ誠意ヲ以テ妥協ヲ計リツツアルニ拘ラズ「ヨッフェ」ノ如キ悪竦不誠意ノ態度ヲ以テシテハ仮令一時決裂ヲ糊塗スルモ到底最後ノ成果ヲ結フコト能ハズト思考スルニ付寧ロ当方ニ於テ打切リヲ決心シ先方ヨリ次回ノ会議ニ打切リヲ申出ヅレバ勿論然ラザル場合ニ於テモ機会ヲ見テ当方ヨリ最後ノ案ヲ示シ之ニ諾否ノ回答ヲ求メテ応ゼザレバ引揚グルコト却テ後日ノ為得策カト思考ス尤モ先方ハ前述ノ如ク対内政策ヲ主トシテ考ヘ居ルモノトモ思ハルルニ付右ノ如キ態度ニ出ヅルコトハ却テ先方ハ望ム所ナルヤモ知レズ御詮議ノ上何分ノ御回示ヲ請フ

本電政務部ヘ電報シ公使、奉天、哈爾賓ヘ郵送セリ

（欄外註記）

一旦打切リトシ全然新ニ他日ノ機会ニ初ムルノ外ナシ打切方ニ付テハ

一、長春ニ於テ声明ヲナスコト

イ、松平ノ権限ハ最初ノ交換文書ノ通リニシテ露国側ノ希

望ニ応ジ政府ハ譲歩シテ露国ノ信任状ヲ認メタルモ条約ノ適用範囲ニ変更ナキコト

ロ、露国ニ協議取纏ノ誠意ナキヲ以テ統会ノ無益ナルコト

二、右以上ニ露国承認ノ可否等ノ対露政策全般ニ亘ル声明又ハ公表ハナサザルコト従ッテ東京ニテハ非公式声明ノ外何等公式ニ公表ヲナサザルコト

対露政策ハ先ヅ撤兵ヲ完了シ陸軍ノ陰謀ヲ不可能ナラシメ（特務機関廃止）漸次平和的方法ヲ以テ対露感情ヲ培養シ時機ヲ俟ッテ「ブロード、ライン」ノ交渉ヲ開始スベシ

五四四　九月二十日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

会議休会ニ関スル公表文討議ニ付報告ノ件

第五一号　（九月二十日接受）

往電第四九号ニ関シ十九日ノ会議ニ於テ休会ト決シ公表文ヲ議スル際「ヨッフェ」ハ今日迄二回ノ休会ハ露国側ヨリ提議シタル為日本ノ新聞ハ会議荏苒ノ責任ヲ露国側ニ負ハセ自分ヲ攻撃シ居ル趣ナレバ対内政策上ヨリ謂フモ今回ハ委シク事情ヲ発表シタシト述ベタルニ付本官ハ事情ヲ発表スルハ別ニ異議ナキモ基本協定ノ審議中ニ於テ遽ニ議題ニモ無キ薩哈嗹駐兵問題ヲ引出シテ其請訓ヲ仰ギタルコトヲ公表セバ尼港事件ヲ審議セル如キ観ヲ与ヘ適当ナラズトテ反対セルニ「ヨッフェ」ハ別ニ宣伝及敵対行為ノ禁止条項モアリ本件ヲ審議セザルコトヲ明ニセバ差支ナカルベク対内関係モアルニ付是非「コミュニケ」ニ記載シタシト主張シタルニ付右ハ露国側ガ休会又ハ打切ノ口実ニ使用セントノ下心ナルベシト思考シ而モ斯クノ如キ周知ノ問題ヲ今更知ラズトノ主張ハ先方ノ立場ヲ悪クスルノミニテ我方ニ関係ナシト思考シタルニ因リ之ニ同意セリ右ニ関シ「ヘッヂス」ノ如キモ右公表ニ因リ「ヨッフェ」ガ議題ニモナキ事件ヲ問題トシ露国民ノ感情ヲ煽リテ会議不成功ノ責任ヲ日本軍ノ駐兵ニ帰セシメン為ノ常套手段ニシテ日本ノ立場ノ却テ公正ナルコトヲ明ニシタル利益アリ且支那人ニ対シ長春会議ノ露国側ト同一ノ論法ニ依リテ先ヅ蒙古撤兵ヲ要求スルノ根拠ヲ与ヘタルモノト謂フヘシト笠間ニ内話セル由ナリ

五四五　九月二十日　在長春山崎領事ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

長春会議ニ関スルチタ新聞論調ニ付報告ノ件

第八四号　（九月二十日接受）

在満洲里田中領事代理ヨリ左ノ通

外務大臣ヘ転電アリ度シ

第四〇号

斉多新聞論調

十七日ノ「テレグラフ」ハ「長春ハ何ヲ齎スベキカ」ノ題ノ下ニ日露会議ハ最初停頓ノ模様ナリシモ日本政府ニ於テ多少譲歩セルモノノ如ク今撤兵ノ件ヲ議シ本件ハ実ニ会議ノ成否ヲ決定スルモノニシテ日本ハ撤兵期ヲ確定シ之ニ関スル総テノ義務ヲ履行シ押収武器財産ヲ返還セザルベカラズ本会議ハ政治問題ヲ主トス之ニシテ解決セラルレバ通商条約ノ如キ問題ニ非ズ、日本ハ一方条約ニ調印シツツ他方白衛軍ヲ援助スルガ如キハ会議ノ精神ヲ没却スルモノナルガ故日本ニシテ誠意ヲ有セバ極東ノ平和ハ直ニ得ラルヘシト論シ同日ノ「プーチ」ハ露国ハ長春会議ニ於テ協定ノ基礎ト「ソヴィエト」露国代表参加ノ件ニ関シテ主張ヲ貫徹セリ右ハ会議延期ノ不利ナルト露国ノ平和愛好ノ誠意ヲ覚リタル結果ニシテ今ノ処決裂ノ危険ハ避ケ得タルモ将来尚幾多ノ難問題起ルヘシ我代表ニシテ日本人ヲシテ我方ガ恒久ノ平和ヲ愛スルガ故ニ強硬ノ態度ヲ持スル所以ナルコトヲ信ゼシムルヲ得バ会議ハ成功スヘシトテ代表ニ対シ強硬ナランコトヲ希望セリ軍部ハ会議ノ進行ニ頓著セズ白軍ノ進出ニ対シ人民ヲ激励セントスルモノノ如ク十六日ノ機関紙ハ其ノ社説ニ於テ日本資本家ハ我平和的提案ヲ拒絶シ白衛軍ノ進出ヲ許容セリ会議ハ吾人ノ予期ヲ裏切リ白衛軍問題ヲ解決シ得ザリキ吾人ハ経済復興ノ為メ外債ヲ欲セズ自力ヲ以テ経済上恢復スヘク又自力ヲ頼ミ是等ノ賊ヲ鎮定スヘク何モ恐ロシカラズト号ビ居レリ

五四六　九月二十日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

大連案基本協定第一条ニ関シ労農政府トノ間ニ文書ヲ以テ協定方ニ付請訓ノ件

第五二号　（九月二十日接受）

往電第三六号協定案ノ趣旨ヲ労農政府トノ間ニ文書ヲ以テ相互的ニ協定シ差支ナキヤ至急御回電ヲ請フ

五四七　九月二十一日　内田外務大臣ヨリ　在長春松平代表宛（電報）

基本協定第六条ノ案文ニ関シ回訓ノ件

第二四号
貴電第四七号ニ関シ
大連案第六条ハ鎖国主義ヲ採ラザル趣旨ヲ声明スルノ外先方ニ於テ恣ニ法律ヲ設ケテ我方ニ不利ナル制限ヲ加フルガ如キコトナカラシムルノ意味合ヲモ含ムモノナルニ依リ引続キ我方案ヲ主張セラレ尚承諾ノ場合英露伊露通商協約第二条ニ在ルカ如キ「商業国民間ニ定マレル慣例ニ依リ」ナル文句ヲ挿入スルニハ異議ナク右ノ趣旨ニテ折合フ様説示サレタシ先方カ応諾セザル場合ニハ更ニ請訓アリタシ

五四八　九月二十一日　内田外務大臣ヨリ　在長春松平代表宛（電報）

基本協定第一条ニ関シ文書ヲ以テセラレ差支ナキ旨回訓ノ件

第二五号
貴電第五二号ニ関シ
貴電第三六号所載基本協定第一条ノ趣旨ヲ労農政府トノ間ニ別ニ協定スルコトハ既ニ「ゼノア」ニ於テ非侵略協定成立セル関係モアリ且我方ニモ有利ナルヲ以テ請訓通文書交換ノ形式ニ依リ取計ハレ差支ナシ但シ右協定ハ基本協定トヲ以テ会議ノ延期曳テ打切ノ口実ト為ス意ニアラズヤト思考セラル

（別　電）

九月二十一日在長春松平代表発内田外務大臣宛電報第五四号
ロスタ通信要領

第五四号　別電　（九月二十一日接受）

「ロスタ」通信要領左ノ通
日本代表ハ尼港事件解決迄ハ北樺太ヨリ撤兵セズト言明シ併モ日本ハ尼港事件ヲ長春会議ノ議題トスルノ意思ナキニ依リ会議ニ故障ヲ生シタリ日本政府ノ声明ニ依リ同政府ハ薩哈嘻事件ニ関シ或ル腹案ヲ有スルコトハ想像シ得ルモ露国ハ日本ノ意向ガ無期限ノ樺太占領ニアリトハ夢ニモ思ハザリキ日本ノ政策ハ北樺太ノ併合ノ準備ト解スルノ外ナシ所謂尼港事件ニ関シ露国代表ノ意見ニ依レバ日本ノ出兵ニ依リ露国人ノ受ケタル損害ハ尼港ニ於テ日本人ノ受ケタル損害ヲ賠償シテ余リアリ此点ハ扨テ置キ一方ニ於テ領土併合ノ準備ヲ為シツツ他方ニ於テ善隣関係ヲ樹立セントスルハ無意味ナリ戦敗国ナラバイザ知ラズ露国ハ戦敗国ニアラザルニ付領土併合ヲ基礎トスル条約ヲ日本ト締結スルノ理由ナシ故ニ露国代表ハ会議ヲ継続スルヲ得ズト思考シ休会ヲ要求セリ世界ノ輿論ハ露国ノ見解ヲ支持シ日本ノ帝国主義的領土侵略的野望ヲ支持セザルベキヲ信シテ満足ス

五五〇　九月二十二日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

第一条ノ適用範囲及北樺太駐兵問題ニ関スルレーウィンノ島田ニ対スル談話報告ノ件

第五六号（至急）
九月二十二日朝露国側首席書記官「レーウィン」島田ヲ来訪シ
先ヅ「ヨッフェ」ノ名ニ於テ莫斯科政府ハ曩ニ松平代表ノナサレタル日本側ノ案即チ労農及斉多ヲ一方トシ日本ヲ他方トシテ極東共和国ノ領域ニ関スル問題ヲ解決セントスル段取ニ異議ナシ唯第一条ノ効力ハ是非共労農ニモ拡張スルコトヲ要求ストノ回訓ニ接シタリト述ベタル後先日ノ会議ニ於テ偶然生ジタル日本軍ノ樺太北半占領ハ尼港事件ノ解決ヲ俟テ之ヲ解除スベシトセル件ニ付テハ実際「ヨッフェ」ニ於テ初テ耳ニシタルモノニシテ本件ハ露国民ニ対シ多大ノ侮辱ヲ与フルモノナルニ付右ニ関シ莫斯科ニ請訓中

同時又ハ其後ニ取極ムルコトトスヘキハ勿論同政府トノ間ニ此ノ種協定ヲ為スコトハ可成本件及漁業問題ノミニ止メラレタシ

五四九　九月二十一日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ロシア側ハ会議延期又ハ打切ノ口実ヲ日本ノ薩哈嘻駐兵ニ求メントスルヤニ思ハルル旨稟申ノ件

別　電　同日松平代表発内田外務大臣宛電報第五四号
ロスタ通信要領

第五三号（至急）　（九月二十一日接受）

往電第五〇号ニ関シ
露西亜側ハ会議延期又ハ打切ノ口実ヲ発見セムト努力中ナルモノノ如クナリシ処其後「ロスタ」通信トシテ別電第五四号ノ如キ通信ヲ発電シタルモノノ如ク右ニ依リテ想像スルニ協約適用範囲ノ問題ニ就テ会議ヲ打切ラムトセシモ右ハ既ニ露国委員トシテハ日本側ノ妥協案ニ賛成シタル関係上之ヲ以テ更ニ打切ノ理由トナスハ委員ノ体面ニ関スルモノト考ヘ寧ロ米国及自国方面ニ気受ノ好キ薩哈嘻駐兵問題

ナルガ未ダ回訓ニ接セズト語リ更ニ私談トシテ「ヨッフェ」ハ労農政府ノ信任篤ク条約ニ関シテハ幾多ノ経験アルニ顧ミ当地ニ特派サレタルモノナルガ若シ本会議ニシテ破裂センカ露国民ハ必ズヤ我一行ガ多大ノ費用ト時日トヲ費シ何等得ル所ナクシテ終レリトテ盛ニ攻撃ヲ加フベシ従テ「ヨッフェ」トシテハ是非共此際日本トノ協約ヲ成功セシメント努力シ莫斯科亦前記ノ回訓ニ依ルニ本会議ノ成立ヲ希望シ居レルコト明ナリ就テハ最後ノ障害物タル樺太北半占領ヲ尼港事件解決ト連結セシメザルコトトシ出来得ベクンバ本協約ト同時ニ解決スルコトト致シ度シ余ハ日本側ノ立場ヲ能ク了解スルモ同時ニ我方ノ立場モ了解セラレタシト謂ヘルニ付島田ハ右ノ次第ハ我代表ニ報告スベキモ日本側ノ立場ヨリ見ルニ右ハ内外ニ対スル声明中「アントーノフ」ヘノ通知ニ依リテ疾クモ貴方ニ於テ熟知ノ筈ナル本件ヲ今日ニ於テ突然大問題ト為シ居レル露国側ノ態度ニ呆レ居ルモノナリ貴方ハ樺太北半駐兵ヲ云為スルモ蒙古ニハ貴国軍隊駐兵シ居レルニアラズヤ樺太北半ニ関シテハ自ラ歴史ノ存スルアリ事態爾カク簡単ニハアラズトテ尼港事件ニ関シ大連ニ於テ松島代表ノ述ベラレタルコトヲ繰返シ説明シ貴国民ノ輿論モ去ル事ナガラ我国民ノ輿論ヲモ無視セラレザランコトヲ望ムト答ヘタルニ「レ」ハ初メテ能ク了解セリ委細「ヨッフェ」ニ報告セン実際我方ハ日本政府声明ノ次第ヲ今回初メテ承知セリ我方ハ本件ヲ以テ本協約ノ談判ヲ破裂セシムルガ如キハ好マシカラズトセリ日本新聞紙ハ露国側ハ談判ヲ破裂乃至遷延セシメンガ為本件ヲ殊更問題ト為シ居レリト伝ヘ居レルモ右ハ当ラズ若夫レ我方ニ於テ決裂ヲ望ムニ於テハ委任状ノ問題ノ起リシトキ直ニ当地ヲ出発セシナラン之ヲ敢テセザル所以ノモノハ会議ノ成立ヲ希望シ居レハナリ日本側ニ於テ本協約締結後引続キ欧露トノ交渉ヲ開始スヘシト謂ハルルモ右ハ必ズシモ締結ヲ意味スルニハアラザルニ付大ナル喜ビニモアラズ夫レニモ拘ラズ露国側ハ譲歩シテ本会議ノ成立ヲ期シ居レリ就テハ何トカシテ樺太北半問題ニ付妥協点ヲ発見シタシト謂ヘルヲ以テ島田ハ御話ノ次第委曲代表ニ報告シ其ノ参考ニ供セント答ヘ別レタルガ去ルニ臨ミ「レ」ハ本件以外ニ何等重大問題ナキニ付本件サヘ旨ク（ママ）行ケバ何時ニテモ会議ヲ開催シ得ベシト附言セリ

政務部ヘ転電済

五五一　九月二十二日　在瑞典畑公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

長春会議ニ関スルラデックノ論評報告ノ件

第二四五号　（九月二十三日接受）

長春会議開催前後ヨリ「イズヴェスチア」ハ同会議ニ関シ屢長編ノ論評ヲ掲載シタルガ九月十日ノ同紙上ニ於テ「ラデック」ハ日本トノ平和商議ト題シ大要左ノ論評ヲ試ミタリ

日本ハ東京、斉多、莫斯科、北京ニ於テ会議ノ開催ヲ拒絶シ国民ノ輿論ヲ虞レ世界ト縁遠キ満洲ノ一停車場ヲ選定セリ日本ガ右会議ノ成否何ニ拘ラズ先ヅ西比利撤兵ヲ断行スルニ至リタル動機ハ一、華府会議ニ於テ国務卿ガ西比利ニ関スル日本政府ノ声明ヲ読上ゲ加藤男ニ深甚ナル印象ヲ与ヘタルコト二、日本「ブルジョア」階級ノ意向変更セルコトニ起因スベシ労農露国ハ日露両国利益ノ為メ撤兵ヲ要求スト而シテ日本ノ撤兵ニ当リ発生シ来ル問題ハ日本ハ浦潮政権ヲ白色分子トシテ存置スヘキヤ将又極東共和国ニ引渡スヘキヤノ問題ナリ若シ白色分子ヲ擁護スルモノトセバ日本ハ又モヤ西比利出兵ヲ再行スルニ至ルベク又極東共和国ニ渡スモノトセバ日斉両国ハ直接相面スルコトトナルベシ若シ後ノ場合ナリトセバ日本ハ今回ノ会議ハ労農露国代表臨席ヲ許シ極東共和国ト行フモノニシテ労農露国ト平和商議ヲ行フモノニアラズト言フガ如キ児戯ニ等シキコトヲ避ケ真面目ニ会議ノ促進ヲ計ラザルベカラズ蓋シ極東共和国ナルモノハ日本ト労農露国トノ衝突ヲ避クル為ニ作ラレタルモノニシテ当時ハ緩衝政策ノ絶望ナルコト明ニ全世界ニ理解セラレザリシガ今ヤ其絶望ナルコト日本ニモ明瞭トナリタレバナリ要スルニ今回ノ会議ニ於テ露国ハ「ゼノア」及海牙ニ於テ声明セルト同様ノ協約ヲ締結セムト欲ス即チ日本ハ自己ニノミ利益ナル主張特ニ日本ガ自国ニ於テサヘ外国人ニ許容セザル特権ヲ要求セズ相互的ノ有利ナル条件ヲ提出セバ露国モ又日本ニ何等カヲ提供シ恒久的ノ協約ヲ締結スベシ云々

五五二　九月二十三日　在長春松平代表ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

二十三日朝レーウィン島田ヲ来訪シテ尼港事件ニ関スル莫斯科政府ノ回訓内容ヲ伝フルト共ニヨッフェノ真意ニ付内話ノ件

第五八号

往電第五六号ニ関シ

二十二日午後島田ヲ「レーウィン」方ニ遣シ第一条ニ関スル貴電第二五号ノ趣旨ヲ内報セシメ尚島田ハ一己ノ意見トシテ尼港事件解決ニ関連セル樺太北半撤兵問題ニ関スル日本側ノ意見ハ之ヲ変更スルコト能ハズト思考スル旨ヲ述ベタル由ノ処「レ」ハ「ヨッフェ」氏カ露領ニ日本兵ノ影ナキニ至リテ初メテ協約ハ効力ヲ発スヘキモノナリト言ヒシ意味ハ要スルニ樺太北半ノ撤兵期限ヲモ明示セラレンコトヲ望ム ト言フニ過ギズト語リタル由ナリ次デ九月二十三日朝「レ」ハ島田来訪莫斯科政府ヨリノ回訓ハ全部揃ヒタルガ昨日述ベタル二問題ノ外尼港事件ニ関シテハ莫斯科政府ハ単ニ其責ニ任ゼズト言フ簡単ナル回訓ニ接シタルニ付此旨御通知スト述ベタル後全然責任ナキ私談トシテ自分ヨリ「ヨッフェ」代表ニ対シ前記ノ如キ訓令ナルニ拘ラズ話ヲ進ムルノ考ヘナルヤ否ヤヲ内々尋ネタルニ「ヨ」ハ訓令ハ右ノ如クナルモ自分ガ尼港事件ニ就キ日本側ト話ヲ進ムルコトハ差支ナシト思考ス樺太北半ニ於テ日本ハ果シテ如何ナル利権ヲ欲セラルルヤニ付両国代表間ノ非公式秘密会見ニ於テ日本側ヨリ内示セラルルニ於テハ之ヲ考慮シ得可シト思考スト言ヒタル由ヲ内話シ尚「ヨ」ハ日本側ハ露国側ガ直ニ右秘密会見ニ於テ日本ガ斯々ノ要求ヲ為シタリト内外ニ宣伝スルヲ怖レ居ラルルヤニ聞キ及ビタルモ右ニ関シテハ如何様ニモ話合得可シト語リ続イテ右ハ自分ガ本会議ノ進捗ヲ計ルノ誠意ヨリ出デタル一個人ノ内話ナレバ之ガ為後日予ノ禍ト成ル様ノ事無キ様希望スト附言セリ斯クテ会議ヲ進行シ得ル状態ト成リタレバ本日午後四時ヨリ会議開催シタシト述ベタル由ナリ

本官ハ未ダ閣下ヨリ最後ノ場合ニ処ス可キ御訓令ニ接シ居ラザル処露国側ヨリノ会議開催提議ニ対シ我方ニ於テ之ヲ延期スル事ハ面白カラザルニ付開会ニ同意セリ

尚先方ハ尼港事件ニ対スル我政府ノ要求ヲ知ラント努メ其要求ニシテ過大ナルニ於テハ基本協約ノ締結ヲモ拒ミ度キ意向ニテ既ニ議題外ノ尼港事件ヲ此際論議シ我意中ヲ探ラント試ミ居ルモノト思ハルルニ付本官ハ議題外トシテ可成軽ク応答シ論議ヲ避クル積ナリ

政務部ヘ電報ス

五五三　九月二十三日　閣議決定

基本協定ノ適用範囲等ノ問題ニ関シ露国側ニ於テ我主張ヲ拒絶スル場合ニハ会議ヲ打切リ引揚グベキ旨松平代表宛訓電ニ付請議ノ件

貴電第五〇号ニ関シ今日迄ノ経過ニ徴スルニ露国側ハ協定案各条ノ内容ニ付テハ姑ク措キ基本協定ノ適用範囲及効力発生時期ニ関シ我主張ニ明白ナル同意ヲ与ヘザルノミナラズ却ッテ先ヅ北樺太撤兵問題ヲ提起スルノ意図ヲ有スルモノノ如クナル処基本協定ノ適用範囲ヲ帝国ト極東共和国間ノ関係ニ限リ調印ト共ニ即時其ノ効力ヲ発生セシメ爾余諸問題ニ関スル交渉ハ之ヲ基本協定成立後ニ譲ルコトハ我方確定方針ニシテ右ハ既ニ大連会議ニ於テ彼我意見ノ一致ヲ見タル所ナルノミナラズ過般ノ予備交渉ニ於テモ其ノ趣旨既ニ明ニシテ帝国政府ニ於テハ此ノ際其ノ一部ト雖譲歩ノ余地ナキニ付貴官ノ努力ニモ拘ラズ露国側ニ於テ猶我主張ヲ拒絶スルカ又ハ言ヲ左右ニ托シテ不当ニ会議ヲ遷延セシメ大体本月末頃迄ニ明答ヲ与ヘザル場合ニハ貴官ハ会議ヲ打切リ引揚ゲラレ差支ナシ

但シ先方ニ於テハ基本協定ノ効力発生時期ト北樺太撤兵時期トヲ関聯セシメ以テ会議破裂ノ原因ヲ我北樺太駐兵問題ニ帰セムト努ムヘシト思考セラルルヲ以テ申ス迄モナキ儀乍ラ此ノ点ニ付特ニ細心ノ注意ヲ払ハレ北樺太ニ関係アル問題ニ付テハ我方ニ於テ基本協定成立後交渉ヲ開始スルニ何等異存ナク而カモ此ノ点モ亦大連会議ニ於テ彼我意見ノ一致ヲ見タル所ナルノミナラズ予備交渉ニ徴スルモ其ノ趣旨明白ナル所以ヲ説示セラルルト共ニ我方ニテハ先方ノ希望ニ顧ミ基本協定締結後引続キ労農政府トノ間ニ通商協定ニ関スル交渉ニ入ルニ同意シ且ツ非宣伝非敵対ニ関シテモ同政府トノ間ニ文書ヲ以テ取極ヲ為スニ異存ナキコトトシ百方和衷的態度ヲ示シタルニ拘ラズ露西亜側ハ極テ誠意ヲ欠キ不当ニ従来ノ行懸ヲ無視シ這般予備交渉ニ依ル了解ヲ覆ヘサムトスルモノナルコトヲ指摘セラレ会議破裂ノ場合ニハ其責全ク彼ニ在ルコトヲ闡明セラレタシ

（欄外註記）

「大正十一年九月二十三日閣議決定（内田外相印）」

註　右閣議決定同文ハ同日在長春松平代表宛電報第二六号ヲ以テ発送セラレタリ

五五四　九月二十三日　在長春松平代表ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ロシア側ヨリ本国政府ノ回訓ヲ提示及会議ノ決裂決定的トナリシ形勢ニ付報告並請訓ノ件

第六一号（至急）

二十三日ノ会議ニ於テ露国側ハ政府ノ回訓トシテ

㈠我方提案ノ通ノ形式ニ於テ協約ヲ締結スルニ異議ナキコト

㈡第一条ヲ労農露国ニ拡張スルコト

㈢(イ)尼港事件解決ヲ北樺太ノ撤兵ト関聯セシムルコトニハ同意シ難キコト

(ロ)露国側ハ尼港事件ニ対シ責任ヲ負ハザルコト

(ハ)尼港事件日本出兵ニ依ル露国人ノ損害日本ノ北樺太ニ於テ有スル利害其他日露双方ノ利害ニ関スル問題ハ両当事者間ニ審議シ得ヘキモ北樺太ノ撤兵期日ハ他ノ地方ヨリノ撤兵期日ト共ニ基本協約又ハ其ノ附属文書ヲ以テ規定セラルルコトヲ断乎トシテ主張スルコトヲ言明セリ

㈣ニ対シテハ既ニ非公式ニ我方ノ同意ヲ与ヘタルモ更ニ往ニハ本官ヨリ通告セルヲ以テ斉多政府ハ之ヲ知ラズト謂フ能ハザルノミナラズ日本政府ガ公ニ政府ノ声明トシテ発表シタルモノハ正式ナルハ勿論大連会議ニ於テ日本代表ノ斉多代表ニ声明シタル所ハ正式通知ナリト謂ヘル処「ヨ」ハ時代ヲ異ニセル大連会議ノ際ノ通知ハ今ヤ正式通知ニアラズト迄詭弁ヲ弄シ既ニ莫斯科及斉多政府ニ請訓セル結果故此ノ如キ状態ニテ会議ヲ継続スル能ハズト謂ヒタルニ付本官ハ露国側ニ於テ我保障占領ヲ承知シ居ルヘキ筈ナルノミナラス会議関係ノ予備交渉ニ於テモ既ニ承知シ居タルニ拘ラズ今更斯カル言明ヲ聞クハ日本委員ノ意外トスル所ニシテ会議決裂ノ為一旦（脱）タル処「ヨッフェ」ハ責任ノ何レニアルヤハ他人ノ判断ニ任スヨリ外ナシト述ヘ本官ハ露国側ノ要求ヲ容ルルコト能ハズ従テ会議ヲ継続スルコト能ハザルニ依リ政府ニ電報シ最後ノ回訓ヲ待ツコトトシ夫迄休会トスルノ外ナシト述ベ会議ヲ休会セリ

本電政務部ヘ転電シ北京奉天哈爾賓ヘ郵送セリ

五五五　九月二十三日　在長春松平代表ヨリ
内田外務大臣宛

二十三日ノ会議ニ於テロシア側ヨリ提出ノ声明書送付ノ件

機密公第三号　（九月二十八日接受）

大正十一年九月二十三日

在長春
欧米局長　松平　恒雄

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

露国側代表ノ声明書送付ノ件

九月二十三日ノ会議ニ於テ（往電第六一号参照）露国側代表ヨリ本官ニ交付セル声明書(註)別紙訳文添付差進候条御査収相成度此段申進候

敬具

註　ロシア側提出ノ露語声明書省略

（別紙）

露国側代表ヨリ提出ノ声明書訳文

前回即チ去ル九月十九日ノ日露会議ニ於テ日本代表ハ本国政府ノ提議ヲ通知セリ之ニ依レバ協約ハ仮令一方労農露国及極東共和国他方日本トノ間ニ締結セラルトモ其ノ各条項ハ極東共和国及日本間ノ相互関係ノミニ関スルモノナルコトヲ協約前文ヲ以テ規定スヘク日本ガ特ニ労農露国ノ領土ニモ効力ヲ及ホスコトニ利害関係ヲ有スル条項ハ之ニ適合

スル意味ヲ以テ協約附属文書中ニ規定スヘキモノナリ之ト同時ニ日本政府ハ附属文書中ヲ以テ協約発効後直ニ労農露国ト其ノ全領土ニ関スル通商協約ヲ締結スルノ交渉ヲ開始スルコトノ約諾ヲ与フルニ同意セリ

日本首席代表ハ右提議ノ趣旨ニ基キ一方労農露国及極東共和国他方日本間ノ第一ノ協約ガ斯カル構造（体裁）ナル以上露国側ガ労農露国ニモ其効力ヲ拡張スルノ必要ヲ指摘セル条文即チ締約国相互ニ他ノ一方ニ対スル各種ノ敵対行為ヲナスコトナク且援助スルコトナシトノ義務ヲ規定スル条文ハ形式上極東共和国及日本ノミニ関スルモノナルコトヲ説明セリ

露国代表ハ右最後ノ通知ノ応諾シ難キヲ声明シ之ニ関シ各本国政府ニ請訓セザルベカラザルコトヲ指摘セリ同一会議ニ於テ露国代表ヨリ日本軍ノ露国領土ヨリ撤去スル時期ニ就キ直問セルニ対シ日本代表ハ日本政府ニ於テハ沿黒竜地方ヨリハ九月末沿海地方ヨリハ十月末北部樺太ヨリハ尼港事件ニ関スル問題ノ解決後撤兵スル計画ナルコト而モ尼港問題ノ解決ハ必ズヤ前記第一協約ノ締結後ナラザルベカラザルコトヲ正式ニ通知セリ

労農露国及極東共和国代表ハ右正式通知ニ対シ国家ガ或紛争事件ニ関シ自己ノ満足ヲ得ル保障トシテ他国ノ領土ヲ占領スルコトヲ可能ト認ムルガ如キ問題ノ賠立ニハ全然同意スルコト能ハザルモノト思考スルコト及斯カル条件ノ下ニ交渉ヲ継続スルコト能ハズ各本国政府ニ請訓スルノ余儀ナキニ至レルコトヲ声明セリ

之ニ対スル回答ハ今ヤ莫斯科及知多ヨリ到着セリ労農露国及極東共和国政府ハ日本帝国政府ノ提議即チ逐次ニ二箇ノ協約ヲ締結スルノ方法ニ全然同意ナリ両国政府ハ一方労農露国及極東共和国他方日本トノ間ニ締結セラルヘキ第一協約ヲ以テ極東共和国ト日本トニ関スル問題ノミヲ解決スルコトニ同意ナリ但シ同協約又ハ之カ不可分ヲ為ス附属文書ヲ以テ労農露国ト之カ全領土ニ関スル通商協約ヲ締結スルコトニ関シ交渉ヲ開始スルノ約諾ヲ与フヘキモノトス

然レドモ労農露国及極東共和国政府ハ相互ニ締約国ノ一方ニ反対ナル敵対行為ヲ為スコトナク且ツ之ヲ支持スルコト無シトノ義務ガ極東共和国及日本ノミニ関スルモノナリトナスコトニハ決シテ同意スル能ハズ第一協約又ハ之ガ不可分ヲ為ス附属文書ヲ以テ此ノ保障ヲ労農露国ニモ拡張スルノ約諾ヲ与ヘラレンコトヲ主張スルモノナリ之ト同時ニ労農露国及極東共和国政府ハ露領樺太ノ撤兵ガ所謂尼港問題ノ解決ニ関聯スト為スガ如キ問題ノ賠立ニハ決シテ同意スルコト能ハザルナリ

労農露国及極東共和国政府ハ尼港事件ニ対シ責任ヲ負フコト能ハズ

両国政府ハ本問題ヲ以テ日本ノ駐兵中蒙リタル露国人民ノ損害問題又ハ薩哈嗹ニ於ケル日本ノ利益ニ関スル問題ト等シク両方ノ商議事項ト為スヲ得ベキモノナルモ日本軍北樺太撤去時期ハ他ノ総テノ露国領土ヨリスル日本軍ノ撤去ト同様両方ノ如何ナル協定ノ問題ニモ関係ナク第一協約又ハ之カ不可分ヲ為ス附属文書ヲ以テ規定セラルヘキモノナルコトヲ断乎トシテ固執スルモノナリ

五五六　九月二十三日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

交渉打切ニ関シ最後ノ訓令稟請ノ件

第六二号（大至急）　（九月二十四日接受）

露国側ノ態度ハ往電第六一号ノ通ニシテ往電第五〇号及第五三号ヲ以テ申進メタル本官等ノ観測ハ愈実現シ来リ結局

談判ヲ継続スルノ意思ナク其ノ口実トシテ内外宣伝上有利ナル点ヲ発見スルニ苦心シ其ノ結果薩哈嗹撤兵問題ヲ捉ヘ来リタルモノノ如ク此上継続ノ見込ナキニ付往電第五〇号ヲ以テ申進メタル最後ノ御訓令ヲ至急発セラレタク尚ホ決裂ノ上ハ直ニ決裂ノ理由ヲ当地ニテ一応発表スル積ナリ

五五七　九月二十三日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ヨッフェノ北樺太駐兵非難ニ対シ事態ヲ闡明シ置キタル件

第六三号（至急）　（九月二十四日接受）

往電第六一号ニ関シ九月二十三日会議ニ於テ「ヨッフェ」カ尼港事件及樺太駐兵ニ関シ日本側ノ態度ヲ非難セル際内田外相ガ新聞記者ニ言明セラレタルモノトシテ新聞ノ伝フル所ニ依レバ十月末迄ニ協定締結セラレザルニ於テハ帝国政府ハ樺太ヨリ永久撤兵セザル可シト言ハレタル由ナリト述ヘタルニ付本官ハ新聞報ノ信ズル可カラザル事ヲ述ベ外相ガ如斯言明ヲセラレタル事ヲ信スル能ハズ帝国政府ハ尼港事件解決後ハ撤兵ス可ク決シテ永久占領ノ意思無キ事ハ従来屢々政府当局ニ於テ言明シタル所ナルヲ以テ右本官ノ

説明ニ信頼サレ度シト述ヘタル処「ヨッフェ」モ右説明ニ依リ了解セル旨申述ヘタリ

五五八　九月二十三日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

露国委員ニ於テ晩餐会ニ招待セル中国側賓客十数名ガ右招待ヲ謝絶シタル件

第六五号　（九月二十四日接受）

露国委員ハ今二十三日孫道尹、鄭外交部員、王鴻年、「シンプソン」等支那側十数名ヲ大和「ホテル」ニ於テ晩餐ニ招待シ既ニ諸般ノ準備整ヒ約束ノ時間ニ迫リ主客合セテ三十余名ノ食卓装飾迄モ出来タル間際ニ於テ突然支那側ヨリ一同招待ヲ謝絶シタル為露国委員等ハ大ニ当惑セル由右ハ一小事ナルモ其間込入リタル事情ノ存スルニアラズヤト想像セラル或ハ張作霖ニ遠慮シタリトモ伝ヘラルルニ付目下事情精探中

五五九　九月二十四日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

露国委員ノ招待ヲ中国側謝絶ノ理由ニ付王鴻年ノ笠間ニ対スル内話報告ノ件

第六六号　（九月二十四日接受）

往電第六五号ニ関シ

王鴻年ノ笠間ニ内話セル所ニ依レバ支那側ハ一旦招待ヲ受ケタルモ日本トノ交渉ノ行懸リニ鑑ミ公式ノ招待ヲ受クルハ遠慮スルヲ可トストノ説ヲ生ジ且「ヨッフェ」ガ兎角外交上ノ儀礼ヲ無視シ平生支那人ヲ眼下ニ見居ル傲岸ナル態度ニ憤懣ノ念ヲ抱キ居タル折柄ナレバ各人期セズシテ其承諾ヲ取消シ王ノ如キハ病ト称シ孫ハ急ニ都合悪シクナレリト云ヒ出席ヲ拒絶セル趣ナリ尚「ヨッフェ」ハ支那側ノ態度ニ激怒シ居ル由

在支公使ヘ転電セリ

五六〇　九月二十五日　内田外務大臣ヨリ　在長春松平代表宛（電報）

会議決裂ノ場合ハ其責専ラ先方ニ在ル旨ヲ申入レ置ク様回訓ノ件

第二八号　至急

貴電第五〇号ニ対スル訓令ハ前記貴電ト行違ヒニ到着ノコトト存ズル処北樺太駐兵問題ヲ口実ニ会議決裂ノ責ヲ我方ニ帰セムトスル先方ノ魂胆ナル以上往電第二六号ニテモ申進メタル通リ我方ヨリ決裂セシメタル観ヲ与ヘザル様周到ノ措置ヲ講ズルコト必要ナルノミナラズ貴電第五八号及第六〇号ニヨレハ先方ハ猶幾分ノ懸引ヲ為シ居ルモノト認メラルルニ付貴官ハ重テ先方ニ対シ基本協定ハ速ニ之ヲ締結スルコト彼我双方ニトリ得策ニシテ尼港事件延テ北樺太撤兵問題ハ右基本協定成立後交渉ニ入ルニ差支ナキハ我方ノ既ニ同意シタル所ナルニヨリ之ヲ後日ノ問題トナスニ差支ナカルベキノミナラズ此等各種ノ問題ヲ提起シ基本協定ノ成立ヲ遅延セシムルハ予備交渉ニ於ケル先方ノ言明ニモ背馳スルコトヲ指摘シ如斯ニシテ会議決裂スル場合ニハ其ノ責ハ専ラ先方ニ在リ日本国民ノ対露感情甚タ悪化スベキコトヲ説示シ先方ヨリ北樺太撤兵ニ関スル申立ヲ撤回スル様其反省ヲ求ムル旨申入レラレタシ右ハ改メテ申進スル迄モナキ儀ナカラ為念

五六一　九月二十五日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

二十五日午後ノ会議ニ於テ最後ノ交渉ヲ試ミルベキ件

第六八号　（九月二十五日接受）

今二十五日午後三時ヨリ開会貴電第二六号ノ趣旨ニ依リ最後ノ交渉ヲ試ミ若シ先方ニ於テ我方ノ主張ニ応セサルニ於テハ断然会議ヲ打切リ九月二十七日頃当地ヲ引揚ケ多分大連経由帰朝ノ予定

五六二　九月二十五日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

長春会議ノ決裂ニ際シ日本政府ノ声明公表ノ件

第七〇号　（九月二十六日接受）

九月二十五日会議決裂ニ付左ノ通公表セリ

日本帝国国民ハ露国民ニ対シ深甚ナル同情ヲ有シ且極東ニ於ケル平和ノ確保ヲ要求シ居ルニ顧ミ日本ト露西亜全体トノ間ニ友好関係ノ樹立セラレンコトヲ希望シ居レルハ勿論ナルガ之ヲ極東共和国ノ現状ニ徴シ同共和国ニ対スル日本国民ノ感情ハ著シク良好トナリタルモ労農政府ノ施設ニ対シテハ今尚ホ十分ノ了解ヲ有セザル結果多少危惧ノ念ヲ懐キツツアリ帝国政府ハ一方ニ於テ国民ノ意向ヲ顧念シ他方ニ於テ日本ト極東共和国トノ地理的及経済的関係密接ナル

ニ顧ミ先ツ同共和国ト協約ヲ締結シ両国々民間ノ平和的通商関係ヲ樹立シ且両国ノ経済関係ヲ発達セシメントシタリ右協約ノ締結ヲ目的トスル大連会議ハ不幸ニシテ決裂セルモ其後極東共和国政府ハ右ノ希望ニ応シ長春ニ於テ会議ヲ催スコトトセリ本会議ニ関シ帝国政府ノ意向ガ大連会議ニテ略議了シタル基本協定及其ノ附属文書ヲ基礎トシ速ニ日本国ト共和国トノ間ニ協定ヲ遂ゲ漁業問題尼港事件等ハ基本協定締結後直ニ之ヲ討議スルニアリタルコト及極東共和国ト労農露国トノ特別ナル関係ヲ諒トシ且漁業問題ノ如キハ労農露国トノ協議セザルベカラザルニ顧ミ同国代表ノ会議参加ニ承諾ヲ与ヘタルコトハ会議開催ニ関スル予備的交渉及交換文書ニテ明瞭ナリ

帝国政府ノ見解ニ依レバ日本ト極東共和国トノ間ニ一度通商及友好関係樹立セラルルニ於テハ日本国民ノ欧露ニ対スル了解ハ更ニ一歩ヲ進メ玆ニ日本ト労農露国トノ間ニ協定ヲ遂グルノ気運醸成セラルルモノト思惟ス加之極東現下ノ情勢ニ鑑ミ一日モ早ク日本ト極東共和国トノ間ニ通商其他ニ関スル暫定協定ヲ締結スルハ日本軍ノ撤兵ニ伴ヒ起ルコトアルベキ騒擾ヲ未然ニ防止シ日本居留民ヲシテ意ヲ安ンジテ其地ニ留マルヲ得セシムル所以ニシテ是レ日露両国民ノ利益ナリト信ジ日本政府ハ大連会議ノ際ノ基本協定案ヲ基礎トシテ速ニ両国間ニ協定ヲ締結セントスルモノニシテ労農露国トノ一般協約ヲモ此際審議スルハ日本国民ノ意向ニ副ハザルノミナラズ会議ヲ紛糾セシメ緊急問題ノ解決ヲ不可能ナラシムベシト思考セリ

日本政府ハ兵力ヲ利用シテ交渉ヲ強イントスルモノニ非ザルコトヲ明ニスル為交渉ノ進行如何ニ拘ラズ自主的ニ撤兵ヲ宣言シ期限ヲ定メ著々実行シツツアリ而シテ大連会議決裂ノ主因ガ斉多政府ニ於テ撤兵期日ニ関シ満足ナル回答ヲ得ザリシコトニ存スルノ事実ニ鑑ミ日本政府ハ已ニ右ノ態度ヲ執リタル以上露国側ニテ誠意アル於テハ協約ハ速ニ成立スヘキ筈ナリ然ルニ会議開催後労農露国及極東共和国代表ガ大連会議ノ際略議了シタル協約案ヲ基礎トシテ先ツ日本ト極東共和国ノ間ニ協約ヲ締結スルコトニ反対シ会議ノ範囲ヲ拡大シ日本ヲ一方トシ労農露国及極東共和国ヲ他方トシ其間ニ一般協約ヲ締結セント主張スルハ諒解ニ苦ム所ニシテ日本代表ハ篤ト前記ノ次第ヲ説述シタルモ露国側代表ハ会議開催ニ関スル予備的交渉及交換文書ヲ日本側ノ

通ニ解釈シ居ラズト主張シ労農露国及共和国ハ経済上及政治上密接ナル関係ヲ有シ到底分離シテ日本ト協約ヲ締結セズト述ヘタリ日本代表ハ之ニ対シ極東共和国ト労農露国トノ関係ノ密接ナルコトハ帝国政府ノ諒トスル所ニシテ適当ナル参加ノ形式ガ見出サルル限リ今回ノ会議ニ労農露国代表ノ参加スルコトニ異議ナキハ之ガ為ナルモ極東共和国ト労農露国トハ密接ナル関係ニ在ルガ故ニ日本ト極東共和国トノ間ニ通商其他ニ関スル協約ヲ締結スルヲ得ズトノ理由ハ到底之ヲ首肯スルヲ得ザルコト及日本政府ハ露国側ガ先ツ大連ニ於テ議了シタル日斉問基本協定及其附属文書ヲ審議調印シ爾余ノ交渉ト（脱）其効力ヲ生ゼシムルコトニ同意スルニ於テハ引続キ労農政府トノ間ニ通商ニ関スル暫行協定ヲ締結スル為交渉ヲ開始スルニ同意スヘキコトヲ述ベ露国側ノ反省ヲ促シタルモ露国側ハ頑トシテ最初ノ主張ヲ固持シ会議将ニ決裂セントセリ

因テ日本代表ハ双方共政府ノ承諾ヲ条件トシ試案トシテ日本ヲ一方トシ極東共和国及労農露国ヲ他方トシ其間ニ日本ト極東共和国トノ関係ヲ規定スル協約ヲ締結スルコトヲ提議シタルニ露国側ハ右提議ニ同意シ政府ノ回訓ニ接スル迄協約案ノ審議ヲ為スニ異議ナシトノコトニ付会議ヲ続行セリ而シテ日本政府ハ直ニ右試案ニ承諾ヲ与ヘタルニ拘ラズ露国側代表ハ依然政府ノ回訓ニ接セズ加之露国側ハ十九日ノ会議ニ於テ基本協定調印セラルレバ今ヤ其効力ヲ発セズトモ日本政府ハ直ニ労農露国ト暫行協定締結ノ為商議ヲ開始スルニ同意シタルモノト思考シ居タリト曲解シタル後敵対行為及宣伝禁止ニ関スル条項ハ之ヲ日本ト極東共和国トノ関係ニノミ適用スルコトナク日本ト労農露国トノ関係ニモ適用スルヲ要スト主張シ又北樺太ノ日本駐兵ハ尼港事件解決ノ為ノ保障占領ナルコトハ世界周知ノ事実ナルニ係ラズ今回初テ之ヲ承知セリト称シ此二点ハ重大事項ニシテ政府ニ請訓セザルヲ得ザルニ付休会シタシト申出デタリ

九月二十三日露国側ノ請求ニ依リ会議ヲ再開シタルガ同会議ニ於テ日本代表ハ会議ノ円満ナル終結ヲ希望スル帝国政府ノ訓令ニ基キ宣伝及敵対行為ノ相互禁止ニ関スル条項ハ労農露国ニモ適用セムトスル露国側ノ希望ニ承諾ヲ与ヘタリ然ルニ尼港事件ニ関シテハ露国代表ハ北樺太ノ駐兵ハ尼港事件解決ノ保障占領ナルヲ以テ同事件解決スルト同時ニ占領ハ之ヲ解除スヘシトノ日本政府ノ声明ハ今回ノ会議ニ

於テ初テ承知セリト称シテ帝国政府累次ノ声明ヲ無視スルノミナラズ甚シキハ大連会議ニ於ケル本件ニ関スル日本代表ノ言明モ今日ニ於テハ公ノ通告ト看做スヲ得ズトシ又大連会議ニ於テ斉多代表ハ薩哈嗹撤兵ニ期限ヲ附セムトスル主張ヲ拋棄シ基本協約締結後直ニ尼港事件解決ノ為メ協議ヲ開始スルコトニ彼我ノ意見一致シ尚露国側ハ長春会議開催ニ関スル予備交渉ニ於テ更ニ之ニ対シ承諾ヲ与ヘ置キナガラ尼港事件ノ解決如何ニ拘ラズ北樺太ヨリ日本軍ノ撤兵スル期日ノ明示ヲ求メタリ日本代表ハ斯カル不当ノ要求ヲ議題トシテ会議ヲ継続スル能ハザル旨ヲ述ベ最後ノ回訓ヲ政府ニ仰ゲリ

本月二十五日ノ会議ニ於テ日本代表ハ政府ノ訓令ニ基キ従来ノ行掛リ及予備交渉ノ了解ニ照シ北樺太ノ駐兵ハ尼港事件解決ノ保障占領ナルニ付同事件解決迄ハ撤兵シ能ハザルコトハ露国側ニテ承知ノ筈ナル理由及尼港事件解決ノ為ニハ基本協定成立後直ニ審議ス可キ事ニ彼我ノ意見一致シ居ル旨ヲ詳細説明シタル後帝国政府ハ長春会議開催後露国側ノ希望ヲ斟酌シ今次協約ノ適用範囲ハ之ヲ日本ト極東共和国トノ関係ニ限ルモ当事国ノ一方ヲ極東共和国及労農露国トスル事トシ又基本協約締結後引続キ労農政府トノ間ニ通商ニ関スル暫行協定締結ノタメ交渉ヲ開ク事ニ同意シ且又宣伝及敵対行動ノ相互禁止ニ関シテモ同政府トノ間ニ文書ヲ以テ取極ヲ為スニ異議無キ事トシ百方和衷的態度ヲ示シタルニ拘ラズ露国側カ基本協定締結後審議スルコトニ同意セル尼港問題ヲ突然提起シ尼港事件ノ解決ヲ俟タズシテ北樺太撤兵ノ期日ノ明示ヲ求ムルガ如キハ全然従来ノ行掛リヲ無視シ予備交渉ニ依ル諒解ヲ覆サントスルモノニシテ帝国政府ノ意外トスル所ナリ露国側ニテ斯カル態度ヲ維持スルニ於テハ会議ヲ継続スルヲ得ズト重ネテ声明シ露国代表ノ再考ヲ促シタルモ露国代表ハ帝国政府ノ公正ナル態度ト妥協約精神トヲ認ムルノ模様ナク依然其態度ヲ改メザリシヲ以テ日本代表ハ会議決裂ヲ宣スルニ至レリ

前記ノ次第ナルニ付会議決裂ノ責任ノ全然露国側ニ在ルコトハ更ニ説明ヲ加フルノ要ナカルベシ

日露両国民了解ノ端緒ヲ開クノ使命ヲ以テ開カレタル長春会議ハ前述ノ経路ヲ辿リテ決裂シタル次第ナルガ日本政府及日本国民ノ露西亜国民ニ対スル同情ト親愛ノ念トハ之ガタメニ毫モ渝ル所ナカルベキハ日本代表ノ信ジテ疑ハザル所ナリ

五六三　九月二十五日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

会議決裂ノ旨報告ノ件

第七一号（大至急）　（九月二十六日接受）

会議ハ九月二十五日午後四時半決裂ス委細後電

五六四　九月二十五日　在長春松平代表ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

我方ノ会議打切及引揚ニ関スル声明並ヨッフェノ陳述ニ付報告ノ件

別電　同日松平代表発内田外務大臣宛電報第七三号

第七二号　（九月二十六日接受）

九月二十五日ノ会議ニ於テ本官ハ貴電第二六号御訓令ノ趣旨ニ依リ別電第七三号ノ通声明シタル上日本政府及国民ハ極東ノ平和ヲ顧念シ露国民ニ対シ深甚ノ同情ヲ有スルモノニシテ今回ノ会議ガ円満ニ終結シ日露両国間ニ善隣関係ノ樹立セラレンコトヲ切ニ希望シ居ルヲ以テ露国側ニ於テモ同様和衷的精神ヲ以テ会議ノ成立ニ努メラレタシトテ先方ノ再考ヲ求メ若シ露国側ニ於テ議題外ノ問題ヲ固執シ従来所ナリ

ノ態度ヲ改メザルニ於テハ直ニ引揚グベキ旨ヲ述ベタル処先方ハ予メ覚悟シ居リタルモノト見エ

(一)　予備交渉ノ文書中ニハ調印後即時効力発生及北樺太撤兵ノ文句ナク大連会議ニ於テハ何等協定成立セサリシヲ以テ之ニ驅東セラレズ新聞紙等ニテ伝ハル声明ハ公ノ通知ト認ムルヲ得ズ北樺太ノ駐兵ガ保障占領タルコトハ去ル十九日ノ会議ニ於テ始メテ正式ノ通知ヲ受ケタリ

(二)　労農及極東共和国ハ初メ広汎ナル条約締結ノ意向ヲ以テ会議ニ臨ミタルガ譲歩シタリ、条文ノ審議ニ際シテモ譲歩ノ態度ヲ執リタリ、極東共和国ト労農露国トノ密接ナル関係ニ照シ極東共和国ニノミ適用セラルヘキ協約ノ締結ハ困難ナリト思考シ又斯カル協約ヲ締結セントスル日本ノ意向ニ対シ危惧ノ念ヲ懐キタルモ枉ゲテ日本政府ノ提案ニ同意セリ将又日本軍カ露国側軍憲ト何等協定ヲ為サズシテ勝手ニ撤兵スルハ沿海州地方ノ混乱ヲ来シ流血ノ惨事ヲ惹起スルモノナルニ付露国側ハ先ツ本件ニ関シ協議センコトヲ希望シタルモ日本代表認諾ヲ与ヘザリシニ付露国側ハ之ニモ譲歩セリ

(三)　露国ハ極東ニ於ケル平和ヲ希望シ日本トノ善隣関係樹

立ヲ欲スルモノナルモ片務的ニ日本ニノミ利益ヲ与フル協約ニシテ而モ平和ノ保障ナキ（北樺太占領ヲ意味ス）協約ニハ応諾ヲ与フル能ハズ

(四) 露国ハ大国ナリ野蛮国ノ待遇ニ甘ンズル能ハズ即チ保障ノ意味ノ占領ハ之ヲ認ムルヲ得ズ占領ヲ容認シ乍ラ協約ヲ結ブモ協約ハ効果ナシ

(五) 労農露国ノ敵タル米国務卿モ吾人ト見解ヲ等シクストノコトニシテ世界ノ労働階級ハ総テ露国ノ味方タルヘク日本代表ノ言明ニ拠レバ日本国民ハ露国民ニ同情シ居レリトノコトナルガ露国民モ亦過去ヲ忘レテ日本国民ニ対シ反感ヲ有スルモノニ非ザルニ付本会議ニシテ決裂スルモノトセバ吾人ハ日本国民ノ輿論ガ政府ヲ動カスノ時期ヲ待ツノ外ナシ要スルニ吾人ハ従来ノ主義ヲ維持スルモノニシテ再考ノ余地ナシト述ベタルニ付

本官ハ然ラバ会議ハ之ニテ決裂スベキモノナルモ唯二三明瞭ニシ置ク点アリト前提シ

(一) 日本政府ガ世界ニ対シテ為シタル声明ハ素ヨリ之ヲ公式ノモノト謂ハザルヲ得ズ大連会議ニ於テハ協定成立シタルニハ非ザルモ極東共和国代表ハ日本代表ノ声明ヲ承知セズトハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ謂フコト能ハザルヘシ又基本協定調印後即時効力ヲ生ズルノ件ニ関シテハ同様ノ規定ヲ包含スル大連案ヲ基礎トスル以上日本政府ノ趣旨ハ已ニ明白ナルノミナラズ暫行協定ノ性質ヨリ見ルモ将又露国ノ締結セル協約中此種実例アルニ徴スルモ調印ト同時ニ効力ヲ発生スルモノト見ルコト当然ナリ

(二) 日本軍撤兵後ニ於ケル事態ヲ顧慮シ或ハ惹起セラルルコトアルヘキ流血ノ惨ヲ防止スルノ目的ヲ以テ日本政府ハ八月十五日迄ニ基本協定ヲ締結シ両国ノ善隣関係ヲ樹立シタル後円満ニ諸問題ヲ解決セントセリ両国ノ友好関係樹立前ニ軍憲間ニ協議セシムルガ如キハ謂フ可クシテ実行シ得ヘキコトニ非ス然ルニ露国側ハ遷延遂ニ今日ニ至レリ会議決裂後不幸ニシテ流血ノ惨ヲ見ルトモ其責素ヨリ露国側ニ在リ

(三) 両国ノ間ニ通商友好関係ヲ樹立スル協定ハ両国ノ利益トナルベキハ勿論ニシテ露国代表ガ同協定ヲ以テ日本ノ利益トノミ解スル理由ナシ

(四) 露国ノ大国タルハ吾人能ク之ヲ知ル吾人ハ露国ニ対シ敬意ヲ表シ居レリ唯歴史ニ例ヲ見ザル尼港ノ惨虐ニ関シテハ当時露国ニ政府存在シタリトセハ同事件ハ正ニ戦争ノ原因タリシモノナリ然ルニ当時露国ニハ正式ニモ亦事実上ニモ承認セラレタル政府ナカリシ為メ日本ハ已ヲ得ズ同事件解決ノ保障トシテ薩哈嗹州ヲ占領シ今日ニ及ベリ而シテ本件ノ如キ重大問題ハ先ツ協約ノ締結ニ依リ日露両国間ニ親善関係ヲ樹立シタル後ニ於テ初テ解決セラルベキモノニシテ事実上ニモ承認セラレザル政府トノ間ニ解決シ得ヘキニアラズ要スルニ露国代表ガ其態度ヲ改メザルガ為メ会議決裂ストセバ其責任及之カ為メ惹起セラルルコトアルベキ事件ニ対スル責任ガ露国代表ニアリト述ベタルニ

「ヨッフェ」ハ一二弁解ガマシキ言辞ヲ弄シタル後会議決裂ノ責任何レニアリヤ世界ノ批判ニ俟ツベク決裂後ノ事件ニ対シテハ露国民ニ於テ之ニ備フルノ措置ヲ執ル外ナシト言ヒ会議ハ玆ニ決裂セリ

尚今回会議ノ劈頭ニ於テ「ヨッフェ」ハ会議決裂ノ場合ニ本会議ノ内容ヲ発表スヘシト言ヒタルヲ以テ本官ハ既電ノ通詳細ノ公表ヲ為シタリ

本官等非才重任ヲ帯ビテ当地ニ来タリ微力ヲ竭シテ協定ノ成立ニ努力シタルモ終ニ其目的ヲ達シ得ザリシハ恐懼ノ至リナリ

別電ト共ニ政務部ヘ電報シ在支公使、奉天、哈爾賓ヘ暗送セリ

(別　電)

九月二十五日在長春松平代表発内田外務大臣宛電報第七三号
我方ノ会議打切及引揚ニ関スル声明

第七三号　別電　(九月二十六日接受)

日本代表ハ政府ノ訓令ニ依リ左記ノ声明ヲ為サムトス

基本協定ノ適用範囲ヲ帝国ト極東共和国間ノ関係ニ限リ調印ト共ニ即時効力ヲ発生セシメ爾余ノ問題ニ関スル交渉ハ之ヲ基本協定ノ成立後ニ譲ルコトハ我方確定ノ方針ニシテ右ハ大連会議ニ於テ彼我意見ノ一致ヲ見タル所ナルノミナラズ長春会議開催ニ関スル予備交渉ニ於テモ其趣旨已ニ明白ナリトス殊ニ北樺太ノ駐兵ハ尼港事件解決ノ保障占領ナルヲ以テ尼港事件解決ト同時ニ右占領ノ解除セラルベキコトハ帝国政府累次ノ声明及大連会議ニ於ケル日本代表ノ言明ニ依リ露国側ニテ已ニ承知ノ筈ナリ而シテ尼港事件解決ノ為ニハ日本政府ニ於テ基本協定締結後直ニ交渉ヲ開始スルニ異議ナキ次第ハ日本代表モ本会議ノ席上ニテ之ヲ言明

シタルノミナラズ此点ニ付テモ彼我ノ意見一致セルコトハ大連会議ニ於ケル基本協定ノ附属文書ニ依ルモ将又長春会議ニ関スル予備交渉ニ徴スルモ一点ノ疑ナキ所トス

帝国政府ハ長春会議開催後露国側ノ希望ヲ斟酌シ妥協的精神ヲ以テ協約ノ適用範囲ハ之ヲ日本ト共和国トノ関係ニ限ルモ当事国ノ一方ヲ極東共和国及労農露国トスルコトニ承諾ヲ与ヘ又基本協約締結後引続キ労農政府トノ間ニ通商ニ関スル暫行協定締結ノ為交渉ヲ開クコトニ同意シ且有害ナル宣伝及ヒ敵対行為ノ相互禁止ニ関シテモ同政府トノ間ニ文書ヲ以テ取極ヲナスニ異議ナキコトトシ百方和衷的態度ヲ示シタルニ拘ラズ露国側ニテ北樺太ノ駐兵ガ尼港事件解決ノ保障占領タルコトハ之ヲ知ラズト主張シ尼港事件ノ解決ヲ俟タズシテ北樺太撤兵ノ期日ノ明示ヲ求ムルガ如キハ全然従来ノ行掛ヲ無視シ予備交渉ニ依ル諒解ヲ覆サントスルモノニシテ帝国政府ノ意外トスル所ナリ露国側ニテ斯カル態度ヲ維持スルニ於テハ二十三日ノ会議ニ於テ露国側ノ申出ニ係ル他ノ事項ノ如キハ此際之ヲ論議スル迄モナク会議ハ之ヲ継続スルヲ得ズ

（九月二十八日接受）

第七五号

会議決裂ニ関シ露国側ハ二十七日夜始メテ公表文ヲ公ニセリ右ハ大体二十五日会議決裂ノ当時ノ議事内容即チ彼我ノ応答ヲ殆ド其ノ儘発表セルモノニシテ大要ハ往電第七二号報告ノ通ニ付電報セズ

五六八　九月二十七日　外務省公表（註）

長春会議決裂ノ際ニ於ケル内田外務大臣ノ声明

長春会議ノ不成功ニ終リタルハ帝国政府ノ最モ遺憾トスル所ナリト雖モ之カ為政府ノ撤兵方針ニハ何等変更ヲ来スコトナク浦潮其ノ他大陸ヨリノ撤兵ハ予定ノ如ク十月末迄ニ結了スヘシ只北樺太ニ関シテハ従来数次声明セル如ク尼港事件ノ解決ト同時ニ之ガ撤兵ヲ行フベク而モ帝国政府ハ本件ニ関連シテ何等領土的意図ヲ包蔵スルモノニアラザルコトヲ玆ニ言明セムトス

帝国政府ハ対西伯利関係ノ調整ヲ期シ出来得ル限リ寛容ニシテ且互譲的ナル方針ヲ以テ鋭意右目的ノ達成ニ力メ当初ヨリ極メテ明瞭ナル了解ノ下ニ斉多及莫斯科代表者ト長春ニ会議セシメタリ

然ルニ同会議劈頭ニ於テ帝国代表者ハ曩ニ「ゼノア」及海牙ニ於テ欧洲諸国ノ経験セルト同一ノ困難ニ逢着スベキヲ感得セリ抑モ帝国政府ノ欲スル所ハ斉多政府トノ暫行協定ニ拠リ辺境ニ対スル不法ノ侵犯ヲ防ギ危険ナル宣伝ヲ終熄セシメ且合法ニ西伯利ニ在住スル日鮮人民ヲ保護セントスルニ在リシハ政府ノ予テ明ニ宣言シタル所ニシテ西伯利在留帝国臣民ノ私有財産権ヲ承認セシメ通商其ノ他ノ業務遂行ノ自由ヲ認メシムルハ独リ旧露国政府トノ条約ニ基キ居住営業ノ権利ヲ有スル万余ノ日本人ノ利益タルノミナラズ不幸ナル西伯利露国民ノ利益タルヲ信ジタリ

而シテ帝国政府ハ斉多政府ニ於テモ右ノ如キ暫行協定ノ締結ヲ欲シタルモノト信ジ又樺太北半占領問題ノ討議ハ追テ彼ノ帝国領事ヲ始メ七百余ノ帝国臣民カ惨忍ナル殺戮ノ厄ニ逢ヒタル所謂尼港問題解決ノ際ニ譲ルベキコトハ斉多政府ニ於テモ篤ト了解セル次第ナリト確信セリ将又帝国政府ハ従来ノ声明ニ基キ曩ニ西伯利撤兵ヲ決シ着々之ヲ実行シツツアリ右ニ関シテハ在留日本人ハ勿論露国人諸団体ヨリ撤兵ノ結果西伯利ノ擾乱ヲ来シ各派ノ争闘延テハ邦人ニ対

五六五　九月二十六日　内田外務大臣ヨリ在長春松平・松島両代表宛（電報）

会議ニ於ケル両代表及諸官ノ努力ニ対シ表謝ノ件

第三二号（大至急）

会議ハ不幸ニシテ決裂シタルモ貴官等初メ部下諸官ノ奮闘努力ハ本大臣ノ特ニ多トスル所ナリ一同ニ御伝ヘアリタシ

五六六　九月二十六日　在長春松平代表ヨリ内田外務大臣宛（電報）

我代表一行ハ三十日大連発バイカル丸ニテ帰朝ノ旨報告ノ件

第七四号　（九月二十六日接受）

一行ハ三十日大連発「バイカル」丸ニテ帰朝ス笠間ハ会議ノ経過ヲ小幡公使ニ報告旁北京ニ立寄ラシメタキニ付御許可アリタシ

五六七　九月二十七日　在長春松平代表ヨリ内田外務大臣宛（電報）

会議決裂ニ関シ露国側ハ二十七日公表文ヲ発表ノ件

スル危害ヲ誘致スベキヲ惧レ撤兵ノ延期ヲ請願シ来ル向モアリタル処帝国政府ハ此ノ上駐兵ヲ続ケ徒ニ我政策ニ対スル批難猜疑ヲ招クヲ欲セズ断ジテ撤兵ヲ継続セル次第ナリ長春会議ニ於テハ莫斯科政府ハ初メヨリ殆ンド斉多政府ヲ無視スルノ態度ヲ執レル処右莫斯科政府ハ欧露ニ於テハ終始私有財産権ヲ否定シ来リタルニ顧ミ帝国政府ニ於テハ長春会議ニ対スル露国側ノ誠意ニ付キ疑ヲ有シ殊ニ果シテ宣伝禁止ヲ協定スルノ意思アリシヤ否ヤヲ疑ハザルヲ得ザル次第ナリ唯如上ノ成行ニ拘ハラズ帝国政府ハ国民ト共ニ深ク露国民ノ窮状ニ同情ヲ寄スルト同時ニ西伯利ニ於テ平和並秩序ノ維持セラレムコトヲ切ニ希望スルモノナリ（了）

註　公表第三十四号ナリ

五六九　九月二十八日　在長春松平代表ヨリ内田外務大臣宛（電報）

ヤンソンハ其秘書ヲシテ島田ヲ来訪挨拶セシメタルニ付当方ヨリモ島田ヲ遣シ答礼セシメタル件

第七六号　（九月二十八日接受）

九月二十七日「ヤンソン」ノ秘書「ブイホフスキー」島田ヲ来訪シ「ヤンソン」ノ命ニ依リ本官等ニ対シ滞留中ノ好意ヲ謝スルト同時ニ近キ将来ニ於テ必ズヤ日露両国親善関係樹立ノ機アルベキヲ信ジテ疑ハザル旨ヲ述ベタルニ依リ当方ヨリモ答礼トシテ島田ヲ先方ニ遣ハシ且午後十時「ヤンソン」一行ガ斉多ヘ出発ニ際シ島田ヲシテ見送ラシメタリ「ヨッフェ」ハ今夜出発ノ筈ナリシ処会議決裂以来病床ニ臥シ殊ニ本日ハ四十度以上ノ高熱ニシテ或ハ窒扶斯ナルヤノ疑モアリ目下当地満鉄病院長ノ診察ヲ受ケ居レル有様ニテ同人ノ北京行モ（脱）トナリ居レリ

五七〇　九月二十八日　在長春松平代表ヨリ内田外務大臣宛（電報）

最終会議開催前ノ雰囲気並宮川島田等ガ露国委員ト非公式会談ヲ試ミ探リ得タル先方ノ内幕ニ付報告ノ件

第七七号　（九月二十九日接受）

九月二十五日最終会議開催前露国側ハ種々ノ方法ニ依リ会議ハ破裂スルコトナク或ハ露国側譲歩スベシトカ或ハ妥協案ヲ提出スベシトカ宣伝シ居タルガ其ノ実日本側ノ譲歩ヲ期待シ居タルモノノ如カリシガ本官等ハ最後ノ御訓令ヲ受領後先方トノ会見迄相当ノ時日ヲ置キ一面決裂ノ準備ヲ為

スト同時ニ他面先方ニ接近セル記者ヲ通シ東方通信内地ニ於ケル諸新聞論調ノ強硬ナルコト及外務省側ニ譲歩ノ見込到底ナキ事ヲ夫レトナク吹込マシメ置キタルガ先方ハ到底莫斯科最後ノ訓令ヲ変更ノ模様ナク已ムヲ得ズ本官等モ往電第七二号ノ通リ申述ブル所アリタル次第ナルガ其後宮川島田等カ露国側委員弐三名ト極メテ非公式ノ会談ヲ試ミ先方ノ内幕ヲ探リタル所左ノ如シ

㈠「ヨッフェ」ガ余リニ独断的ナルニハ其ノ部下並斉多側共ニ（脱）コト

㈡　斉多側ハ「ヨ」ガ余リニ欧露本位ニシテ極東ノ事情ヲ無視セルニ対シ不平ニシテ暗ニ今回不始末ノ責ハ「ヨ」其者ニアリト為シ居ルコト

㈢「ヨ」ハ余リ日本及日本人ヲ了解セザリシ処今回初メテ了解シ従テ先方随員等ハ異口同音ニ会議ハ決裂シタルモ日露双方了解スルニ至リタルハ大ナル獲物ナリト為シ居レリ

㈣　一行中「カラハン」一派ノ者モアルガ右ハ暗ニ「カラハン」ガ今回ノ会議ニ臨ミシナラバ成果アリシナラント洩シ「カラハン」モ今回会議ニ代表トシテ出席シタキ希望ヲ有シ居タリ「カラハン」ノ方逝ニ極東通ナラント語リ居タリ

㈤　「ヨッフェ」等ハ表面広言ヲ吐キ居ルモ今回ノ決裂ニ付相当対日関係ヲ顧念シ居ルモノカ又ハ「ヨッフェ」ノ病気ノ為カ未ダ当地ニ於テハ決裂ニ関スル悪辣ナル宣伝ヲ開始セズ

㈥　遠カラズ会議再開ノ機アルヘシト吹聴シ居レリ

政務部及北京ヘ電報済ミ

五七一　九月二十八日　在長春松平代表ヨリ内田外務大臣宛（電報）

本官出発挨拶ノ為島田ヲヨッフェ方ニ遣シ同氏ハ答礼ノ為クズネツォフヲ当方ニ遣シタルガ右「ク」ノ島田ニ対シ為セル私談報告ノ件

第七八号　（九月二十九日接受）

本官等二十八日夜出発ニ付同日病気見舞旁々出発挨拶ノ為島田ヲ「ヨッフェ」方ニ遣ハシタルニ「ヨッフェ」ハ「レーウィン」ヲ経テ当方ノ好意並援助ニ対シ謝意ヲ表シタル上今回ノ会議決裂ヲ以テ一種ノ休会ト見做シ居ル旨本官ヘ伝達方申出デ次デ「ヨ」ハ夕刻二等書記官「クズネツォフ」ヲ答礼ノ為メ方ニ遣ハシ病気ハ多分「チブス」ナルヘク従

テ約一箇月ハ当地ニ残留スルニ至ラント述ベ次テ約二時間ニ亘リ全然私談トシテ島田ト会談シタルガ参考ト為ルヘキ事項左ノ如シ（但シ本人ハ「カラハン」系ニシテ「ヨッフェ」ニハ用ヒラレズ）

㈠「ク」ハ労農外務省本来ノモノナルガ「ヨッフェ」「レーウィン」ハ中央実行委員会ノモノナリ従テ両者間ニハ意見ノ相違アリ当初「カラハン」自身出馬シテ日露会議ニ臨ム筈ナリシモ之ニ代リテ「ヨッフェ」出張シタル次第ナルガ不幸今回ノ始末トナリタルガ「ヨ」ハ不適任ニ付将来或ハ「カラハン」ノ来ルナキヲ保セズ

㈡「ヨッフェ」ハ「リトヴィノフ」同様善キ点モ多ケレド剛情傲慢ニシテ嫌味ヲ云フ癖アルハ露国人ノ目ヨリ見ルモ欠点タルヲ失ハズ然レドモ彼ハ今回ノ決裂ニ依リ能ク日本人ヲ了解シ得タリ

㈢　尼港事件ハ何レニモセヨ双方ノ難件ナリ差当リノ方法トシテハ種々アルベキモ樺太北半ニ於テドシドシ日本実業家ニ利権ヲ供与スルコトモ一策ナリ左スレバ駐兵問題モ自然解決スヘク今回生ジタル難関モ之ヲ除去シ得ヘシ

㈣「ヨッフェ」ノ遣リ方ニテハ露支会議モ悲観セラル一箇月位ニテ纏マル見込ナクバ引揚グベシ只支那トノ交渉ハ日本トノ協約成立後トスルヲ順当トス

㈤将来日露間ノ談判ハ欧洲ニ於テセズ矢張リ極東ニ於テスルヲ可トス尚将来ノ打合ハ依然「オザルニン」経由トスルコト適当ナリ

五七二　九月二十九日　在長春山崎領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

松平代表一行二十八日長春出発ノ件

第九一号　（九月二十九日接受）

松平代表一行二十八日当地発朝鮮経由帰朝ノ途ニ就ケリ尚十月一日下ノ関著ノ予定ニ付簡易通関方御取計ヒ有度シ

五七三　九月二十九日　在仏国佐藤臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

長春会議ノ決裂ニ関シカラハンノ紐育ヘラルド通信員ニ対スル談話報告ノ件

第六六二号　（九月三十日接受）

長春会議破裂ニ関シ「カラハン」ハ在莫斯科「ニューヨーク、ヘラルド」通信員ニ対シ大要左ノ如ク説明セリト当地同紙上ニ報セラル何等御参考迄

同会議ノ破裂ハ薩哈嗹問題ナルヘシトハ予メ期待セラレタリ日本ハ同島北部ヲ併合セムト欲スルモ他方露国ト通商関係ノ復旧ヲ欲スル日本実業家ノアルアリテ其輿論ヲ無視スルコトヲ得ズ日本ハ又米国ノ圧迫ヲモ考慮セザルベカラズシテ此際太平洋問題解決ヲ欲スル関係上多分更ニ商議ヲ再開スルニ至ルヘシ然レ共其場合ニハ露国ノ譲歩ハ今ヨリモ一層尠カルヘシ日本ハ「ニコラエフスク」虐殺ノ弁償ヲ得ル迄薩哈嗹ヲ留保スト言フモ露国ガ其弁償ヲ討議セムコトヲ提議スレバ日本ハ先ヅ基本協約ヲ締結セムコトヲ主張スルニ観ルモ日本ガ薩哈嗹獲得ヲ欲シ「ニコラエフスク」ハ単ニ占領ノ口実ニ過ギザルヤ明ナリ予ハ国務卿「ヒューズ」氏ガ華府会議ニ於テ薩哈嗹ト「ニコラエフスク」事件ハ露国及支那両政府孰ノ罪ニモアラズ日本ノ圧迫ノ為森林ニ逃レタル地方住民カ自ラ同地ニ帰来シテ日本人ヲ虐殺セルニ過ギズシテ吾人ト雖モ之ヲ承認スルモノニアラザルモ畢竟日本ノ侵略圧迫ノ自業自得ナリ日本ハ米国及聯合国ニ対シ沿海州撤兵ヲ約セルモ同撤兵ハ十月末迄ニハ終ラザルヘク彼等ハ有ラユルモノヲ持去リツツアリ又日本ハ「ポーツマス」条約ニ反シ薩哈嗹南部ニ海軍根拠地ヲ設ケ同島ニ要塞ヲ設ケタリ云々

五七四　十月五日　岸本関東庁警務局長ヨリ
埴原外務次官宛

長春会議ノ決裂ニ関シヤンソンノ洩セル感想報告ノ件

関機高収第一三八一五号ノ一　（十月十日接受）

大正十一年十月五日

岸本関東庁警務局長（印）

埴原外務次官殿

「ヤンソン」一行ノ動静

九月二十八日午後九時五十分発東支列車ニテ知多ニ向ヒタル「ヤンソン」一行十一名ガ哈爾賓ニ於テ洩シタル談片大要左ノ如シ

一、会議決裂ニ関シテハ日本代表ノ感想コソ興味アラン露国側トシテハ一ケ月モ掛レバ円満ニ協定シ得ヘシト思ヒ居タルニ意外ノ結果トナリ遺憾トス

二、会議ハ決裂シタレド日本ハ露国側ノ意ノ在ル処ヲ諒解シタル筈ナリ故ニ決シテ徒爾ニハアラズ驕テ又双方会商ノ機会アルヘシ

三、決裂ノ原因ハ北樺太駐兵ノ撤退時機ヲ明示スルヲ欲セサル一点ニアリ露国側ハ予テ日本ノ撤兵声明ハ承知シ居リタレド樺太ヲ除外スル意ナリトハ思ハズ平和樹立ガ撤兵ト関係シ居ルコトハ想像セザリキ

四、極東共和国ト労農露国トノ関係ハ分離シ難シ樺太撤兵ニ関連シテ之ヲ重要視スルハ両者全ク同一ナリ「アントノフ」氏ノ予備交渉ニ当リ樺太撤兵ニ迄触ルル事ハ予想シ得ザルコトナレハナリ

五、会議カ決裂シテモ沿海州ノ撤兵ヲ中止スルガ如キコトハナキモ日本ガ撤兵ニ際シ又ハ其後ニ於テ浦潮政府ヲ援助スルガ如キコトアラバ会議ノ決裂カ将来ニ向ツテ非常ノ悪影響ヲ及ボスコトニ思ヒ到ラザルベカラズ

六、其他一般的ノ結果トシテハ知多政府側ヲ介シテノ比較的大ナル通商貿易関係及各種ノ利権獲得又ハ資本投下ト云フ如キコトハ日本ニ対シテ望ミナキニ至ルコトヲ挙ゲザルベカラズ尤モ個人関係ノ小規模ナル商業ハ何時ニテモ歓迎スベク何等影響ナカラン

七、露支交渉ハ北京ニ開ク筈ナルモ「ヨッフェ」氏長春ニテ病ミ居ル故出発出来ズ自然期日等不明ナリ

以テ病気ト称シ「ヨッフェ」ヲ依然長春ニ留メ置クモ右「レーニン」ノ意思ニ基クモノナリトセリ而シテ「レーニン」ハ日本ト条約ヲ締結セントセハ更ニ多大ノ譲歩殊ニ北樺太問題ニ付譲歩セサルヘカラスト為スモノノ如シト報道シ居レリ尚ホ先般長春会議ニ関シ当方ニテ得タル印象ニ依レハ露国ハ日本ノ撤兵ヲ以テ全ク内治外交上已ムヲ得サルニ出テタルモノト看取セルヤノ傾アリ且其ノ代表者「ヨッフェ」ハ従来ノ例ニ鑑ミレバ猶太人ノ本性ヲ発揮シ徹頭徹尾掛引ヲ試ミ仮令後ニハ或程度迄ノ譲歩ヲ覚悟シナカラモ先ツ相手ノ条件ヲ全部否認シタル後徐々論議スルヲ常トスルノミナラス前言ヲ食ムカ如キハ日常ノ茶飯事ト為シ今度ノ交渉モ延引久シキニ亘リタル上已ムヲ得ザル場合最後ニ譲歩ヲ為シ其ノ目的ヲ達成セントシタルニ突然日本側ヨリ談判決裂ヲ告ケラレ露国側ハ一般ニ之ヲ意外ト為シツツアルモノノ如シ由来露国ハ衷心一日モ速ニ日本ト国際関係ヲ復活セントヲ切望シツツアルハ蔽フヘカラサル事実ナレハ今後遠カラス彼ヨリ何等カノ形式ヲ以テ改メテ談判ノ申込ヲ為スヤモ計リ難カラン御参考迄

在欧各大使及瑞典公使ヘ暗送セリ

蒙古問題ト東支鉄道問題トヲ交換的ニ見ルトノ説流布サレ居レド事実ニアラズロシアノ承認セザル東支鉄道ノ株主総会ヲ北京ニ開クコトニ就テ露西亜側ヨリ抗議セラルルハ事実ナリト

五七五　十月六日　在波蘭川上公使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

長春会議決裂ニ関シラデックノ露国新聞紙上ニ於ケル日本非難等ニ付報告ノ件

第一一五号　（十月八日接受）

九月二十三日「イズベスチア」紙上「ラデック」ハ日本ノ樺太占領ヲ非難シ尼港事件ハ日本ニモ責任アリ露国ハ同島ニ対スル日本ノ投資ヲ歓迎スルモ露国ハ支那ニアラザルカ故ニ支那ニ対シ独逸カ曽テ取リタルカ如キ政策ヲ樺太ニ対シ日本ガ取ルコトハ許シ難シ尚ホ日本ハ過般ノ華府会議ニ於テ極東ノ現状維持ヲ列国ニ約シタリ今樺太領有ノ問題起ランカ之ニ反対スルモノハ敢テ露国ニ限ラス米国亦必ス抗議スヘシト論シタルカ一方十月四日当地新聞莫斯科電報ニ依レハ「レーニン」ハ病気回復後昨今内外政策上其ノ勢力次第ニ顕著トナリ来レルカ一旦決裂セル長春会議復活ノ目的ヲ

五七六　十月七日　在奉天赤塚総領事ヨリ内田外務大臣宛（電報）

長春会議決裂ノ責任ヲ日本軍国主義者ニ帰セシメントスル極東共和国側ノ宣伝活動ニ付報告ノ件

第三八九号　（十月七日接受）

在満洲里田中領事代理ヨリ第四九号

長春会議決裂ノ責ヲ日本軍国主義者ニ帰シ其ノ支持ニ依ル露国白派ノ活動ヲ怖レタル斉多官辺ハ浦潮ニ於ケル武器交付問題ニ関シ頻々タル「ダルタ」通信ニ依リ詳細ナル情報ヲ得宣伝上非常ニ有利ナル位地ヲ得タルモノノ如ク十月四日発行ノ「プーチ」ハ大連会議決裂後日本官辺ハ一斉ニ斉多ノ無誠意ヲ攻撃セルガ今回ハ外交官憲若クハ内閣カ将来ヲ顧慮シ露国側ト出来得ル限リ円満ナル関係ヲ持続セントヲ努力セルニ反シ参謀本部ハ其ノ大陸政策ヲ棄テズ華府会議ノ決議ヲ無視シ遂ニ内閣ト争フニ至レリ是ヲ以テ長春会議ノ決裂ハ我方ニ取リ日本軍国主義ト戦フ上ニ於テ非常ニ有利ナル結果ヲ齎セルモノナリトセリ

五七七　十月十六日　在瑞典国畑公使（芬蘭国兼轄）ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

長春会議ノ再開ヲレーニンハ希望シ居ル旨ノ波蘭方面ヨリノ報道ニ付報告ノ件

第一号　（十月十七日接受）

「レーニン」ハ十月二日ヨリ執務シツツアル由ナルガ之ガ為温和派再ヒ勢力ヲ回復シ資本国トノ妥協性ヲ増スニ至レリト尚「ワルソー」方面ヨリ伝ハル所ニ依レバ「レーニン」ハ日本トノ関係ヲ頗ル重要視シ長春会議ニ多大ノ望ヲ嘱シ居リタルガ其不成立ニ終ルヤ「ヨッフェ」ガ病気ノ為帰国シ得ザルヲ幸ヒ同人ヲシテ当分長春ニ滞在セシメ機ヲ見テ会議ヲ再開セシムルコトトシ樺太問題ニ関シ相当ノ譲歩ヲナシ会議ノ成功ヲ期スヘキ旨ヲ電命シタリト

事項一七　極東共和国関係雑件

五七八　二月二十日　在紐育熊崎総領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

日本軍ノ東支鉄道占領及西比利亜ニ於ケル日本ノ行動ヲ非難スル米国側ノ論評報告ノ件

第四二号　（二月二十一日接受）

西比利亜問題ニ関連シ華府会議後引続キ或方面ニ於テ日米関係ヲ疎隔セントスル計画アルモノノ如ク最近入手シタル情報ニ依レバ「ラインシュ」ハ二月初旬紐育某重要団体ニ書ヲ送リ日本軍ノ東清鉄道占領ハ米国ノ西比利亜通商ヲ阻害スルモノナルヲ以テ浦潮、満洲里間ノ鉄道管理ノ実権ヲ「スチヴンス」委員会ニ帰セシムルコト及斉多政府ハ西比利亜ニ於テ米国ニ好意ヲ有スル民主的共和国ナルニ依リ之ヲ援助スルノ意味ヲ以テ米国ヨリ「コンミッショナー」ヲ派遣セシムル為国務省及上院ニ運動スベキ旨右団体ニ慫慂シタル趣「ラッセル」ヨリ内報アリ又今日迄新聞記事トシテ現レタルモノノ内注意ヲ惹ケルハ

㈠「シリウコフ」ハ五日「タイムズ」紙ニ於テ尼港事件ハ日本政府ノ緩慢ナル処置ニ依リ発生シ其責露国側ニ存セザルニ拘ラズ日本ハ之ヲ理由トシテ軍事上ノ要地ヲ占領シ西比利亜ヲ日本化セントシツツアリ西比利亜永久併合ノ意思明瞭ナリ云々

㈡「コロンビヤ」大学「ピトキンス」教授ハ十二日「ウォールド」ニ寄書シテ日本ハ露国ガ崩壊シ又最近米国ト海軍協定成リタル結果西比利亜ニ於テ自由ニ其羽翼ヲ伸バシ得ルニ至レリ「メルクロフ」「カッペル」等ハ日本軍ノ傀儡トシテ西比利亜ニ暴威ヲ振フモノナリトテ「メルクロフ」ガ浦潮造船所ヲ抵当トシテ日本側ト一千万円借款契約ヲ結ベリト述ベ其他斉多政府ヨリ出デタリト覚シキ日本側ノ行動ニ関スル記事ヲ詳細ニ掲ゲ右専横ヲ防止スル為ニハ結局露国ヲシテ日本ト戦ハシメザルベカラズ云々（二十日）在米大使ヘ郵送セリ